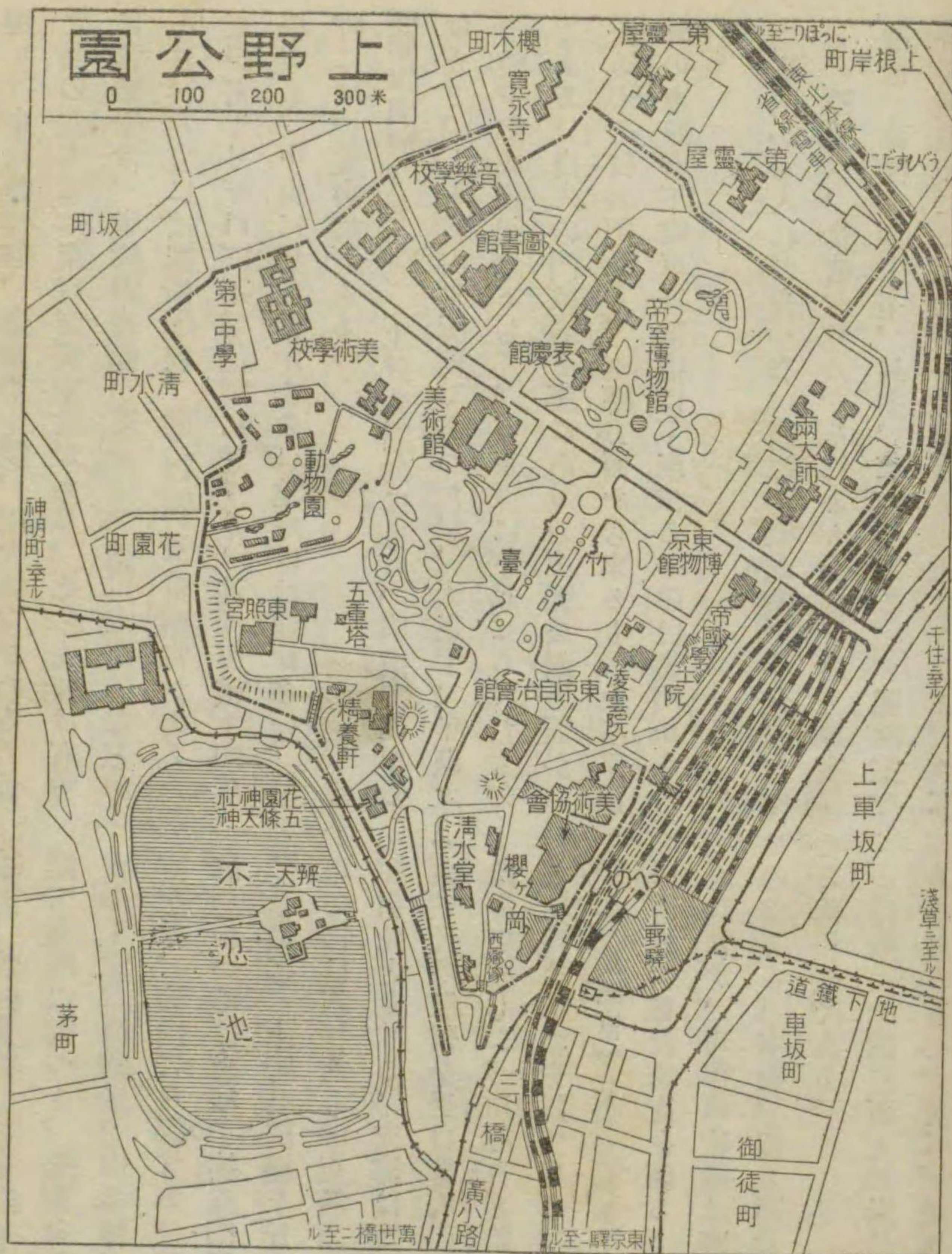


東京市及近郊



かなる坂を登れば一條の大路園内に通じ、その右には櫻ヶ丘に西郷隆盛の銅像、彰義隊の墓碑、清水觀音堂があり、左には樹木の間より不忍池を見下し、また五條天神、花園神社、精養軒、ブランド將軍手植の月桂樹、小松宮彰仁親王の銅像などを見る。大路は櫻樹の並木の間に東北に走り竹之臺の櫻林に至る。竹之臺の右には自治會館、凌雲院、前面には帝室博物館の表慶館が見られる。右に折れて

進めば東京博物館、帝國學士院、兩大師堂がある。竹之臺の左方には東京府美術館があり、その先には右方に音楽學校、帝國圖書館、寛永寺、徳川家靈屋などがあり、左方には美術學校、動物園及東照宮がある。東照宮より下れば不忍池畔に達する。池は面積十四萬平方米、中央に辨天堂がある。池中には蓮が多い。池畔には博覽會場がある。

【動物園】(八圖三三) 上野公園内にあり、明治十五年の創立で、もと宮内省所轄であつたが、大正十三年皇太子殿下御成婚記念として、東京市に下賜せられたものである。出入の門は表と裏にあり、上野公園方面から来るものは表門から、本郷方面から来るもの及不忍池畔の東照宮下電車停留場に下車するものは裏門から入る。

表門から入れば先づ右に折れて鸚鵡室、小禽室、雉室、鶉室、鳥檻を見る、それより小橋を渡り象室、猿檻、鹿柵、獅子室、馬室、猪室、羚羊室、猛獸室を経て觀魚室には魚類の外珍奇なる山椒魚を見る。次に

高欄付廻椽をめぐらし、奥の中央三間は相ノ間に連續し、相ノ間是一段低くなり、本殿は三間三面入母屋造、銅瓦本葺、前面一間通を外陣となし、内陣の中央に唐破風造の軒を造り出した宮殿があり、家康の像を祀つて居る。本社の社殿は權現造として、その形態完備し、その裝飾豊麗である。

【寛永寺五重塔婆】(國寶) 上野公園東照宮の前にあり、遠くから望んで上野の森に風致を添へて居るものはこの五重塔婆である。もと東照宮の所屬で、寛永二年土井利勝の創建にかゝり、同十六年に焼失したが、同年直に土井利勝によつて再建され今日に及んで居る。方三間外部總丹塗の五重塔婆で、全體の形態よく整ひ、江戸初期に於ける塔婆建築の典型となすべきものである。

【東京帝室博物館】(八圖は二)(毎日開館) 上野公園内にあり、その正門はもと輪王寺本坊の門であつた。この門を入ると左手に表慶館がある。他の陳列館は大正十二年震災後取除かれた。本館は明治十五年に開設さ

鶴室、鶴飼養場、孔雀室、小禽室、小水禽室、禽室を経て裏門に近づき、熊室を見、南方の丘に上り、カンガルー室、駱駝室、山羊柵、熊室、禽室、猿室、猛禽室を見、表門に復歸する。園内の動物は凡そ五〇種、内約三〇種は鳥類、約五〇種は哺乳類である。

【天海塔】 上野公園櫻ヶ丘舊本覺寺墓地内にある。寶塔の傍に石柱あり、東叡開山慈眼大師贈大僧正法印大和尚位と刻する。天海は寛永寺の開山で、徳川家康以來三代の尊信を受け幕府の樞機に參じ、寛永二十年百餘歳で寂した。川越喜多院に葬つたが、後年毛髮をここに埋めて塔を建てたのである。

【上野東照宮】(府社)(國寶) 上野公園内動物園の南隣にあり、徳川家康を祀る。寛永年間天海によつて創建されたが、現存の社殿は慶安四年に幕府の改造したものである。本殿、相ノ間、拜殿、唐門及透塀を具備せる權現造である。

拜殿は七間三面入母屋造、銅瓦本葺、正面屋上に千鳥破風を有し、軒に唐破風造の向拜がある。腰廻りに

れ、主として本邦、支那、印度など東洋のものを蒐め、總數約四十六萬に達して居る。その陳列品は歴史部、美術部、美術工藝部の三部に分れ、各部の陳列品は更に種類によつて次の如く分類されて居る。

- 歴史部、典籍、文書、畫圖、金石文、版、學術器械、上古遺物、奈良時代遺物、祭祀宗教に關する物品、武器、服飾、儀式、家什、樂器、遊戯具、文房具、貨幣、印紙、度量衡、輿車、橋梁、船舶、蝦夷琉球臺灣朝鮮風俗、外國風俗。
- 美術部、繪畫、彫刻、建築、寫真、書蹟。
- 美術工藝部、金屬品、燒製品、漆製品、染織品、玉石品、甲角品、木竹品、紙革品、印鈕篆鑄、版畫刻版。

これら各部の陳列品中より重要なるものを選択し、國寶及私人の寄託品を加へて表慶館に陳列されて居る。收藏されて居る列品は特別縦覽規定により觀覽の便がある。

表慶館 東宮殿下の御慶事を記念するため、東京市民が帝室へ献上したもので、明治四十一年に竣工した。外形を鳳凰に模した洋風の石造建築で總面積二五アール(七四九坪)を有し、陳列室は階上階下に分れ階上

は第一室より第四室に至り、階下は第五室より第九室に至る。

第一室 歴史部の陳列室で、京都御所飛香舎代御調度及細長とその附屬品が陳列されて居るが、この室は往々陳列替される。

第二室 美術部の陳列室で、主として室町時代以前の繪畫を陳列し凡そ毎月陳列替をする。本室に陳列される博物館所藏の佛畫では藤原時代の普賢菩薩畫像最も名高く、その他當麻曼荼羅をはじめ、鎌倉以前の優秀なるものが十數點ある。また國寶の佛畫では神護寺藏の釋迦如來畫像及松尾寺の普賢延命畫像など藤原時代の優秀なる代表的繪畫が陳列される。その他鎌倉時代の繪畫では國寶北野天神緣起十八卷、國寶鳥羽僧正戲畫四卷、國寶松ヶ崎天神緣起五卷(應長の奥書)天狗草紙繪卷二卷(博物館藏)など著名なるものが時々陳列される。室町時代の繪畫では雪舟筆破墨山水(博物館藏)元信筆祖師圖四幅(博物館藏)國寶元信筆神馬圖、土佐光信筆清水寺緣起三卷など何れも有名である。

また三島神社所藏國寶梅の蒔繪手筈その他博物館藏の香筥などがある。

尙この時代には鎌倉彫が創製されたが、その遺品も多少博物館に集められて居る。室町時代は足利將軍義政が東山にありて華美を好み、調度の類に蒔繪を施した結果、梨地、高蒔繪の精巧なるものを出し、五十嵐信齋、幸阿彌道長の如き名工があつた。扇面散手箱、鹽山扇面蒔繪手箱、猫蝶蒔繪料紙箱、菊水蒔繪手箱など何れも博物館の所藏で、この時代の代表的作品である。桃山時代の蒔繪は豊臣氏の豪奢なる風を受けて頗る變化を來したもので、京都東山高臺寺の蒔繪はその代表的遺品で、高臺寺蒔繪として知られて居る。博物館所藏の秋草蒔繪經机はよくその特徴を表はしたものである。江戸時代には漆器蒔繪の類著しく發達し、殊に元祿の頃には幸阿彌長救、尾形光琳、春正、景正、山田常架齋、小川破笠、古満休伯、田付長兵衛などの名工輩出し、極めて精巧なる製作品を出し、後世これを常憲院時代蒔繪と稱して名高い。陳列品中光悦作の

第三室 美術部の陳列室で、江戸時代及明治時代の繪畫が陳列される。江戸時代のものでは狩野常信の花鳥屏風一雙、狩野探幽の三十六歌仙、酒井抱一の四季花鳥繪卷二卷、谷文晁の彦山眞景などは博物館所藏の主なるもので、國寶では圓山應舉の雲龍圖の屏風が陳列される。明治時代の主なるものでは狩野芳崖、今尾景年、川端玉章などの作品が陳列される。

第四室 美術工藝部の陳列で、わが國の漆器を製作の年代により各時代に分類陳列して、その發達のあとを示して居る。この室には奈良朝のものとして御物金銀泥繪漆の皮箱が陳列されて居る。平安時代器物の類では仁和寺所藏國寶册子筥、延曆寺所藏國寶經筥、金剛峯寺所藏國寶小唐櫃など何れも有名なる遺物で、博物館にその模造があり、また御物螺鈿鳳凰紋唐櫃、七寺所藏の國寶般若經入唐櫃内小箱などが陳列されて居る。鎌倉時代の漆器は鶴岡八幡宮所藏國寶菊蒔繪硯箱、土井家所藏金溜地螺鈿模様の手筥などは、この時代の有名なる遺品で、その模造品が陳列されて居る。

舟橋蒔繪硯箱(博物館藏)光琳作八橋蒔繪硯箱(博物館藏)幸阿彌長重の初音蒔繪手箱(博物館藏)など、何れもこの時代の佳作である。この外同時代の蒔繪書棚が陳列されて居る。この書棚は明治六年オーストリアウィーンの博覽會へ出陳され、送還の途中、積込船が伊豆沖で難破したので、海底に十八ヶ月間沈んで居たが、少しも損じて居ないので、その堅牢を證すべき好参考品である。印籠は江戸時代に流行したもので、在銘のもの五十餘點を陳列してその一斑を示して居る。

第五室 美術工藝部の陳列室で、右半には日本、支那、西藏及印度などの金工品を類別して陳列し、左半には玉石、甲角、木竹との彫琢品を分類して陳列して居る。第六室 美術工藝部に屬する日本及支那の陶磁器を陳列して居る。日本品は地理的に、支那品は時代的に分類して陳列されて居る。日本品で名高いものには赤樂茶碗、仁清作の茶壺、乾山の角皿などがあり、支那品は宋以前の優秀なる製作品が蒐つて居る。わが陶磁器の歴史を徵すべきものは古墳及經塚から發見されたる

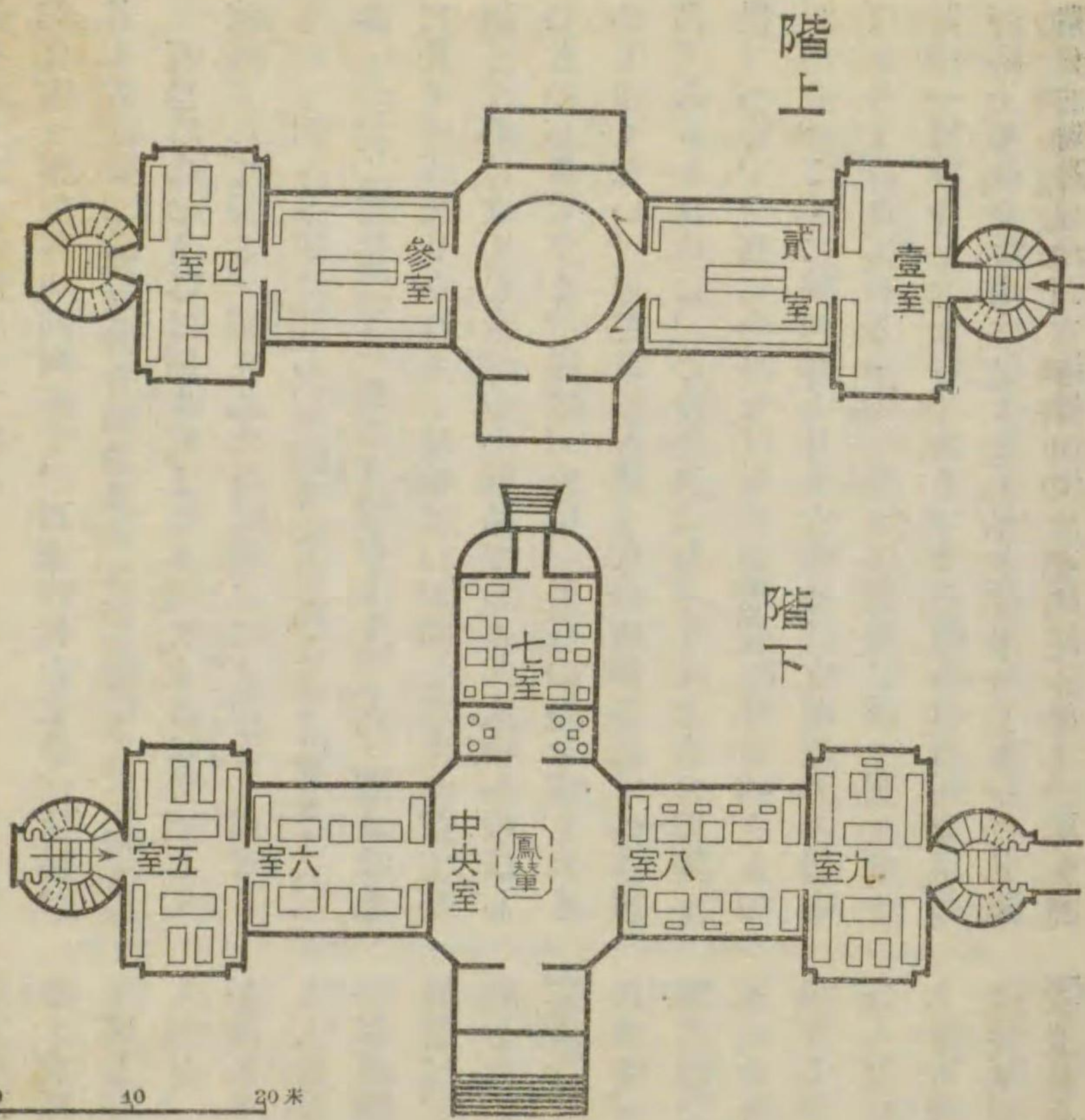
ものも多く、その貴重なるものが歴史部に陳列されて居る。

中央廣間 安政二年新内裡落成の時、孝明天皇の御使用になつた鳳輦が陳列されて居る。鳳輦は御即位、大嘗會、行幸などに天皇の乗らせ給ふ輿の一種である。

第七室 美術部の陳列室で各時代の彫刻を陳列して居る。飛鳥時代は朝鮮及支那から佛教藝術の傳へられた時代であるが、その時代の遺物として有名なる法隆寺獻納御物の金銅佛が陳列されて居る。奈良時代は唐式藝術の模倣に力め、唐式彫刻の隆盛を極めた時代で、多くの名作を残して居るが、その模造品を陳列し、實物に於ては伎樂面がある。平安時代は唐式模倣を脱した日本趣味を發揮した時代で、定朝の如き名工が出た。定朝式代表的作品とも見るべき大日如來の坐像が陳列されて居る。鎌倉時代は寫實的にして雄勁なる彫刻の發達した時代で、運慶、快慶などの名手が輩出した。この時代の陳列品には國寶運慶作世親無著像の模造、博物館藏の十二神將中の二體などがある。室町時

代には鎌倉時代の剛健なる寫實風は失はれ、裝飾に富んだ精緻なる作品が作られたが、その代表的作品として研出蒔繪を以て裝飾された觀音像が陳列されて居る。

第八室 歴史部の陳列室で日本石器時代の遺物、金石併用時代の遺物、上古より室町時代に至る古鏡、上古の服飾品、經塚發掘品、日本及支那の古錢を陳列して居る。石器には武器、土偶、石棒、石皿などがあり、金石併用時代のものには銅鉾、銅劍、銅鏃、石劍及銅鐸が陳列してある。銅鐸は未だその用途の知られない遺物であるが、その形鐘に似て、表面には幾何學的模様の外、往々原始的人物の像を鑄出したるものなどありて、當時の生活状態の一端を徴すべきものがある。陳列されて居る古鏡の多くは日本各地の古墳及經塚などから發掘されたもので、上古より室町時代に至る沿革が示されて居る。上古の鏡は支那傳來品と日本鑄造品とあるが、日本鑄造品は概ね支那鏡の模造である。奈良時代の鏡は唐鏡と區別が出来ない程同一形式のも



東京市及近郊 東京帝室博物館表館平圖

のであるが、藤原時代以後の鏡は支那宋代以後の鏡とは没交渉で、全く日本の模様が現はされて居る。身邊裝飾具には古墳より發掘された耳飾、勾玉、玉類などが陳列されて居る。經塚發掘品には經筒、佛像、鏡、短刀、香合その他の器物がある。經塚は祈願のため法華經を書寫し、容器に入れて地下に埋納した塚である。主として平安時代から室町時代に行はれた佛教風俗で、經卷を納めた經筒には往々願文年號などが記載されて居る。經筒以外の器物はすべて附屬品である。支那の古錢には蟻鼻錢、刀、銅刀、布などが陳列されて居る。これらは圓形内に方孔を有する錢形の成立せざりし以前に流通したものである。また日本の古錢に

は皇朝十二文銭が出してある。

第九室 歴史部の陳列室で、石器時代の土器、埴輪、日本古陶器、支那朝鮮古陶器及明器が陳列されて居る。

石器時代の土器は彌生式土器と縄文土器に分類して陳列されて居る。彌生式土器は古史に土師器と記せるものと同一系統に屬し、中部日本以西に多く發見され、縄文式土器は表面に縄目文様あるもので、關東以北に於て多く發見される。埴輪はわが國の古墳の封土を廻りて埋め立てた素焼の土製品である。人物を現はしたものが最も多く、動物、家屋、器什の類を模したのも少なくない。埴輪はわが國上代の墳節を徴すべき遺品であると同時に、その土偶にありては上古の服飾を徴すべく、土馬にありては鞍具の著装を見るべきものがある。こゝに陳列せる日本古陶器は古墳副葬の遺物ばかりで古史にある「陶部」の製造に係り彌生式土器の一段進歩したものである。その裝飾付古陶器はわが國上代の生活様式を考察すべき好資料である。支那朝鮮古陶器はわが古陶器の源泉が朝鮮にあり、更に溯

あり。寛永年間江戸城鎮護のため天海僧正の願により創建したものである。今東京帝室博物館のあるところは、もと寛永寺本坊即ち法親王常住坊舎のあつた位置で、昔の正門がそのまゝ、博物館の正門である。正門前の竹の臺にはもと中堂があり、中堂の前には大塔と圓堂が相對し、更に法華常行の二堂があつて渡殿によつて連結せられ、輪奐の美を備へて居た。これらの諸堂の多くは、明治元年の兵火によつて失はれ、現存するは清水堂、五重塔及兩大師あるのみである。今の寛永寺中堂は明治八年に上州世良田の長樂寺本堂を移して舊大慈院跡に再建したもので、本尊は藥師如來である。舊時の寺門は黒門則ち表門の外、その東に新黒門あり、山の東側に車坂門、その北に屏風坂門、その少しく西に坂下門、山の西側池ノ端通に女坂門、切通上に清水門、天王寺前通に谷中門があつたが、今は一も存しない。寛永寺にも増上寺と相對して徳川氏の靈廟が設けられ、今東京市に於ける重要な史的建築物となつて居る。

つて支那にあることを示すために陳列されて居る。明器は支那古墳の内部に遺骸に近く置かれた假器で人物を模したるもの多く、家畜、建築、器什を現はしたのもあり、その時代は漢代のものもあるが、唐代のものが最も多く發見される。この室に陳列されて居るものも人物を模したものが多く、その製作頗る精巧にして三彩の釉藥を施したのもあり、その土偶の現はせる服装は、わが奈良時代及平安初期の服飾研究上に好資料を與ふるものである。

【慈眼堂(兩大師)】 上野公園、東京帝室博物館の東隣にあり、寛永寺の開山慈眼大師(天海僧正)の御影堂で、兩大師とも云ふ。寛永年間慈眼大師入滅後、徳川將軍家の命じて創建せしめた所である。この堂を兩大師と稱するのは、慈眼大師の生前尊崇せし慈惠大師の御影をも併せ安置せるが故である。堂の西側より後方には上野法親王守澄、天真、公寛など歴代の輪王寺門跡の御墓があり、宮内省の管理に屬して居る。

【寛永寺】(天台宗)(八圓はと) 東京帝室博物館の西隣に

【護國院】(天台宗) 上野公園清水門の傍、もと寛永寺三十六坊の一である。

寶物

一 愛染明王像(國寶) 一幅 絹本着色 鎌倉末期  
全幅金色莊嚴の濃麗なもので金泥で盛上げとし截金は獨り蓮座の連舞の上のみ用ゐられ精巧を極め、その設色の濃麗と相俟つて莊重味の存するものである。

【徳川四代將軍靈廟】 第一靈屋と稱し、第二靈屋と左右相隣つて博物館の裏手にあり、嚴有院家綱を祀る。天和元年に創建されたが、元祿十一年の江戸大火に焼失し、その翌年に再建されたものである。大體の建築配置は本殿、拜殿、唐門、水屋、鐘樓及二天門を具備せる靈屋と、靈屋の後にある墓所より成る靈廟建築で、本殿の内陣には四代將軍の厨子の外に三代、十代及十一代將軍の位牌を納めた厨子が三基安置されて居る。

【徳川五代將軍靈廟】 第二靈屋と稱し、第一靈屋の西隣にあり、寶永六年に起工し同十一年に竣工した。常憲院綱吉を祀る。大體の建築配置は四代將軍のそれと

同様で、本殿には五代將軍の厨子の外に八代將軍吉宗、十三代將軍家定、十代將軍嫡子家基及十三代將軍裏方の位牌を納めた厨子が四基安置されて居る。

第一及第二靈屋ともに常に拜觀を許して居る。

【尾形乾山墓】寛永寺境内に乾山深省蹟と題する碑がある。これは文政六年に抱一が下谷坂本善養寺にあつた乾山の墓に建てたもので、區劃整理の爲め善養寺が郊外に移轉すると共に墓も移轉したが、この碑のみは一旦舊地の附近に移されたのちまたこゝに移された。

【川路聖謨墓】市内電車池ノ端七軒町下車、大正寺の墓地にあり、聖謨は豊後日田の人で勤王の士、幕末の外交に參與して功績があつたが、明治元年時事を憤慨して自殺した。年六十八。維新後從四位を贈らる。

【北村季吟墓】市内電車池ノ端七軒町下車、正慶寺の墓地にあり、再昌院法印季吟先生と題し、裏に寶永二乙酉年六月十五日八十二歳卒とある。季吟は近江の人で國學の大家であつた。徳川幕府の召により江戸に來り幕府の歌學方となり、再昌院法印の號を賜り、維新

長じ、安政五年六十二歳で歿した。

【伊能忠敬墓】市内電車清島町下車、北清島町源空寺墓地内にある。忠敬は下總の人で測量術に長じ、幕命によりわが國輿地圖を作製した。文政四年七十七歳で歿し、維新後正四位を贈らる。忠敬の墓に隣りてその師高橋東岡の墓がある。

【谷文晁墓】同源空寺の墓地内にある。文晁は江戸の人で有名なる畫家で、その畫風は廣く諸派に通じ、天保十一年七十八歳で歿した。

【幡隨院長兵衛墓】同源空寺の墓地にある。長兵衛は江戸の俠客として普く名を知らる。慶安三年旗本水野十郎左衛門のため殺害せられた、時に年三十六。

【玉川庄右衛門及清右衛門墓】市内電車菊屋橋下車、淺草區松葉町聖徳寺内にあり、庄右衛門は承應年間幕命により玉川上水道を開鑿した功勞者で、清右衛門は庄右衛門を助けて功あり、明暦年間工事竣成するや、幕府より玉川の姓を賜はつた。庄右衛門は元祿八年、清右衛門はその翌年に歿した。維新後共に從五位を贈

後從四位を贈られた。

【太宰春臺墓】市内電車逢初橋下車、谷中坂町天眼寺墓地にある。春臺は信濃の人、荻生徂徠の門人で、經學に達した博學洪識の儒者で、延享四年六十八歳で歿した。

【蒲生君平墓】市内電車逢初橋下車、谷中坂町臨江寺の墓地にあり、君平は下野の人、勤王の士で歴代山陵の荒廢を慨き山陵志などの著あり、文化十年四十六歳で歿した。維新後正四位を贈らる。

【徳川慶喜墓】日暮里驛の東南半軒、谷中墓地に接する徳川家墓地内にある。慶喜は徳川幕府最後の將軍で慶應三年これを辭し、大政を奉還した。大正二年七十七歳で薨じた。

【天王寺五重塔婆】同谷中墓地内にあり、東京市の管理に屬して居るが、もとはその東北にある天王寺に附屬する塔婆で、寛政年間の建築である。

【安藤廣重墓】市内電車清島町下車、北松山町東岳寺境内にある。廣重は有名なる浮世繪師で最も風景畫に

【葛飾北齋墓】市内電車清島町下車、淺草區永住町誓教寺にある。北齋は江戸の人、勝川春章の弟子で、風俗畫、風景畫をよくした。浮世繪の大家である。嘉永二年に九十歳で歿した。

【梅田雲濱墓】市内電車合羽橋下車、松葉町海禪寺境内にある。雲濱は若狭小濱の人、有名なる勤王家である。幕府に捕られて獄に下り、安政六年四十四歳で歿した。維新後正四位を贈らる。

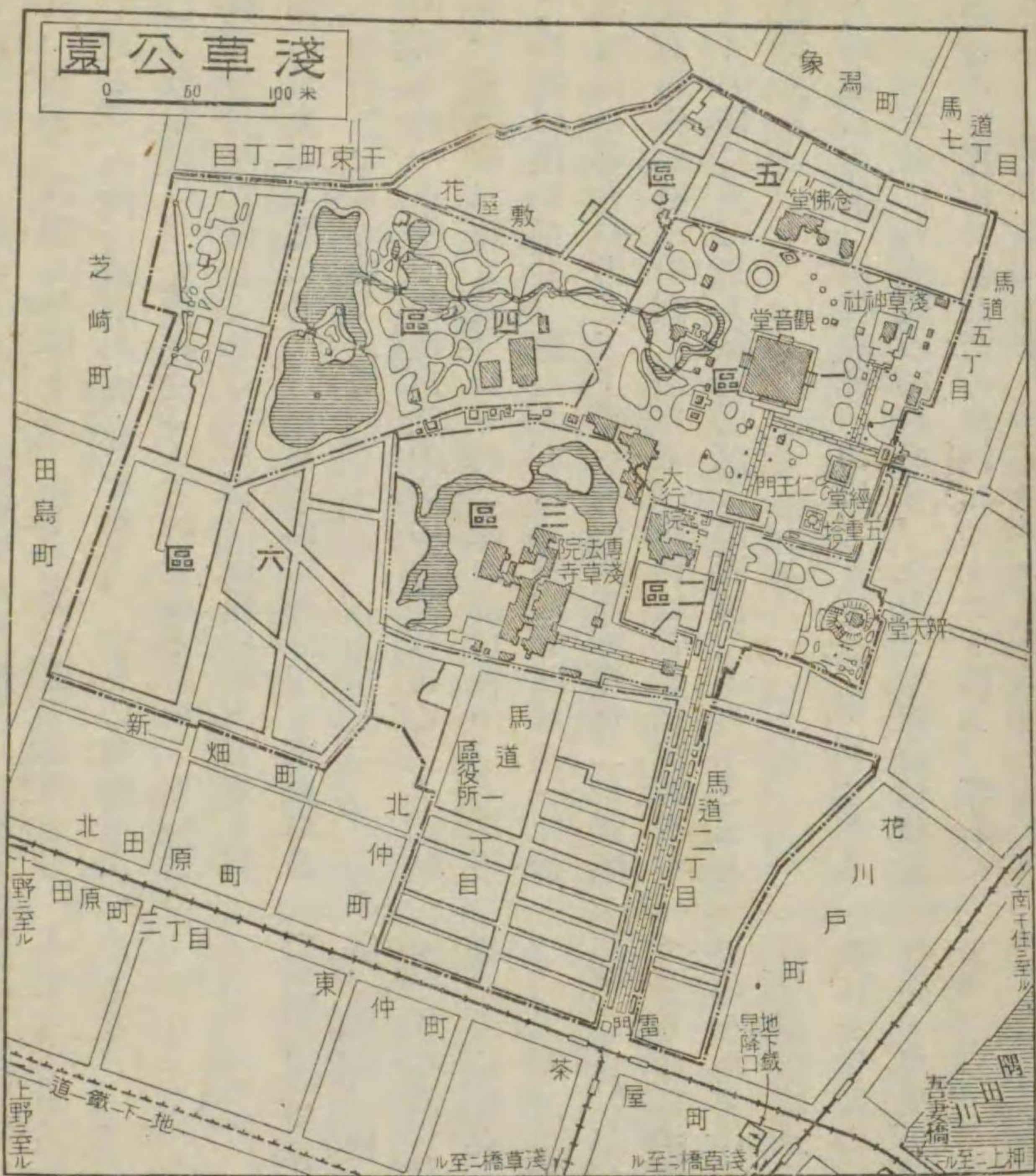
【荷田在滿墓】市内電車田原町下車、高原町金龍寺境内にある。在滿は京都の人、國學の大家で特に有職の學に精しかつた。寶暦元年四十六歳で歿した。

【勝川春章墓】市内電車老松町下車、南元町西福寺にある。浮世繪師で版畫肉筆に長じ、寛政四年六十七歳で歿した。

【淺草公園】(八圖かき) 市内電車雷門下車、淺草觀音堂を中心として、その附近面積約二、二〇〇アール(六萬四千坪)を占めて居る。雷門より露店の櫛比する參道を進め

仁王門に達する。門に接し向つて右方に久米平内の像が立つ。これより右方に折れ小丘に上れば辨天の祠あり、その傍にある鐘樓には元祿五年の銘ある有名な鐘がある。また仁王門の右には観音の濡佛がある、仁王門を入りて北進すれば巨大なる公孫樹數本に取まかれて本堂があり、これに向つて右方には五重塔婆及經藏があり、その後方には淺草神社がある。本堂の東北隅に近きあたりに九代目市川團十郎の「暫」の扮装をした銅像があり、また山東京傳の書案の碑が立つ、その表面には弟京山の筆になる京傳の歌を、裏面には太田南畝の撰になる京傳の傳記を刻す。本堂の背後には林泉あり、西方には西佛の板碑及六地藏の石燈籠が立つ。これより更に西方には活動寫眞館などが多く、市内の娛樂の巷となつて居る。本堂の西南方には傳法院があり、その泉池は風致に富んで居る。

【淺草寺】〔天台宗〕淺草公園にあり、市内の最も繁華な遊興地にかこまれ、參詣人が常に雑沓して居る。金龍山淺草寺と稱し、その創建年代は相當古い昔のこと



であらう。鎌倉時代既に大寺であつて吾妻鏡建長三年三月六日の條にも當寺に於て怪異のあつたことを載せ、室町時代の紀行廻國雜記にも屢々その名が見え、天文四年には小田原の北條氏綱が大伽藍を再興した。然し観音堂の信仰が流行して參詣者群をなすの盛況は江戸時代に入り元和、寛永以來のことである。現在主要建築物は本堂、五重塔婆、經藏、仁王門及傳法院で何れも江戸時代の建築である。

寶物

- 一 銅 鐘 一口  
傳法院の庭にあり、高約一米(三尺二寸)、至徳四年の銘文がある。
- 一 法華經 (開結共) (國寶) 十卷 紙本墨書
- 一 大藏經 (元版) (國寶) 五千四百二十八卷  
鎌倉鶴ヶ岡八幡宮舊藏、所々に鶴岡八幡宮の印がある。
- 一 種子曼荼羅 (金胎) 二幅

仁王門 観音堂の正面にあり、五間三戸朱塗の樓門で東京市内に於ては芝増上寺の三門に次ぐ雄大なる樓門で、江戸時代中期の建築である。

迷子知らせ石標 仁王門前、向つて右方にあり、「南無大慈悲觀世音菩薩まよひこのしるべ」と題し兩側面に「たづねる方」及「しらする方」と刻しその上に張紙をなすに便なる様に長方形の窪みが設けられて居る。安政七年の建設にかゝる。

五重塔婆 (國寶) 仁王門を入りて右手にある。本堂と共に徳川三代將軍家光の再建、慶安二年に出來た方三間朱塗の五層塔婆である。各層屋根銅板葺、本塔婆は江戸初期に於ける雄麗なる建築である。

本堂 (観音堂) (國寶) 慶安二年三代將軍徳川家光の造營したるもので、元祿五年五代將軍綱吉の時更に修理が加へられた。七間七面單層入母屋造、本瓦葺、正面に三間の向拜を有

する朱塗の大殿堂である。内部は内外兩陣に區劃され、前面三間通を外陣とし、後方三間三面を内陣として居る。内陣は漆箔の丸柱を建て、中央の須彌壇上に宮殿を設け、五糶餘(一寸八分)の金像と傳稱する秘佛觀音菩薩を安置して居る。本堂は規模の雄大なると裝飾の華麗なる點に於て、東京市内に現存する佛殿中最も傑出したるものである。

西佛板碑 本堂の西淡島堂の前の池畔にある。上部缺失、殘存部二斷さる。長さ約二米上部に種子、その下に釋迦の像を刻し、像の左右に「右志者四殊由三味沙彌西佛先妻女竝男女二子爲一殊四彌西佛現當二世諸願圓滿西佛敬白」の銘文がある。西佛は吾妻鏡建長五年八月の條に出て居る鎌田三郎入道西佛であらうと云ふ説がある。

六地藏石燈籠 西佛板碑の傍にある。高さ約一米八(六尺)、火袋に六地藏の彫刻あり、久安二年源義朝諸堂造營の時鎌田兵衛政清の奉納せしものと傳ふ。竿石に「十月二十二日」兵衛の文字がかすかに讀まれる。

【八】アール(五、四〇〇坪)、専ら蔬菜、果實の卸取引をして居る。

【國技館】 市内電車國技館前下車、兩國橋の東詰に近き松坂町にあり、回向院に接する。この地は舊幕時代から相撲場として知られ、明治年間今の國技館が建てられ、觀覽者一萬六千人を收容する。その巨大なる圓屋根は市内に於ける一偉觀であり、こゝで行はれる一月の春場所及五月の夏場所は市民に衝動を與へる。秋季はこゝで菊花大會が催される。

【回向院】 國技館の南隣、明暦年間の大火に横死した人々十萬八千餘人を葬り、供養のため建立されたものである。境内に阿彌陀如來の坐像と供養碑がある。安政大地震の殉難者二萬五千餘人も合葬されて居る。

【加藤千蔭墓】 回向院墓地にあり、千蔭は國學者で、加茂貞淵の門に入り、歌學に達し書を能くし、文化五年七十五歳で歿した。

【山東京傳墓】 回向院墓地にあり。京傳は江戸の人、有名な戯作者でまた繪畫狂歌をよくした。文化十三年

【待乳山】 市内電車聖天町下車、隅田川の畔にある。小丘で小公園をなし、展望に富み、丘上に聖天の祠がある。

八 本所、深川方面

【隅田川の橋梁】 隅田川には白鬚、言問、吾妻、駒形、厩藏前、兩國、新大橋、清洲、永代の十橋梁があり、また別に越中島から佃島に通ずる相生橋が永代橋の下に架せられて居る。その中最も長きは相生橋で、大橋、小橋の二橋より成り、延長兩者を合して二元米、これに次ぐは言問橋で延長三三米。特に美觀を呈するものは清洲、永代、駒形の三橋で、清洲橋はドイツのケルンに於けるライン川の吊橋に範を取り、三徑間で鋼自旋式により中央八七米半、兩側四二米、永代橋は三徑間の突桁式繫拱で、延長一五米、駒形橋は三徑間、中央下路式鋼鉄拱兩側上路式鋼鉄拱、延長一四米。

【中央卸賣市場江東分場】 兩國橋驛前にあり、面積約

五十六歳で歿した。

【被服廠址】 市内電車石原町下車、本所區横網町にあり、陸軍省被服廠の取除かれた後空地となつて居たが、大正十二年九月の大震災の際數萬の市民はこゝに避難し、焼死したものが無數であつた。今その納骨堂があり、震災記念堂が建築中である。

【舊安田庭園】 市内電車石原町停留場の西南、本所區横網町二丁目にあり、もと江戸時代に經營せられた泉池で、安田氏から東京市へ寄附したものである。園内に公會堂がある。

【村田春海墓】 市内電車靈巖町下車、深川區仲大工町、本誓寺にあり。春海は江戸の人で國學者、和歌をよくす。文化八年六十六歳で歿した。

【深川公園】 市内電車不動尊前下車、面積約六三〇アール(二萬九千坪)、園内に富岡八幡宮(府社)及成田山不動堂がある。八幡宮の例祭は八月十五日に行はれ、大に賑ふ。不動堂は千葉縣成田の新勝寺の出張所である。

【松平定信墓】 市内電車靈巖町下車、靈巖寺境内に



ある。墓石に故白河城主樂翁公之墓とある。定信は天明七年老中に任じ幕政の積弊を改革して功績頗る大であつた。幼より文學を好み歌文に長じ著書も多い。文政十二年七十二歳で歿した。維新後正三位を贈らる。【間宮林藏墓】市内電車靈巖町停留場の東南浄心寺にある。林藏は常陸の人で、文化年中蝦夷より樺太及其の對岸に渡り、邊境の地理を踏査したので知られて居る。弘化二年六十五歳で歿した。

【清澄庭園】市内電車靈巖町停留場前、江戸時代の經營に成り、後岩崎氏から東京市に寄附したもので、園内には泉池、築山あり、特に庭石の巨大なるものが多い。また市に下賜された大正天皇の葬場殿は園内に移されて保存されて居る。この庭園は園遊會場として利用される。

【龜戸天神】市内電車天神橋停留場の東北、境内に藤が多い。また太鼓橋が二つある。毎月二十五日の祭日が賑ふ。

【錦糸公園】市内電車錦糸堀終點の北、總武本線錦糸

町驛の東北、本所區柳島町にあり、芝生廣く中央にトラックがある。

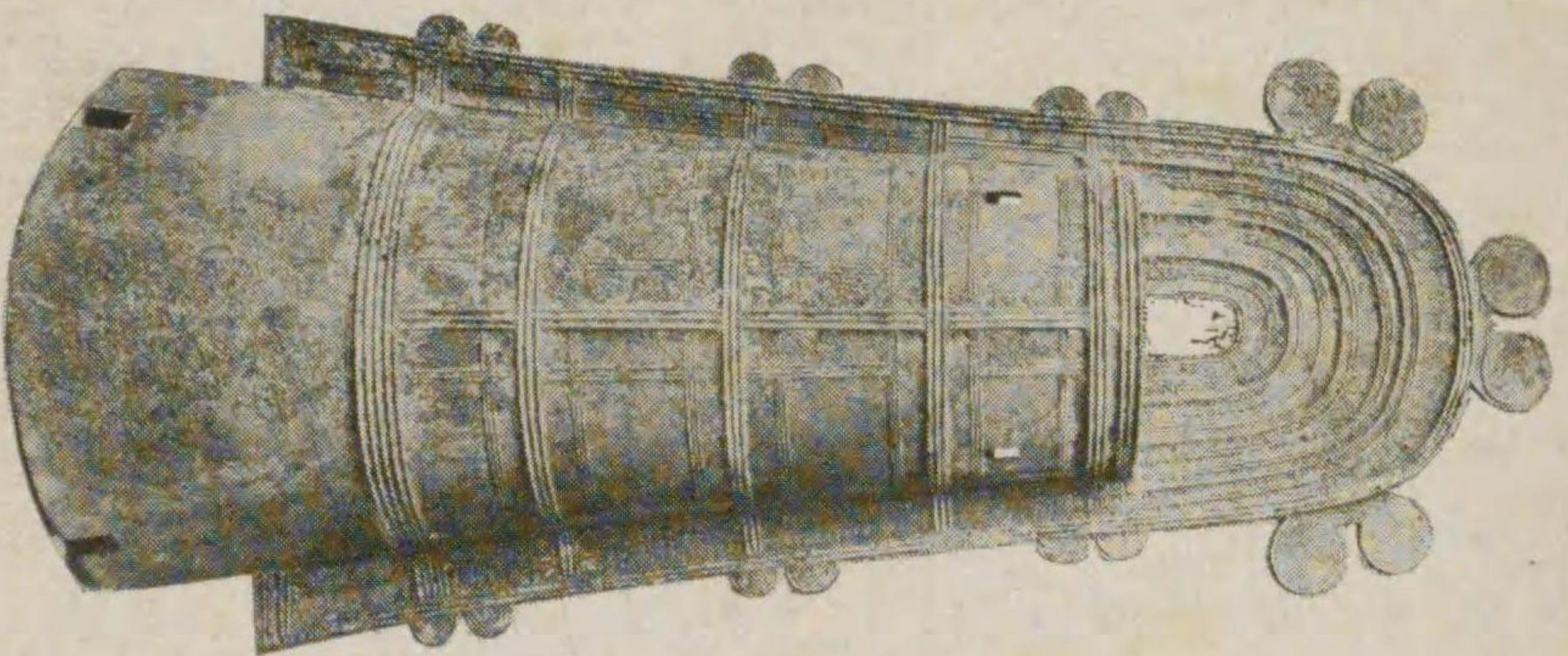
【猿江公園】市内電車猿江終點の東、本村町にあり、水の公園で水泳が行はれる。

【隅田公園】市内電車吾妻橋停留場の東北三〇〇米に始まり、隅田川の岸に沿ひ新小梅町から須崎町に至り、所謂向島堤を含み、言問橋によつて連結される對岸の淺草河岸も公園に編入されて居る。新小梅町の舊水戸家徳川邸址の庭園は、公園中の最も幅廣い部分で、林泉の風致がよい。この公園は隅田川を利用する臨川公園としてロンドンのテームズエンバークメントに比すべきものである。面積約一、三〇〇アール(三元、三〇坪)。

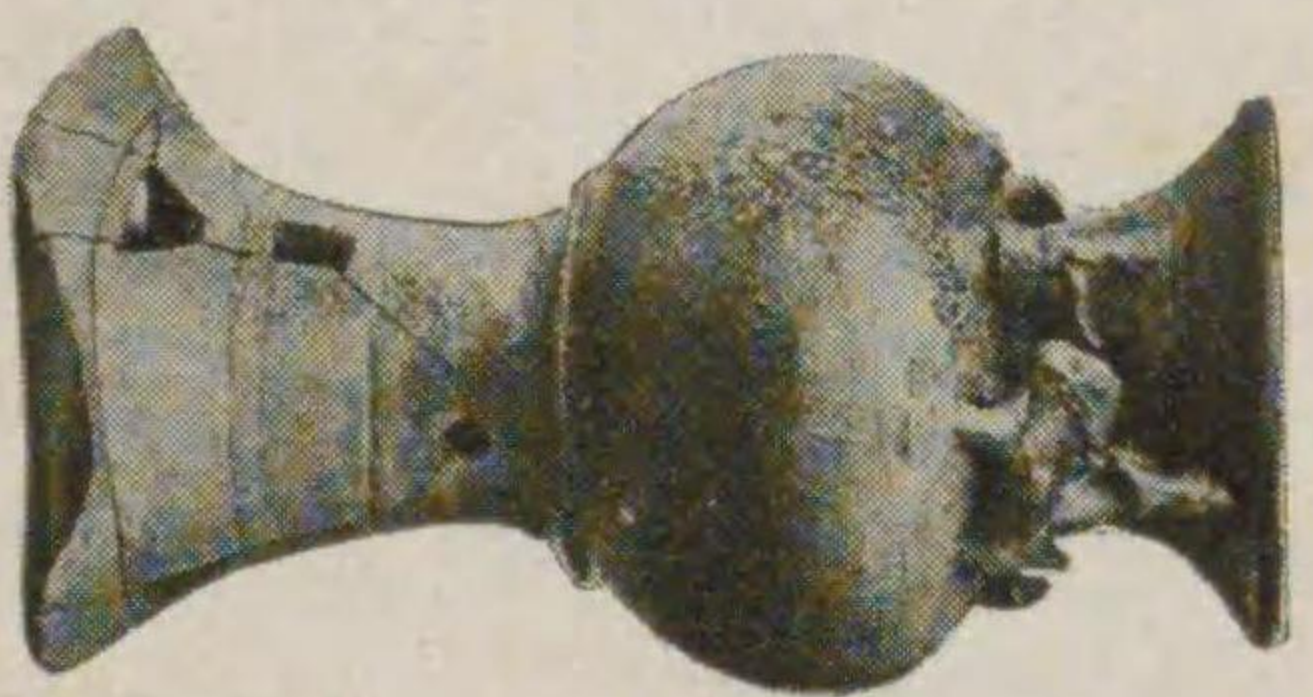
【三園神社】隅田公園の北に接す、俗に田中稻荷と稱し、宇迦之御魂命を祀る。境内に有名な其角の雨乞の句碑その他の碑石が多い。雨乞碑には次の刻文がある。雨乞するものに代りて

夕立や田をみめぐりの神ならば

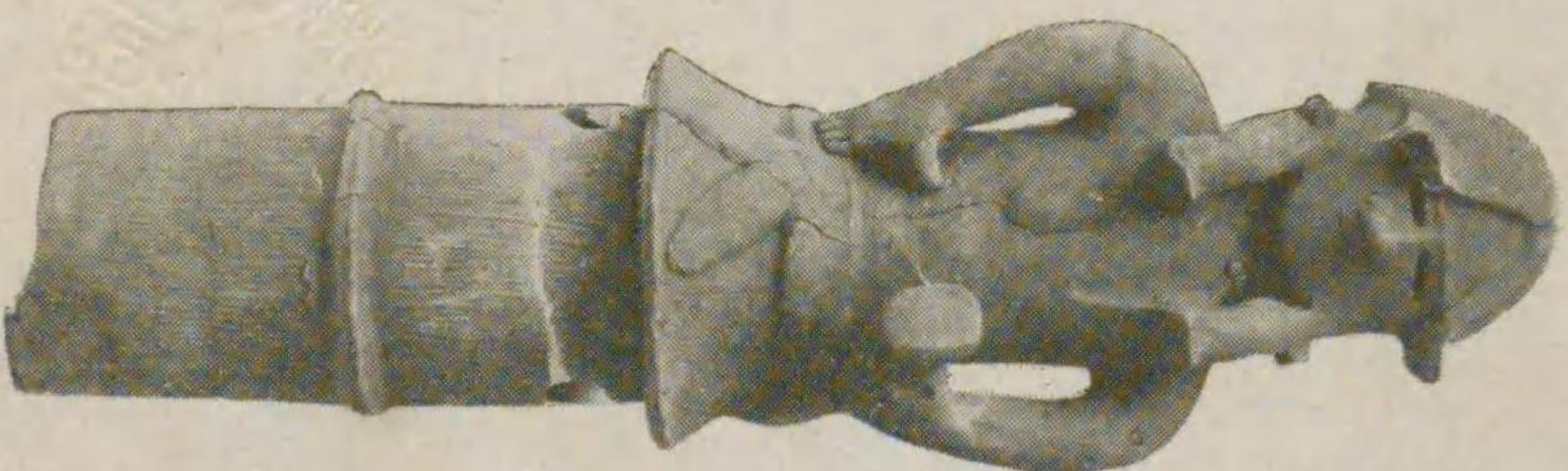
【長命寺】〔天台宗〕三園神社の東北方にある。徳川氏



鐘 銅



甕 帝 京 (東)



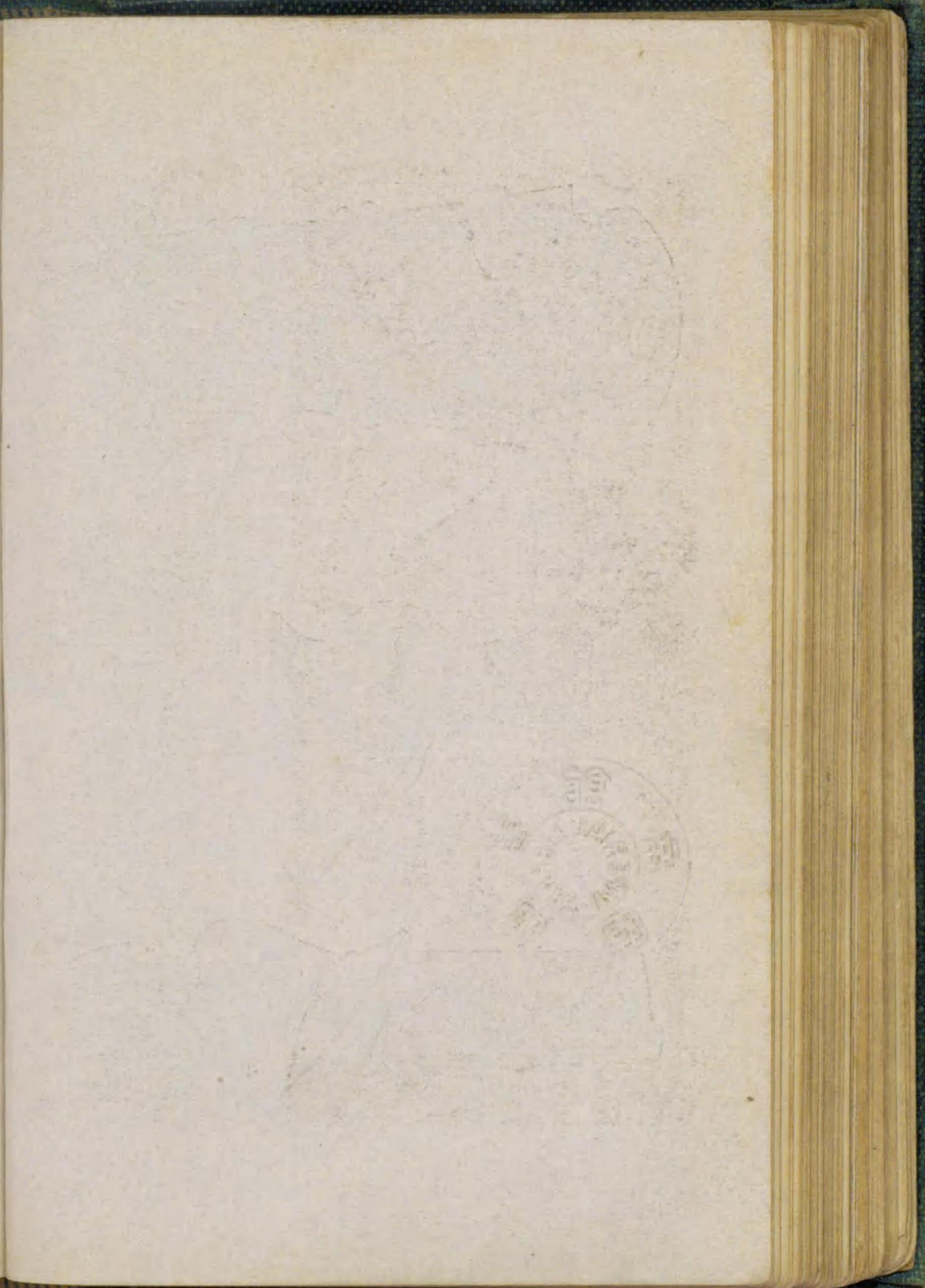
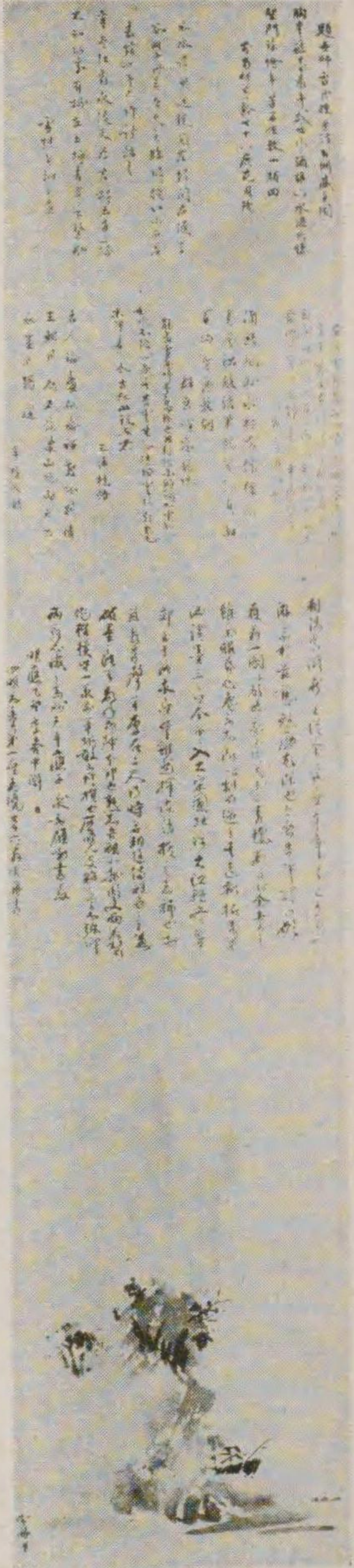
偶 土 輪 壇

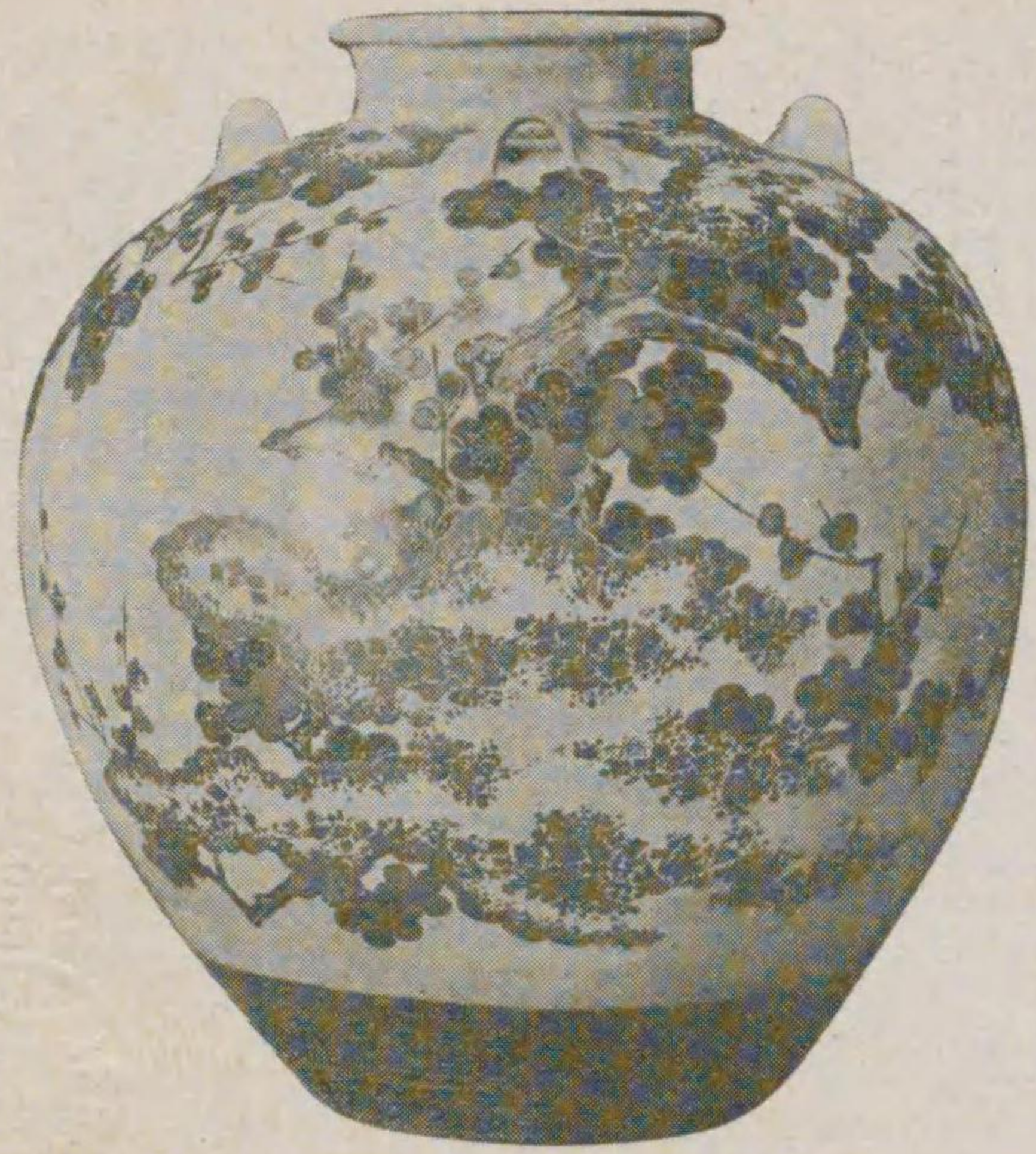
(館 物 博 室 帝 京 東)

普賢菩薩像 (東京帝室博物館)



雪舟筆破墨山水 (東京帝室博物館)

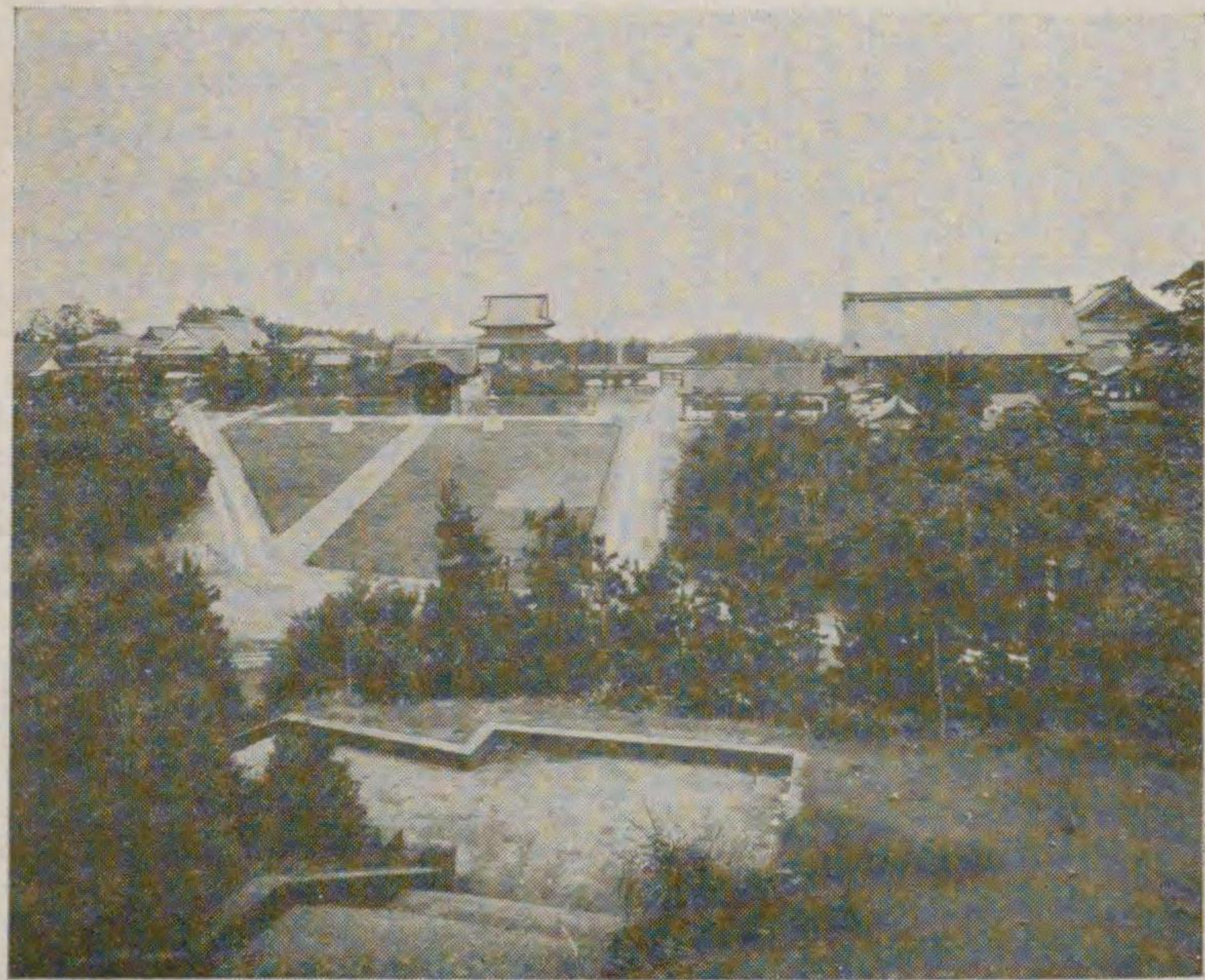




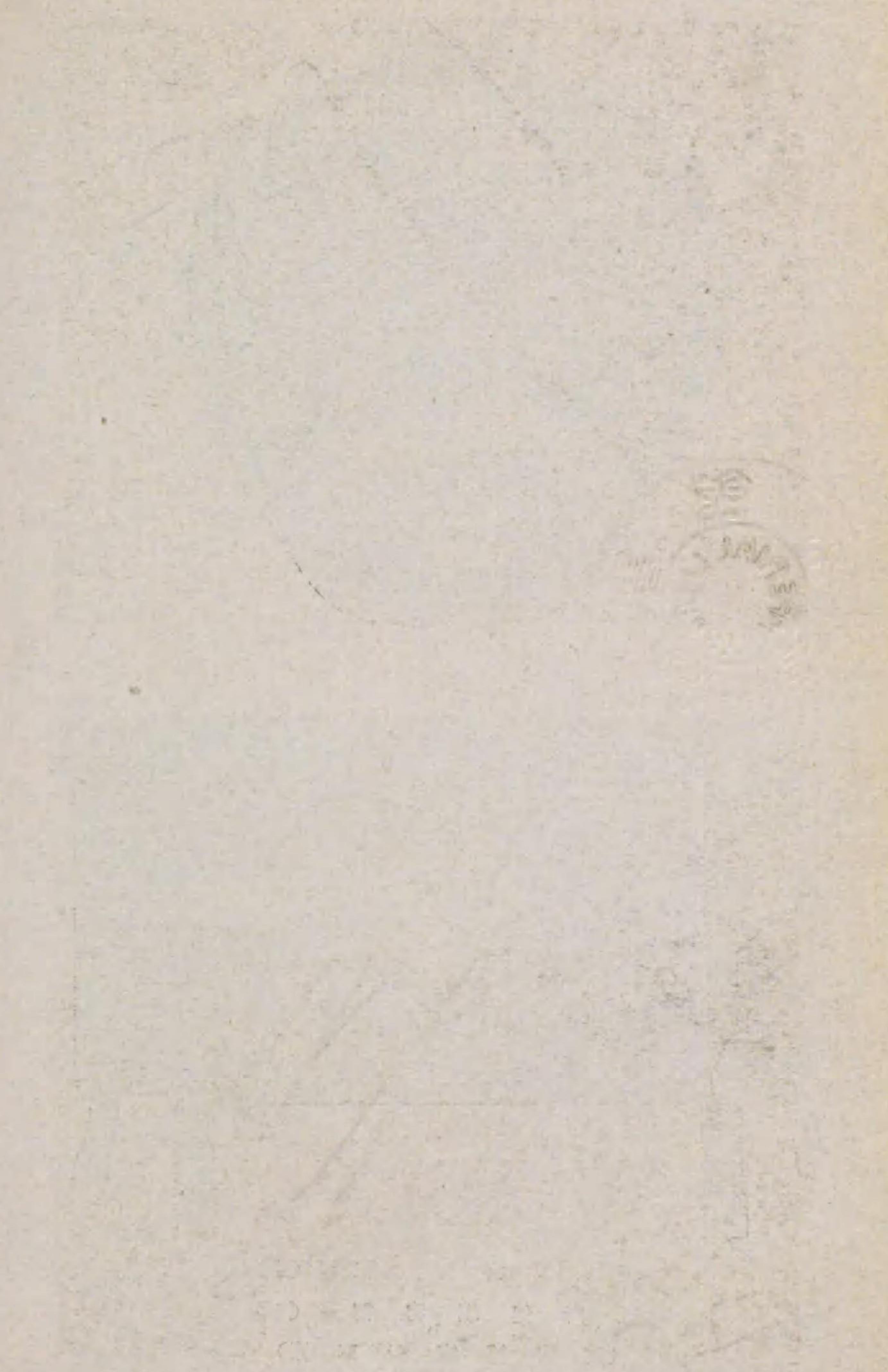
壺 清 仁 (上)  
櫃 唐 鈕 螺 物 御 (下)  
(館 物 博 室 帝 京 東)



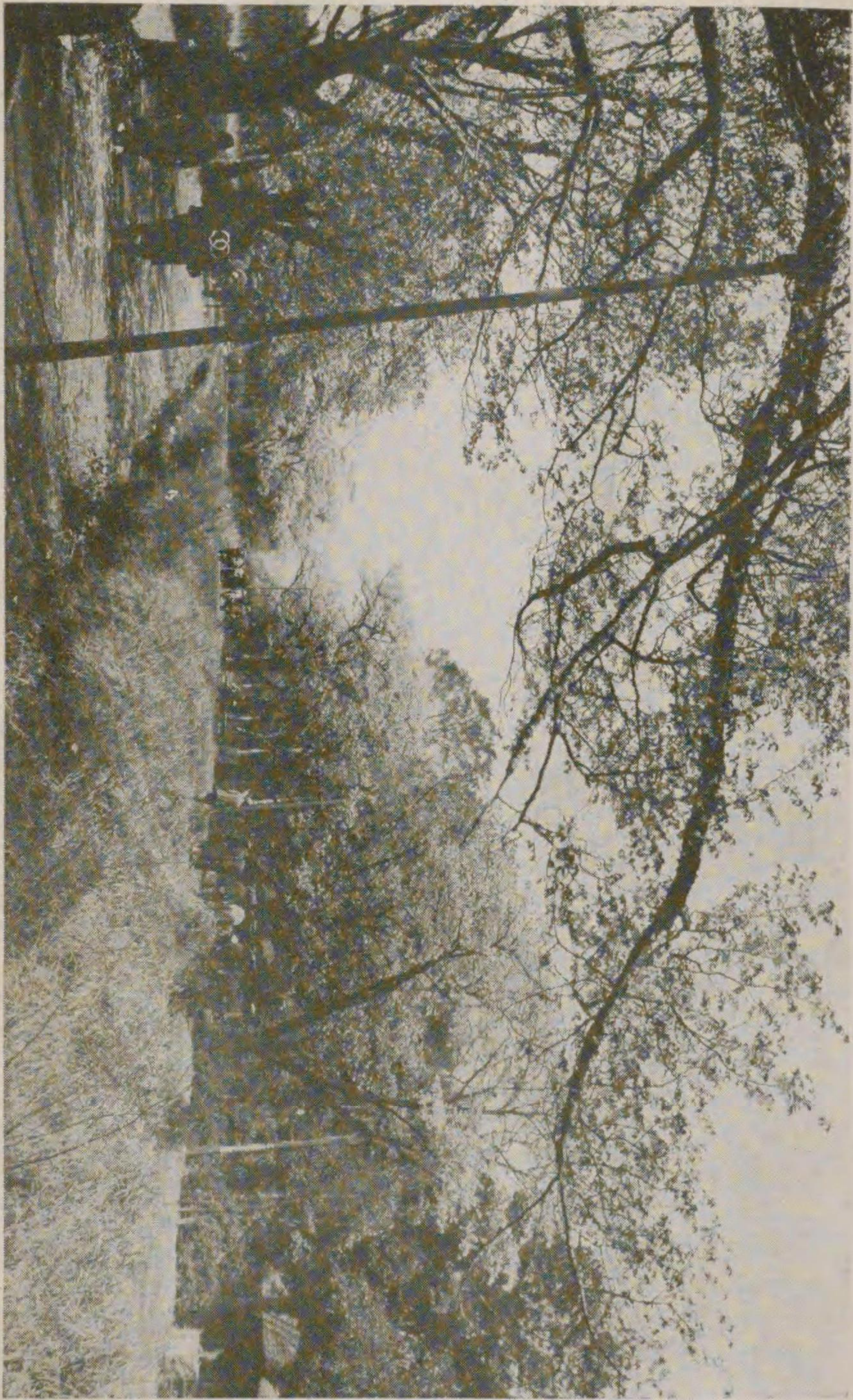
蓮聖人像(池上本門寺)



總持寺全景

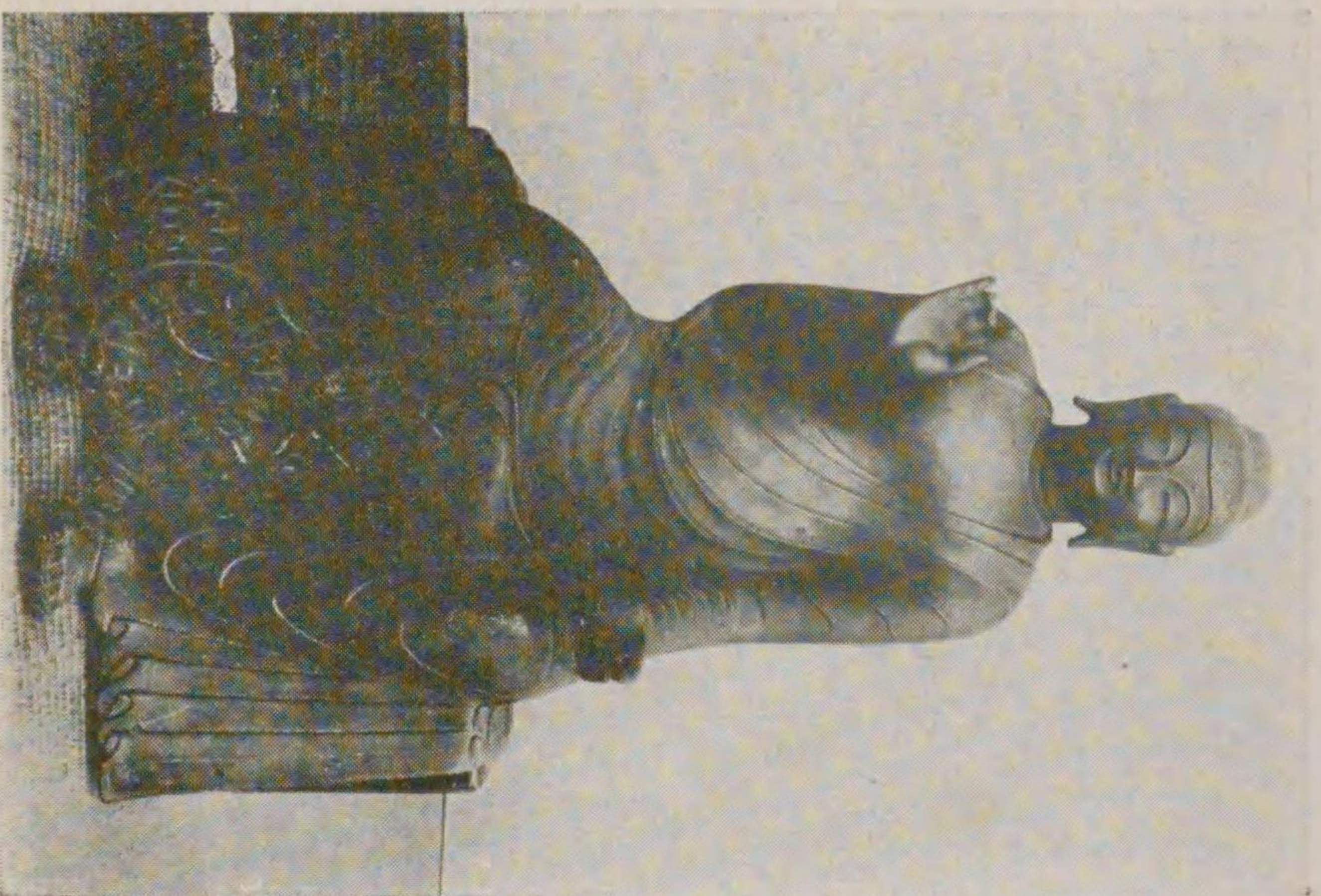


小 金 井 の 櫻





(寺濟普川立) 幢 面 六



(寺大深) 像 迦 釋



入國以來の寺で、境内の長命水石文は屋代弘賢やしろうかたの筆に成り、寺の由來を記す。その他芭蕉の句碑、國學者なまほちりべ橘守部の墓などがある。

### 九 近 郊

市の近郊には名勝史蹟の探るべきものが多い。その遊覽には省線の電車並に總武線の列車と、私設の鐵道並に電車に頼らねばならぬ。省線の電車運轉區間は東海道本線東京、櫻木町間、中央線東京、立川間、東北本線東京、赤羽間、山手線品川、赤羽間、池袋、田端間で、省線と連絡或は獨立せる私設の鐵道並に電車線は左の通りである。

- 京濱電氣鐵道
  - 高 輪 横 濱
  - 海 岸 大 森
  - 京濱蒲田 穴 守
  - 京濱川崎 川崎大師
  - 蒲 田 五 反 田
  - 雪ヶ谷 新奥澤
  - 海岸電氣軌道
    - 總持寺 川崎大師

### 東京市及近郊

- 南武鐵道
    - 目黒蒲田電鐵
    - 東京横濱電鐵
    - 玉川電氣鐵道
  - 京王電氣軌道
    - 小田原急行鐵道
    - 西武鐵道新宿線
  - 多摩湖鐵道
    - 武藏野鐵道
    - 東武鐵道東上線
    - 王子電氣軌道
- 
- 川 崎 分倍河原
  - 目 黒 蒲 田
  - 大岡山 大井町
  - 澁 谷 本横濱
  - 天現寺橋 溝ノ口
  - 玉 川 砧
  - 澁谷橋 中目黒
  - 三軒茶屋 下高井戸
  - 新宿追分 東八王子
  - 調 布 多摩川原
  - 新 宿 小田原
  - 新原町田 片瀬江ノ島
  - 新 宿 荻 窪
  - 武藏境 是 政
  - 國分寺 東村山
  - 高田馬場 川 越
  - 國分寺 本小平
  - 池 袋 吾 野
  - 池 袋 寄 居
  - 面影橋 三ノ輪
  - 王子驛前 赤 羽

東京市及近郊

東武鐵道

城東電氣軌道

京成電氣軌道

淺草	伊勢崎
龜戸	曳舟
錦糸町	西荒川
水神森	洲崎
東荒川	今井
押上	成田

今左に市近郊の主なる名勝史蹟を南西北東の順次に各電車並に鐵道路線によつて記載することとする。

【海晏寺】〔曹洞宗〕京濱電車青物横町停留場の南方にあり。北條時頼の開基と傳へて居る。境内に松平春嶽及岩倉具視の墓がある。

【澤庵和尚墓】京濱電車北馬場停留場の西、東海寺墓地にある。澤庵は後水尾天皇及徳川家光の歸依を受け、東海寺を開いた名僧で正保二年寂した。墓は史蹟として指定せられて居る。

【加茂眞淵墓】澤庵和尚墓の東北にある。眞淵は遠州濱松の人、荷田春滿に學び、國學者四大人の一に數へられ明和六年七十三歳を以て歿した。維新後從三位を

日蓮聖人像〔國寶〕祖師堂の本尊である。高さ約八六糎(二尺八寸三分)、寄木造、著色、玉眼嵌入の坐像で、左手に經を持ち、右に拂子を取り、雄偉なる氣魄を備へた面貌は、日蓮聖人の人格を彷彿たらしむるもの、如く、鎌倉時代の肖像彫刻中の優秀なる作である。

像の膝裏と胎内に記された墨書の銘文によると、この肖像は日蓮聖人の七週忌に當る正應元年に日持、日淨の二人が大願主となり、日行、日妙がこれを助けて造立したことが知られ、胎内には聖人の遺骨が納められて居る。聖人終焉の地にあつてか、由緒の確かな像を傳へて居ることは、尊重すべき事實である。その着衣は下着のみを彫り、袈裟は實物を着せるやうにしてあるのは、この時代の一種の好尚であつて、鎌倉時代の彫刻に往々この種の形像を見るのである。

五重塔婆〔國寶〕仁王門の右手にある。慶長十三年徳川秀忠がその乳母の冥福を祈るために建立したものである。各層三間三面、屋根第一層、第二層は本瓦葺、

東京市及近郊

一四

贈られた。墓所は史蹟として指定されて居る。

【伊藤博文墓】省線電車大井町驛の西南一軒、大井町谷垂伊藤家墓地にある。

【大森貝塚址】省線電車大森驛の東北半軒、省線沿線にある。その地點は東京灣の海濱に面した丘の緩斜面に位して居る。明治十年頃エドワード、モールズによつて發掘調査された場所、日本に於ける考古學研究の端緒を開いた遺蹟である。

【本門寺】〔日蓮宗大本山〕(一二圖か3)池上電車池上驛の北約半軒、池上町にある。文永年間池上右衛門大夫宗仲日蓮に歸依して、これを創建したと傳へ、長榮山本門寺の稱は日蓮の自から命名したものと云ふ。弘安五年十月十三日日蓮聖人ここに入寂し、遺弟日朗をして本寺を繼承せしめ、爾來日蓮宗の名刹として今日に及んで居る。現存諸建築の主なるものは祖師堂、釋迦堂、客殿、五重塔婆及仁王門である。毎年十月十一、十二、十三日の會式には大に賑ふ。境内には狩野探幽を始め狩野家の墓があり、明治時代の政治家星亨の墓もある。

その他は銅板葺、總朱塗の塔婆である。仁王門〔國寶〕慶長十三年に徳川秀忠が五重塔婆と同時に建立したものである。五間三戸朱塗の樓門で、屋根は入母屋造、銅板葺にして、規模雄大、江戸初期に於けるこの種樓門の典型的遺構である。

【狩野探幽墓】本門寺境内にあり。南無妙法蓮華經高德院日道と題す。探幽は京都の人、狩野派中興の名匠で、江戸幕府の繪所預となり、日光東照宮縁起を始め、多數の繪畫を描き、名聲一世に重かつた。延寶二年七十三歳で歿した。

【穴守神社(羽田稻荷)】(一二圖あ3)省線電車蒲田驛の東五軒、京濱電車では穴守停留場下車、參詣人が多く奉納の赤鳥居が長く一軒餘も連立して居る。

【新田神社】〔府社〕同蒲田驛の西三軒、目黒蒲田電車では武藏新田驛下車、西三〇〇米、矢口村にあり、新田義興を祀る。境内に義興の墳墓がある。

【川崎市】(一二圖か3)川崎驛所在地、東京、横濱二大都市の中間に位する工業都市で人口約七萬八千、附近

一四



東京市及近郊

の主なる工場は

富士瓦斯紡績工場(堀ノ内)	日本鋼管工場 (渡田)
マツダランプ工場(堀川町)	浅野セメント工場(渡田)
東京製鋼工場 (戸手)	富士電機工場 (下新田)
明治製菓工場 (南河原)	鈴木味の素工場 (八幡塚)
不二塗料工場 (堀川町)	明治製糖工場 (南河原)
日本蓄音機工場 (久根崎)	日本トラスコン工場(大島)

【川崎大師(平間寺)】〔眞言宗〕(二二圖か) 省線電車川崎驛

の東約一軒半、京濱電車川崎大師下車、大師河原にあり、弘法大師の像を安置して居る。參詣人常に絶えず。三月二十一日の御影供修行と稱する緣日には殊に參詣者が多い。

【總持寺】〔曹洞宗大本山〕(二二圖か) 省線電車鶴見驛下

車、境内廣く丘陵景勝の地を占め靜寂なる一勝區をなす。もと元亨元年開山常濟大師(道元)によつて能登國に建立され、越前の永平寺と並び稱せられた禪門の大道場であつたが、明治年間現地に移され諸堂今尙建設中である。既に竣成したものは佛殿、大庫裡、待鳳館、

米四(二尺)の大帷帳で、元祿頃の作と云ふ。

【花月園】 同鶴見驛の西方約一軒、約一、七〇〇アール(五萬

坪)の地積を有す。園内は風致に富み、また運動娛樂の機關が整つて居る。

【生麥の碑】 同鶴見驛の西二軒、横濱市生麥の地にあ

り。文久二年英國人リチャードソンが、薩摩藩主の弟島津久光の先驅を横ぎり、斬殺された地である。

【目黒不動】〔天台宗〕 省線電車目黒驛の西一軒半にあ

り、本堂、仁王門などの堂宇は徳川家光の造營したもので寛永十一年竣工した。境内に青木昆陽の墓と碑がある。

【目黒競馬場】 同目黒驛の西方約一軒半、東京競馬俱樂部に屬し、明治四十三年の設立。

【圓融寺釋迦堂】〔國寶〕 目黒蒲田電車西小山停留場の

西北約一軒半、碑衾町碑文谷にある。三間四面單層屋根入母屋造茅葺で、大棟甚だ高く勾配が急である。桝組は唐様三斗出組を用ゐる、正面は三間とも薙戸をはめ、左右兩側は最初の一間に引戸を建て、その他は羽目板とな

東京市及近郊

一四

紫雲臺などの大伽藍があり、帝都に近き著名の大寺院である。

寶物

- 一 提婆達多畫像 (國寶) 一幅  
紙本著色、長約一米平(五尺)幅約九〇糎(三尺)、雲中に半身を現はし、左手に如意を持ち、玉冠を戴き、支那帝王圖の如き相貌を有する肖像畫で筆致流麗にして宋畫の趣がある。
- 一 前田利家夫人畫像 (國寶) 一幅  
絹本著色、長一米(三尺三寸)、幅約五一糎(一尺七寸)、白地に桐の模様を織り出した打掛を着し、手に數珠を持つて居る坐像で象山の贊がある
- 一 奉贊
- 一 芳春院殿壽影
- 一 功德無窮佛閣僧
- 一 千門萬戶碧帽僧
- 一 看々二世安身處
- 一 日夜香華不盡燈
- 一 前惣持象山叟書焉
- 一 刺繡大法被 (國寶) 一枚  
紺地金襴に赤地金襴の縁をとつた約七米三(二四尺)に約六

し、後面も板壁になつて居る。内部は總床拭板で中央に長方形の内陣を設け、天井を鏡板張となし、奥に須彌壇を置き、釋迦像を安置して居る。彫刻は入母屋破風内の懸魚にや、優美なる手法を見るのみで、虹梁木鼻などの繪様彫刻は極めて簡素である。寺は慈覺大師の開基と傳へ、はじめ天台宗であつたが、中途鎌倉時代に日蓮宗に改め一時法華寺と稱した。その後江戸時代に再び天台宗に改め現今に至つて居る。本堂は即ち日蓮宗當時の釋迦堂で、鎌倉末期若くは室町初期の建築である。正面に附加された瓦葺の向拜は後世のもので、甚だしく外觀を害して居る。

【式亭三馬墓】 圓融寺の東一七〇米 正泉寺境内にある。三馬は江戸の人、有名な戯作者で文化五年四十八歳で歿した。

【洗足池】 目黒蒲田電車洗足驛、または池上電車洗足

池下車、馬込村千束にある。南北約九〇米、東西約三〇〇米、池畔には松、櫻、椎などの樹木多く、勝海舟墓、清明文庫、西郷隆盛祠、日蓮聖人の銅像及聖人袈裟掛の松

一四

と稱するものなどがある。

【龜甲山古墳】 目黒蒲田電車及東京横濱電車丸子多摩川停留場の西南二〇〇米、荏原郡調布町下沼部にあり、多摩川に沿つた丘陵上に築かれた前方後圓墳で、北面し全長二〇〇米あり、史蹟として指定せられて居る。この外にこゝから西北に掛けて丘陵上に古墳の存するもの多く、その中上沼部寶來山の古墳は石室を有し、玉川村上野毛古墳は石製模造品を多數に出し、今東京帝室博物館に所藏されて居る。

【奥澤九品佛】 東京横濱電車九品佛停留場の西六〇米、荏原郡玉川村奥澤にある。この地はもと世田ヶ谷吉良家の家人大平出羽守の館址で、寛文五年寺地とし、延寶六年珂碩上人を請じて住持とした。本堂背後に茅葺寶形造の佛殿三字並び建ち、各阿彌陀像三軀を安置し、中央を上品堂、向つて右を中品堂、左は下品堂と呼び、九品佛の名これより出で、寺は淨眞寺と云ふ。境内廣く館址の土壘が殘存して居る。毎年五月七、八、九日の千部會あり、八月十六、七、八日は孟蘭盆會、

密航を企て、果さず、獄に下りて同六年小塚原に斬られ、兩國回向院に葬られ、後こゝに改葬された。維新後正四位を贈られた。附近に桂太郎の墓がある。【駒澤ゴルフコース】 同駒澤停留場の東方三〇〇米、東京ゴルフ俱樂部に屬し、十八ホールのコースを有し全長約六、〇〇〇米。

【豪徳寺】 〔曹洞宗〕 玉川電車豪徳寺前停留場の東北三〇米、世田ヶ谷町元宿にあり。元弘徳院と稱し、文明十二年この地の豪族吉良左京太夫政忠が、伯母弘徳院のため草創した寺である。寛永十五年井伊直孝が殿舎を修理し、萬治二年今の名に改稱した。寺の西にある墓地に井伊直彌の墓がある。直彌は近江彦根藩主で安政五年幕府の大老となり、大に國事に盡したが、萬延元年水戸浪士のために江戸櫻田門外で刺された。享年四十六。

【玉川プール】 玉川電車玉川停留場の南、第一遊園地内にある。プールは長さ五〇米、幅二〇米を有する。【稻毛重成墓】 小田原急行電車登戸驛の南約一軒、柵

十一月十三、四、五日は千夜法要で、また四年目毎の孟蘭盆會は來迎會と稱し、參詣者が甚だ多い。

【綱島鑛泉】 同綱島驛下車、電車會社經營の浴場がある。ラヂウム含有泉で胃腸病、リウマチスなどに効くと云ふ。附近には料理兼業の鑛泉旅館數軒あり、遊樂的氣分に富んで居る。

【影向寺藥師三尊像】 〔國寶〕 南武鐵道中原驛の西約四軒、橋樹郡宮前村字野川、影向寺の本堂に安置されて居る。本尊は高さ約一米四（四尺五寸）結跏趺坐の像で相好端嚴雄大である。兩脇侍は、日光及月光菩薩の立像で高さ各約一米半（五尺）三尊とも平安朝中期の優秀なる木彫佛である。

【松陰神社】 玉川電車松陰神社前停留場の北三〇米荏原郡世田ヶ谷町若林にあり。吉田松陰を祀つた神社で、明治十五年の創建に係り、社殿の西に松陰の墓があり、その傍に頼三樹三郎、小林民部少輔、來原良藏、福原乙之進などの墓が並んで居る。松陰は憂國の志深く、安政元年米艦渡來の折、海外の事情を探らんとして形山の麓の廣福寺内にあり、柵形山はその稻毛氏の城址であつた。柵形山及それに續ける向ヶ岡は共に今遊園地となつて居る。

【爲永春水墓】 京王電車鳥山停留場の北七〇米、千歳村鳥山妙善寺境内にある。春水は江戸の人、人情本の作者として名高く、天保十三年、五十四歳で歿した。築地本願寺別院内から寺と共に移轉したものである。

【喜多川歌麿墓】 同鳥山停留場の北七〇米、専光寺の境内にあり、歌麿は江戸の人で浮世繪の中興と稱せられた名匠で、最も美人畫を能くした。文化二年五十三歳で歿した。墓はもと淺草區松山町にあつたが寺と共にこゝに移轉したのである。

【深大寺】 〔天台宗〕 〔二國たゞ〕 同調布驛の北約二軒、神代村深大寺にある。天平年間滿功上人の開く所と傳へ、古へは法相宗であつたが、貞觀年中天台宗に改めたと云ふ。本堂は大正八年の再建で、その本尊は阿彌陀如來の像であるが、別に法相宗の時代から傳ふる所と云ふ釋迦如來の坐像がある。金銅製の倚像で高さ約七五糎

（二尺五寸）、體軀のほつそりとして衣の薄くかゝれるあたりは、多少六朝佛の古式を存するも、面貌豊麗にして微笑を湛へ、刀法の直截にして明哲なる表情は、法隆寺の金堂に安置されて居る橘夫人念持佛と稱する阿彌陀如來のそれに頗るよく類似し、奈良時代の優秀なる作にして國寶に指定されて居る。尙境内の鐘樓には永和二年の銘ある鐘がかゝつて居る。

【大國魂神社】〔官幣小社〕 同府中停留場の南三〇〇米にあり。祭神は武藏大國魂神、大化年中武藏總社となつた。左右の相殿には小野大神以下六所宮を祀る。源賴朝が社殿を造營してより鎌倉幕府の崇敬が厚かつた。天正十九年徳川家康神領を寄進し、慶長十九年諸殿舎を造營した。境内廣く約四、五〇〇アール（一萬三千五百餘坪）あり、今の本殿は寛文年間に、拜殿は明治十年に何れも再建されたもので、社殿は朱塗で本殿以下神庫その他の殿舎が鬱蒼たる樹木の間に立ち竝んで居る。例祭は五月五日で、夜間に八臺の神輿が渡御し、頗る盛觀でこれを府中の提灯祭と云ふ。

鐵の様な鑄悪い材料を使用したので、面相衣文が自ら粗雑であるが、鎌倉時代の中頃に鐵でこれ丈の巨像を鑄たことは驚くべきである。胎内に納められた鐵製阿彌陀如來の立像は高さ一米餘（三尺五寸）、銘文に  
夫萬善妙體收阿彌陀三字故犯比丘四重罪比丘尼八重罪者若至五逆十惡謗法闍提男子五障三從女人一度參詣唱彌陀名號輩生樂土受諸樂無極矣

とある。その面相の優美、衣文の流麗なるは恰も木彫の如くに自由である。手法様式から見ると建長頃の製作と思へる。兩者共國寶で鐵佛がかく二軀までも揃つてあることは造像史上興味あることである。

【上染谷阿彌陀像】〔國寶〕 同多磨停留場の西北八〇〇米、多磨村上染谷八幡神社にあり、銅造の立像、所謂善光寺如來式の優秀な作であるが、兩脇侍を缺き中尊のみであるのは惜しい。鎌倉時代の作に係り背面に

上州八幡庄壇主友澄入道縁友仲氏弘長元年辛酉十二月日敬の銘文がある。

【百草の阿彌陀像】〔國寶〕 同百草停留場の西南七〇〇米、南多磨郡七生村百草、百草園内の八幡神社にあり銅製の

【馬場大門の樺並木】 大國魂神社の社殿の正面なる二の鳥居より、北方國分寺に通ずる道路が、甲州街道と交る處に、花崗石の標柱があり、「從是一之鳥居迄五丁餘左右慶長年中御寄附之馬場」の文字が刻されて居る。馬場は徳川家康の寄附したもので、その傍に樺を列植した。これが馬場大門の樺並木である。標柱の北方道路の東側に大樺があり目通幹圍八米三、幹の基部は空洞になつて上部は腐朽して居る。これに次いで前方に樺並木がある。その樺の太きもの六十本あり、目通幹圍三米乃至六米に及ぶものが多く、壯大なる點に於て全國に稀なもので指定の天然記念物である。

【善明寺阿彌陀像】〔國寶〕 大國魂神社の西方、善明寺境内金佛堂に安置されて居る。高約一米八（六尺）鐵製鑄物の坐像で、彌陀の定印を結び、左肩に次の鑄出銘がある。

大勸進念阿彌陀佛明蓮大工藤原助近石志者爲過去二親行嚴新發意乃至法界衆生平等利益奉鑄一丈一尺佛身也  
建長五年癸丑二月十八日丙寅彼岸初日

の坐像で左の銘文がある。

敬白治磨金銅影像法外彌陀應光三尺六寸  
奉爲皇帝 日本主君 當國府君 地頭名主  
御願圓滿 安穩泰平 信心法主 子孫平安  
悉地成就 師長父母 二親亡魂 助成合力  
同共往生 乃至法界 平等利益 建長二年  
大歲庚戌 孟夏之天 七日壬刀 南閻浮提  
日本武州 多西吉富 眞慈悲寺 施主源氏  
願主 佛子慶祐敬白

銘文中に多西吉富とあるは、中古多磨郡が多東、多西の二郡に分かれた頃の多西郡吉富で、眞慈悲寺は鎌倉幕府の祈禱所であつた。本像はその寺の本尊であつたのであらう。かゝる點で歴史的價値あるものである。

【高幡不動尊】 同高幡停留場の東北二〇〇米、中央本線日野驛の東南三軒、七生村高幡にあり、參詣人多く、寺寶に平山季重奉納の太刀、文永二年の鰐口などがあ

る。  
【鈴木重胤墓】 西武鐵道新宿線鍋屋横町停留場の南半軒、和田堀町長延寺境内にあり、重胤は淡路の人、國學

者で勤王家であつた。文久三年五十二歳で歿し、維新後正五位を贈られた。

【妙法寺】 同妙法寺口停留場の南八〇米、日蓮宗屈指の名刹で厄除日蓮大菩薩と稱し、毎月一日、十三日、二十三日は賽者が殊に多く、十月の會式が賑ふ。

【佐藤信淵墓】 同高圓寺停留場の北、松應寺にある。信淵は出羽の人、有名なる學者で著書甚だ多く、嘉永三年八十二歳で歿した。維新後正五位を贈らる。

【新井白石墓】 省線電車東中野驛の西北八〇米、中野町大塚高德寺の墓地にあり、新井源公之墓と題し、側面に享保十年六十九歳で卒した旨を銘記して居る。墓は淺草區松清町東本願寺内圓照院にあつたのを、こゝに移轉したものである。白石は江戸の人、木下順庵の門に遊び、徳川家宣及家繼に仕へ幕政に關與した。和漢の學に通じ著書が多い。維新後正四位を贈らる。

【井ノ頭恩賜公園】 同吉祥寺驛の南に接する。井ノ頭池は、古くは神田上水の泉源池で、これを繞つて自然の林が生ひ繁り幽邃の境をなして居る。中島には辨

室など木造の建築がある。無線電信の鐵塔は三基その高さ六〇米、中にも子午環室は基礎工事最も強固で、要塞のそれに匹敵し、南北約二〇米に各一基の子午環標を控へ、莊重雄大で一偉觀を呈する。この中にはゴイチュー二〇糧三(八吋)の子午環を藏めて居る。この室は本館の後方にある。聯合子午室には口径六糧、倍率百十倍の子午儀二基を備へ、日没後恒星の子午線通過により時刻の測定を行ひ、時辰儀の誤差を百分の一秒まで正し、中央標準時午後九時(グリニチ時客時)に有線電信を以て銚子、船橋兩無線電信局に通報し、同所より無線電信で時刻の報知を發信させる。これにより大洋を航行する船舶艦艇は航路を正すことが出来る。同様の報時は午後九時の外午前十一時にも行ふ。更に正午に東京中央郵便局を経て、全國の電信局、横濱、神戸、門司の報時球信號所、東京市の號砲信號所、東京帝國大學地震學教室へ有線電信で報時する。本館報時室には地下室があつてそこにリーフラー標準時辰儀を置き、排氣したる硝子管に入れ、觀測によつて得た時

天堂があり、その西方に湧泉がある。池の東部には水泳場がある。

【神田上水】 その起原は明らかでないが、江戸幕府の初期の開鑿と察せられる。もと井ノ頭の池から小石川の關口まで開渠、それより小日向臺の下を過ぎ、後樂園までは石造の暗渠とし、更に猿樂町、錦町を過ぎ神田橋外に導き、そこから市内に分水して飲料に供して居たものである。東京市上水道の竣成後、明治三十六年に廢止されたが、今は砲兵工廠の用水となつて居る。

【東京天文臺】 省線電車武藏境驛の南三軒半、京王電車上石原停留場の北二軒。三鷹村大澤、東經百三十九度三十二分二十九秒、北緯三十五度四十分二十一秒、海拔五十七米に位する。大正十三年東京市麻布區よりこゝに移轉した。敷地面積三〇萬平方米、子午環室は蒲鉾形屋根第一赤道儀室、天體寫眞儀室、卯酉儀室は圓屋根、經緯儀室、子午儀室は角屋根で共に鐵筋コンクリート造、この他本館、太陽寫眞儀室、聯合子午儀刻は凡べてこれに移し、報時はこの標準時辰儀を基礎として行ふ。

またフリッツペン、佛領印度支那、ジャヴァ、ハワイ、フランス、ドイツより無線電信報時を無線受信装置に受け、觀測により決定せる時刻と比較して經度の測量を行つて居る。

構内には測地學委員會の設けた測量基線がある。二〇〇米の等邊三角形を合せた菱形の邊である。參謀本部の陸地測量部ではこゝに一等三角點を置き、全國の三角點の經緯度測定の基準點として居る。天體寫眞儀室には口径二〇糧三、焦點距離三七糧の赤道儀を備へ、新星、慧星、小惑星などを天體寫眞に撮影し、また太陽の直接像寫眞撮影により太陽黒點の消長を調査する。

太陽寫眞儀室では口径三〇糧五の平面反射鏡を有するサイデロスタット、口径一二糧八の太陽分光寫眞儀及引伸器を備へ、約六糧の太陽像を作り、スペクトル線中カルシウムのK線によりスリットの移動によりて

太陽全面に於ける白紋の分布状態の變化を研究して居る。

第一赤道儀室には口径二〇糎三の赤道儀を備へ、慧星の如き異常天體の出現に際し、實視觀測を行ひ、また變光星などの觀測をもする。正門に向つて左に圓屋根の見えるのはこれである。毎年春秋二回を限り望遠鏡による天體觀測を特志の人に許可する。

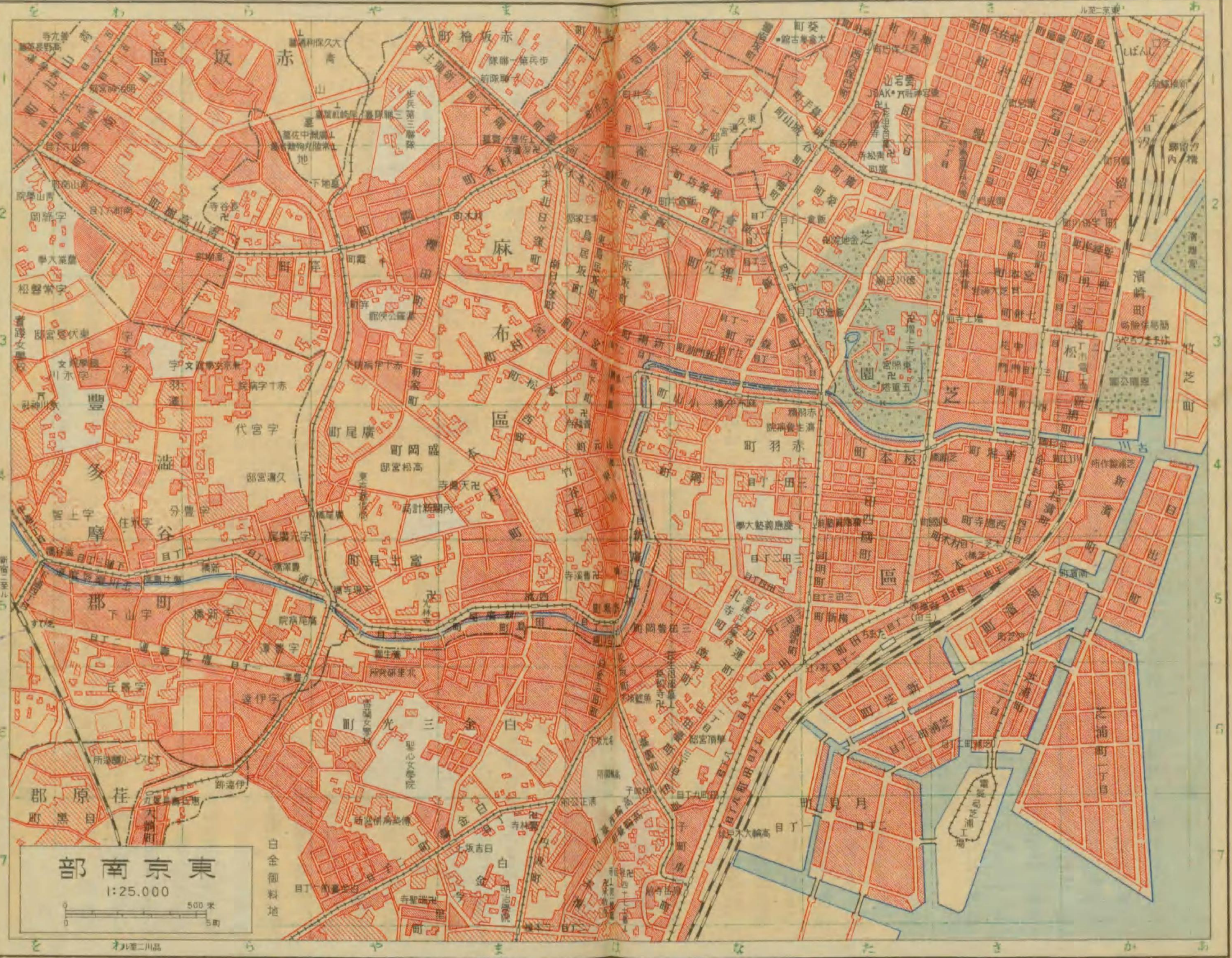
【小金井の櫻】 同武藏小金井驛の北一軒、玉川上水道の兩側、小川水衛所から境水衛所まで約六軒に亘つて植ゑられて居る。これは元文の頃武藏野新田の世話役川崎平右衛門が幕府の許可を得て植ゑたもので、後に補植されたものもあるが、尙當時の原樹が多數に存在して居る。樹種は殆ど皆白山櫻で、その中大和の吉野山から移植したものが大半を占め、他は常陸の櫻川から移したものである。花の紅花を帯びたものは櫻川からの分であると云ふ。

境橋附近では後の補植樹が多く、随つて幹の大なるものが少いが、關野橋、新小金井橋邊には大樹が多い。

殊に日の出櫻、入日の櫻、三吉野櫻など樹形の壯大と花容の優れたものがある。中にも日の出の櫻は大木で目通幹圍二米八に達し、純白なる花叢に濃紅の嫩葉を冠して居る。小金井橋は櫻並木のほゞ中央に位し、橋の北詰附近には櫻の巨樹が多く、樹下に川崎平右衛門植樹の碑がある。櫻樹の數は大正十二年の調査によれば南岸に七百六十一本、北岸に七百十本、合計千四百七十一本ある。花期は四月二十日前後。

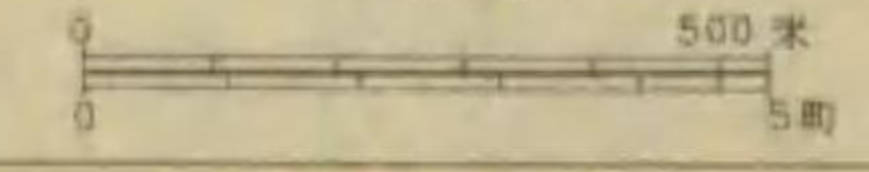
【玉川上水】 玉川庄右衛門、同清右衛門の二人が幕命により創設し、徳川家康が將軍に任ぜられてから五十年目の承應二年に竣成したもので、羽村の堰で多摩川から分れ、小金井を経て四谷の新宿御苑に達する延長五二軒の間を開渠とし、それより石樋または木樋で各戸に導いたもので、明治三十三年東京市上水道の竣成するまでは、専らこの上水が市民の飲料となつて居たものである。

【武藏國分寺址】 省線電車國分寺驛の西南二軒、國分寺村國分寺にある。寺址は丘陵及低地に亘り東西七



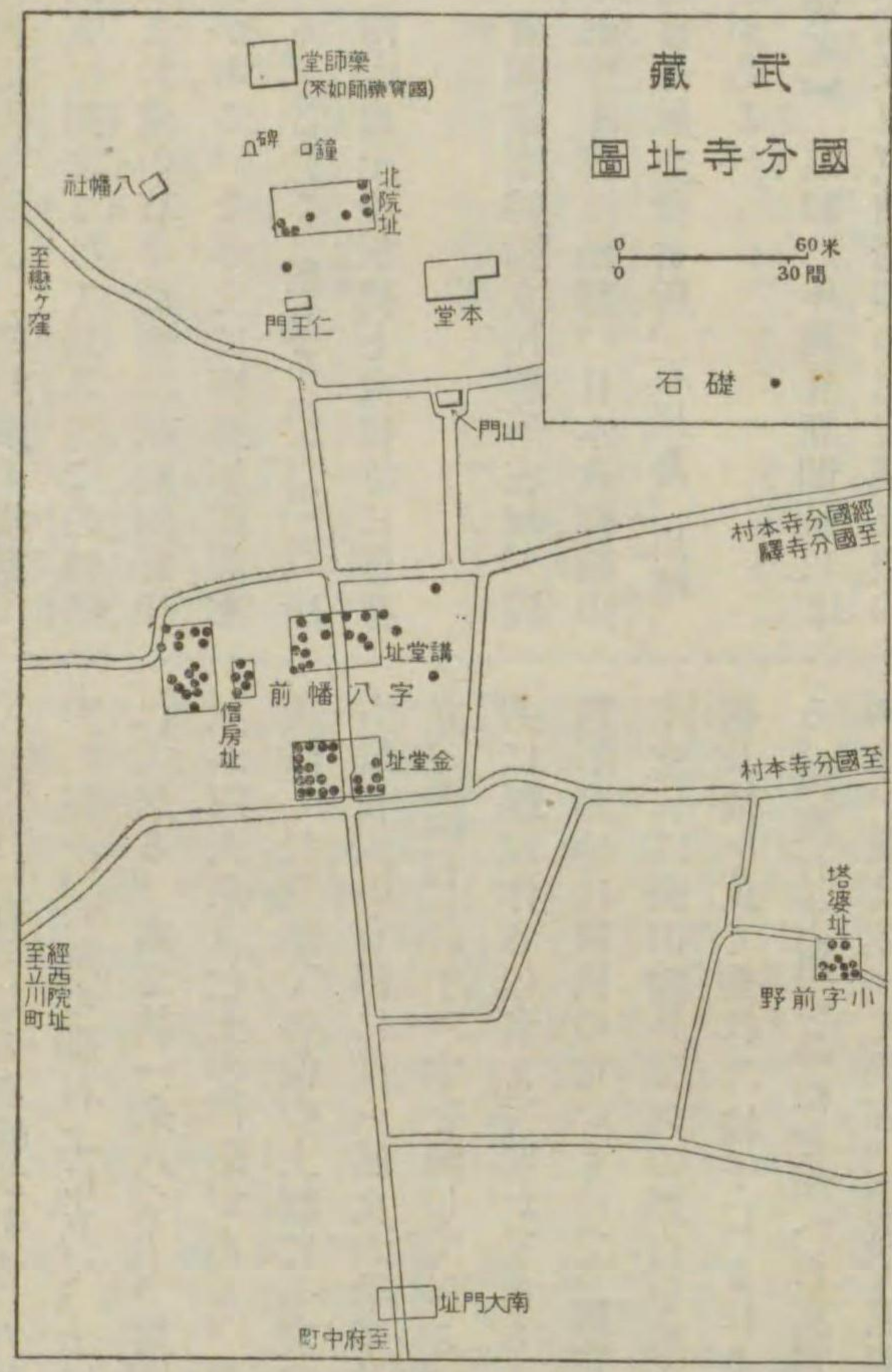
部南京東

1:25,000



白金御料地

〇米、南北五〇米の地域を占め、金堂、講堂及塔婆など  
 の址は現時の國分寺本堂の西南、字八幡前にある。金  
 堂址のある地點は俗稱古堂と呼び、土壇及礎石約二  
 十個遺存し、七間四  
 面の建物の存したこ  
 とが推せられる。講  
 堂址は金堂址の北  
 に、僧房址は講堂址  
 の西にありて何れも  
 礎石が残つて居る。  
 七重塔婆址は金堂址  
 の東南五〇米、字前野  
 の畑中に在つて、十  
 個の礎石と圓柱孔あ  
 る心礎が遺存し、四  
 間四面の建物のあつ  
 た事が推せられる。南大門址は金堂址の南三〇米の地に  
 ありて遺瓦が散在して居る。昔時國分寺と國府とを連  
 絡した大路の址は、金堂址より正南、門址を通じて府中  
 に達する里道となつて遺存して居る。尙この外、講堂  
 址の北七〇米の丘上、仁王門及藥師堂のある所に殘存  
 せる礎石は北院址  
 と推せられ、また  
 金堂址の西四〇〇米  
 の丘陵上に存する  
 礎石及古瓦は西院  
 址と推せられ、尙  
 僧房址と講堂址と  
 の北には土壘が遺  
 つて居る。武藏國  
 分寺は天平九年聖  
 武天皇の詔勅に基  
 き國家の安寧を祈  
 り國民の教化を目



的として、國毎に建立された金光明寺の一で、遺址は  
 今指定の史蹟である。

東京市及近郊

現存國分寺は新義真言宗に屬し、藥師堂に藥師如來の坐像を安置して居る。木造で高さ約一米二(四尺)、左手に藥壺を載せ右手に說法印を結び、相好頗る端嚴で鎌倉時代の作に係り國寶に指定されて居る。この他深見玄岱筆の額がある。また堂の右手前面に武藏國府中國分寺碑記と題する碑がある。その文は寶曆年間服部仲英の作つたものである。寺址から發見された巴瓦、唐草瓦及文字瓦などは、附近出土の板碑と共に寺に保存されて居る。

【立川町】(一八圖ナ) 省線電車終點立川驛所在地、陸軍飛行第五聯隊、陸軍航空本部技術部、日本及御國の兩飛行學校、日本航空會社航空發著所、石川島、川崎、三菱の飛行機工場などがある。

【日本航空會社航空發著所】 昭和二年朝日新聞社によつて開始され東京大阪間及東京仙臺間の二定期航空の發著所をなし、東京立川間は自動車で連絡する。

【普濟寺】(臨濟宗)(一二圖ナ) 同立川驛の西南約一軒半、文和四年立川宮内宗恒が建長寺第三十世物外可什

居る。

【新井藥師】(新義真言宗) 西武電車藥師前下車、南三〇〇米、省線電車中野驛の北約一軒、俗に子育藥師と云ひ、參詣者が絶えない。毎年一、五、九月の八日、十二日は縁日として殊に賑ふ。境内に大師堂あり、その後方は遊園地となつて居る。

【井上哲學堂】 西武電車藥師前停留場の北約半軒、省線電車中野驛の北約二軒、文學博士井上圓了が私園として創設したるもので四聖堂、六賢臺、三學亭などがある。

【正福寺】(臨濟宗建長寺派) 西武電車東村山驛の西約半軒、東村山村野口にある。その地藏堂は鎌倉時代の建築にして、國寶に指定されて居る。五間五面重層入母屋造、屋根は上層茅葺、下層は今トタンを張つて居るが、元は板葺であつた。上層の檼は二重扇檼、檼組は唐様三手先に尾極を加へ、下層の檼組は三斗を用ゐて居る。正面中央の一間に唐戸をたて、その兩脇の一間にはれんじ窓を附し、また後面中央の間にも唐戸を

を請して開かしめた寺で、寺域は立川氏居城の址で尙土壘の一部が残つて居る。南に多摩川を望む景勝の地で、境内に有名なる石幢がある。六枚の板石を六角の柱形に組み、六角の臺石上に立て、上に六角の蓋石が置かれて居る。高さ約一米八(六尺)、周圍に火焰附の圓光を負ふ四天王及仁王の浮彫がある。板石一枚に一軀づつ現はした立像で各像の上部に七寶の浮彫がある。尙西方廣目天の右側には「延文六年辛丑七月六日施財性了立、道圓刊」の十六字を刻して居る。石幢の造立年紀と共に願主作者の名まで明かであるのは珍重すべく、形態彫刻他に類例のないもので、國寶に指定されて居る。本堂には開山物外和尚の頭巾を戴き拂子を持ち法衣の裾及袖を長く垂れて椅子によれる像が安置されて居る。清瘦な老僧の品格を備へた寫實的な像で、頗るよく個性が現はされて居る。木造で黒漆を施し、胎内に應安三年十一月の銘があり、和尚示寂の後九年を経て造られた像で國寶に指定されて居る。この外境内の首塚附近から發掘された綠泥片岩の板碑數十枚が保存されて

たて、居る。内部は土間となり、内陣の奥に來迎柱を建て、須彌壇を設け、千體地藏を安置して居る。建築の構造様式は鎌倉圓覺寺の舍利殿に彷彿として、鎌倉時代禪宗建築の代表的遺構である。

この堂内に長さ三米餘の大なる板碑がある。東村山村野口經文橋際より發掘したるもので、上部に釋迦の種子を現はし、その下に「貞和五年己丑卯月八日歸源逆修」の文字と梵字の光明眞言が刻されて居る。

【東村山貯水池】(一八圖ナ) 同東村山驛の西北約三軒、武藏野鐵道村山公園下車、北多摩郡大和村にある。天然の地形を利用して上下に各堰堤を築き、二個の大貯水池を設けたもので、大正五年に竣工した。満水有効容積は圓餘を投じて大正十五年に竣工した。満水有効容積は上貯水池約三二萬立方米、下貯水池約一、〇三六萬立方米、満水面積約二、〇〇〇アル、その全長四軒、周圍十二軒に達し、地域約三七萬アルを有して居る。水源は多摩川で羽村の取入口から分岐し、一旦この貯水池に導き、更に毎秒五〇立方米乃至五六立方米を境浄水場に



送り、後東京市内へ供給する。貯水池附近は眺望に富み、上貯水池と下貯水池との間にはその落差一三米半を利用して一大噴水の設けがある。その北方の山口谷にも近時更に廣大なる貯水池を設くる計畫がある。

【徳藏寺板碑】〔國寶〕同東村山驛の北約一杆、東村山村野口徳藏寺境内にあり、碑はもと將軍塚と稱する小丘にあつたのを後に當寺境内に移したものである。此邊一帶は元弘三年新田義貞が北條氏誅伐のため武州に攻め入つた時、鎌倉の軍勢と合戦を交へた久米川古戰場である。板碑はその時戦死した齋藤盛貞などの供養のために建てられたもので、碑の上端は缺失して居るが殘存部の上部には梵字で光明眞言を刻しその下に次の文がある。

飽問齋藤三郎藤原盛貞生年六於武州府中五月十五日令討死、同孫七家行廿三同死、飽問孫三郎憲長卅五於相州村岡十八日討死。勸進玖阿彌陀佛、執筆遍阿彌陀佛、元弘三年西五月十五日敬白

即ち當時の史實を徴すべき貴重なる資料である。【石神井プール】武藏野鐵道石神井驛の南約一杆、長

し、地形大うねりをなして居る。

【天覽山】(一八圖はら) 武藏野鐵道飯能驛の西北約一杆松、杉、檜などの樹木鬱蒼として茂り、登路には鏡岩獅子岩などの奇岩があり、十六羅漢の石像を安置して居る、頂上に登れば背後に秩父の連山を控へ、前面は平野の眺望が廣い。もと羅漢山と稱したが、明治天皇が特別演習を觀覽遊ばされてから天覽山と改めた。頂上にその記念碑がある。中腹の臺地には御駒繫の松、御手植の金松などがある。

【能仁寺】(一八圖はら) 天覽山の中腹の林間中にある。明治戊辰の戦役に振武軍の據つた處である。

【聖天院】〔新義眞言宗〕同高麗驛の北約三杆、入間郡高麗村新堀にあり、附近まで自動車の便がある。境内には高麗王若光の墓と傳ふるものがあり、寶物には文應二年の銅鐘及應仁二年の鰐口がある。

【高麗神社】(一八圖はら) 聖天院の北約半杆、丘陵の麓杉森の中にある。本殿は一間社流造で室町末期の建築で、内陣に高麗王若光の木像を祀ると云ふ。寶物には

さ百米、幅二五米。

【所澤町】(一八圖た7) 武藏野鐵道及西武鐵道所澤驛所在地、甘藷、野菜、耕木綿などの集散地として知られ、近時絹綿交織、村山銘仙の取引も増加して來た。明治四十四年この地に飛行場の設置されてからは商工業に活氣を呈し、人口約一萬一千に及ぶ。

【所澤飛行場】同所澤驛の東方約一杆、明治四十四年開設せられたわが國最初の飛行場で、約一八、〇〇〇アール(五十五萬坪)の地積を有して居る。場内には飛行學校を設け、操縦士及機關士を養成して居る。

【木村徳田兩中尉記念銅像】同所澤驛前、大正二年四月東京青山から所澤に向け航行中墜落惨死を遂げたわが國航空界最初の犠牲者、木村、徳田兩中尉の記念碑である。もと驛の東北約二杆、松井村の墜落地點にあつたのを昭和四年この地に移した。

【霞ヶ關ゴルフ場】西武鐵道入間川驛の北方六杆、霞ヶ關カントリー俱樂部に屬し、十八ホールを有し、六、二〇〇アール(十八萬五千坪)の面積を占め、松林の中に位

卷尾に建曆三年及建保三年の願文が附記された大般若經約四百冊、鞆金銅製鳩及草花の毛彫ある鎌倉時代飾太刀一振及「奉掛鰐口一面武州高麗郡大宮常住文明十七年乙正月日願主慶彌」の銘ある鰐口がある。

【名栗鑛泉】(一八圖まら) 武藏野鐵道飯能驛の西北約一六杆、自動車の便がある。下名栗で自動車を下り名栗川橋を渡りて湯基澤に沿ふこと約二〇〇米で温泉場に達する。ラヂウム含有の弱硫酸泉で加熱して居る。リウマチス、神經諸病、胃腸病、皮膚病、創傷などに効くといふ。旅館 大松閣、湯基館。

【岩殿山の鍾乳洞】同吾野驛の北八杆、吾野村にあり吾野川に沿ふ、全山石灰岩より成り、石灰洞多く觀音窟、辨天窟、重忠厩窟、地藏窟、胎内潛、風穴などあり。附近に鬼若の奇勝がある。

【福岡受信所】(一八圖た6) 東武鐵道東上線福岡驛の東北方約七〇米、福岡村にあり。日本無線電信會社の建設に成り、空中線用電柱は六〇米圓筒型支線式鐵柱六基、同三〇米一基、同一五米二基、二〇米自立式鐵

塔一基及二〇米木柱三基あり。空中線は全長約一六杆ウエーヴァンテナ一個、屋外環状四個などを備へ、受信装置には長波長受信機二座、中波長受信機一座の外短波長受信機數座あり。中央通信所との間に連絡用線條六條を通じ、米國の對手局より送來する電波に受信機を調整して後、増幅檢波しトーンチャンネルを通じて日本無線電信局に送る。

【西ヶ原一里塚】 東京市電車一里塚停留場の東南二〇〇米、省線電車王子驛の東南八〇〇米。瀧野川西ヶ原にあり。舊日光岩槻街道の一里塚で東西二塚あり、塚は改築工事の結果道路の中央に存し、電車線路が左右兩側を通じて居る。東塚には榎の老木が昔時の儘に繁茂し、西塚には二本榎保存之碑と題する記念碑がある。慶長九年江戸幕府は諸街道を修覆すると共に、日本橋を起點として一里毎に街道の兩側に塚を築いた。この塚は即ちその一で、元標から二里目に當り、北豊島郡志村の一里塚と共に、史蹟として指定されて居る。

【飛鳥山】 (三圖は一) 省線電車王子驛の西南に接す。

るが、並木の南端は沼田に起り北端は埼玉縣境の鹿濱まで延長三杆半に達して居る。里櫻の諸品種中株數の多いものは關山、一葉、普賢象、御衣黃、江戸、鬱金、松月などである。

【靜勝寺】 (曹洞宗) 赤羽驛の西南四〇〇米、岩淵町稻付にあり、寺域は太田道灌の城址で、永正元年こゝに雲綱禪師が道灌寺を創建したが、道灌の後裔、太田備中守資宗城跡の地を寄進し、靜勝寺と改稱した。境内の道灌堂には道灌の木像を安置する。

【新郷放送所】 東北本線川口町驛の東方約四杆、新郷村赤井臺にある。日本放送協會關東支部の放送所で、愛宕山の演奏所から有線で連絡し、電力十杆、波長三〇米で送電して居る。空中線は高さ五五米の自立式鐵塔二基、(この間隔九〇米)の中間に丁型に懸架した二條並列のものである。放送機は英國マルコニ無線電信會社製で、聽取距離は鑽石式受信装置では晝間六〇杆乃至二〇杆まで夜間は五〇杆の地點に及ぶ。

【堀切の菖蒲園】 東武鐵道堀切驛の東方一杆、南綾瀨

面積約二〇〇アール(二萬三千坪)、櫻の名所で、佐久間象山の櫻賦の碑がある。花時は花見客の假裝で賑ふ。

【王子神社】 省線電車王子驛の西北三〇〇米、元亨年間に領主豊島氏が紀州熊野神社を勸請して、若一王子宮と稱して崇敬したのに始まり、北條氏の崇敬厚く、また天正十九年徳川家康が朱印狀を下して以來、徳川幕府の崇敬厚かつた。毎年八月十三日には古風の田樂舞が舞殿で行はれる。

【荒川の櫻】 王子電車小臺停留場の北一杆に始る。荒川東岸の堤防中江北村にある一帯の並木で江北櫻とも云ふ。明治十九年の植栽で、樹種は古來名木として傳つて居る里櫻の多數の品種を主とし、これに染井吉野を交へ、種植品種の數は七十八を算し、その中に珍奇なものが多い、品種の異なるに従ひ花色花容に著しい差異がある。殊に花彩は白、紅、紫から黃、綠に至るまでの變化があるので荒川の五色櫻と稱せられる。荒川の改修工事のため舊堤防の或る部分は櫻並木と共に取拂はれ、現存の櫻並木は、新堤防のため斷たれた處があ

町隅田にあり、驛から堀切橋により荒川放水路を渡り綾瀨川に沿ひ下ること三〇米で到達する。

【安積良齋墓】 同堀切驛の東北一杆。南綾瀨町堀切にあり、妙源寺の後方に連なる墓地にある。良齋は奥州二本松藩の儒官で晩年昌平黌の教授となつた。萬延元年七十一歳で歿した。墓はもと本所區番場町にあつたが、後寺と共にこゝに移轉した。

【西新井大師(總持寺)】 (新義真言宗) (一八圖あ7) 東武鐵道西新井の西一杆、自動車の便がある。厄除大師と稱して參詣者が頗る多い。毎月二十一日の縁日は殊に賑ふ。

【安行の苗木栽培地】 (一八圖から) 同新田驛の西方四杆東北本線川口町驛の東北六杆の安行を中心として西は神根、北は戸塚に亘り、果樹、用材樹、桑、蔬菜、園藝植物などの苗木を栽培し、全國四大苗木産地の一をなし年産額百萬圓に上る。

【埼玉鴨場】 同武州大澤驛の西北半杆、大袋村にある御料の鴨場である。面積一、〇〇〇アール(三萬坪)に及ぶ。

【牛島の藤】 同粕壁驛の東北二杆、牛島の紫藤園にあ

り。根本の總周圍一〇米、主幹の基部周圍四米、藤棚は東南側延長三五米、西北側一七米、棚の全面より花穗垂下し、その長さ二米七に及ぶ。

【西光院阿彌陀三尊像】〔國寶〕同姫宮驛の西約一杆、南埼玉郡百間村西光院阿彌陀堂の本尊である。木造高さ約一米半（五尺）、結跏趺坐の像で上品下生の印を結び、全身所々漆箔殘存し、面貌豐滿靜寂にして平安朝末期の特徴を有する優秀な作である。左右にある觀音勢至の立像も同時代の作である。

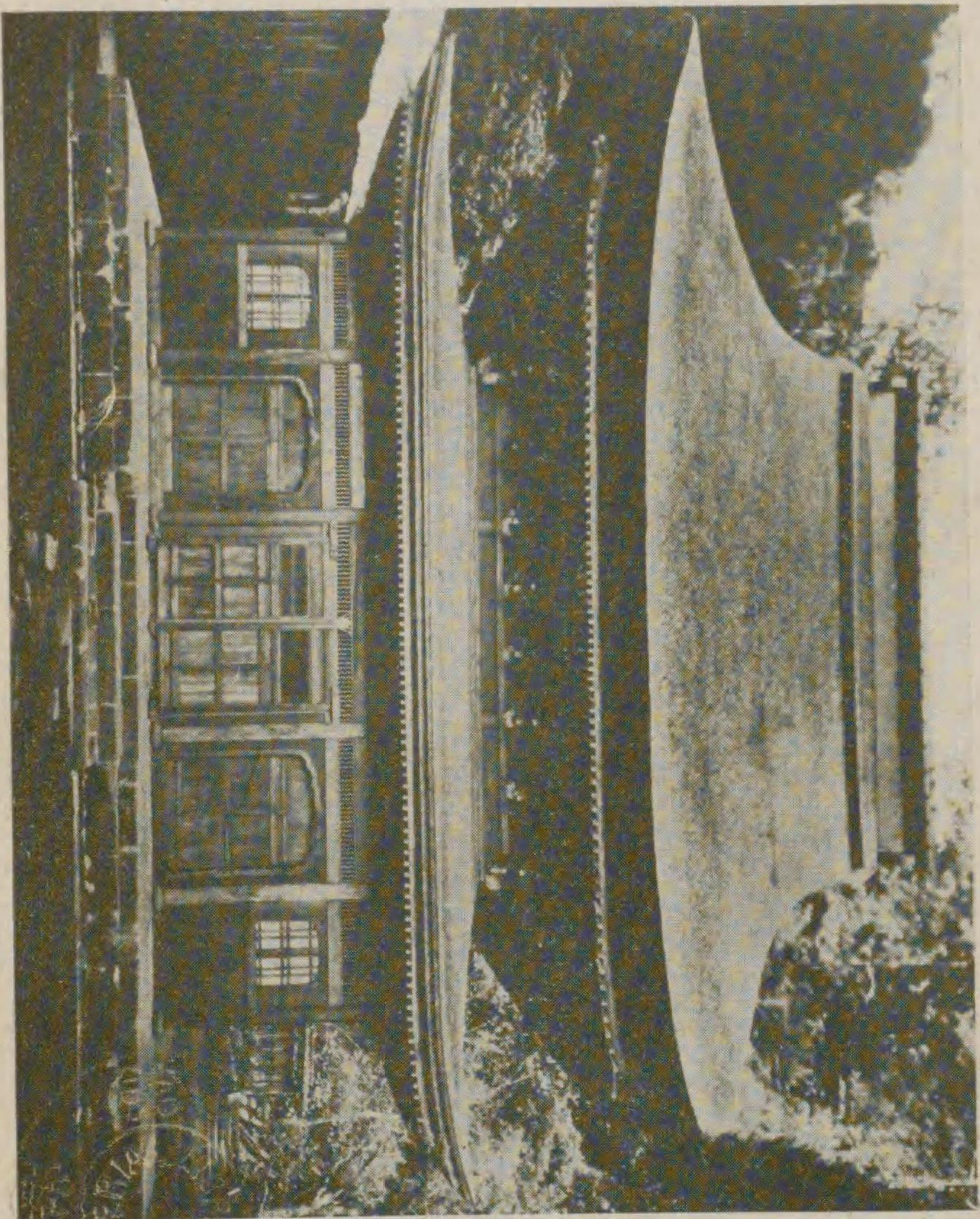
【國府臺】（二七圖わも）總武線市川驛の西北三杆、京成電車市川國府臺停留場の北二杆、江戸川に臨んで斷崖をなし風景がよい。もと下總國府のあつた處と傳へ、また里見、北條二氏の古戰場である。江戸時代總寧寺がこゝに移建されるに及び境内となつた。今その一部に野砲兵の兵營がある。臺上に古墳があり、瓢形で、墳上に箱式石棺二個を露出して居る。北方には堤防上に櫻の並木がある。

【下總國分寺址】總武線市川驛の東北三杆、京成電車

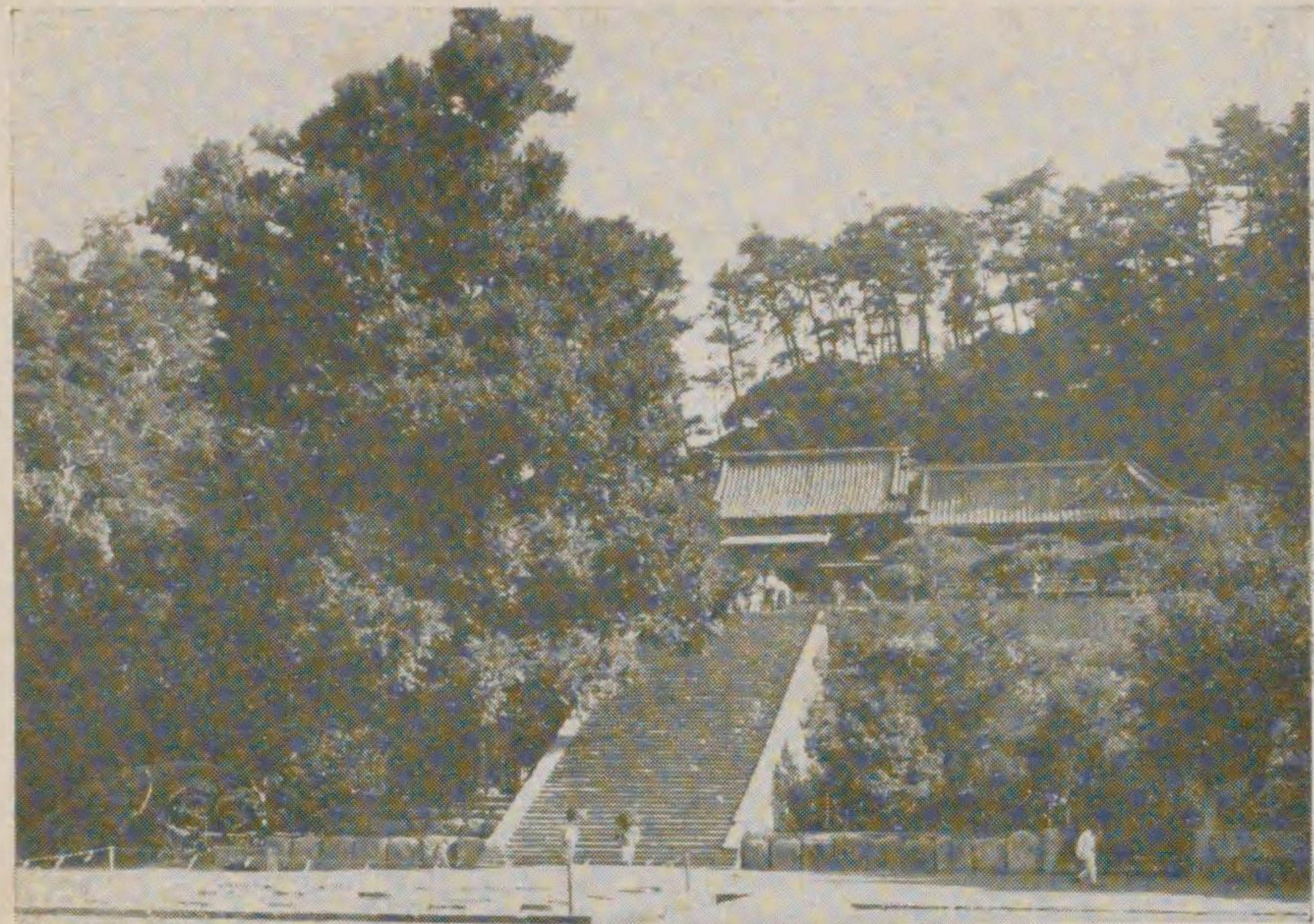
市川國府臺停留場の東北二杆、國分村にある。今舊國分寺址に新義眞言宗國分寺の藥師堂、鐘樓などが建つて居る。鐘樓のある所は方形の土壇をなし、もとの國分寺礎石が四個遺存して居る。この外に舊國分寺礎石は七八個殘存して居るが藥師堂下などに散存し、原位置を明かに知ることが出来ない。然し寺址の東隅竹藪及附近の昔堂と稱する畑中には、奈良朝時代の古瓦の破片が多く遺存し、礎石と相俟つて國分寺の遺蹟であることがほゞ推定される。

【堀ノ内貝塚】同市川驛の東北五杆、京成電車市川國府臺停留場の東北四杆、國分村堀ノ内にあり。練兵場の北に連なる丘陵の上から、傾斜面にかけて存在し、地表に貝層が露出して居る。石器時代土器、土偶、石器、骨鈿などの諸遺物が豊富に發見された。東京近郊に於ける同時代遺蹟の代表的のものである。

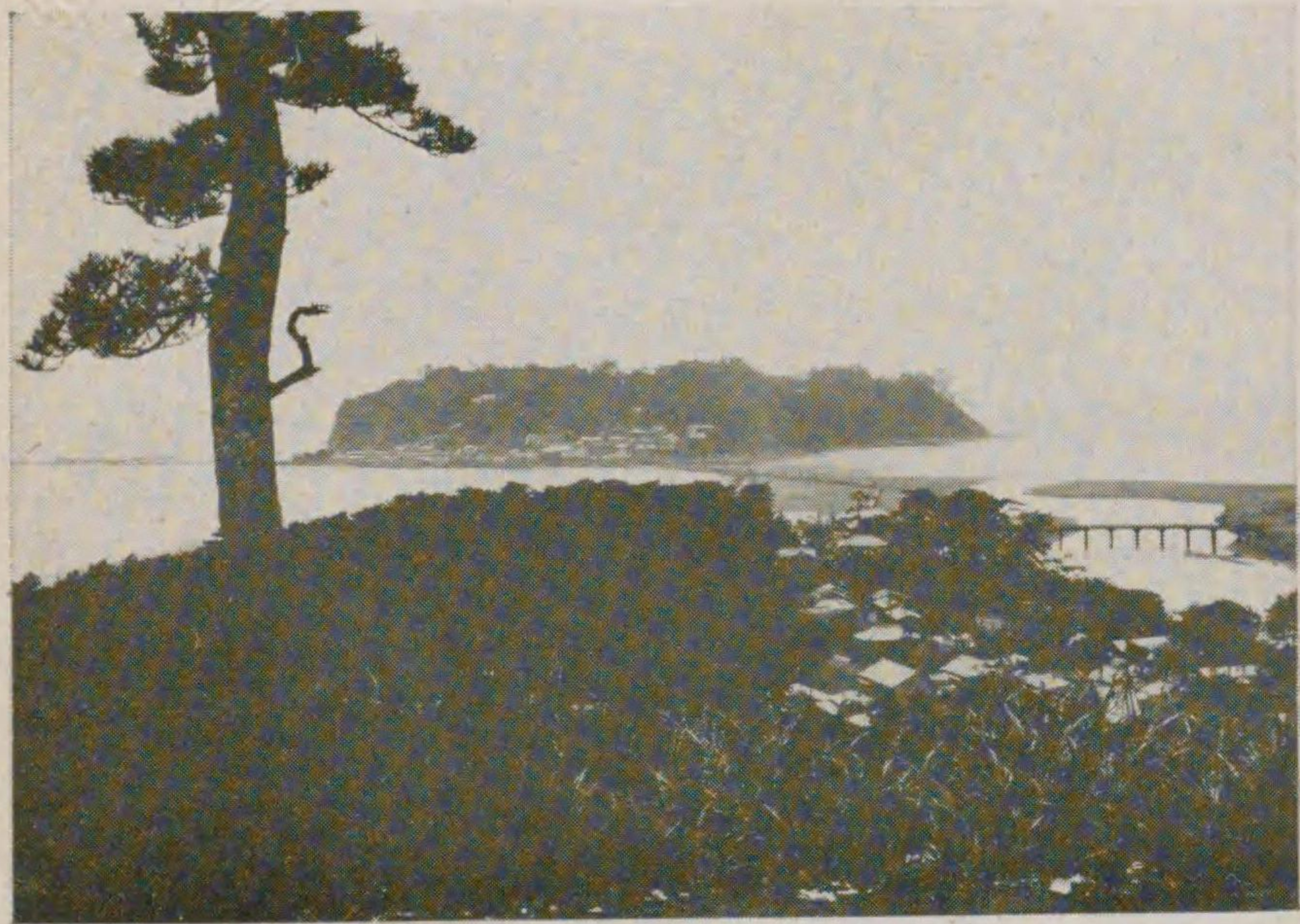
【柴又帝釋天】京成電車柴又停留場下車、帝釋天像を祀り參詣者が多く、毎庚申日の賽日には特に賑ふ。



殿利舎寺覺園



宮 幡 八 岡 鶴



島 / 江





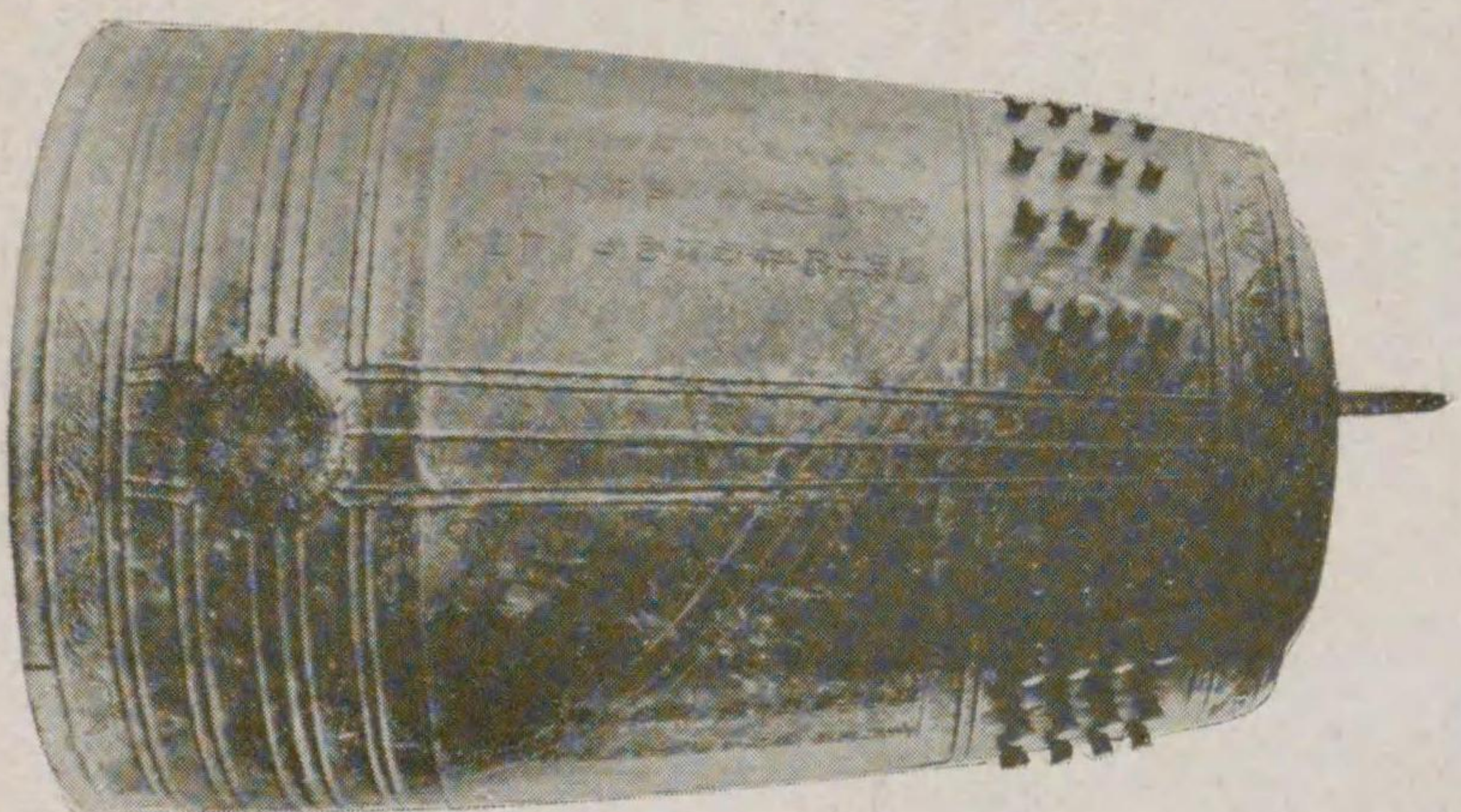
上杉重房像(鎌倉國寶館)



俱生神像(鎌倉國寶館)



(寺谷長倉鎌)佛懸音觀面一十



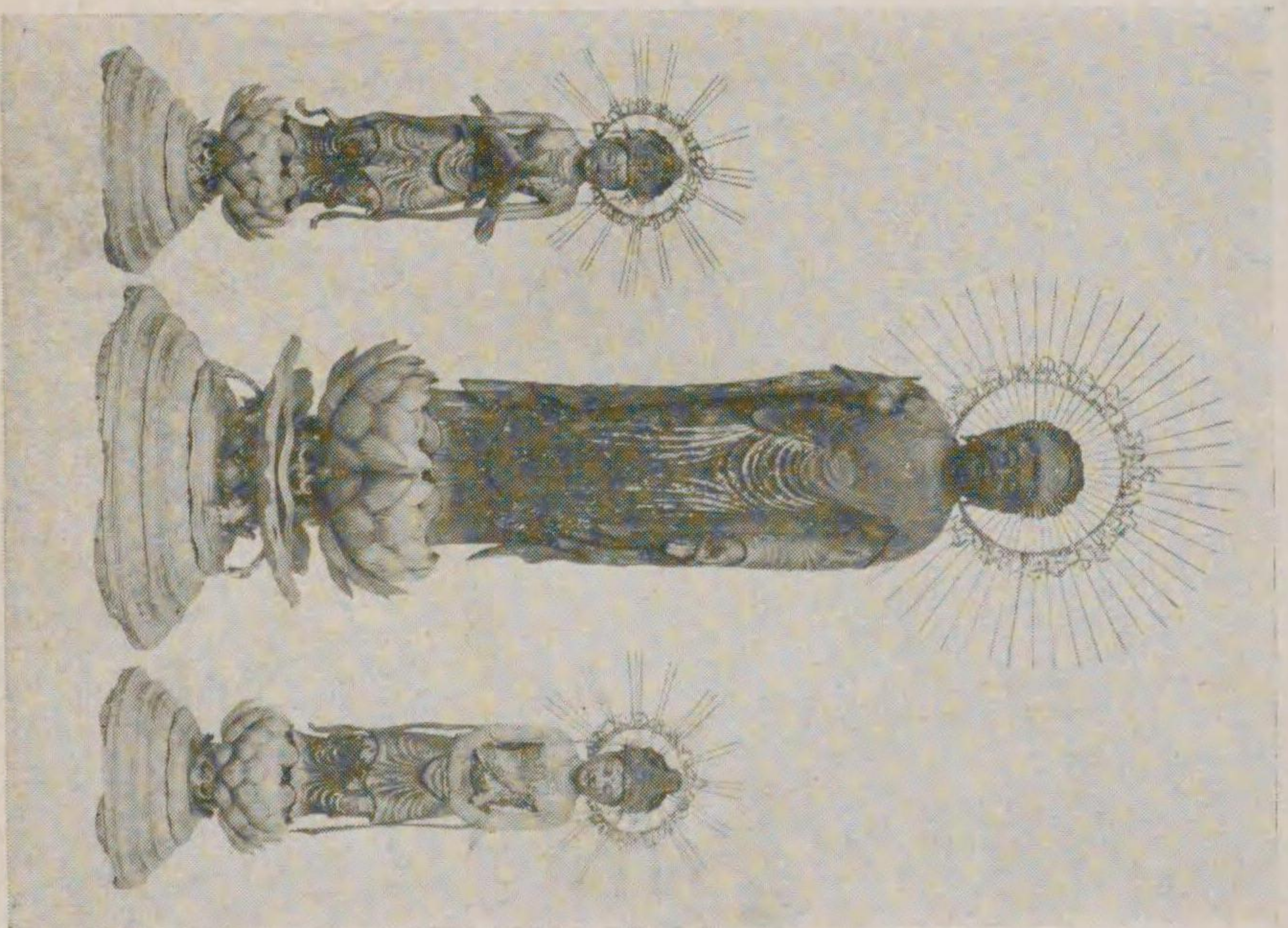
(寺樂常船大)鐘 銅



鎌倉大佛



(師葉向日)像師葉

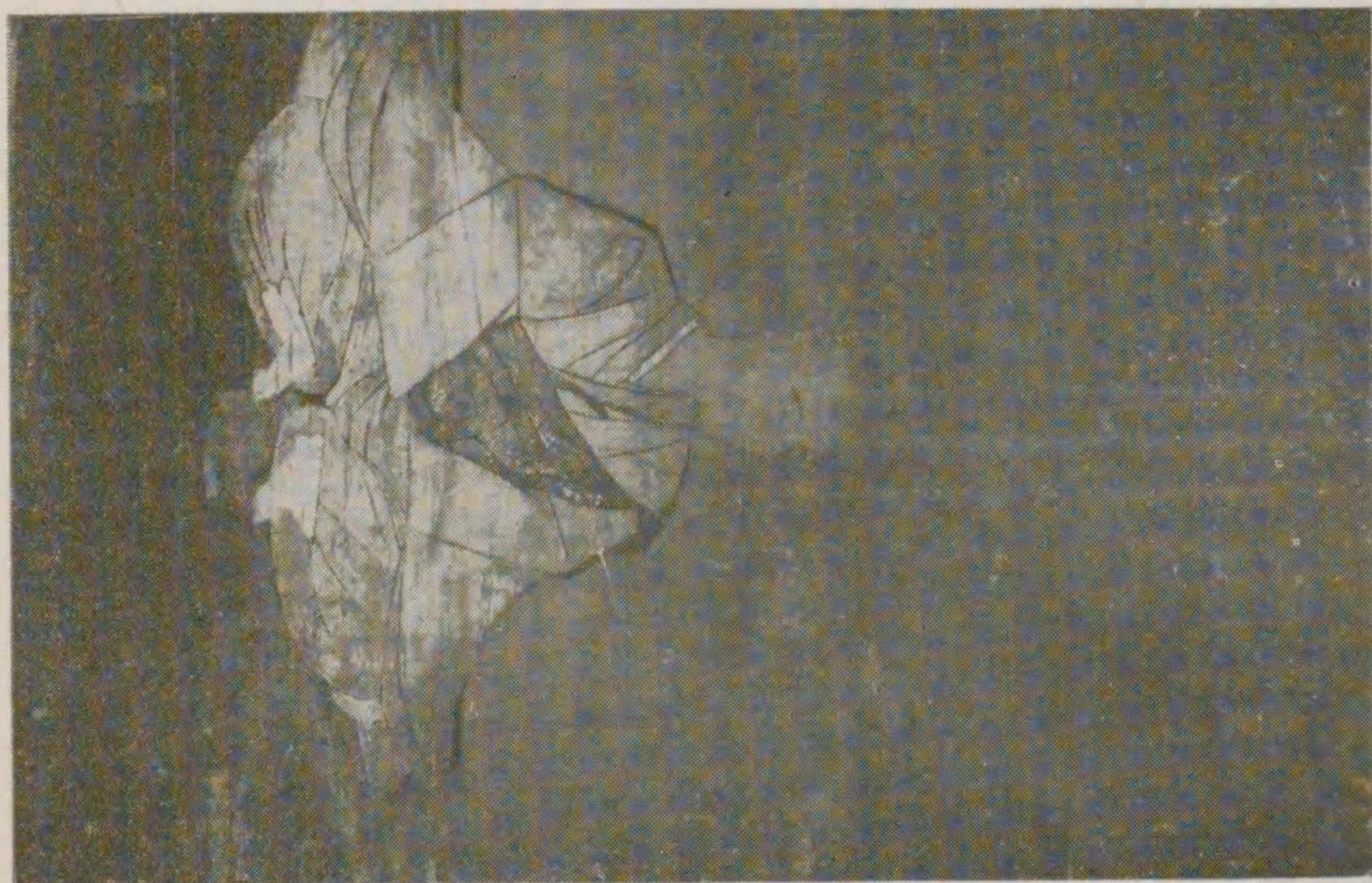


(寺獨光會樂)像拿三陀彌阿





(寺雲早) 像雲早條北



(寺名稱) 像時顯條北

Handwritten notes in Japanese characters, including the characters '寺' (temple) and '早' (early), and some illegible scribbles.



## 東京 國府津間

東京驛を出て高架線により西南に向へば右方には近く數多のビルディングを見、遙に宮城の森林及新築中の議院を眺め新橋一哩九に着く。これより間もなく平地線に移り、右方に愛宕山ラヂオ放送局の高塔、芝公園の増上寺本堂、五重塔を見、左方に濱離宮の森、瓦斯タンクなどを眺め、芝浦埋立地先に繫留する數多の汽船、品川灣内の舊砲臺などを望み、夥しき軌條の平行せる品川五哩一に着く。

品川より國道の道路橋を潜り、右に山手線を分ち、漸く郊外の工業地帯に出で、大井町一哩五に着く。こゝから目黒蒲田電車線の支線が右に分れる。これより右方住宅地の中に大森貝塚の遺跡の存するあたりを眺め、大森二軒三を過ぎ、左方遙に瓦斯タンクを望み、蒲田一哩八に着く。こゝから右方に池上電車線及目黒蒲田電車線が分れる、驛を出るとやがて六郷川の鐵橋(延長五五〇米)にかゝる。左方には京濱電車及國道の橋

東京國府津間

梁が並び、右方には遠く富士の秀峰及赤石山脈の高峰が望まれる。橋を渡りて神奈川縣に入り線路の右に接する明治製菓、東京電氣一會社の工場を見て川崎三軒七に着く。こゝから南部鐵道省の變電所、遠く東京電燈會社の変電所を望み、左方には川崎市の諸工場の煙突を眺め、大崎より來る貨物線により乗り越され、鶴見三軒二に着く。驛の前後右方丘陵の上に曹洞宗の大本山總持寺が樹林の間から見える。驛を出て右方に花月園を望み横濱線に乗り越され、横濱の市街に入り八王子に到る横濱線を分つ東神奈川三哩三に至れば、左方横濱港内に大小の汽船が眺められる。やがて道路橋か潜り横濱一哩四に着く。(此間の記事東京近郊参照)

東神奈川驛 (一二圖さ4) 横濱市東神奈川町

△横濱線 東神奈川八王子間四二軒五―二六哩四

△乗合自動車 川和行

## 横濱線

東京國府津間

東神奈川を出て西北に向ひ、丘陵の間を通り、菊名  
四軒八、小机二軒九、中山五軒八、長津田四軒三、を経て  
三哩八、一哩八、中山三哩六、長津田二哩七、を経て  
原町田四軒七につく、こゝで小田原急行電車と交叉  
し、平野の間を淵野邊五軒八橋本三哩四を過ぎ、北に向  
ひて再び丘陵の間を通り、相原一哩九を経て、八王子  
六軒八につく。

【相模野基線】 横濱線原町田驛の西南四軒、小田原急  
行電車座間驛の東北三軒にその中點があり、西北、東  
南に走る。明治十五年の設置で、全國を統一したる大地  
測量の根基をなすものである。基線はその中等海面上  
の長さ五、二〇九米六九七で、南端は海拔七四米八八、北端  
は九七米二九、これらが延長の測定にはヒルカード式  
四米鋼桿基線尺を用ゐる百六日を要した。この基線より  
東方には都筑郡都岡村の西端なる海拔一〇〇米の地點、  
西方には愛甲郡荻野村鳶尾山頂海拔二五三米の地點を  
連ねて第一次の三角網を作り、次にこの東西二點より  
北は南多摩村の海拔二六米の地點、南は中郡大磯町

高麗山頂海拔二五三米の地點を連れ、第二次の三角網  
が作られる。更にこの南北二點より西は丹澤山頂海拔  
一、五七米の地點と、東南は千葉縣の鹿野山頂を連れて  
第三次の三角網が形成せられ、後に丹澤及鹿野山を連  
ぬる線を一邊とする第四次の三角網が南北に作られ、  
測地が行はれる。この基線は關東地方大地震後再測し  
て二米二四の伸張を發見した。

横濱驛 (一二圖さ4) 横濱市高島町二丁目

東京から二九軒三一八哩二

△京濱線 横濱櫻木町間二軒六一哩

△神中鐵道線 横濱厚木間二六軒五一六哩五

△乗合自動車 北程ヶ谷行 鎌倉行 圓海山行

戸塚行 厚木行 上川井行

一日平均

乗車人員 一四、八五八人 降車人員 一五、〇二五人

旅客收入 六、二二六圓

【横濱市】 (九圖) 幕末時代に米英佛などの諸國との間  
に通商條約(神奈川條約)が締結せられ、その結果安政六



年横濱は開港場となつたが、當時の横濱村は戸數僅に八十戸に過ぎなかつた。その後貿易の隆盛に伴ひ跳躍的に發達し、開港以來十年で戸口は約百倍に達し、更に大正十二年の震災當時は人口四十五萬であつたが、近時市街の復興と共に市の區域を擴大して人口五十四萬を算し世界的貿易港となつた。市内交通には市營の電車及乗合自動車の便がある。

△貿易額

	輸出	輸入	合計
	千圓	千圓	千圓
明治元年	三、三三七	七、六八四	一〇、九六一
同 十年	一五、九六六	二、〇二六	一八、〇九二
同二十年	三三、七五五	二七、七五五	六一、五一一
同三十年	九〇、七〇一	八六、八三三	一七七、五三四
同四十年	三〇五、八八八	一七三、四五五	四七九、三四三
大正六年	六六七、〇六五	二八七、三六七	九五四、四三二
昭和二年	七四九、〇〇六	五七四、八〇〇	一、三二三、八〇六
同 三年	七四三、二九六	六四四、四三三	一、三八七、七二九

△重要輸出品

生糸 蠶繭詰 羽二重 縮緬 富士絹 精糖 小麥粉

東京國府津間

ボンジー 屑糸 玩具 綿縮 絹手巾 百合根 電燈球

△重要輸入品

砂糖 小麥 原油及重油 米及粉 大豆 石油 煙草  
 生護謨 小麥粉 牛脂 牛皮及水牛皮 硝酸曹達 小豆  
 パラフィンワックス 胡麻子

△航路

小笠原線	横濱	硫黃島間	(近海郵船)
上海線	同	上海間	(日本郵船)
歐洲船	同	ロンドン間	(同)
米國線	香港	シヤートル間	(同)
南米西岸線	同	バルパライソ間	(同)
南米東岸線	横濱	ヴェノスアイレス間	(同)
北米線	香港	サンフランシスコ間	(同)
濠洲線	横濱	ロスアンゼルス間	(同)
裏南洋線	神戸	メルボルン間	(同)
同上	同	ヤルード間	(同)
北米ビューゼツトサウインド線	上海	メナード間	(同)
南米線	神戸	バンクーバー間(大阪商船)	(同)
カルカッタ線	横濱	ヴェノスアイレス間	(同)
ボンベイ線	同	カルカッタ間	(同)
		ボンベイ間	(同上)

東京國府津間

バンクーバー線 横濱  
北米線 同 桑港間 (ダラー)  
同 シヤートル間 (同上)  
同 ロンドン間 (P.O.S.N.)  
同 マルセイユ間 (M.M.)  
同 ロンドン間(プリティッシュ・インディア)  
同 メルボルン間 (オーストレイリアン)

△官公廳その他 神奈川縣廳(日本大通) 横濱市役所(港町) 地方裁判所(日本大通) 税關(新港町) 燈臺局(北仲通) 生糸検査所(同上) 高等工業學校(大岡町) 高等商業學校(南太田町) 市立高等商業學校(同上) 商工獎勵館(日本大通) 震災記念館(老松町) 商工會議所(櫻木町) 社會館(高島町)

△領事館 イギリス總領事館(山下町) メキシコ總領事館(同上) 中華民國總領事館(同上) ブラジル總領事館(同上) チリ總領事館(同上) ポリビヤ總領事館(南仲通) コロンビヤ總領事館(山下町) イタリー領事館(山手町) アルゼンチン領事館(山下町) ノルウエー領事館(同上) スエーデン領事館(同上) アメリカ領事館(同上) フランス領事館(同上) ペルー領事館(同上) ベルギー領事館(同上) ドイツ領事館(同上) トルコ領事館(辨天通) ホンデユラス領事館(本牧町) ギリシヤ領事館(山下町) カテラ

油會社鶴見製油所(安善町) 芝浦製作所鶴見工場(芝浦町) セ、スタンダード、オイル、カンパニー、オブ、ニューヨーク(山下町) 加奈陀太平洋汽船會社(同上) 米國貿易會社(同上)

△新聞社 横濱貿易新報(本町) 横濱毎朝新報(南仲通)  
△病院 十全病院(入舟町) 萬治病院(漣頭町) 横濱病院(若葉町) 關東病院(相生町)

△旅館 ホテル、ニューグランド(山下町) 津久井屋(本町) 長野屋(辨天通) 上州屋(本町) クラブホテル(山下町) 横濱ホテル(扇町) 大勢屋(本町) 南明(櫻木町) かどや(辨天通) 松阪屋(海岸通) 葛屋(住吉町) 鳴門屋(花咲町) いとら(相生町) 紀ノ國家(元濱町)

△料理店 千登世(住吉町) 九百政(相生町) 丁字家(青木町) 田中屋(同上) 對壽亭(同上) 借樂園(磯子) 磯子園(同上)

△俱樂部 正金俱樂部(紅葉坂) 婦人俱樂部(同上) 海員ホーム(吉濱町) 外人俱樂部(根岸町)  
△公園 横濱公園(中區) 野毛山公園(同上) 掃部山公園(同上) 神奈川公園(神奈川區) 岡野公園(程ヶ谷) 山下公園(中區) 娛樂場 花月園(鶴見) 三溪園(本牧) 横濱ガーデン(神奈川) 世界館(伊勢崎町) 横濱電氣館(同上) オデオン座(同上) 又樂館(同上) 横濱館(同上) 敷島館(同上) 朝日座(同上) 常設館

東京國府津間

マ領事館(南仲通) オランダ副領事館(山下町) スペイン副領事館(本牧町)

△銀行 横濱正金銀行(南仲通) 神奈川縣農工銀行(櫻木町) 十五銀行支店(太田町) ゼ、ナシヨナル、シチーバンク、オヴ、ニューヨーク(山下町) 第一銀行支店(本町) 住友銀行支店(同上) 三井銀行支店(本町) 臺灣銀行支店(日本大通) 安田銀行支店(本町) 川崎第百銀行支店(同上) ゼ、チャータード、バンク、オブ、インディア、オーストラリア、エント、チャイナ(日本大通) 蘭印商業銀行(同上) 日佛銀行支店(辨天通)

△百貨店その他 野澤屋(伊勢佐木町) 鶴屋(同上) 越前屋(同上) 相模屋(同上) 伊勢ビル(同上) 明治屋(本町)

△會社 工場 日本生糸會社(太田町) 横濱船渠會社(長住町) 横濱取引所(南仲通) 横濱火災海上保險會社(本町) 日本フォード自動車會社(守屋町) 淺野造船所(未廣町) 富士瓦斯紡績會社 保土ヶ谷工場(峰岡町) 淺野セメント保土ヶ谷工場(佛向町) 日清製油會社横濱工場(千若町) 日本郵船會社横濱支店(海岸通) 大阪商船會社横濱支店(山下町) 日本綿花會社横濱支店(日本大通) 三井物産會社横濱支店(日本大通) 神榮生糸會社横濱支店(本町) 三菱倉庫會社横濱支店(海岸通) 日本海上保險會社横濱支店(本町) 國際運輸會社横濱支店(辨天通) ライジングサン石油會社横濱支店(山下町) 旭硝子會社鶴見工場(未廣町) 日本石

芝樂座(同上) 花月(同上)

【本覺寺】(九圖はら) 驛の北約半軒、神奈川區青木町の島山と呼ぶ丘陵中腹にある。安政三年米國假公使館に充てられ、安政五年には幕府と米國領事ハリスがこゝで安政の通商條約に調印した。

【皇太神宮】(縣社)(九圖はら) 驛の西約半軒餘、横濱市野毛町伊勢山と稱する丘上にある。全市の氏神である。

【井伊直弼銅像】(九圖はら) 省線電車櫻木町驛の西北六〇米、掃部山公園内にある。直弼は幕末外交の衝にあり、横濱の開港に努めた人である。

【弘明寺】(眞言宗) 省線電車櫻木町驛の西南約五軒、弘明寺町の丘上にあり、電車の便がある。今の本堂は江戸時代の再建であるが、本尊木造十一面觀音立像(國寶)は高さ一米八(六尺) 鈍彫と稱する異様な彫法で、木彫の丸彫にのみ見られる手法である。これは圓鑿を横に使つてその鑿痕を筋目正しく現はしたもので、運刀の冴え切つた技巧が窺はれる。この像は藤原

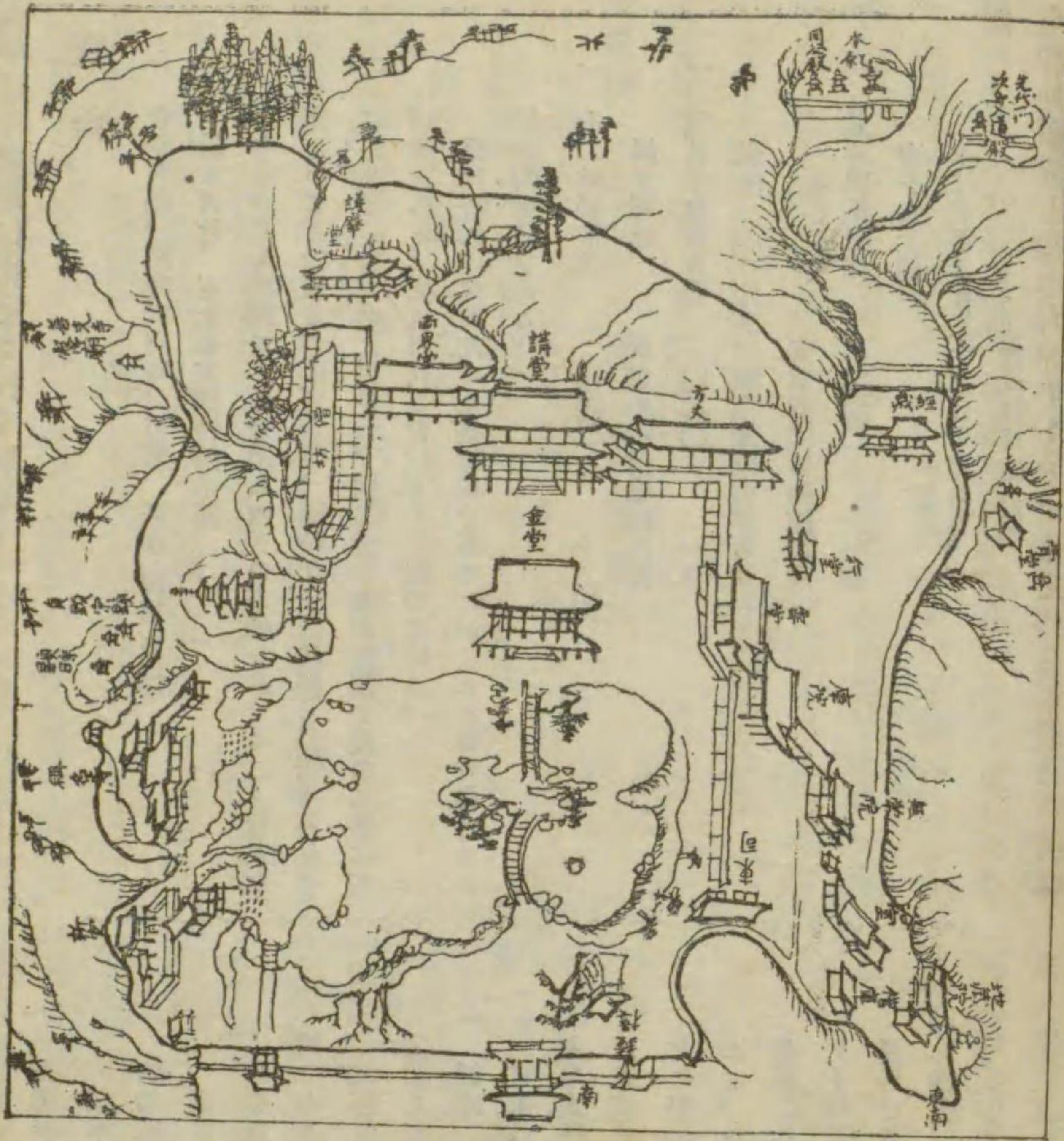
時代初期の作で、わが彫刻史上造像法の研究に有益な資料である。

【根岸競馬場】 市内電車山元町停留場の南八〇〇米、根岸にあり。日本レース倶楽部に屬し明治三十八年の設立。この競馬場を利用してゴルフが行はれる。會員は主として外人である。

【杉田梅林】 横濱驛の南一二軒、市内電車の終點にあたる。梅林は丘陵の傾斜面及其の麓の平地にあり、東方海上の眺望を兼ね、花時市民の行樂地となる。

【程ヶ谷ゴルフ場】 横濱驛の西南四軒半、丘陵の上にある。面積四、三〇〇アール（十六萬坪）、地形起伏に富み十八ホールのコースがある。

【稱名寺】（眞言律宗）（二二圖参照） 横濱市内電車杉田停留場の南八軒、横須賀線逗子驛の北約八軒、共に附近まで自動車の便がある。金澤村稱名寺の海濱に近く、後に丘陵を負へる勝景の地にあり、當寺は金澤實時の本願によりその子顯時が審海上人を開山とし、龜山天皇の時勅願寺となつた寺である。後元弘三年第三世湛空



圖古寺名稱

律師が結界の作法を行つた時作つた圖繪が今國寶となつて居るが、それによると門内に池があり、池の向に金堂、講堂、方丈、兩界堂、池の左に本堂、その右に五重塔婆などあつて、往時盛大であつたことが知られる。その建築物の今日に存するものは全くないのであるが、結界址は今尙往時の規模の徴すべきものを存し、史蹟に指定されて居る。金澤氏は實時以來學問を好み、書籍を蒐集したのと、世代の住持に學僧が多かつたために、當寺には多數の珍書が藏せられ、後には金澤文庫の名が世に著聞するに至り、金澤文庫の黒印ある珍籍が遺存して、御府を始め内閣文庫及諸家の祕庫に傳へられて居る。

彌勒菩薩立像（國寶） 本堂内に安置されて居る。木造で高さ蓮座共約二米餘（七尺）寄木造、玉眼、蓮枝を持つる立像で、佛身には漆箔を施し、天衣には截金で華麗な花文、雷文などの裝飾を施して居る。金銅透彫の寶冠を戴き胸間に瓔珞をかけ、偉容堂々たるものがある。一は「建治三年三月三十一日」の墨書がある。

十一面觀音立像（國寶） 本堂に安置されて居る。寄木造、玉眼、彩色、高さ一米九（六尺三寸七分）本尊彌勒像と作風相近似し鎌倉末期の作である。釋迦如來立像（國寶） 釋迦堂に安置されて居る。寄木造、高さ約一米半（五尺）嵯峨清涼寺式の立像で、僅かながら所々に截金彩色が残つて居るのが珍しい。胎内に徳治二年の墨書があると云ふ。金澤氏及開山審海上人以下世代墓 金澤氏の墓は裏山の中腹にあり、大なる寶篋印塔と大小の五輪塔が五基竝んで居る。そのうち寶篋印塔は金澤實時の墓と傳へて居る。開山審海上人以下歴代の墳墓は寺の西裏にあり、何れも無銘の五輪塔である。兩

東京國府津間

墓域は今史蹟に指定されて居る。

寶物

- 一 金澤實時、顯時、貞時、貞將、畫像〔國寶〕四幅  
絹本着色、東京帝室博物館出陳
- 本寺が其大檀越である金澤氏四代の畫像を藏することは眞に床しいことである。中で實時、顯時父子は法體、貞顯、貞將父子は烏帽子、狩衣姿に描かれ、前二者の方が簡潔で後の二者は稍硬直である。描寫年代も世代と共に降つて居る。
- 鎌倉時代は肖像畫の全盛時代であつたがこれらの肖像はその代表的遺品である。

- 一 十二神將畫像 〔國寶〕 十二幅  
絹本着色 東京帝室博物館出陳
- 一 稱名寺伽藍古圖 〔國寶〕 一枚  
紙本 元亨三年二月の裏書あり 東京帝室博物館出陳
- 一 愛染明王坐像 〔國寶〕 一軀  
厨子入金屬製 永仁五年二月二十七日の銘あり。

一 圓覺經

〔國寶〕 二卷

横濱を出て西南に向ひ、右に神中鐵道の起點西横濱驛を見、程ヶ谷二軒四を過ぎ丘陵の間に入り、トンネルを抜けて左方に東海道の松並木を見、戸塚九軒に著く。これより南方に向へば右窓外に柏尾川堤防の櫻並木が長く連り、花時は旅客の眼を喜ばす。このあたりより先遠く富士山が望まれる。大船三軒六に至れば横須賀線は左方に分れる。

大船驛

(一二圖たし) 神奈川県鎌倉郡小坂村  
東京から四六軒三一二八哩八

- △横須賀線 大船横須賀間 一六軒一一〇哩
- △乗合自動車 鎌倉驛行

【常樂寺】

〔臨濟宗〕 驛の北約一軒、小坂村離山にあり。北條泰時墳墓の地で泰時の法名常樂院を以て寺號としたといふ。國寶の銅鐘あり、泰時歿後七年にその追善のため鑄造したもので寶治二年の鑄銘がある。鐘の形が整ひ銘文も和様の字體に穩秀の美がある。

【證菩提寺】

〔眞言宗〕 驛の東北約五軒、鎌倉郡本郷村にある。眞田義忠追福のため鎌倉時代に建立した所と

東京國府津間

- 紙本墨書、正慶二年三月金澤貞顯筆 東京帝室博物館出陳
- 一文選李善注 (殘缺)〔國寶〕 十九本  
紙本墨書
- 一 明儒願文集 〔國寶〕 一冊  
紙本墨書 表紙に湛庵とあり
- 藤原資實及菅原爲長の作つた諷誦願文を集めたもので僅かに七篇であるが何れも皆史的價値の多いもののみである。
- 湛庵は鎌倉末から當寺に任持した學僧であるから書寫年代も推定せられる。

一 銅鐘

〔國寶〕 一口

文永己巳仲冬七日の舊銘並びに正安辛丑仲和九日の改鑄銘あり金澤實時當寺を創建し、文永六年父母の菩提のために鑄造せしめた梵鐘が實時歿後正應年間に銷盡したので、その子顯時が正安三年に再鑄したのがこの鐘であつて新舊兩銘の存するの用意が窺はれる。金澤文庫本の奥書で有名な入宋比丘圓種が新銘を作り宋僧慈洪これを書し、開山審海上人が生存中事に當つたもので、實時父子好學の狀況を徴し得られると共に本寺の由緒を知るに必要な資料である。

- 一 洋書 約三百冊 憲法起草當時伊藤博文の參考とせしもの

傳へ開山を宗辨律師と云ふ。舊阿彌陀堂本尊、木造、阿彌陀三尊は國寶に指定され鎌倉國寶館に出陳されて居る。

横須賀線

大船を出て南に向ひ東京灣要塞地帯に入る、これより先は特に許可を得たるもの、外寫眞撮影、地形の模寫錄取を禁ぜられて居る。やがて丘陵の間に入り北鎌倉二軒六を過ぎ、左に圓覺寺を望み、トンネルを経て鎌倉二軒三に着く。

【東慶寺】

〔臨濟宗〕 北鎌倉驛の南約三〇米、弘安年間北條時宗の夫人覺山尼の創建にかゝり、執權北條貞時をして勅裁を得て縁切寺法を定めしめ婦女の救済に盡したので、俗に縁切寺と云ふ。本堂には木造聖觀音の立像を安置して居る。國寶にして鎌倉末期の製作である。

【圓覺寺】

〔臨濟宗本山〕 北鎌倉驛に接近して居る。弘安五年北條時宗の創建にかゝり、開山は時宗の招聘に應



じて來朝した宋の學僧佛光禪師である。爾來禪門の道場として名高く、僧侶の専門道場たる外、今尙一般學生及名家の參禪する者が少くない。建築物の主なるものは舍利殿、開山堂、北條時宗廟などで、方丈及佛殿は復興中である。

舍利殿〔國寶〕 山麓にあり、弘安五年の建築でわが國現存の禪宗建築中最古のものである。五間四面重層入母屋造、上層の屋根は茅葺で下層は柿葺になつて居る。内部は床を張らず瓦敷とし、柱は粽を有し、礎石と柱の間には礎盤がある。下層の軒下は頗る簡單で、桷組は三斗、極は繁極を用ゐて居るが、これに反し上層は極めて賑かである。即ち桷組は唐様三手先詰組に尾極を加へ、軒には二重の扇極を使用して居る。扉は棧唐戸、窓は一種風變りの火燈窓である。欄間には波線をなせる一種の堅子が入れてある。内陣の佛壇には佛舍利を納めた水晶塔を置き、佛壇の前に觀音及地藏の立像が安置してある。要するに舍利殿は鎌倉時代に出來た唐様の好標本である。大正十二年の震災に

顛倒したが、同十四年に修理完成した。

佛光國師像〔國寶〕 開山塔に安置してある。寄木造玉眼彩色の坐像で高さ七七糎(二尺五分)、開山塔が建武二年夢窓國師の建立であるからこの像もその頃の作と察せられる。作風堅實にして如何にも眞摯な風貌を現はして居る。椅子も同作で國師來朝の物語に因んで龍と鳩の彫刻を著けて居る。

銅鐘〔國寶〕 境内丘上の鐘樓にかゝつて居る。高さ約二米七(九尺) 北條貞時の鑄造にかゝり、次の銘文がある。

皇帝萬歲  
重臣千秋  
風調雨順  
國泰民安

相模州瑞馬山圓覺興聖禪寺鐘銘  
鶴岡之北富士之東有大圓覺爲釋氏宮  
恢廓賢聖蹴踏象龍範圍天地素簡全功  
鎔金去鏽煅煉頑銅成大法器啓迪昏蒙

弘安七年九月の自贊あり

一 虚空藏菩薩像〔國寶〕 一幅

絹本着色 藤原時代

一 鐘馗圖〔國寶〕 一幅

紙本淡彩 山田道安筆

山田道安の畫は世間に往々あり、殊に鐘馗圖は他に類品もあるがこの圖は自由な運筆で強い墨線で行く所に最も爽快な氣持があり、自ら専門畫家に見られぬ武人の氣魄さへ現はれて居る。蓋し道安畫中の一優品である。

一 圓覺寺境内繪圖〔國寶〕 一幅

一 富田庄圖〔國寶〕 一幅

一 髹漆須彌壇〔國寶〕 二基

一 髹漆前机〔國寶〕 一脚 鎌倉時代

一 青磁香爐〔國寶〕 一箇 同

一 鎌倉國寶館出陳

一定額寺官符〔國寶〕 一幅

一 北條時宗書狀(弘安元年十二月二十三日)〔國寶〕 一幅

一 北條時宗書狀(七月十八日)〔國寶〕 一幅

弘安六年圓覺寺が將軍家の御祈禱所となつた御教書につけて、時宗が祝意を表する爲佛光國師に送つた書狀である。その書高邁の氣が横溢し自らその爲人が偲はれる。

長鯨吼月幽谷傳空

法王號令神天曼從祐民贊國植德旌忠停酸息

苦超越變籠高輝

佛日普扇

皇風浩浩蕩蕩聲震寰中

正安參年 辛 八月初七日日本寺

大檀那從四位上行相模守平朝臣貞時勸緣同

成大器

當時住持傳法宋沙門 子曇 謹銘 (以下省略)

寶物

一 羅漢圖〔國寶〕 三十三幅

傳張思恭筆 絹本淡彩 筆致流麗にして設色も美事である。

一 智吉祥釋迦像〔國寶〕 一幅

絹本着色 支那畫 長約二米四(八尺) 幅約一米四(四尺五寸) 形相珍奇雄大にして傳彩もまた莊麗である。

一 跋陀婆羅像〔國寶〕 一幅

宗淵筆 紙本淡彩 宗淵は圓覺寺の僧にして雪舟の弟子である。

一 佛涅槃圖〔國寶〕 一幅

絹本着色 東京帝室博物館出陳

一 佛光國師像〔國寶〕 一幅

東京國府津間

東京國府津間

- 一 佛光國師書狀(七月十八日)〔國寶〕 一幅
- 一 圓覺寺年中用米注進狀(弘安六年九月二十七日)〔國寶〕 一幅

【黃梅院】〔臨濟宗〕 圓覺寺境内にあり、開基は足利尊氏、開山は夢窓國師である。寺寶中に義堂周信筆紙本墨書華嚴塔勸緣疏及絹本着色夢窓國師の畫像があり、何れも國寶にして鎌倉國寶館に出陳されて居る。

【明月院】(一〇圖)〔臨濟宗〕 北鎌倉驛の東南約一軒小坂村にあり、上杉憲方の開基にかゝり、守嚴和尚を開山とする。

寶物

- 一 上杉重房坐像(木造)〔國寶〕 一幅
  - 一 玉隱和尚像(自贊)〔國寶〕 一幅
  - 紙本着色
- 建長寺の學僧玉隱英瑛の像である。描寫細密容姿服飾の微を盡して居る。剝落はして居るが像主自筆の贊が認められる。

一 明月院繪圖 〔國寶〕 一幅

紙本淡彩 氏滿の花押あり  
以上何れも鎌倉國寶館へ出陳

鎌倉驛 (一二圖) 〔國寶〕 神奈川縣鎌倉郡鎌倉町

△江ノ島電車 鎌倉藤澤間一〇軒三六哩四

國を治めしめたが、兩上杉氏の擾亂あり後荒廢してまた振はざるに至つた。

明治年間に入りては避暑、避寒の地として復活し、今は遊覽地、別莊地として榮えて居る。

【鶴岡八幡宮】〔國幣中社〕(一〇圖) 驛の東北三〇〇米にして朱塗の第二鳥居に達する。この鳥居際より道路の中央に一段高くなつた參道があり、左右に土手を有し櫻樹を植ゑ、第三鳥居際まで續いて居る。この參道は段葛と稱し、壽永元年源賴朝が鶴岡社頭より由比濱の大鳥居(大正十二年震災のため大破)の邊まで築造した參道若宮大路の一部分である。第三の鳥居を入り左右に池を見て大臣山の麓に進み、右に若宮を見て石段を登ると鶴岡八幡宮の本宮に達する。若宮は朱塗に輝く權現造である。江戸時代の建築で大正十二年の震災後修補されて新しくなつて居る。この若宮は康平六年源賴義が石清水の八幡宮を勸請して由比郷に建てたものを、治承四年に賴朝が移したものである。文治二年四月賴朝及

東京國府津間

△乗合自動車 材木座海岸行 鎌倉宮行 大佛行 坂ノ下行

△遊覽自動車 驛より各名勝地を廻遊する

△旅館 海濱ホテル 香風園 小町園

【鎌倉】(二〇圖) 藤原時代の末葉に平氏を亡ぼして起つた源氏は、前代から東國に力を養つて居つたので、その將賴朝は幕府を鎌倉に開き征夷大將軍となつた。爾來源氏に次で北條氏起り、鎌倉は第一次武家政治の中心となり、凡そ百五十年間繼續しこの期間を鎌倉時代と稱して居る。この時代は東國武士が京都の公卿に對し新銳の氣を以て起ると同時に、新に元との交通開けて禪宗が支那から輸入された。その結果前代の纖細優美な趣味は一轉して淡泊素朴豪健となつた。この新傾向は建築、彫刻、繪畫などに於て特にその特徴を現はすに至り、鎌倉の神社佛閣に遺存する彫刻、繪畫などにその實例を徵すべきものが少くない。たゞ建築に至つては極めて稀なるを遺憾とする。

室町時代にはその初期に關東管領をここに置いて東

夫人政子が參詣して義經の妾靜に舞をまはしめ、靜が「よし野山、みれのしら雪ふみ分けて、いりにし人のあとぞこひしき」と歌つたのもこの若宮の寶前で起つたことである。若宮は建久二年に焼失し、その後賴朝が後の山上に社殿を建築したのが今の鶴岡八幡宮で、これと同時に山下の若宮も再建され、山上、山下に兩宮並び立つこととなつたのである。本宮參道の石段の傍に大なる公孫樹がある。承久元年源實朝が大臣拜賀のため參詣の歸路、公曉に害されたのはこの邊りの石段であつたと云ふ。山上の社殿は賴朝創建後數度の火災を蒙り、今の社殿は江戸時代の權現造で、正面に樓門、左右に廻廊が社殿を取り圍んで居る。總朱塗で墓股などに極彩色を施した華美なる建築である。

寶物

- 廻廊内に數百點の寶物を陳列して一般に觀覽を許して居る。今左にその主なるものをかゝぐ。
- 一 辨才天坐像(國寶) 寄木造胡粉彩色の像で、肉付豊かに右手に撥、左手に琵琶をさへ、蛾眉を描き、唇に紅を指し、左右の兩足を屈して投げ出し、胴をひねり、横坐りの裸體像である。

東京國府津間

その姿體婉麗自由にして鎌倉時代の優秀なる作で、右足の地付に左の刻文がある。

文永三年丙寅九月廿八日戊午

始造立之奉安置舞樂院

從五位下行左近衛將監中原朝臣光氏

- 一 梨子地藤菊螺鈿時繪硯箱、(國寶) 一箇、全面にうるみたる金色を施し、更に金粉を蒔き螺鈿と藤繪とがよく調和して居る。螺鈿に菊を添へた意匠は前代から流行して来た菊花模様と繪畫的趣味を與へたもので、後の時繪に廣く行はれる圖案となつた。社傳に後白河法皇が源頼朝に下賜されたものであると云ふ。その事實は明かでないが製作年代は藤原末期か鎌倉初期で、その製作地は鎌倉ではなく、京都の名匠の手になつたものである。
- 一 沃懸地螺鈿杏葉時繪平胡鏡(國寶) 二個 鎌倉時代
- 一 五衣(國寶) 一領 白地に鳳凰の織文
- 一 丹塗弓(國寶) 一張
- 一 菩薩面(國寶) 一面
- 一 舞樂面(國寶) 五面
- 一 蘭陵王、散手、貴徳、鯉口、貴徳番子、二の舞の五面で何れも鎌倉代の作品として相當の作技を示し、關東に於て稀有の遺品である。
- 一 糸卷太刀(國寶) 一振 繪梨子地菊花時繪

愛染明王像は金銅製高さ約一八糎(六寸)の小像であるが、鎌倉時代稀に見る精巧なる作で、臺座裏に永仁五年の銘が陰刻されて居る。

上杉重房像は高さ六八糎(二尺二寸五分)室町初期の作で、首部は一木造で玉眼を嵌入し、胴體は寄木で出来て居る。黒漆の烏帽子を戴き兩眼を細く開き、目尻長く上品なる髯を蓄へ、極めて寫實的で、その濃厚なる面貌に重房の人と爲りを偲ばしめるものがある。建長寺の北條時頼像と共に肖像彫刻の代表作である。

この外に圓覺寺の銅造阿彌陀兩脇侍像(國寶)はよく鎌倉時代の様式を傳へ、所謂善光寺式一光三尊佛で中尊の蓮座に「文永八年十月十九日 四十鑄奉、鑄物師賀茂延時」の鑄銘がある。

本館陳列の彫刻中の國寶を次に列挙する。

- 一 木造不動明王像 (藤原時代) 極樂寺藏
- 一 木造阿彌陀如來像 (同) 證菩提寺藏
- 一 木造觀音勢至兩脇侍像 (同) 同
- 一 木造釋迦如來像 (鎌倉時代) 極樂寺藏
- 一 木造十大弟子像十軀 (同) 同

東京國府津間

- 一 太刀(國寶) 一振 沃懸地に杏葉螺鈿
- 一 鶴岡社務記録二卷(國寶) 紙本墨書
- 一 鶴岡八幡宮修養目論見繪圖一鋪(國寶) 紙本墨書、天正十九年五月十四日とあり。
- 一 經筒 一個 青銅製 建久六年の銘文あり。

【鎌倉國寶館】 鶴岡八幡宮の境内にあり、鎌倉及神奈川縣下の社寺及私人の寶物を保管陳列して、一般の縦覽に供するを主なる目的として建設されたもので、鎌倉町の經營にかゝり、昭和三年に開館された。鐵筋コンクリート校倉式の建築で六アール(百八十坪)の陳列室を有して居る。陳列品の種類は彫刻、繪畫、美術工藝品、古文書などであるが、佛教に關する遺物が大部分を占めて居る。彫刻には佛像が多く、その時代は平安時代より室町時代に及び三十餘點あり、その中國寶が約二十點ある。國寶中で特に偉彩を放つて居るのは圓應寺の初江王坐像、俱生神像、稱名寺の愛染明王坐像及明月院の上杉重房像などである。初江王坐像は刀法極めて遒勁寫實的趣致に富める木像で、胎内に建長三年の墨書銘があり、鎌倉時代の代表的傑作である。

- 一 木造初江王像 (鎌倉時代) 圓應寺藏
- 一 木造俱生神像二軀 (同) 同
- 一 木造地藏菩薩像 (同) 淨智寺藏
- 一 木造地藏菩薩像 (同) 壽福寺藏
- 一 木造阿彌陀如來像 (同) 寶城坊藏
- 一 木造藥師如來像 (同) 同
- 一 銅造阿彌陀如來及兩脇侍像三軀(同) 圓覺寺藏
- 一 愛染明王像(金屬製) (同) 稱名寺藏
- 一 銅造十一面觀音懸佛 (同) 長谷寺藏
- 一 木造菩薩面 (同) 鶴岡八幡宮藏
- 一 木造舞樂面蘭陵王散手二面 (同) 同

繪畫は五十餘點を有し、その中約二十點の國寶がある。鎌倉、室町時代のもの多く、國寶中光觸寺の頬燒阿彌陀緣起及光明寺の淨土五祖繪詞傳は何れも優秀なる作で、鎌倉時代の代表的繪卷物である。

美術工藝品では約四十點を有し、その中國寶が約十點あり。鶴岡八幡宮の國寶菊時繪硯箱及杏葉時繪平胡鏡は鎌倉時代の優秀なる作である。

古文書は約五十點あり、その中に黃梅院の國寶華嚴塔勸緣疏がある。瑞鹿山圓覺禪師黃梅院重建華嚴塔勸

縁小偈并敘と題し、奥に應募者の署名を列記した卷子本で、署名の下には花押の外、印を押捺せるものがある。

【寶戒寺】〔天台宗〕(一〇圖た4) 鶴岡八幡宮三ノ鳥居の東約三〇米、屏風山の麓にあり、驛より自動車の便がある。建武元年足利尊氏が北條氏の冥福を祈るためその邸址に建てた寺で、開山は圓觀僧正である。本尊地藏菩薩の坐像は玉眼入り寄木造で彩色を存し、所々に土製の花紋が遺つて居る。鎌倉時代末期の様式を示す作で國寶に指定されて居る。胸部の内面に左の文が朱書されて居る。

關東寶戒寺

三條法印意圖造

貞治四年乙巳五月 日

本尊の左右には大なる梵天、帝釋の立像があり、何れも木造で彩色が残つて居る。地藏菩薩の像と同時代のものである。

寶物

惟賢和尚坐像〔國寶〕 本堂内にあり高さ約六〇釐(二尺) 膝

府の崇敬厚く吾妻鏡の所々に當社に關する記事が出て居る。今の社殿は江戸時代の再建である。

【鎌倉宮】〔官幣中社〕(一〇圖さ3) 驛の東北約二軒、二階堂醫王山の麓にあり、明治二年の創建にして護良親王を祀る。本殿の後の山麓にある石窟は、護良親王が建武元年十一月より翌二年七月まで幽居し給うた所と云ふ。境内に明治六年明治天皇の行幸あらせられた行在所があり、寶物が陳列されて居る。

【護良親王御墓】(一〇圖か3) 鎌倉宮の東方約三〇米、理智光山の頂上松樹の傍にある。

【覺園寺】〔眞言宗〕(一〇圖さ2) 驛の東北二軒半、鎌倉宮の北方にある。建保年間北條義時の建立で藥師像を安置して居る。尙國寶に指定された地藏菩薩の木像は俗に黒地藏と云ひ、今鎌倉國寶館に出陳されて居る。

【瑞泉寺】〔臨濟宗〕(一〇圖あ3) 鎌倉宮の東約一軒、四境に山を繞らした幽邃な所にある。夢窓國師の開山で、開基は足利基氏である。堂宇は大震災に倒潰し、今假堂に夢窓國師の木像が安置されて居る。椅子によつた像で

の上に両手を重ね、正面を靜視し泰然自若たる老僧の相貌を現はした像で、胎内に籠められた像主自筆の造像記によつて、この像が惟賢八十四歳の壽像であることが知られる。また頭部内面に「いよのほうけんぶつしちやうけい」の墨書がある。

惟賢は尊氏の第二子で圓觀僧正に従ひ僧となり、寶戒寺第二世の住職となつた。尙當寺には國寶の歡喜天木像がある。等身大の像で彫法粗放一種の氣力を備へた珍らしい像であるが、秘佛で開扉を許さない。

寺の後方屏風山の中腹には、元弘三年北條氏が滅亡の際高時一門の自殺した東勝寺の址があつて、今に腹切矢倉と稱する窟がある。

【源賴朝墓】(一〇圖た3) 鶴岡八幡宮の東北約半軒、大藏山の中腹にあり。方形の臺石の上に五輪塔の蓋石を五枚積み重ねた形をなし、江戸時代に島津重豪の手入れしたもの云ふ。賴朝は正治元年に薨じ法號を武皇嘯原大禪門と云つた。尙同じ山腹に大江廣元及島津忠久の墓がある。賴朝墓は指定の史蹟である。

【荏柄天神社】(一〇圖た3) 源賴朝墓の東、大藏山の麓にあり、賴朝の時代から既にあつた神社で、賴朝が始めて大藏に館を造營した時鬼門の鎮護となしたと傳へ、幕

高さ一米(三尺三寸)、両手を膝の上に重ね、靜かに前面を正視し、恰も禪定に入れるが如く氣高き國師の風貌を如實に現はして居る。室町時代の優秀な作で國寶に指定されて居る。寺背の錦屏山の頂には遍界一覽亭の跡があり、風景が佳い。尙境内に足利基氏の墓がある。

【杉本寺】〔天台宗〕(一〇圖さ4) 鶴岡八幡宮の東約一軒、大藏山の中腹にあり、大藏の觀音とも稱し、天平年間行基菩薩の創建と傳へ、本堂に十一面觀音像二體を安置して居る。何れも木造の立像で、その中大なるは慈覺大師の作と傳へ、相好豐滿莊重にして優秀な作である。小なるは惠心僧都の作と傳へ、兩手に來迎の印を結んで上下に捌き、その姿體極めて優美である。兩者とも藤原時代の作で國寶に指定されて居る。吾妻鏡には賴朝、政子及實朝の屢々參詣した記事があり、文治元年十一月廿三日の條には「夜に入りて大倉の觀音堂回録す。別當淨臺坊煙火を見て悲歎し、燭の中に走り入りて本尊を出す、衲衣纒に焦げたりと雖も身體敢て恙なし」とあるは、即ち今残れる十一面觀音像の、

とであらう。

【光觸寺】〔時宗〕驛の東約四軒、杉本寺から更に東にある。開山を一遍上人と傳へ、本堂に安置せる阿彌陀三尊の像は頬焼阿彌陀と稱して名高く、國寶に指定されて居る。木造漆箔、所謂安阿彌風の像で中尊の高さ約九一厘（三尺）鎌倉時代の優秀なる作である。この阿彌陀三尊の縁起を述べた二卷の繪卷物は、頬焼阿彌陀縁起と稱し、鎌倉時代土佐派の優秀なる作で、その縁起繪中の三尊が宛らこの本尊を直寫して居るのも一の興味である。この説話は砂石集にも載せられて居る。國寶に指定され、今鎌倉國寶館に出陳されて居る。

【圓應寺】〔臨濟宗〕（一〇圖な）建長寺の西南約三〇〇米、巨福呂坂切通の東側にあり、新井閣覺と稱し、建長二年の創建にして昔は由比濱大華表の東南にあり、後この地に移建されたと云ふ。本尊閻魔大王は玉眼、寄木造に彩色を施した雄大なる坐像で顔面朱をはき、黒い眉をつり上げ、大口を開き、惡業を必罰せんとする忿怒の相を現はした鎌倉時代の優秀な彫刻で國寶に指定され

建築の一代代表的遺構である。殿内には本尊地藏菩薩を安置し、尙脇佛壇には國寶北條時頼の木像が安置されて居る。  
法堂 佛殿の後方にあり、五間五面重層入母屋造、内部は瓦敷で文化年間の建築である。

唐門〔國寶〕方丈の正門で、正保三年徳川家光が佛殿と同時に移建したものである。その形式は向唐門で、各部に施された華麗な裝飾には、桃山時代の遺制を窺ふべきものがある。

昭堂（禮堂）〔國寶〕長祿二年の建築にかゝり、五間五面單層四注造茅葺、桝組は三斗出組を用ゐ、柱間は正面三間に棧唐戸をたて、その兩端の柱間には火燈窓を設け、内部は土間とし、左右後壁に接して脇佛壇があり、室町時代の清淡な趣味を現はした禪宗建築である。

寶物

- 一 大覺禪師像〔國寶〕 一幅 絹本着色 靈石如芝の贊あり。
- 一 大覺禪師畫像〔國寶〕 一幅 絹本着色 自畫自贊 長約一米（三尺五寸）高座に坐せる説法相の像である。瘦軀にして温厚なる如きも一種辛辣なる風貌

東京國府津間

て居る。尙大王の前には善惡鏡と稱し、惡相と善相の首が蓮臺の上に置かれて居る。堂内左右兩側には他の八王、奪衣婆及地藏の諸像が安置されて居る。この外國寶に指定された初江王及俱生神の像は鎌倉國寶館に出陳されて居る。

【建長寺】〔臨濟宗建長寺派本山〕（一〇圖な）驛の北約二軒、建長五年北條時頼の創建にかゝり、開山は宋の大覺禪師（諱は道隆、號は蘭溪）である。鎌倉五山の第一にして古來著名なる禪門の巨刹である。鎌倉時代の盛時に建立されたる建築物の今日に存するものはないが、後世の再建にかゝる三門、本堂、法堂、唐門、方丈、書院、昭堂、開山堂、禪堂などを有して居る。

本堂（佛殿）〔國寶〕正保三年徳川家光が崇源院殿の御靈屋を移して寄附したものである。五間五面重層四注造銅板葺、桝組は上層に唐様四手先を用ゐ、下層には出三斗を組んで居る。下層の正面には軒唐破風がある。内部は隨所に極彩色の裝飾を施し、天井の格間には金地に鳳凰を描けるなど、江戸時代初期に於ける華麗なる廟

を現はして居る。

- 一 大覺禪師法語規則 紙本墨書〔國寶〕 二幅
- 一 建長寺勸進牒 一卷 永正の奥書あり
- 一 過去帳 三冊
- 一 正嘉丁巳の條に「八月廿三日戌時大地震破水涌出」とある。
- 一 十六羅漢像〔國寶〕 八幅 絹本着色 光殿司筆 鎌倉國寶館出陳
- 一 釋迦三尊像〔國寶〕 一幅 絹本着色傳張思恭筆
- 一 喜江禪師像〔國寶〕 一幅 絹本墨書 玉隠叟永現贊
- 一 觀世音像〔國寶〕 三十二幅 絹本墨書
- 一 大覺禪師諷誦文 一幅 紙本墨書文中に弟子時宗云々とある。
- 一 和漢年代記〔國寶〕 二冊 足利時代初世に禪僧の手で編纂された古い年代記として珍重すべきものである。
- 一 西來庵修造勸進狀〔國寶〕 一卷 永正丙子四月廿四日玉隠筆
- 一 永正丙子は十三年であるが、淨智寺にも前年乙亥に書いた畧々同文のものがある。西來庵は建長寺開山大覺禪師の住んで居た寺で、この頃荒廢して居たのを修造せんための勸進狀で、玉隠永現は當代の學僧である。
- 一 髻漆須彌壇〔國寶〕 一基

東京國府津間

禪宗的須彌壇でその中腹正面にある獅子牡丹の彫刻は特に注意すべき點である。その彫法は立體に非らず半肉にあらず殆ど平面であつて、しかも物象のよく現れたもので、上に朱黒兩種の漆が塗付してある。これが所謂鎌倉彫で建長寺創立當時のものであつて現存する鎌倉須彌壇中最古の鎌倉彫である。

一 銅鐘〔國寶〕 一口 建長七年の銘がある

【浄光明寺】〔眞言宗泉涌寺派〕(一〇圖な三) 驛の北約一杆、扇谷山の麓にある。建長三年北條長時の創建で、眞阿上人を以て開山とした。

本尊阿彌陀三尊坐像は寄木造玉眼で阿彌陀堂内に安置されて居る。中尊は結跏趺坐の像で、高さ一米四(四尺六寸餘)、上品中生の印を結び、面貌豐滿にして頭上に寶冠を戴き、衣には所々に土紋を施して居るのは時代並に地方の好尚を語るものとして面白い。彩色は僅かに殘存するも全面に下地の布と褐色のさびが殘つて居る。脇侍觀音勢至の像は箕坐して複雑な褶襞を疊み、首を内側に傾けて居る。何れも鎌倉時代中期の一派の様式特徴を有し國寶に指定されて居る。

後の山腹には石地藏の坐像があり、その背に次の銘

あり、史蹟に指定されて居る。俊基は後醍醐天皇を輔け奉つて北條氏討伐の計畫を進めた爲に、鎌倉で斬られ、葛原岡の露と消えた忠臣であつた。尙彼の靈はこの墓の北にある葛原岡神社に祀られて居る。

【光明寺】〔浄土宗〕(一〇圖な三) 驛の南約二杆、門前にあり。初め北條經時が佐介谷に創立し、蓮華寺と云ひ僧良忠を開山としたが、寛元元年今の地に移し光明寺と改稱した。

寶物

一 當麻曼茶羅繪卷〔國寶〕 二卷

紙本著色 附寛政五年松平定信添書一卷  
有名な大和當麻寺の浄土曼茶羅の成れる縁起を描いたもので鎌倉時代當麻曼茶羅模寫の盛行につれて作り出されたものである。簡勁な筆致と寫實的に富んだ鎌倉時代中期の優秀な作品である。筆者を住吉慶恩となす説もあるが疑はしい。

一 當麻曼茶羅圖〔國寶〕 絹本著色 鎌倉時代

鎌倉時代浄土信仰の流行と共に彌陀浄土の曼茶羅即ち當麻曼茶羅が盛に製作された。本圖もその遺品の一である。佛菩薩の描寫に鍍金を施し佛身を金箔押となし五彩の色どりが絢

東國國府津間

文が刻されて居る。

供養導師仙長老

正和二年十一月

施主眞覺

□□□

尙山頂には有名なる鎌倉時代の歌人冷泉爲相の墓がある。水戸光圀の再建にかゝる寶篋印塔で史蹟に指定されて居る。

【壽福寺】〔臨濟宗〕(一〇圖な三) 驛の北約半杆、源氏山の麓にある。正治二年源頼朝の夫人政子が當寺を創建し榮西を以て開山とした。實朝が屢々當寺に參詣したことは吾妻鏡に出て居る。本尊地藏菩薩の立像は木造、鎌倉時代の作で國寶に指定され國寶館に出陳中である。寺後山麓の窟を俗に唐草矢倉と呼び、その内に實朝の墓と傳ふる五輪塔があつて、その塔の後に九〇厘四方の石棺がある。更にこれと並んで他の窟内に政子の墓と稱する五輪塔がある。

【日野俊基墓】(一〇圖な三) 驛の西北約一杆半、葛原岡に

爛である。

一 浄土五祖繪傳〔國寶〕 一卷 紙本著色 鎌倉時代

浄土の五祖を順次に書き、一圖毎に紙面の上方に一區劃を設けて數行の略傳が漢文で書いてある。宋畫から得た簡素な筆意で人物の稚態を帯びた描寫に却て恬淡な時代相が窺はれる。奥書に金泥で「嘉元第三雁林鐘中五日終功畢」とあつて製作年代が明白である。

一 十八羅漢及僧像〔國寶〕 十九幅 絹本著色

以上鎌倉寶物館出陳

【鎌倉大佛】〔國寶〕(一〇圖な五) 驛の西約二杆、長谷にあり、高德院の管理に屬して居る。金銅製阿彌陀如來の坐像で、相好圓滿端嚴、兩手を膝の上に安じ彌陀の定印を結んで居る。建長四年に鑄造されたもので佛身の高さ一米餘(三丈七尺五寸)重量九三、七五〇斤(約二萬五千貫)、面長大工丹治久友と云ひ、わが國大佛中の逸品である。應安二年九月大風の爲に堂宇顛倒し、明應四年八月由比濱の海水激奔して再び佛殿を破壊し、その後露天のまま今日に至つて居る。大正十二年の大震災には臺座前

面三〇糶（二尺）沈下し、佛體が約三六糶（二尺三寸）前方に  
迂り出したが、今は立派に修理されて居る。

【長谷寺】〔淨土宗〕（一〇圖ら）驛の西南約二軒、山腹に  
あり石段によつて達し、長谷の市街、由比ヶ濱、葉山  
の海濱等が見え景趣に富んで居る。本堂には約九米（三  
丈）の巨大な十一面觀音の立像が安置されて居る。足利  
尊氏が佛體を修飾し、明德三年義滿が光背を奉納した  
と云ふ。

本堂内に國寶の銅造十一面觀音懸佛があり、その數  
六面、そのうち次の銘文あるものは今鎌倉國寶館へ出  
陳されて居る。

- 敬白奉造立御聖體壹面
- 新長谷寺觀世音菩薩御寶前右爲依命
- 宿願成就奉造之處也
- 現世安穩後生善處子孫安樂無病延命
- 造進如件

嘉曆元年十月九日 安部光能敬白  
尙本堂の傍には大なる銅鐘があり次の鑄出銘がある。

新長谷寺

て觀覽を許して居るが、左記の國寶は何れも鎌倉國寶  
館に陳列されて居る。附近に開山忍性及北條重時の墓  
があり、共に指定の史蹟である。

- 一 十大弟子立像 十軀
- 一 木造釋迦如來坐像 一軀
- 一 木造不動明王坐像 一軀
- 一 金銅五鎧鈴 一個
- 一 金銅五鎧 一個

逗子驛（一二圖さ）神奈川縣三浦郡逗子町

△乗合自動車 田浦驛行 三崎行 金澤行

【逗子海水浴場】驛の西約一軒半、鎌倉の由比濱、片  
瀬、鵜沼などと同じく、東京から日歸りの出来る海水  
浴場として知られ、鐵道省經營の海の家がある。附近  
には蘆花氏の小説「不如歸」によつて知られた、いは  
ゆる浪子不動、平維盛の子六代御前の墓、鐙摺城址な  
どの名所がある。旅館 逗子ホテル、養神亭、日影茶  
屋外數軒。

【神武寺】〔天台宗〕驛の東約三軒、逗子町沼間山の頂上  
景勝の地にあり、山麓よりやゝ急なる坂を登ること約

東京國府津間

椎鐘威力 十方施主  
濟除不祥 消除災難  
心中所願 決定成就  
檀波羅密 具足圓滿

文永元年甲子七月十五日  
當寺住持眞光  
勸進沙門淨佛  
大工物部季重

【御靈社】（一〇圖や）長谷寺の南約三〇米、鎌倉權五郎景  
政の靈を祀る。景政は後三年の役に武勇の名を輝した  
人で、後三年合戦記に出て居る。

【由比濱】（一〇圖）驛の西南約一軒、稻村ヶ崎から江ノ  
島あたりの眺望がよい。海は遠淺で波も靜か、婦女子  
にも危険の無い海水浴場である。

【極樂寺】〔眞言律宗〕（一〇圖ら）驛の西南二軒半、正元元  
年北條重時の建立にかゝり僧忍性を開山とする。釋迦  
堂に安置せる釋迦像は京都嵯峨清涼寺の釋迦像を模し  
たもので國寶に指定されて居るが、毎年四月八日開扉  
の時以外は拜觀を許さない。尙堂内には寺寶を陳列し

一軒にして達する。藥師堂には藥師三尊を安置し、行  
基の作と稱するも秘佛にして開扉を許さない。尙寺寶  
中に鎌倉時代の大威徳明王の畫像がある。

【葉山海水浴場】驛の南四軒、自動車の便がある。葉  
山御用邸のある景勝地、江の島が前面に美しく眺めら  
れる。近くに恩賜公園、森戸明神などがある。旅館長  
者園外數軒。

【淨樂寺】〔淨土宗〕驛の南約九軒、西浦村芦名にあり、  
自動車の便がある。文治五年和田義盛の建立した七阿  
彌陀堂の第二と稱し、寂惠上人を中興とす。本堂に寄  
木造阿彌陀三尊の像が安置されて居る。中尊は結跏趺  
坐の像で高さ一米餘（約三尺三寸）、形相は阿彌陀佛といふ  
よりも寧ろ藥師如來に近いもので衣紋の刻出に強い趣  
を有し、藤原末期に行はれた一派の様式を思はせる。  
左右の脇侍は立像で高さ各約一米半（五尺餘）、兩方とも  
内側の手を下げ他方をあげて蓮枝を持ち、少しく腰を  
れぢり體を内方に傾けて居る。惜しい事には後世漆箔  
を塗替へたため本來の面目を損するものがある。

東京國府津間

三尊何れも製作優秀にして鎌倉時代の雄健なる特徴を存し國寶に指定されて居る。尙中尊の胎内には一面に梵字の墨書があり、二百餘體の彌陀の小佛が納められて居ると云ふ。

構須賀驛 (一二圖から) 横須賀市逸見

東京から 六二軒四 三八哩八 一時間半

△乗合自動車 浦賀行 田浦行 堀ノ内行 法塔行 久里濱行

上富田行 三崎行

△旅館 一國屋(湊町) 横須賀館(汐入町)

一日平均

乗車人員 六、二六七人

降車人員 五、八九〇人

發送貨物噸數 五〇噸

到着貨物噸數 四五〇噸

主要發送貨物

肥料 鐵及び鋼製品

主要到着貨物

砂利 米 木材 木炭 石油類 清酒 麥 石材 鐵及鋼製品

セメント 機械類 麥酒 生野菜

【横須賀市】(一二圖から) 慶應元年今の海軍工廠の前身たる横須賀製鐵所の設置と共に興つた都市で、明治十

アダムスと云ひ、慶長三年豊後に漂着した和蘭船の乗組員であつたが、慶長五年徳川家康に仕へて造船のことに與り、采地二百二十石を逸見村に賜はり三浦安針と稱した。

【軍艦三笠】 驛の東一軒餘、市内白濱海岸にあり、自動車の便がある、今は武装を解除して、船體だけが混凝土の臺上に据ゑ付けられ、艦内に海戦記念品及海軍參考品などを陳列して一般の觀覽に供して居る。三笠は明治廿二年英國で建造され、同三十七八年戦役にはわが聯合聯隊の旗艦として日本海々戦に従つた。當時の東郷司令長官の居室など今に存して居る。

【大津海水浴場】 驛の東南二軒半、自動車の便がある近くに弟橘姫を祀つた走水神社がある。大津から東方に進めば観音崎の燈臺に達する。旅館 勝男館、若松館外數軒。

【浦賀】(一二圖から) 驛の東南約八軒、自動車の便がある。江戸時代には番所を置き、江戸方面に往來する船舶を檢閲した處で、幕末には奉行が置かれて居た。明治

七年に鎮守府が設けられ重要な軍港となつた。人口約九萬六千。

△官公廳その他

市役所(大瀧町) 横須賀鎮守府(稻岡町) 海軍工廠(元町)

海兵團(楠ヶ浦) 砲術學校(泊里町) 重砲兵聯隊(不入斗町)

東京灣要塞司令部(中里町) 水交社(稻岡町)

△新聞社 相模中央新聞(小川町) 武相新聞社(若松町)

軍港よろづ新聞社(深田町) 半島日報社(汐留町)

△病院 海軍病院(稻岡町) 衛戍病院(中里町) 市立病院(深田町)

田町)

△料理店 魚勝(大瀧町) 常盤(同) 吾妻館(同) 小松樓(深田町) 萬千樓(同)

△娛樂場 松竹館(大瀧町) 三笠館(小川町) 谷川館(若松町)

横須賀常設館(同) 電氣館(同) 安浦館(安浦町)

【三浦安針墓】 驛の西一軒半、逸見町塚山の頂上にあ

り俗に安針塚と云ふ。山麓よりや、峻しい坂路を登ると小高い丘陵の上に二つの寶篋印塔が竝んで居る。向

つて右は安針、左のや、小さいのはその妻女の墓で指定の史蹟である。安針は英國人で本名をウイリアム、

年間よりは船渠が設けられ、造船及船舶修理の業が行はれて居る。

【久里濱ベルリ上陸記念碑】 驛の東南約一〇軒、自動車の便がある。三浦郡久里濱村大濱の海濱にある。嘉永六年六月九日米國水師提督ベルリが最初に上陸した地點を記念するもので高さ約一〇米、米友協會の建設にかゝり題字は伊藤博文の筆である。

【衣笠城址】(一二圖から) 驛の南方約八軒、丘陵の上にあり。城は平安末期に三浦氏の築いたもので、治承四年畠山重忠などのために攻められ、城主三浦義明が戦死した處である。今公園となつて居る。

【三崎臨海實驗所】 驛の南約二〇軒、三浦郡三崎町の北五軒、油壺灣と小網代灣の間に突出した岬頭にあり東京帝國大學理學部の附屬で、この種の實驗所中最も古いものである。

その水族館及標本室は四月より十一月までの間は一般の觀覽に供して居り、海水浴も出来る。此邊は戰國の頃三浦氏の居城の址で、その本丸址と稱する所には



實驗所の寄宿舎がある。この地から掘出した兜の鍬形が實驗所標本室に陳列されて居る。

【油壺驗潮場】三崎町油壺にあり、驛から途中まで自動車の方がある。こゝには断面六〇糎平方、深さ大千潮面下五〇糎乃至一米に達する井戸があり、井底の上部約二〇糎の處に中徑八糎の通水孔が設けられ、その外海に通ずる孔頭には細孔を穿てる蓋が附けられて居る。かくて井内の水面は、波浪の影響を極度に減却した海面と相等しきものとし、井側には一の突起部を設け、その上表面を驗潮場に於ける諸原子測定用の固定點として居る。井戸の直上には驗潮室があり、ロードケルビン自記驗潮儀が設置されて居る。これは井底に浮游する浮子の上下運動を約二十分に縮小して、時計装置により一晝夜に一回轉をする圓筒の面に印するものである。その印せる潮位曲線により日次中等潮位を測定し、これより月次年次の中等潮位を算定する。驗潮は明治二十七年に開始し現今繼續中である。こゝで測定された中等海面の値から、精密水準測量によ

△江ノ島電車 藤澤鎌倉間一〇料三六哩四

△小田原急行電車 新宿、新原町田、藤澤、片瀬江ノ島間

六〇料三七哩三

△乗合自動車 厚木行 櫻株行 茅ヶ崎行 引地橋行 片瀬行 鶴沼行

【遊行寺】(時宗總本山)(二圖たろ)驛の北約一料、自動車の便がある。正中二年遊行四代他阿上人を以て開山となし清淨光寺と稱した。

遊行寺はその俗稱である。延文年中には足利尊氏が堂宇を修造したことあるも、今の寺院は近年の再建で、大正十二年の震災には堂塔多く倒潰し、復興中である。寺寶の後醍醐天皇畫像は國寶に指定され東京帝室博物館へ出陳されて居る。その他約三百點の寶物あるも縦覽の便宜がない。境内に敵味方の碑がある。應永二十二、三の兩年上杉氏憲、足利基氏が戦つた時の兩軍死者供養のために建てたものである。

【龍口寺】(日蓮宗本山)驛の南三料、電車の便あり、片瀬の丘上江ノ島の對岸にある。日蓮上人法難の舊蹟と

り導いた東京參謀本部陸地測量部の水準原點の眞高二四米五は三耗の差で一致した。油壺驗潮場の附屬水準點眞高は三米三三である。

【三崎海水浴場】驛の南約二〇料、逗子驛からは東南二四料共に自動車の便がある。三崎は三浦半島の最南端に位し、前面に城ヶ島の自然防波堤あり、古來商船漁船の寄泊地として世に知られ、今は専ら鮮魚の大集散地となつて居る。鎌倉時代には將軍頼朝この地の風光を愛して幾度か來遊し、櫻の御所、桃の御所、椿の御所など當時居館の址と傳ふる場所が残つて居る。海水浴場は字二町谷と城ヶ島の遊ヶ崎と小網代の海濱に設けられる。旅館 岬陽館、三崎館、はつせ館、青柳館、久の家、鹽瀬館外數軒。

大船を出て西南に向ひ右方に近く農事試驗場の芍薬園を望み、西に折れて藤澤二哩八に着く、小田原急行電線の江ノ島線はこゝで交叉する。

藤澤驛(二二圖たろ) 神奈川縣高座郡藤澤町

して名高い。即ち文應年間立正安國論を書いて執權北條時頼に送り、更に文永八年幕府社寺司に對し、禪宗、浄土宗などの禁制を強請した爲め幕府の怒りを買ひ、同年九月十二日夜斬罪に處せられんとした所と傳へて居る。弘安の頃門弟等が協力して堂宇を建立し日蓮上人を開山とした。今の堂宇は明治年間の再建である。境内に接して龍口園があり、展望に富んで居る。

【江ノ島附近海水浴場】江ノ島を前景とした鶴沼、片瀬、腰越は遠淺の靜な海で、江ノ島鎌倉の名勝めぐりと相俟つて、夏期には東京から日歸りの海水浴客が雲集する。鶴沼、片瀬には藤澤から小田原急行電車、江ノ島電車の便あり、腰越は江ノ島電車土橋停留場下車旅館鶴沼に東家、江ノ島に岩本樓、金龜樓外數軒。

【江ノ島神社】(縣社)片瀬から棧橋を渡つて達する。邊津宮、中津宮、奥津宮と稱し三ヶ所に社殿があり、奥津宮には多紀理比賣命、中津宮には市寸島比賣命、邊津宮には田寸津比賣命を祀る。壽永元年源頼朝の本願によつて、文覺上人が辨才天を勸請し、鎌倉幕府の

崇敬厚く巖島、竹生島と共に有名であつた。元は金龜山きんきゅうざんと稱する梵刹であつたが、明治初年神社とした。七月十四日の例祭は神輿渡御などがありて頗る賑ふ。奥津宮の先、島の南岸相模灘の怒濤の寄せて居る所を稚兒ちごヶ淵かちと稱して居る。尙進み隧道を抜けると岩窟がある。御岩屋おいはやと稱し、その奥には邊津、中津、奥津の三祭神が併せ祀つてある。

【江ノ島】(二二圖とも)島の海拔四〇米以下は地質上第三紀の凝灰岩及凝灰質砂岩などより成り、對岸の片瀬附近と共に第三紀の末に隆起した陸塊の一部で、その表面は一時淺海の下に海蝕臺地となつて居たものである。その後漸次隆起しその際海水に侵蝕せられて陸地と斷たれ、上には火山灰を戴き、その分解して赤土層となつたものが二〇米の厚さに重なつて居る。南岸にある御岩屋と稱する洞窟は、塊狀の凝灰岩中に北西に走る斷層に沿ひ、海水に侵されて出來たもので、窟の天井には斷層の割目われめの一直線をなして走つて居るのが見られる。洞口から百歩ばかり入りつた處に斷層は二筋

になり、洞はその一に沿うて深く入り込んで居る。更に進むこと五十歩ばかりで一〇度ほどの角度で交叉する。斷層のために洞は二つに分れ、兩方とも四十歩ばかりで行き詰りになる。洞窟は一枚岩の磨肌みがまだを現はし斷層であることを示して居る。洞窟の生じた後江ノ島は漸次隆起し、特に大正十二年關東大地震の際に俄然一〇米の隆起をなし、附近に第二の海蝕臺地が海水面上に露出して居る。

【相模國分寺址】小田原急行電車線海老名えびな國分こくぶん驛の南一軒、海老名村國分こくぶんにあり。遺址は南北一軒に亘り、講堂、金堂及七重塔婆の址は、村役場の西北三〇米の畑中はたけなかにあり、講堂址は礎石群を殘存し、後二者は何れも土壇が遺存し、各々十數箇の礎石並に多數の遺瓦が散在する。これら諸堂址の北に當り鐘樓及鼓樓址の土壇があり、南に中門址の礎石をとゞめ、これらを連れた廻廊址の礎石も遺存する。更にこれら遺址の南五〇米にある小學校々庭内に八幡社址の礎石群あり、その東三〇米の丘陵上に藥師堂址がある。また小學校の南

大檀那 源季頼

夫以當寺者、維聖武皇帝之御願、醫玉善逝之聖迹也、鐘聲者亦佛閣住持之莊嚴、魔界降伏之形聲歟、爰逸韻絕而茲久、樓臺荒而陽積之、緣之跋之、凡厥所祈者、天下靜謐、國土豐饒矣、所仰者、伽藍繁昌、子孫泰平焉、乃至法界平等、利益無邊而已

正應五年 歲次 壬辰 十月六日

平氏女

源氏女

源季久

大工大和權守物部國光作

一聽鐘聲 當願衆生 脫三界苦 得證菩提

【水堂觀音像】(國寶)同海老名國分驛の東約半軒、海

老名村國分清水寺にある。木造、高さ約二米一(七尺)

千手觀音の立像である。漆箔その他に後世修補のあと

はあるが、その形相雄大、製作優秀にして模古の風を

存する鎌倉時代の作である。

【太田道灌墓】同伊勢原驛の西北四軒、大山寺に至る

途中、高部屋村上槽屋洞昌院内にある。

【大山(雨降山)】(二二圖は4) 同伊勢原驛の西北一二軒、

平塚驛からは北一四軒、大山町の西北にあり、共に大山

方にあたり南大門址を存する。寺址は規模の雄大なこ

と武藏國分寺址に次ぎ、創建當時の盛觀を窺ふべく指定の史蹟となつて居る。

尙尼寺址は驛の南二〇米の畑中はたけなかにあり、僧寺址の北に連り、金堂址には土壇上に礎石を存し、その北に講堂址の土壇あり、南に中門址、西南に西塔址ありて何れも礎石を存して居る。

村役場の門前そんこくわんにある温古館そんこくわんには、國分寺址出土の遺瓦その他附近出土の石器時代の遺物類を陳列して居る。

【國分尼寺銅鐘】同海老名國分驛の南約一軒、相模國分寺址の一隅に存する國分寺にある。高さ約一米四(四尺六寸)口徑約七〇糎(二尺三寸四分)上部に飛雲ひぐんを陽刻し、周圍の銘文によると、この鐘は鎌倉時代に海老名氏一族源季頼が再興して國分尼寺に寄進したもので、當時當國の國分尼寺が存在して居たことを徴する貴い資料である。今國寶に指定されて居る。

大日本國相州國分寺槌鐘

町迄自動車の便がある。海拔二、三米頂上に阿夫利神社〔縣社〕がある。延喜式内の古社で大山祇神を祭る、源頼朝が社領を寄附して以來武家の崇敬が厚かつた神社で、春夏秋の大祭には大山詣でまたは石尊參りと稱して登山者が多い。登山路は急坂で石段が多い。殊に追分社から下社下迄の男坂には九百四十餘の石段がある。

大山町に入ると講社の參籠する先導師の家が軒を並べて居る。町を過ぎて大山川に沿うて上ると右方に良辨の瀧があり、更に進むと元瀧がある。それから約二五〇米で追分社に出る。こゝで道は男坂と女坂に分岐して居る。割合に石段の少い女坂を登る方が幾分樂である。女坂を上ること十數分で右手に社務所があり、裏手の急な石段を上ると大山寺不動堂がある。そこから無名橋を経て磴道を上ると日露戰役忠魂碑の上で男坂と合する。こゝから約五分で下社につく。

本社は下社から更に二軒餘、下社裏の神門から上る、こゝから本坂と稱して急坂が多い。鳥居杉を過ぎ、杉もみの大木の間を通り、縁結びの木を見ながら進むと

八軒、高部屋村日向山の中腹景勝の地にある。途中新田まで自動車の便がある。創建の時代は詳かでないが日向靈山寺として夙に有名であつた。鎌倉時代になつて幕府の崇敬厚く頼朝も政子も屢々參詣した。本堂に安置せる藥師三尊の像は平安時代の作である。本尊は高さ約一米二(三尺八寸五分)蓮座上に結跏趺坐し、右手は胸前に持ち、掌を外に向け説法の印を結び、左手は膝に置き掌を上にして藥壺を載せ、二重圓光を負つて居る。一木造の鈍彫で全面に鑿のあとを現はして居るが面部は頗る奇麗に仕上げられ、鼻目口唇の造作は刀法鋭くして直截の趣致に富み、頗る巧妙なる運刀を現はし、軀幹は丈夫の如く雄偉にして、面貌には極めて平靜溫和なる表情があふれて居る。兩脇侍は立像にしてその彫法本尊と同じく頗る神韻生動の表情に富み、本尊と共にその作優秀にして平安中期の特徴を存して居る。この外本堂内には日光月光兩菩薩の像、四天王像及十二神將像が安置されて居る。何れも國寶で日光月光兩菩薩は約二米四(八尺)の巨像でその姿態やさしく

頂上に著く。

頂上には本社の外に奥社及前社がある。社殿の前に雨降木と稱する高さ約三米、樹幹周圍二米七(九尺)の大木があり常に雨滴を有して居る。山頂は眺望雄大、晴天には江ノ島から東京灣を南方に、北方には丹澤山及秩父の連山を俯瞰することが出来る。

【大山寺不動明王像】〔國寶〕阿夫利神社への途中大山の中腹にある大山寺の本尊である。高さ約九八糎(約三尺二寸三分)結跏趺坐の像で前に二童子の立像があり、高さ各約六五糎(二尺一寸五分)何れも鐵製である。本尊は右腕を廣く張つて三鈷劍を持ち、左腕は肘を張つて繩索をとり、肉付逞しくして不動明王にふさはしい魁偉の形相がよく現はれて居る。鑄膚は極めて粗雑であるが却つて豪壯な感がある。その形相手法などに鎌倉時代の特徴を有し、鐵佛に於て稀に見る大作である。この像はもと山頂の阿夫利神社にあつたもので大山寺は同社の別當であつた。

【日向藥師(寶城坊)】〔眞言宗高野山派〕同伊勢原驛の西北

褶襷の手法繼細の所あるはこの地方に珍しい様式のもので鎌倉初期の作である。その他はこれに次ぐ時代の作である。尙境内の鐘樓にかゝつて居る銅鐘〔國寶〕には曆應の銘文がある。一區劃内に藥師三尊の種子を刻し銘文の末に「勸請十二神將」とあるは現在の十二神將であつて銘文として珍らしい。

【七澤鑛泉】同伊勢原驛の西北八軒、自動車の便あり、東海道線方面からは平塚驛下車西北一八軒、自動車は伊勢原で乗換へるのである。弱硫黄泉で加熱して居り婦人病、リウマチス、胃腸病などに効くと云ふ。旅館玉川館、中屋、福本館。

【鶴巻鑛泉】同鶴巻驛附近、カルシウムの含有量多く心臟病、腎臟病、腦病、リウマチス、胃腸病などに効くと云ふ。旅館光鶴園、つるや、遊樂的の氣分が濃い。

藤澤を出て西に向ひ辻堂二軒七を過ぎ、左方に砂丘上の松林を望み茅ヶ崎三軒九に至れば相模鐵道(茅ヶ崎厚木間 一四軒六一九哩二)は右に分れる。これより相模川(馬

入川)にかゝる。右方に街道の馬入橋及大山を望み、左方に相模灣の海上に大島の三原山の噴煙を眺め、平塚五軒三に著く。驛を過ぎると左方に桃畑及紡績工場を見、花水橋を渡り、右の方緑濃き高麗山を仰ぎ、街道の松並木を横ぎり、大磯三軒九に至る。こゝは右に山を負ひ左は海に臨み、湘南の保養地として最初に發達した處である。

【辻堂海水浴場】 辻堂驛の南二軒、松樹亂立の砂丘を背にした遠淺の海である。

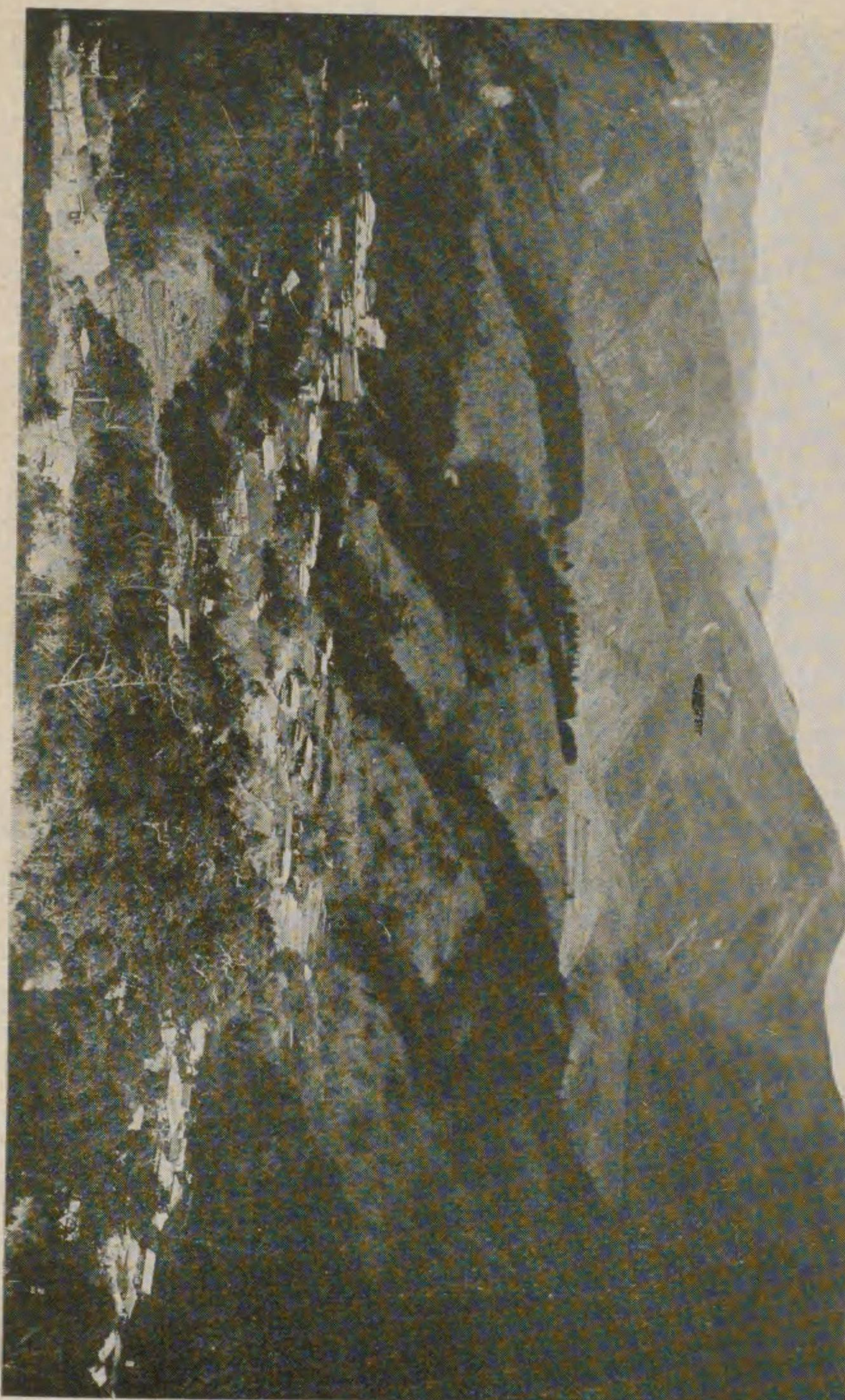
【茅ヶ崎海水浴場】 茅ヶ崎驛の南約一軒、自動車の便がある。前面には姥ヶ島、平島などの岩礁波浪を遮り好箇の海水浴場をなして居る。こゝに呼吸器病専門の南湖院がある。旅館 茅ヶ崎館、松風亭。

【寒川神社】 (國幣神社) 相模鐵道寒川驛の北約二軒、寒川村にある。延喜式所載の古社で寒川比古命及寒川比女命を祀る。もとは相模國一宮として名高く武家の崇敬が厚かつた。毎年六月廿一日の國府祭及七月十五日の濱降祭には参拜者多く大に賑ふ。

【平塚海水浴場】 平塚驛の東南約一軒半、自動車の便あり、青松白砂の海濱、波は靜かである。旅館 翁館、宗龍館、旭館外數軒。

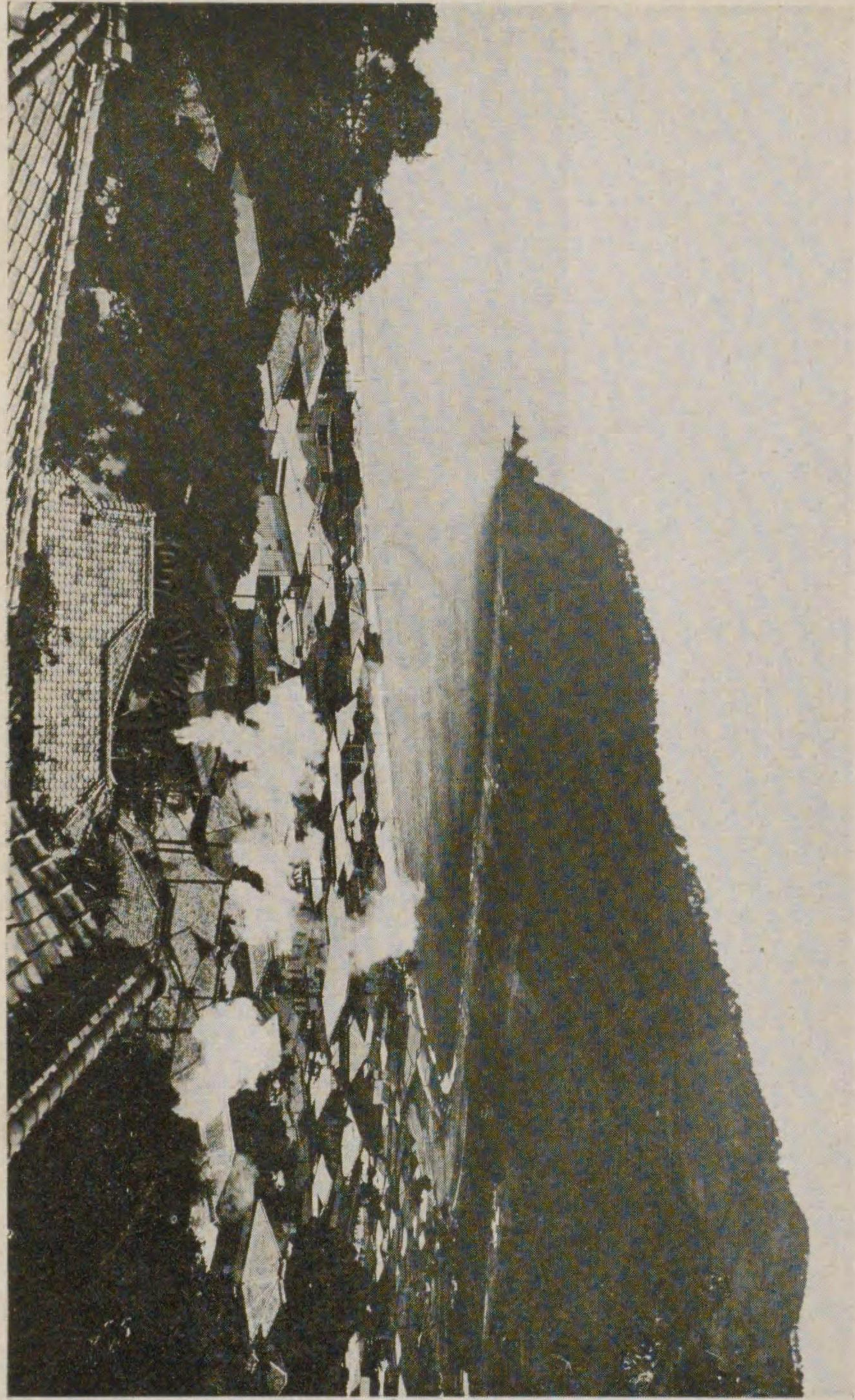
【大磯海水浴場】 大磯驛の西南半軒、海水浴場は南濱と北濱にあり、南濱は照ヶ崎の波際で翁島、臺島、俎礁など散在して波を遮り、天然プールとも云ふべきものである。この地は明治十八年の夏松本順氏によつて開かれた海水浴場で、わが國に於ける海水浴場の元祖地として知られて居る。海邊一帶は今「殆んど別荘地となり、附近には鴨立庵、高麗山、大千疊敷、小千疊敷などの名所がある。旅館 禱龍館、角半、油屋外數件。

【鴨立庵】 大磯驛の西一軒、西行法師の「心なき身にもあはれは知られけり鴨立澤の秋の夕暮」の歌によつて名高い處で、後俳人大淀三千風こゝに庵を結び、爾來代々俳人を庵主として今日に及んで居る。庵には西行法師の木像及虎御前の木像が祀られて居る。また數多の句碑がある。その傍を流るゝ細流が鴨立澤であると云ふ。



泉 温 原 河 湯

泉 温 林 游



[Faint, illegible text or bleed-through on the right page]

大磯より海岸の狭き平野を西進し二宮二宮 五軒三に至れば  
右に變電所が見え、秦野またろに至る湘南軌道二宮秦野間 一〇  
軒一六哩二が右方に分れる。この方面からの大山登山  
者はこの鐵道を利用する。次に國府津四軒七  
二哩九に著くと  
熱海線は左方に分れる。東海道本線の列車は東京から  
こゝまで電氣機關車によつて牽引される。

【王福寺藥師像】〔國寶〕 二宮驛の東北約四軒、中郡國  
府村寺坂王福寺にあり、自動車いちぼくつくりの便がある。一木造、  
高さ約一米三四尺三寸全面黒ずんで唇にのみ朱色を存  
し、面貌豐滿、偉風堂々たる結跏趺坐けつかふざの像である。首  
部の相好さうごに著しく藤原時代の特徴を示すも、胸部その  
他の曲線まげにやゝ柔かみやはらかを缺くものあるは、鎌倉時代初  
期の製作なるが故であらう。蓋しこの地は鎌倉時代に  
相模國府のあつた所で、この像は即ちその當時盛んで  
あつた王福寺わうふくじの名残を止むるものである。

國府津驛（一二圖ま） 神奈川縣足柄下郡國府津町

△熱海線 國府津熱海間 二六軒九一六哩七

東京國府津間

△乗合自動車 小田原行 小竹行

【國府津海水浴場】 驛附近の海岸、長松林立せる丘陵  
の下砂濱長く續いて居る。やゝ浪が荒い。旅館 國府  
津館、蔦屋、東屋外數軒。

國府津 熱海間

國府津から酒匂川河谷の平野を西進し、砂利を發送する鴨宮一哩九を過ぎ、酒匂川を渡り小田原二哩〇に著く。

小田原驛 (一二圖まら) 神奈川縣足柄下郡小田原町

東京から 八三軒八―五二哩 約二時間

△箱根登山電車 小田原強羅間 一五軒五―九哩九

△小田原急行電車 小田原新宿間 八二軒七―五一哩四

△大雄山鐵道 新小田原大雄山間 九軒三―五哩八

△乗合自動車 宮ノ下行 箱根行 新松田行 熱海行 御殿場行 三島行 沼津行

△旅館 藤館 養生館 松月館

【小田原城址】(一二圖まら) 驛の南一軒、東南は相模灘に臨み、西に箱根、足柄の諸山を負ひ、南に早川の流を帯び要害の地を占め、半ば山城に屬する。本丸、天守台、二の丸及内外濠の址が残存して居るが、内城の

山鐵道によりその終點大雄山驛に至り、更に西南四軒箱根山の東北中腹に位し、本堂には十一面觀音を安置し、寶殿には道了薩埵を祀つて居る。毎月二十七、八日を祭日とし、特に一、五、九の三月には大祭があり、徹夜參詣するものが夥しい。

【箱根山】(一二圖) 箱根山は二重式火山で外輪山には金山時山、明神岳、明星岳、鷹巢山、要害山、鞍掛山、山伏峠、三國山、丸山岳などがほゞ環狀に連り、最高點は金時山の二、三三米、最低處はのぞき臺の七三米で、外輪山の平均高距は二、〇〇米内外である。その圍む舊火口は直徑南北約一二軒東西約六軒半、面積二五方軒、火山分類上ホマーテに屬す。その内に噴出せる中央火口丘はその數四箇に達し、ほゞ西北から東南に排列し、最北を神山と云ひ、その南に駒ヶ岳、更に上二子山があり、最南のものを下二子山と云ふ。中にも神山は海拔一、四三米に達し、箱根諸山中の高峰である。その山體の東北腹には大涌谷、早雲地獄、湯ノ花澤などの爆裂火口を存し、現今尙水蒸氣及硫氣を噴出

一部は宮内省の用地となり、外郭の東南部は女學校、小學校の敷地となつて居る。大正十二年の大震災の折に壁壘は大部分崩壞した。城は明應四年北條早雲がこゝに據つて箱根の嶮を扼し以て關東に覇を唱へた處で爾後代々北條氏の居城であつたが、天正十八年豊臣秀吉に攻められて落城した。江戸時代には大久保氏の居城となり明治維新に及んだ。

【報徳二宮神社】(縣社) 驛の南約一軒、電車の便がある。小田原城址の一角、景勝の地にあり、二宮尊徳を祀る。社殿は神明造で明治二十七年の創建である。

【大久保神社】(縣社) 驛の西約二軒、報徳二宮神社の後方、小田原城址の一隅にあり、大久保忠世を祀る。忠世は徳川家康に仕へて武功あり、後小田原に封ぜられ、子孫累世小田原城主となる。社殿は神明造で明治二十六年の創建である。

【御幸ヶ濱海水浴場】 驛の南約一軒、自動車の便がある。波はや、荒い。

【大雄山最乗寺】(曹洞宗) (一二圖まら) 小田原驛から大雄山、また温泉を噴出して居る。その中大涌谷は最も盛で泥水を湛ふる熱池、泥火山、硫質噴氣孔、噴泉などがあり、爆裂の餘勢を示し、爆裂の結果硫出した泥流は仙石原、宮城野などの火口原に達して居る。上二子と下二子の二山、神山と駒ヶ岳の二山は各その形状、高距などよく類似し、何れも火山分類上トロイデに屬し、熔岩の凝固したもので、傾斜は比較的急で、高距は座積に比して大きい。火口原は蹄鐵狀をなし、その西南部には水を湛へて蘆湖となり、その北に仙石原、東北に宮城野原がある。これらの原野はもと湖底を存して居たものである。火口原の水は外輪山の一部を破つて火口瀨をなす。その北にあるものを早川と云ひ、南にあるものを須雲川と稱す。この二流は湯本で相合し、小田原の南で相模灣に注いで居る。宮ノ下、堂ヶ島のあたりは早川の外輪山を破る處で溪谷が極めて深い。

【箱根の諸温泉】(一二圖) 箱根はその山水美と温泉の設備と相俟つて東京附近第一の遊覽温泉郷として知られ

て居る。山は二重式火山の範型で、今やその活動は殆ど終熄して居るが、外輪山、裾野、陷没火口、火口丘、火口原、火口原湖、火口瀨、爆發火口、噴氣孔、温泉など悉く備はり、その外輪山は橢圓形で、南北約一二軒、東西約六軒半に及んで居る。國府津附近に立つと、この雄大な全山の山容を一目に見渡すことが出来る。即ちその兩翼には、蜿蜒として八字形をなす兩熔岩流がながく連り、一は眞鶴岬に至つて海に没し、相模灘の荒波に噛まれて絶壁をなすところに三つ岩の奇岩を望むべく、一は結飯の如き矢倉岳の麓をかすめて關東の山彙と接し、酒匂川の急瀨に洗はれるところに東海道本線の鐵路が通じて居る。その間には幾多の村落相連り海陸相打つ處には、後北條氏の小田原城址があつて、著しく松柏の茂つて居るのが見える。仰げば明神山、明星山、塔ノ峯、鷹巢山、聖岳、鞍掛峠などの外輪山と、その中に聳ゆる神山、駒ヶ岳、二子山などは鮮かに立つて主峯を作り、右方には白妙の富士山がその半姿を現はし、左方には天城の連峯が重疊して、相共

に背景を添へ、宛然一の大自然畫を見るの感を起させる。

温泉は多く早川の溪谷と、裾野に於て岩脈に胚胎するものと、神山の麓を周つて爆發火口に位するものもあり、湯本、塔ノ澤、宮ノ下、底倉、堂ヶ島、木賀、蘆湯を古來箱根七湯と稱して居たが、今は小涌谷、強羅、仙石、姥子を加へて十一湯を數へ、最新火口丘たる駒ヶ岳に近き蘆の湯は硫黄泉、大涌谷から曳いた強羅、仙石と小涌谷は酸性泉、それより稍離れた姥子、木賀、底倉、宮ノ下は鹽類泉、それより尙離れた堂ヶ島、塔ノ澤、湯本は單純泉で、火山活動の時期と温泉の位置と泉質の間に面白い關係が現はれて居る。

箱根の遊覽は四季いづれにもよく、春は櫻、秋は紅葉、夏は登山舟遊の樂があり、冬も避寒温泉の一に數へられる。

遊覽地としての箱根が人を牽く力はその交通の便もあづかつて居る。即ち小田原から湯本、塔ノ澤、宮ノ下、小涌谷を経て強羅まで登山電車が有り、強羅から

早雲山まではケーブルがあり、早雲山から大涌谷、姥子を経て湖尻までは駕籠の便があり、湖尻と箱根町、元箱根との間には遊覽汽船が走つて居る。自動車は小田原から湯本、塔ノ澤、宮ノ下、小涌谷、蘆湯、元箱根を経て箱根町に至り、箱根町からは更に山中宿を経て三島町、沼津方面に出られ、宮ノ下からは別に木賀、仙石を経て長尾峠を越えて御殿場に出られる。その仙石からは別に湖尻への路線もあり、箱根の遊覽跋涉には殆ど足を勞するを要せぬ程の便利さとなつて居る。箱根に入るには三つの路途がある。小田原を表門とすれば、沼津は裏門、御殿場は傍門で皆自動車路が通じて居るが、この外に裏木戸、脇木戸があり、その遊覽の方法も幾つかに分れる。左に示すはその二三の例である。

- 一 主として電車によるもの 小田原、強羅、早雲山まで電車ケーブル、早雲山から大涌谷、姥子を経て湖尻まで徒歩または駕籠、湖尻から箱根町または元箱根まで遊覽船、箱根町または元箱根から蘆湯、小涌谷を経て小涌谷驛まで自動車、小涌谷から電車で小田原へ歸る。初め小涌谷驛下車逆行路を取つてもよい。

- 二 主として乗合自動車によるもの 小田原から自動車湯本、塔ノ澤、宮ノ下、小涌谷、蘆湯の各温泉場を縫うて元箱根または箱根町に至り、それより遊覽船で湖尻へ、湖尻から自動車で仙石原、木賀を経て宮ノ下から小田原へ歸る、初め宮ノ下から仙石原方面へ入る逆行路を取つてもよい。
- 尙一、二の行路を折衷して湖尻から姥子、大涌谷を経て早雲山へ、早雲山からケーブル、電車で小田原へ出てよい。
- 三 長尾越 二の行路により、仙石原より長尾峠を越えて御殿場に出る。蘆湖、富士の眺めがよい。
- 四 三島、沼津へ 一、二の行路により、箱根町より山中宿を経て三島、沼津に出る。蘆湯、富士の眺めがよい。
- 五 乙女峠越 仙石原より乙女峠を越えて御殿場に下る。徒歩、峠の茶屋から見た富士の全姿は天下の絶景。
- 六 舊道越 湯本から須雲川に沿うて早雲寺、玉簾の瀧、初花の瀧、畑宿、日茶茶屋を経て二子山の南麓に出て元箱根に入る、江戸時代の街道である。徒歩。
- 七 鞍掛、十國峠越 箱根町から鞍掛峠に上り、それより山上の平地を歩いて日金山、十國峠に出て湯河原または熱海に下る。蘆湖、富士山、相模灘、駿河湾の風光佳、徒歩。

【湯本温泉】 小田原の西南六軒、電車及自動車の便あり



り、箱根山麓の東麓、火口瀨たる早川、須雲川の合流  
點にあり、翠色滴らんとする湯坂山の麓をめぐり、早  
川の清流に臨んで居る。名に負へる如く箱根最初の温  
泉開業地である。今國道から左に峻峻を登る湯坂路は  
鎌倉時代の箱根道で湯坂山、淺間山、鷹巢山を経て蘆  
湯に出られる。阿佛尼の十六夜日記に「いとさかしき  
山を下る、人の足も止まりがたし、湯坂と云ふなる、辛  
うじて越えはてたれど麓に早川と云ふ川あり……」と  
記してある。大正十二年大震災の時には早川沿ひの新  
道が破壊された爲め、一時この道の往來が盛であつた  
小涌谷から千條の瀧を見て鷹巢山に登りてこの道を湯  
本に下るのは早川、須雲川兩溪谷及び相模灘の蒼波  
を見下す好箇の遊覽道路である。

温泉は湯坂山の南麓凝灰岩の岩脈に沿うて湧出し、  
單純泉で温度百五十度、神經諸病、リウマチス、婦人  
病、胃腸病などに効くと云ふ。附近には早雲寺、正眼  
寺、玉簾の瀧、初花の瀧などの名所があり、小田原征  
伐の時豊臣秀吉が陣を構へた石垣山へも、こゝから登ら

縁、鍍金端金物などの使用に至るまで、細心の技巧最も卓越せる  
ものがあり、實に稀觀の作品と稱すべきものである。その織物  
は普通「モール織」と稱するもの、多少轉化せるものである。  
北條氏政所用との傳説は本寺の由緒及その時代様式からしてさ  
もあるべきである。

一 鐘 一口

鐘樓にかゝつて居る元徳二年の銘あり、天正十八年に豊臣秀  
吉が石垣山の陣營に持ち出し、陣鐘として使用したと傳ふ。

【塔ノ澤温泉】(一圖たし) 湯本温泉の西約半軒、自動  
車の通路である。電車塔ノ澤驛からは南へ約半軒の坂  
を下る。塔ノ峯の南麓にあたり、早川の流の迂回して  
S字形をなして岩角の間をめぐる處に、橋を架け、道を  
開いて浴樓が軒を列ねて居る。明の朱舜水が水戸の光  
圀に従つてこゝに遊んだ時、支那の驪山の温泉に優る  
と歎賞したので、玉の緒橋と相對する翠巒を勝驪山と  
云つて居たが、大正十二年の大震災の爲に崩壊して可  
なりその風景美を殺がれた。塔ノ峯を約二軒登ると淨  
土宗の阿彌陀寺があり、開祖禪誓籠居の岩窟がある。  
かの箱根靈驗覺仇討に初花が夫勝五郎に「こゝらあた

れる。旅館 福住、小川、住吉、大和館、和泉屋、古  
川屋。

【早雲寺】(臨濟宗大徳寺派)(一圖たし) 箱根登山電車湯本  
驛の西南約半軒、湯本町にある。北條早雲の遺命によ  
り大永元年その子氏綱の創建にかゝる。境内に早雲以  
下五代の墓があるが何れも寛文十二年に北條氏治の建  
てたものである。尙連歌で名高い宗祇法師の墓もある。

寶物

一 北條早雲畫像 (國寶) 一幅

絹本淡彩、左手を膝に置き、右手に金色の中啓を持ち、身に  
は墨染めの衣を著け、絡子をかけた僧形姿の坐像である。目尻  
少しくつり上り、鼻高口を堅く閉ぢ、早雲その人の個性をよ  
く發揮せるもの、如く、室町時代に於ける優秀なる肖像畫であ  
る。

一 早雲、氏綱、氏康、氏直及氏政畫像 五幅

紙本著色 土佐光起筆

一 文臺及硯箱 (國寶) 一組

この文臺はこれを裝飾するに髹漆蒔繪を以てせず織物類を張  
つてあるが、これは實に前例のない創意である。殊に内部の構  
造に桐柅小板片の核接法を用ひ細工の周密であるのと、黒柿外

りは山家ゆゑ紅葉があるのに雪が降る」と語つたのは  
この寺でのこと、傳へられて居る。湯町の外れには東  
京電燈の發電所があり、その早川堰堤の池は夏はプー  
ル代りに水泳者を喜ばせる。

温泉は凝灰岩を貫く岩脈の間より湧出し、單純泉で  
温度百二十度、リウマチス、婦人病、腦神經系統諸病、  
胃腸病などに効くと云ふ。旅館 環翠樓、一の湯、福  
住樓、新玉の湯、與喜屋。

【宮ノ下温泉】(一圖はし) 塔ノ澤より西北六軒、自動  
車の通路、電車宮ノ下驛より約三〇米を下る。地は舊  
火口の邊緣に位し、箱根諸温泉の中央にあるので、交  
通の中樞に當り、御用邸も設けられ、箱根第一の繁華  
地となつた。海拔四七米、早川の水面より高さ、二〇  
米、川を隔て、明神、明星の山巒東北方に長く連り、  
鷹ノ巢山の連峯西南より東に走つて湯坂山に續くとこ  
ろ、その裾合の間に相模灣の寸碧が見渡される。宮ノ  
下背後の山は淺間山で登路約一軒、相模灣の蒼波、房  
總の翠巒 大島の青螺も視界に入る。

温泉はその淺間山麓熔岩の下なる集塊岩より湧出し、弱鹽類泉で温度白三十度、脳神経系統諸病、婦人病、胃病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 富士屋ホテル、奈良屋。

宮ノ下と底倉とは八千代橋を隔て、相對して居る。その八千代橋の下二〇〇米の深谷を穿つて居るのは蛇骨川で、蘆湯に近き阿字池に源を發し、蓬萊、鷹ノ巢兩山の間を流れて底倉に至り、懸谷をなして早川に落ちたものであつたが、その基底は柔軟な早川層灰岩であつた爲め、忽ち削蝕せられ、懸谷は瀑布の狀をなして後退して蛇骨瀧の岩角に至つて止まつたものと云ふ。底倉、宮ノ下が古來温泉に恵まれたのもまたこの水蝕の餘慶である。その泉脈は初め頗る上層にあつたらしくその沈澱物たる珪華は國道附近に堆積して厚層をなし或は木の葉を印し、或は蛇の類を含有して居る。その葉脈を残して居るものは恰も蛇の骨格に似て居るから俗にこれを蛇骨と稱する、蛇骨川、蛇骨野の名もそれに基因するので、小學校裏の崖下に白色帶狀をなし

たその珪華の層が見られる。

【底倉温泉】(一圖は4) 宮ノ下の接續地、電車宮ノ下驛からは北約半軒、蛇骨川の涯畔にあり、温泉の由來古く、吉野朝時代には新田義則此處に金創を養つたが、鎌倉よりの追手に襲はれて戦死し、豊臣秀吉の小田原征伐の際は石風呂を築いて將卒の創傷を治せしめた。今葛屋の高山園内に義則の記念碑や石風呂の址が残つて居る。

温泉は河中の集塊岩の岩罅より湧出し、弱鹽類泉で温度百五十度、胃病、神経諸病、リウマチス、婦人病などに効くと言ふ。旅館 葛屋、梅屋、仙石屋。

【堂ヶ島温泉】(一圖は4) 宮ノ下の東約半軒、早川の溪底にあり、溪水の懸つて瀧をなすもの多く、葉蔭の瀧、調の瀧、不動の瀧、三日月の瀧、白糸の瀧などあり、白糸の瀧に通ずる傍に夢想國師幽棲の堂址があり早川の流を隔て、松ヶ岡遊園地もある。

温泉は凝灰岩より湧出する單純泉で温度百十八度、胃病、婦人病、神経諸病、リウマチスなどに効くと云

ふ。旅館 大和屋、對星館。

【小涌谷温泉】(一圖は3) 登山電車小涌谷驛より西約一軒、自動車の通路である。神山の支峯蓬萊山山巒の斜面地で、海拔五六米、鷹ノ巢山、淺間山の二峯眉を壓し、遙に早川溪谷を隔て、明星、明神の二峯を望む。箱根温泉中最眺望美を有するを以て知られて居る。附近の斜面地一帯及國道に沿うては櫻樹多く、關東の吉野の名を負ひ、蓬萊山から鳳來園にかけては各種の躑躅多く、淺間山、鷹ノ巢山の山腹には楓樹多くその間には千條の瀧の落つるあり、宛然一つの大遊園地を形成して居る。温泉はいはゆる小地獄即小涌谷の噴氣孔から曳いたもので酸性收斂綠礬泉、温度百八十度貧血症、胃病、神経諸病、皮膚病、婦人病、リウマチスなどに効くと云ふ。千條の瀧のところから鷹ノ巢山へは登路約一軒、それより山上の平地を歩いて湯坂道を下りて湯本に出づるは好箇の遊覽道路である。近く神奈川縣に於て鷹巢山公園の計畫があり、更に面目を新にすること、ならう。旅館 三河屋、小涌谷ホテル。

【蘆湯温泉】(一圖は3) 小涌谷より西南五軒、自動車の通路、海拔八七米箱根最高の温泉場である。辨天山寶藏山、二子山などに圍繞せられ、盛夏涼氣肌に迫るの幽境である。北方一帶の草原は池尻と云ひ、曾て湖水の末端であつたが、今はその一隅に阿字ヶ池を残し

蛇骨川の源をなして居る。附近には新羅三郎の冢、多田満仲の墓と傳ふるもの、二十五菩薩、六道地藏、曾我兄弟の供養塔、虎御前の塔、精進池、齋池などがあり、二子山、駒ヶ岳、神山など中央火口丘にもこの蘆湯から登られる。神山登山路には湯ノ花澤があり、今専ら湯の花を採集して居る。

温泉は硫黄泉で温度百十三度、自動車が未だ蘆湯に至らざる内に、既に硫氣に襲はれる。皮膚病に特効あり、リウマチス、花柳病、婦人病などに効くと云ふ。旅館 松坂屋、紀伊國屋。

【二子山】(一圖は3) 蘆湯の南に聳え、西北にあるを上二子山または表二子と云ひ、東南にあるを下二子山または裏二子と稱する。その中に上二子へは蘆湯から登

山道が通じて居る。その山上には直徑約四〇〇米の火口があり、その中に圓頂丘が聳えて殆ど火口全體を埋めて居る。

【硫黄山噴氣孔】 蘆湯の西北一軒、湯ノ花澤の西南〇米、湯ノ花澤噴氣孔と一小嶺を隔て、その南に存し、駒ヶ岳の東麓急傾斜にあり。面積二五〇米平方、噴氣の盛なのは中央部で、噴出瓦斯は硫黄臭が強い。降雨のあつた後は噴氣量が多い。

【駒ヶ岳の炭酸孔】 駒ヶ岳の西南中腹、蘆湖に注ぐ湯澤の一支流の源頭にあり、箱根神社の鳥居前から北方二軒にあたる。孔は噴氣作用のため分解して生じた粘土で掩はれ、少しばかりの水を湛へ、その水中及附近から硫黄水素及炭酸瓦斯を發生して居る。

【箱根神社】 〔國幣小社〕(一一圖や六) 元箱根村大芝、蘆湖畔に面せる山腹景勝の地にあり、箱根神を祀る。奈良朝時代萬卷上人の創建にかゝる傳へ、平安朝頃からはこの地方の大神と仰がれ、源頼朝が勃興の當時、本社に祈願を籠めその志を遂げてからは社參、奉幣など

湖畔參道入口にある。弘安及文永年間の鑄出し銘があり、箱根山東福寺の湯釜として寄進されたものである。

【蘆湖】 (一一圖や七) 箱根山上にある。火口原沼で西北より東南に延び、中央線は長さ約六軒六、幅は半軒乃至二軒、湖岸線の延長約二〇軒、面積七方軒、その水面は海面上七三米に位し、東南岸には塔ヶ島半島がある。湖水は北に自然の吐口があり、早川となり流出する外、西北岸に人工による澤良川の水道が外輪山湖尻峠の下三三米に穿たれて居る。水深は最大四三米半、水色は四號と五號の間、藍色湖と綠色湖の中間、透明度は夏季一六米、湖中に生育する水産動物は箱根さんせううを、鯰、鯉、赤腹、鱒、岩魚、あめます、鰻、沼えび、鱒などである。湖畔の傾斜は西南外輪山側に大で、東北駒ヶ岳側に緩である。湖畔の部落としては東南岸に元箱根、南岸に箱根町があり、その間の街道からは湖水をへだて、富士を望むべく、遙にその湖面に映する倒富士を見ることが出来る。湖上には元箱根及箱根町から東北岸の湖尻までの間遊覽船が通つて居る。

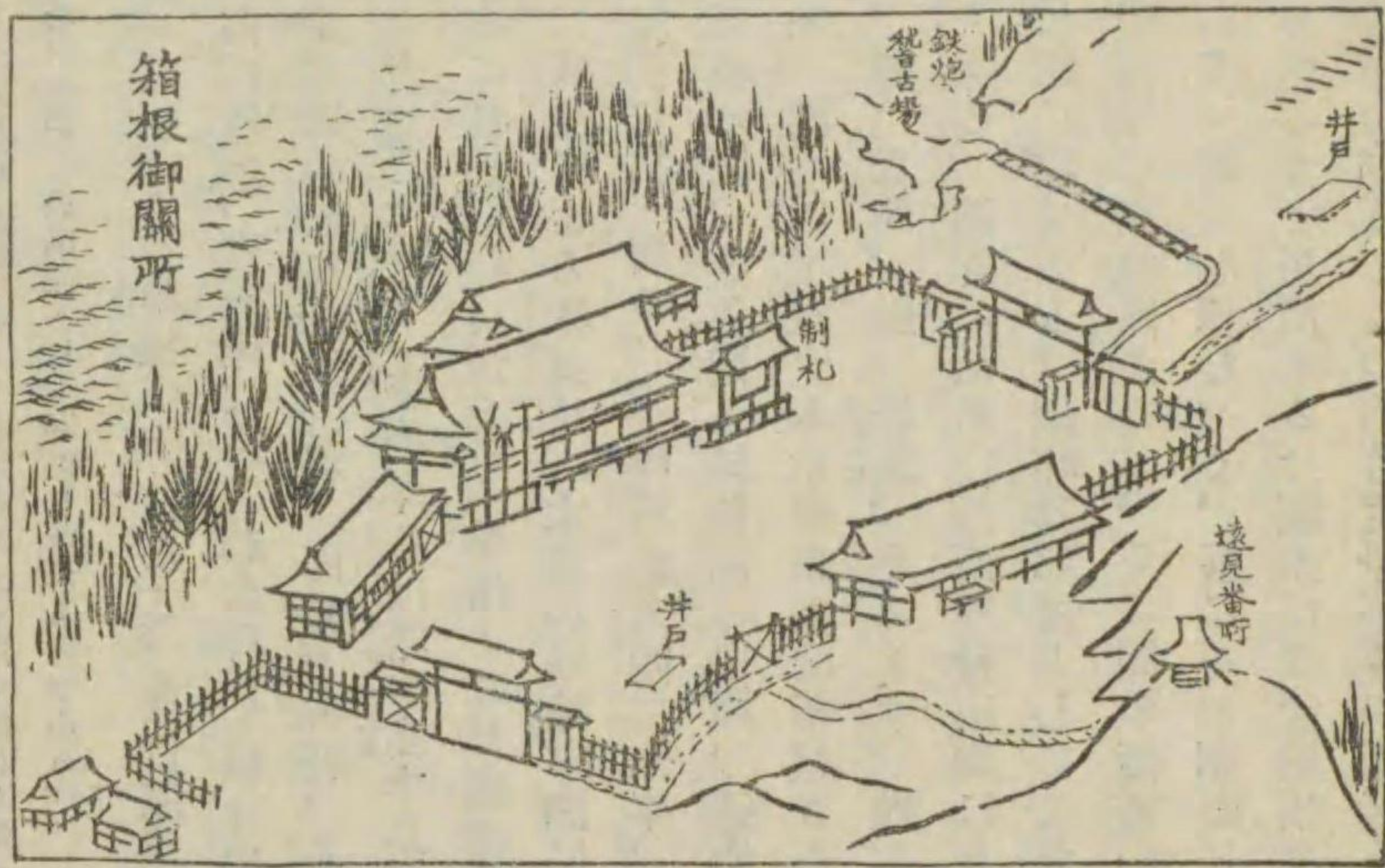
童ならぬ尊信を示し、爾後鎌倉時代を通じて三島神社伊豆山神社と同様幕府から特別の待遇を受けた。江戸時代に入つては徳川家康以來社領を寄進し、永く武家崇敬の社と仰がれて居た。社殿は丹塗の權現造で寛文七年徳川家綱の再建である。社殿の傍には寶物館があつて古刀、什器、木像、古文書など四十餘點を陳列して居る。その中主なるものは次の通りである。

- 一 萬卷上人木像 〔國寶〕 高九〇釐(二尺九寸七分)
- 一 木造の坐像であつて、全體丸味を帯びた堂々たる形像で、衣の皺文は鋭くしてしかも巧に肉體の圓味を表現し、肩から腋にかけての刀法は殊に精妙で背面の施工も等閑でない。その鼻隆く、眉秀で面貌俊邁如何にも高僧の面影を現はして居る。萬卷上人は平安朝の初期箱根權現の中興と稱せられ、像は正しくこの時代の作であつて關東に遺存する最古の肖像彫刻である。
- 一 赤木柄短刀 〔國寶〕 長二四釐(八寸) 一口
- 一 柄の金具には波に花菱の頗る精巧なる彫刻が施されて居る。
- 一 和鏡 青銅製 一面 蓬萊山の模様がある。鎌倉時代
- 一 神像 木製立像 三軀 彩色殘存 平安時代
- 一 湯釜 鐵製 口徑約九〇釐(三尺) 高約一米二(四尺) 二個

【箱根關址】 (一一圖や七) 箱根神社の南約二軒、箱根町にあり、蘆湖畔に沿ひ箱根離宮の正門を過ぎ街道の並木が終り、丘麓の湖畔に迫つた所にあり、街道の兩側に石垣の一部を残し、今史蹟として指定されて居る。この關は江戸時代の初めに幕府の設けたもので、諸大名の家族、武器の通過をはじめ、百姓町人の往來に對しても嚴重なる取締をなした所で、明治二年に至るまで小田原藩で管理して居た。

【箱根關所考古館】 箱根關所址の近くにあり、關所の遺物と、こゝで關所の旅館を營んで居た當時の本陣に残つて居る古文書などを陳列して、一般の觀覽に供して居る。陳列品中にある往來臺帳の一冊には大石良雄の名を存し、次の如く記録されて居る。「鳥目二貫匁淺野内匠様御家老大石内藏助様 但風呂代とも」

【木質温泉】 (一一圖は四) 宮ノ下より西北約一軒、自動車の便がある。早雲山爆發堆積物の東端を占め、早川の流それを洗つて急瀨をなし、溪流美を現して居たが水害の爲に稍々その風致を損じた。佛國の將軍ルボン



箱根古關圖

氏が明治の初年陸軍教官として來朝した頃、特にこの地の風光を好んだので、先年明治大帝御崩御の際國使として來朝の折この地に再遊したが、曾遊を追懷して低徊願望したと云ふ。土地の有志謀つてその記念碑を建てた。

温泉は集塊岩中に存する岩脈を傳うてその兩側に湧出し、鹽類泉で溫度百十三度、皮膚病、胃病、神經諸病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館 宮内。

【強羅温泉】(一一圖ま4) 箱根登山電車の終點、早雲山麓の傾斜地で樹木繁茂せる間、土砂流出の後に殘された大小の岩塊處々に横はり、蘚苔、地衣その上を被うて高原の趣をなして居る。海拔六八米、明神、明星の二峯に對し、早川の溪谷を俯瞰する眺がい。

驛に接して登山電車會社經營の遊園地あり、その周圍は別莊地として漸次發展を見る。温泉は大涌谷から曳いたもので酸性鹽類泉、溫度百五十度、腺病、リウマチス、皮膚病、婦人病、花柳病などに効くと云ふ。附近の林間は好箇のキャンプ場である。旅館 觀光、

紅葉館、一福、倉田、小高庵、吉濱、頓狂。

【大涌谷】(一一圖ま4) 強羅からケーブルで早雲山に至ればそれより西南二軒にあり、神山爆裂火口の遺跡で

地蔵尊を安置する山脚を境界として東南と西北の二區に岐れ、東南を地獄澤と云ひ、西北を閻覽臺と名づける。地獄澤には一面に盛に硫氣が噴出し、また硫黃華が沈澱し、中には黝色の泥水を湛へた水池に、泥土と熱水を間歇的に噴出する處があり、また盛に水蒸氣及熱水を噴出する處がある。この熱水を噴出する處に石室を設け溪水を注加して、強羅及仙石原に送る。閻覽臺にはほゞ東北の方向に排列する噴孔が八個あり、轟々の音を發して盛に水蒸氣及硫氣を噴出し、硫黃及石膏が噴孔附近に沈澱して居る。しかし温泉は湧出しな

い、附近の岩石は一般に噴氣のため作用せられて盛に分解し、初は酸化して赤褐色を呈するに過ぎないが、後には分解して玉葱の皮の如く剝脱し、遂には全く褪

色して灰白色の粘土となる。この粘土の中には黄鐵礦の粉末を混じて暗黝色のものもある。また硫黃の結晶

が見られる。

【仙石原温泉】(一一圖ま3) 宮ノ下より西北五軒、自動車

の便がある。箱根最奥の温泉で閑寂の一境をなして居る。附近にはゴルフ場あり、また長尾峠越の道路となつて居る。

温泉は大涌谷から曳いたもので酸性鹽類泉、溫度百五十度、皮膚病、神經諸病、貧血症、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。旅館 仙郷樓、俵石。

上湯下湯は別境をなし、早雲山驛より西北約一軒半臺ヶ岳の東麓にあり、同じく大涌谷より曳湯して居る。旅館上湯には冠峯樓、下湯に萬岳樓、文化的施設には缺けて居るが質素な浴場である。

【姥子温泉】(一一圖ま4) 早雲山驛より西北四軒、大涌谷を経て行く。元箱根または箱根町から遊覽船にて湖尻に、仙石原から自動車にて湖尻に至れば、湖尻からは東北約一軒半、冠ヶ岳の麓、大涌谷の西側にあたる崖下にある。泉脈は集塊岩の裂罅にあり、大岩窟からなる天然大浴槽中に迸り出て居る。鹽類泉で滋味があ

り、温度百十三度、眼病に特效ありと稱せられ、神経諸病、胃腸病にも効くと云ふ。温泉の固形分が落葉の間に沈澱して葉脈の印痕を止めて居るのを木葉石と稱して居る。冠ヶ岳は紅葉の名所である。旅館 秀明館。

小田原から西南に向ひ箱根登山電車線を横ざり早川を渡り早川一哩三を經、南に轉じ、これより熱海に至る間、相模灣の西岸に沿ひ數多のトンネルを抜けて進む。早川より三つ目のトンネルを過ぎると右方に石橋山の古戰場が見える。それより根府川石の積出し多き根府川二哩七を經、眞鶴三哩三を過ぎ西南に轉じて湯河原三哩四に至る。こゝは湯河原温泉への浴客の下車驛である。驛を過ぎ静岡縣伊豆國に入り、泉越トンネル(延長二、四五七米)を抜け、更に二小トンネルの間に伊豆山温泉を見て熱海三哩五に着く。

【早川海水浴場】 早川驛附近の海岸、遠淺では無いが波に親めるころである。旅館 龜屋、鶴屋。

【早川的美欄樹】 早川驛の西方一軒、石垣山北側にあ

り、根元の周圍六米、幹は五本の太い枝に分れて高く伸びて居る。樹膚は固有の黄赤色を呈して遠方から認められる。美欄樹は櫻屬の一種で秋季花を開き後結實する。關東地方では稀に存するもので、指定の天然記念物である。

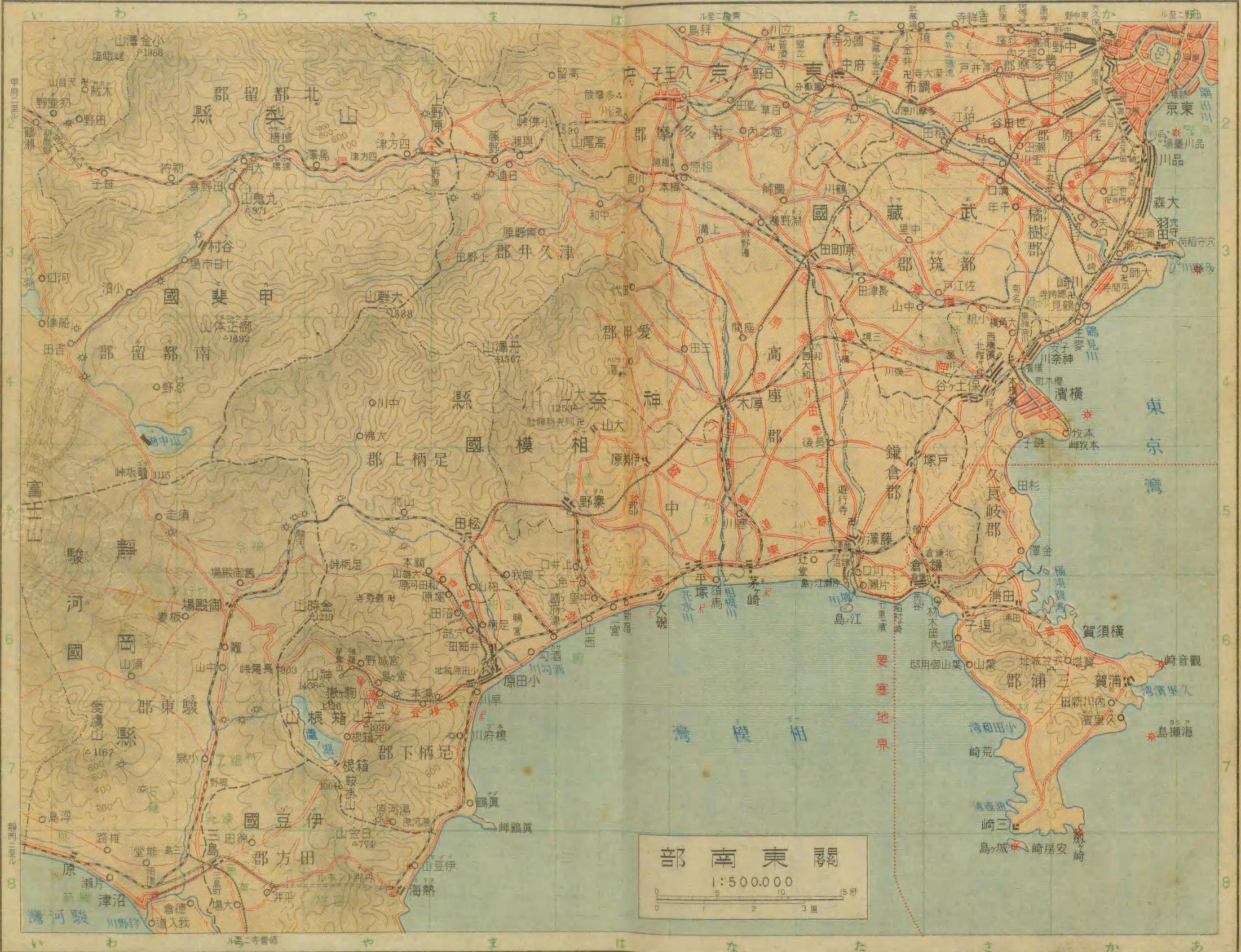
【石橋山古戰場】 (一二圖かろ) 早川驛の南二軒、早川村石橋にある。治承四年源頼朝が大庭景親の兵と戦つて敗戦した處で、頼朝の部下佐奈田與一義忠の侯野景久と格闘し戦死したれぢり畑と稱する處があり、その北に接し與一を祀つた靈社がある。

【眞鶴】 (一二圖まろ) 眞鶴驛の東方一軒にある漁港で、眞鶴岬が長く東西に突出し風波を遮つて居る。こゝは治承四年源頼朝が石橋山の戦に敗れて後、安房に向ひ船出をした處で、當時隠れたと稱するしとゞの窟と名づくるものがある。

湯河原驛 神奈川縣足柄下郡湯河原町

△乗合自動車 湯ヶ原行 熱海行 小田原行

【湯河原温泉】 (一二圖やろ) 驛の西三軒、自動車の便が



部南東關  
1:500,000  
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 町

ある。藤木川の清流に沿うて浴樓軒を列れ、右も左も翠巒を仰ぐ閑靜な温泉境である。温泉は輝綠岩の罅隙から湧出し、近年この地より西方二軒の廣河原にかけて掘鑿して温泉の湧出を見ることが多い。泉質は鹽類泉でラヂウムの放射能あり。古來傷創に特效ありと稱せられ、リウマチス、痔疾、胃腸病、呼吸器病、婦人病などに効くと云ふ。

附近には湯河原公園、見附の松、養生園、清瀧、不動瀧、五段の瀧、隱居梅園などの名所があり、日金山十國峠への登路がある。旅館は天野屋、富士屋、中西、伊藤屋、藤田屋、箱根屋、上野屋、伊豆屋、湯河原會館、高杉その他總て二十餘軒。千歳川の右岸にも温泉あり、そこは伊豆國で熱海町に屬するが、湯河原温泉と相連り、旅館清香園がある。

【吉濱海水浴場】 驛の東北約一軒、近く初島、遙に大島が眺められる。海は遠淺で波靜かである。旅館 常盤屋、みかん屋外數軒。

國府津熱海間

【城願寺】 驛の北半軒、土肥村城堀にあり、土肥實平、遠平父子の本願と傳へ、土肥氏の墓がある。

熱海驛（一二圖や8） 静岡縣田方郡熱海町

東京から一〇四軒四一六四哩九 約二時間半

△乗合自動車 伊東行 伊豆山行 網代行 湯河原行 小田原行 沼津行

【熱海温泉】（一二圖や8） 熱海驛所在地、町内自動車の便がある。地は伊豆半島の東北隅にあり、相模灘に面する緩かな傾斜地で三面翠山を繞らし、海上三里の彼方には椿花咲く初島が繪の様に浮んで居る。極寒四十度を下らず、盛暑八十七度を超えず、温泉浴と海水浴を兼ねらる、避暑避寒の樂園である。療養地としての價値に就ては嘗てベルツ博士が左記の如く云つて居る。

「熱海が他の温泉に對し卓絶せることは、その自然に山岳屏圍せる地形なるが故に、冬期にあたりこれを氣候療養所とするに便利なるが故なり。この地を選奨すべき所以のものは、第一幽靜の地なり。第二夏時清涼爽快にして冬期終日、日光不絶の處、第三最佳の遊歩場

は海岸に沿ひ伊豆山に至るの地なり。

温泉の由来は極めて古く仁賢天皇の御代に蛟島穗允君の屍を伊豆國熱海の海底に沈め給ふ。この時初めてこの海中に熱湯湧出して魚介の爛死するを發見したと傳へ、天平勝寶年中に箱根金剛王院の萬卷上人が靈湯の海中に流散するを惜み、且つ魚類のこれが爲に爛死するをあはれみ、その泉脈を尋ねてこれを山腹に轉湧せしめ、その傍に少彦名神を祀り、薬師佛を本地として湯前權現と稱した、これが今の大湯の起りだと傳へて居る。古老の談によると數十年前までは海上靜穩の日は屢々海面に泡立つを認めたと云ふ。熱海の名は蓋しこれに因んだもので、箱根火山噴出以前に、熱海附近を中心とした火山の噴起あり、今の熱海の海面は當時の噴火口の一つであつたらうと云ふ説もある。

温泉は大湯を初め清左衛門湯、小澤の湯、風呂の湯、河原の湯、佐次郎の湯、野中の湯を古來熱海七湯と云つて居たが、今は五十餘湯を數ふるに至つた。大湯の間歇泉は今その實を失つたが、各温泉とも何れも高温で

藤原藤房手植の松と云ふのがある温泉寺、櫻樹多き上野山、金色夜叉記念碑のある横磯、海上の別天地初島などあり、日金山、十國峠へもこの熱海から登るが樂である。峠は熱海から六軒、三島行の自動車で峠まで行き、それから右へ二軒あまりで頂上に達する。海拔七四米、一望開豁、相模、武藏、安房、上總、下總、駿河、遠江、信濃、甲斐、伊豆の十國、大島、利島、新島、式根島、神津島の五島が眺められる。

旅館は五十數軒。驛附近は別に一區をなし、熱海ホテル、萬平ホテル、一ノ湯支店あり。熱海町の主なる旅館は古屋、露木、樋口、富士屋、鈴木屋、玉の井、新かど、青木館、大黒屋、新玉屋、玉屋、水口園、玉久、熱海花壇、眞誠館、福島屋、小松、藤井、大月館、稻元別館、大潮館、萬屋別館、熱海園、ますや、常盤館などである。

【熱海大湯の過去】 明治十年頃は一晝夜に五回乃至六回噴出し、二十九年には周期が平均四時十一分で、一度噴出し始めてから終る迄は平均一時十五分であつた。

二百度乃至二百二十六度に及ぶので水蒸氣の昇騰が著しく、所々の煙突から噴く白煙濛々として空中に漲つて居る有様は、噴火の餘勢が今尙盛んな事を示すもので、熱海温泉の偉觀とすべきものである。

江戸時代には徳川家康、同家光の入浴あり、爾後毎年數回時を期して江戸城へ獻湯せしめた。熱海よといふ此の丸立て、御本丸へとお湯がゆく」とは當時の俚歌である。明治以來此處に御用邸が設けられ、別莊地として保養地として益々發展すべき情勢である。

温泉は無鹽の湯を除く外凡て鹽類泉でラヂウムエマナチオンを多量に含有し、リウマチス、胃腸病、婦人病、神經諸病などに効くと云ふ。

熱海附近の名所の主なるものは大湯の鐵柵内にある英國公使サー、ラザーフォールド、アルコック題名の石碑、念佛山の岬角、魚見崎の展望、胎内竈、狗竈、觀音窟などの洞窟のある錦浦、海の釣堀のある赤根公園、理想的遊園の實を備ふる水口園、年内に清香を吐く梅園、老樟茂れる來宮神社、開祖授翁宗彌和尚即ち

また長湧と稱し平均二ヶ月に一回十六時間位續けて噴いて、それが歇むと十六時は全く噴かなかつた。しかるに明治三十七年頃から鑿井して温泉を得るものが多くなり、それが大湯の湧出に影響したと見え、大正四年頃には約十三時毎に噴湯し、遅れる時は二十五時を経て噴くやうになつた。

【伊豆山神社】「國幣小社」驛の東北二軒半、自動車の便があり、相模灣に面せる伊豆山の中腹景勝の地にある。もと伊豆山權現または走湯山權現とも稱し伊豆山神を祀り、平安時代からこの地方の名神として知られて居る。源頼朝が深く崇敬し、平家討伐の志を遂げてからは、更に崇敬の誠を致し、祈願社參奉幣など怠りなく鎌倉時代を通じ三島神社、箱根神社と共に幕府から特別の待遇を受け、年々將軍家の社參奉幣が行はれた。江戸時代に入つてから徳川家康以來社領を寄進し、永く武家尊崇の社と仰がれて居た。社殿は大正十二年の震災後に改築され、拜殿は五間三面の入母屋造、本殿は三間社流造である。



國府津熱海間

寶物

一 後奈良天皇宸筆般若心經 (國寶) 紺紙金泥書 一卷  
後奈良天皇の立願により諸國の一宮に納められた宸筆心經の一で奥に「伊豆國」とある。

一 佛說無所怖望經 紺紙金銀泥書 一卷 平安末期

一 雙鳥草花模様和鏡 一面 平安末期

【伊豆山權現像】(國寶) 伊豆山神社の西南約半軒、般若院にあり、もと伊豆山神社にあつたものである。木造、高さ約五〇糎(一尺六寸)束帯に袈裟をかけ烏帽子を戴いた立像で、微笑を湛へて居る。その製作頗る優秀にしてその年代は室町時代であらう。

【伊豆山温泉】(一二圖ヤ) 驛の東北一軒、熱海町字伊豆山にあり自動車の便がある。三面翠巒に圍まれ、直に相模灘の海波に枕んで居る。初島、大島、房總半島の翠黛が眺められる。

温泉は層灰岩を貫く岩脈の裂隙から迸り出で、古來走り湯として名高い。その発見は元正天皇の養老年間とも仁明天皇の承和年間とも傳へて居る。無世透明の鹽類泉でラザウムエマナチオンを多量に含み、リウマ

から千分の十に減じ、列車の運轉時間は約一時間減少し機關車の牽引力は二倍半乃至三倍に増大せられる。

【伊東温泉】(一四圖ある) 驛の南二二軒、駿豆鐵道修善寺驛からは東南二〇軒、共に自動車の便があり、熱海から別に汽船の便もある。名に負ふ如く伊豆半島の東方にあり、天城の連山を負ひ、相模灘に枕み、海上手石島、初島の青螺あり、三浦半島の翠黛も眺められる。海水浴も兼ねられる温泉場で、その地形と温泉の豊富な點が九州別府温泉に似て居ると云ふので、關東の別府と稱せられて居る。

温泉の発見は詳でないが、慶安三年江戸城に御前湯として献上したことが記録に残つて居る。現在温泉の湧出口六百以上を數へ、海岸近くは多く鹽類泉でや、離れたところは單純泉である。温度は百十度乃至百三十度、リウマチス、創傷、皮膚病、神經諸病、婦人病、胃腸病などに効くと云ふ。

この地は伊東家次以來祐親まで伊東氏の領地であつたので伊東氏の遺蹟が多い。附近名所の主なるものは

國府津熱海間

チス、中風症、婦人病、ヒステリー、胃病などによく特に神經衰弱に効くと云ふ。附近には伊豆山神社、古々井の森、走湯山般若院などの名所があり、相模屋の千人風呂はこの種の大浴場の元祖として世に知られて居る。旅館相模屋、偕樂園、中田屋、伊豆屋、ふるや。【丹那山トンネル】(一二圖ヤ) 驛の西南一軒半、熱海梅林の海拔七〇米の地點を東口とし、西微北に通じ三島驛の東南六軒八、函南村大竹海拔六九米の地點に西口を有し、延長七、八〇米、勾配は中央から東西共に千分の二・三に及ぶ。トンネルの断面は高さ六米八、幅中央部で八米二、基面で七米六、複線トンネルとして世界有數の長トンネルである。その工事は大正七年東口及西口から始められ、大正十五年貫通の豫定であつたが、湧水が夥しくまた一部崩壞、土砂噴出などの事故があり、大いに遅延して居る。このトンネルが貫通し、熱海、三島間の鐵道が開通すれば、國府津、沼津間の鐵道による距離は一一軒六の短縮となり、線路の最高海拔は四四米三から七八米五に、最急勾配は千分の二十五

天然記念物に指定せられて居る淨ノ池の毒魚類、日蓮上人流瀆の址佛現寺、伊東氏の香華院であつた東林寺東林寺の向山、地藏原丘上にある伊東祐親の墓、尻摘祭で名高い音無神社、樟の大木のある葛見神社、天狗の詫狀と云ふのがある妙照寺、扇山の斷崖にある潮吹の洞窟、桃源山の中腹にある眺望の勝地松月院、賴朝が八重姫を待つたと云ふ日暮の杜、祐親が八重姫の産んだ千鶴丸を洗めしめたと云ふ稚兒ヶ淵などあり。幅八米、長さ二十五米、深さ一米半の伊東温泉プールもまた名所の一つに數へられる。や、離れて川奈には東洋第一のゴルフ場と誇る大島コース、富士コースがあり、何れも十八ホールで約五、〇〇〇アールの面積を占め地形起伏に富む。附近には噴火口跡の一碧湖もある。旅館は五十數軒、その内主なるものは猪戸方面に東京館、松木、榊屋、猪戸館。松原方面に松川館、大東館、東海館、かたなや、東龍館、陽氣館、大和館。玖須美方面に暖香園、山藤、伊東館、大阪屋、辰太などである。【淨ノ池】 伊東大川橋の南半軒、もと淨圓寺の境内で

あつた處にあり、約三五平方メートルの小池で、その中には微温の湯を湛へ、中に毒魚、ゆごひ、じんなら、じやうなぎなど珍奇の魚屬を産し、これらは天然記念物として指定されて居る。

【伊豆大島】相模灣外にある火山島で、東西八軒半、南北一五軒、周圍四二軒、面積五、四一平方軒、島の大部分は三原山の活火山に掩はれた平野が多い。三原山は海拔七五米に及び、複式の火山より成り、その外輪山は南、西、北の三面に完全なる火山壁を有し、火山口には火山灰堆積し、島民はこれを沙漠と稱する。その中には處々熔岩流の存するあり、その中より繩狀熔岩を發見する。中央火山口丘は熔岩とその破片の堆積より成り、截頭圓錐形を呈す。丘上に第二次の火山口あり、その火山口壁には黒色の熔岩及砂礫の互層著しく露はれ、これに斷層を示す處がある。この火山口の東北部は三原山の最高點をなして居る。火山口内には更にその殆ど全部を掩ふ第二次の火山口丘があり、赭色の熔岩より成り、中央に第三次の火山口を開き、その火山口により現に

盛に水蒸氣を噴出して居る。三原山の外側には東部に外輪山を破りて流出せる熔岩流があつて海に達して居る。寄生火山には北に愛宕山、南に岳平山があり、南岸の波浮港も一爆裂火山の一方海に通じたものである。山側一般に濶葉樹及針葉樹の森林をなし、樺、大島櫻、やしや、杉、黒松などが多い、樺は冬季より春季にかけて紅花を開き、秋には實熟し、製油の原料として採られる。山麓の農村には乳牛の飼養盛に行はれ、製油とバター製造は炭焼と共に陸上に於ける主なる産業となつて居る。近海にはむろあち、さば、とびうななどの魚類を多く産する。全島の人口一萬餘。

東京灣汽船會社の航路は東京靈岸島とこの島の間に開かれ、また熱海及伊東から元村への航路がある。元村は島の西北部にあり、大島島廳の所在地で、製油及バター製造の中心をなし、三原火山の登山口にあたる。ここに保元の亂後にこの島に流された源爲朝の邸址と稱するものがある。海岸には松林の間に大正年間に建てた源爲朝の碑がある。

三原山に登るには元村から道を右に取り神達に至りそれより東に向つて坂道にかゝる。先づ杉の木立の間を通り樺の多き急斜面を辿れば、後方及左方の展望次第に廣くなり、元村より島の北端までが一目に見える。樺茶屋を過ぎてよりは、やしやその他の雜木の密生する間を通り、外輪山上三角點の右に出で、山頂を右に辿つて御神火茶屋に達する。ここは兩方の展望極めて廣く、遠く伊豆半島の天城山より左方箱根、富士大山などの諸山を眺める。一方東には火山口の沙漠を超えて、中央火山口丘の屋根形に聳ゆるを見る。御神火茶屋より東方に火山灰の急斜面を滑り下り、火山口の砂中に立てる指導標を辿つて進めば、左方に熔岩流を見、中央火山口丘の麓にある三島神社に達する。ここには大山祇神を祀る。中央火山口丘の外側は黒色の熔岩より成る。これを登れば第二次の火山口の壁上に達する。ここよりその火山口内及其の内に更に堆積せる赭色の熔岩と、第三次の火山口を望み、盛なる噴烟を間近かに見ることが出来る。火山壁上を一周しつゝ、四顧すれば壯

大なる風景が楽しめる。伊豆半島から箱根、富士、丹澤、大山などの諸山を西と北に見、東北には三浦、房總の二半島を望み、南には近く三角形の利島、その後方に重なる鵜の根島、右にある新島、神津島、左に遠き三宅島、御倉島が眺められる。元村から御神火茶屋まで六軒、それより中央火山口丘の火山壁まで四軒である。これより南は波浮に、西南は差木地に、北は湯場に下ることが出来る。波浮へは一〇軒、差木地へは八軒、湯場へは二軒。湯場は三原火山の北方中腹にある蒸氣孔を利用して、經營せる蒸氣風呂である。湯場から元村へは四軒、岡田へは五軒。波浮は漁船の安全なる錨地で、島の情趣はこゝで濃厚である。

大島節

わたしや大島御神火育ち胸に煙が絶えやせぬ  
つゝ、じ樺は御山を照らす殿が御舟は漕照らす  
わたしや大島一重の櫻八重に咲く氣は更にはない

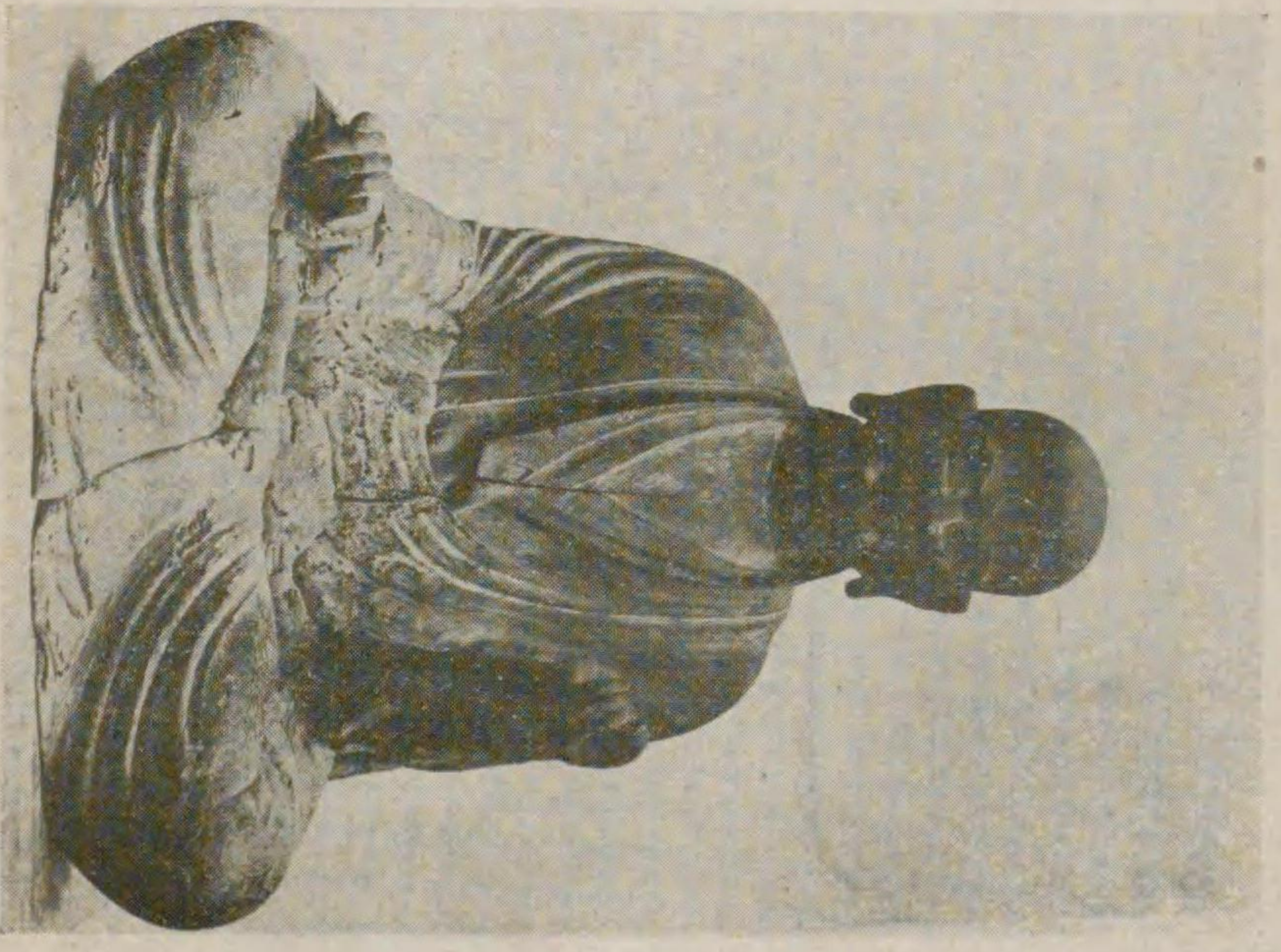
【八丈島】東京の西南七〇海里に位し、伊豆七島の最南端にあり、東西九軒半、南北一六軒、東山(三原山)と

西山(富士山)の二火山對峙し、その裾合谷に平地あり、地味一般に膏腴にして草木繁茂し、海岸には八重根、神港、藍ヶ江、洞輪澤の四港あり、黒潮の影響により寒氣を感じることも少く降水量多く、また風向は冬は西風多く、夏は南風が多い。人口三千三百、農産には米、麥、甘藷、里芋あり。果樹には八丈オレンヂ及八丈文旦あり。林樹には椎、赤楊、椿、榊、櫻、玉樟、藪肉桂などあり、木炭の製造行はる。水産には鰹、鮪、飛魚、むろあち、鱈、鮫、柔魚、伊勢蝦、石花菜、とこぶし、さいみ、海苔などあり。近年静岡、千葉の二縣その他の石油發動機付漁船は鰹漁のために來るものが多い。また飛魚を漁するために三月より五月までの間千葉縣及大島から漁夫が來る。飛魚は年額二十萬圓以上に達する。こゝに次ぐはむろあち、鱈で年額十萬圓内外に及ぶ。畜産には乳牛が多い。工産には八丈絹の製織が古來行はれ、染色には一種の特徴あると耐久性に富めるにより珍重せられて居る。また椿油は濃度の大きなを誇とする。この他焼酎醸造、乳製品、とこぶし

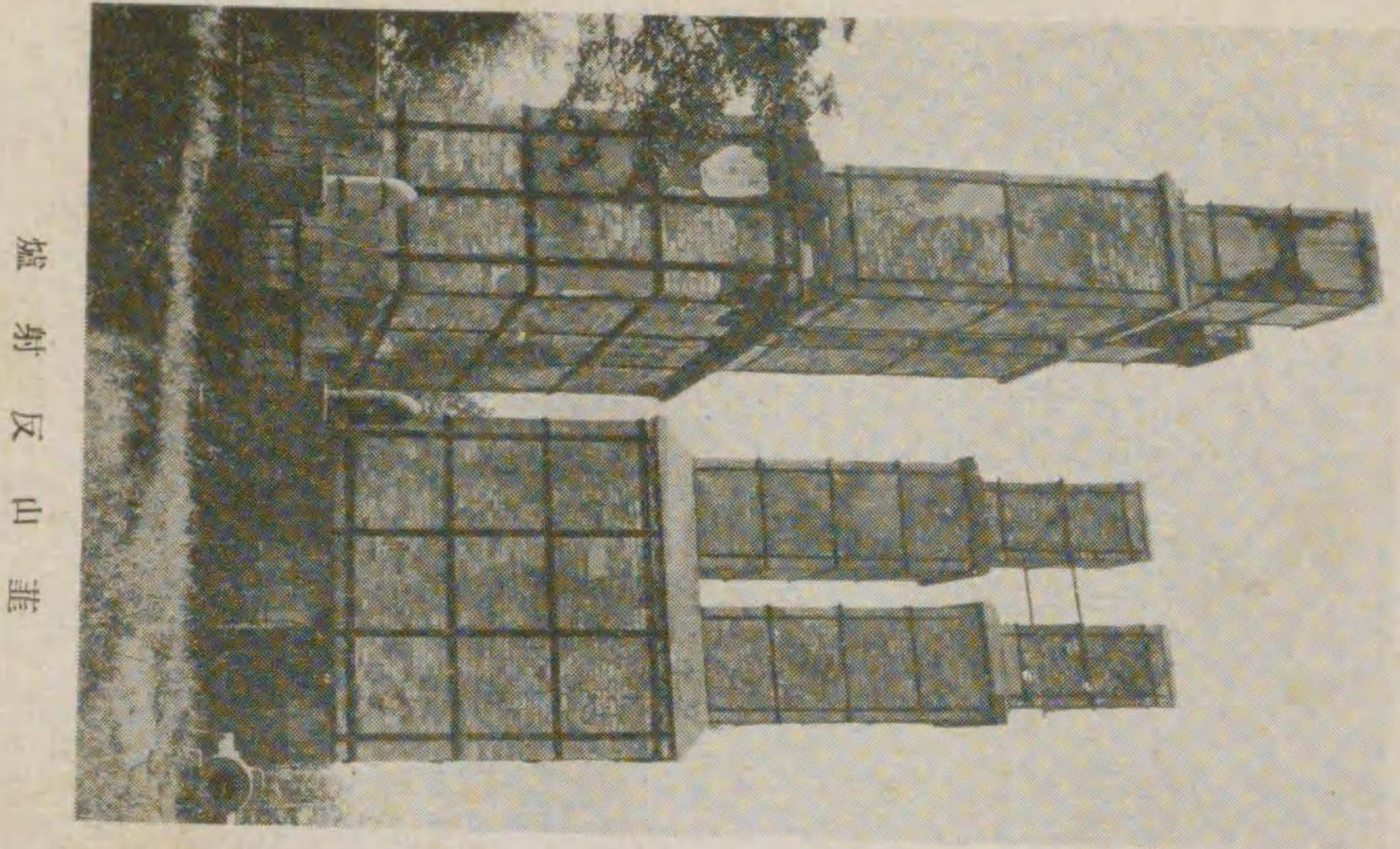
罐詰などがある。東京靈岸島との間には毎月五回の定期汽船往來し、約十八時間にて到達が出来る。島内には優婆夷寶明神社あり、本島創始の神と稱せられる事代主命の妃を祀り、大賀郷村大里に鎮座し、本島及屬島の總鎮守となつて居る。また同村稻場に宇喜多秀家の墓と傳ふるものがある。秀家は關ヶ原の戦に敗れ、こゝに配流せられた人である。【小笠原諸島】横濱の南方太平洋上五百哩より千哩に至るまでに散在せる八十餘の小列島で、東京府の管轄に屬する。一年十六回の便船あるに過ぎないが、國防上より見る時は太平洋上の一要害である。人口五千七百、多く農と漁を業とし、甘蔗、野菜、果實、珊瑚、鯨、正覺坊、鰹などを産する。諸島中住民を有するは父島、母島、弟島、聳島、媒島、姉島、嫁島、姪島、北硫黃島、硫黃島、南硫黃島、南島島などで、その中最も早く開けたのは父島である。その大村の宇奥村は最初の住民部落を形成した所である。



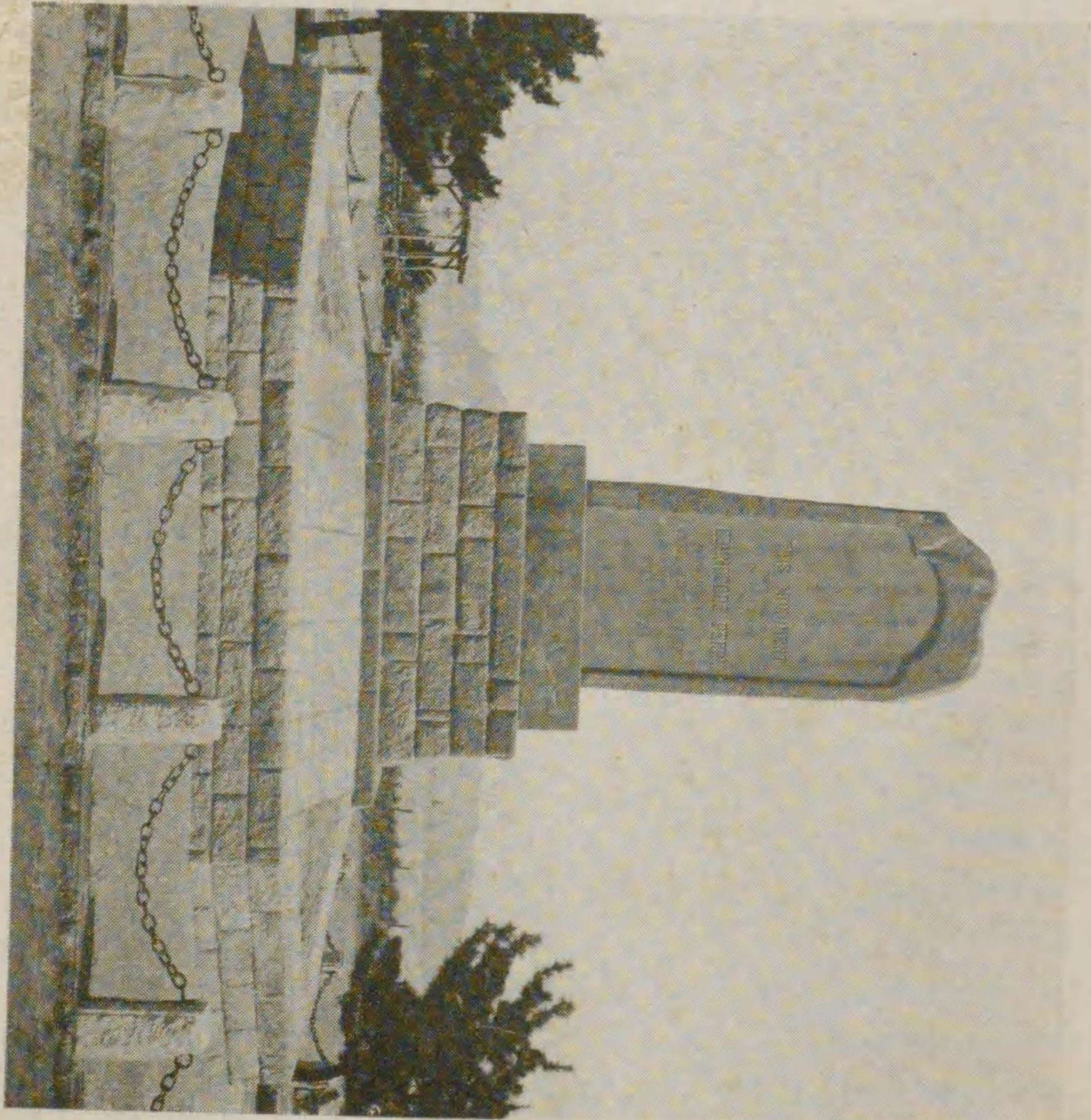
(院若波海熱)像現權山豆伊



(社神根箱)像人上卷萬



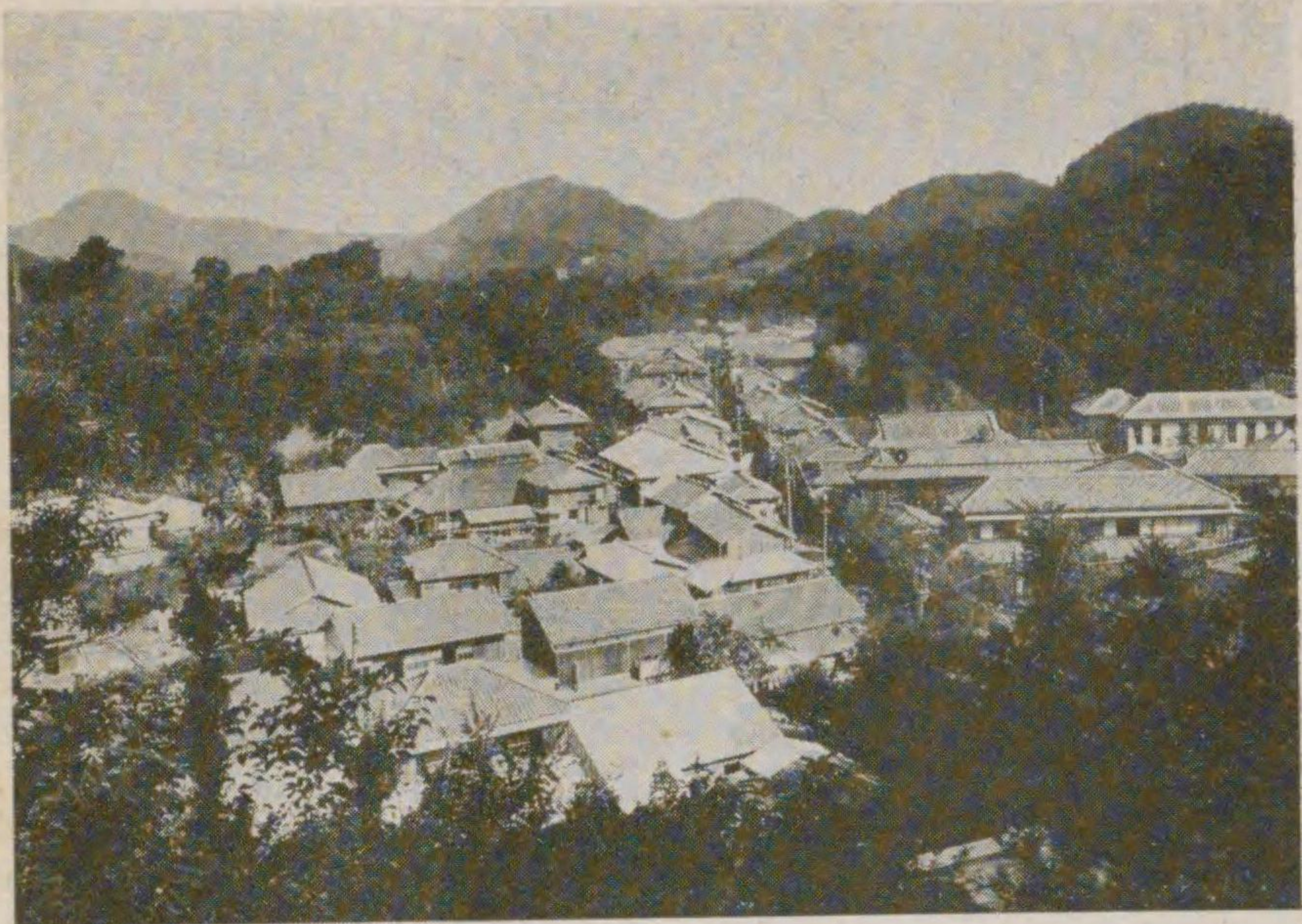
葦山反射爐



久里濱ペル上陸記念碑

泉 温 寺 善 修





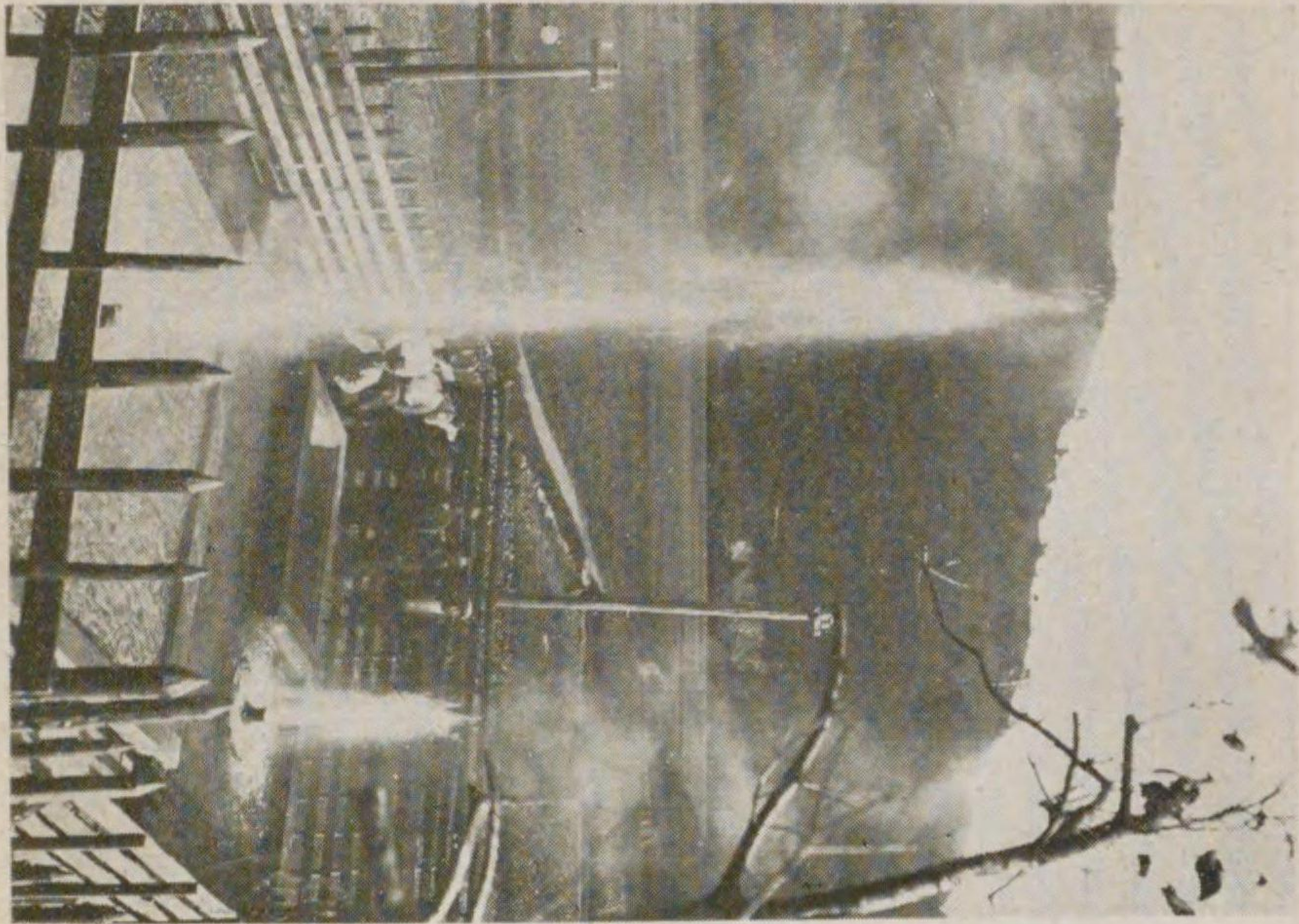
伊豆長岡温泉



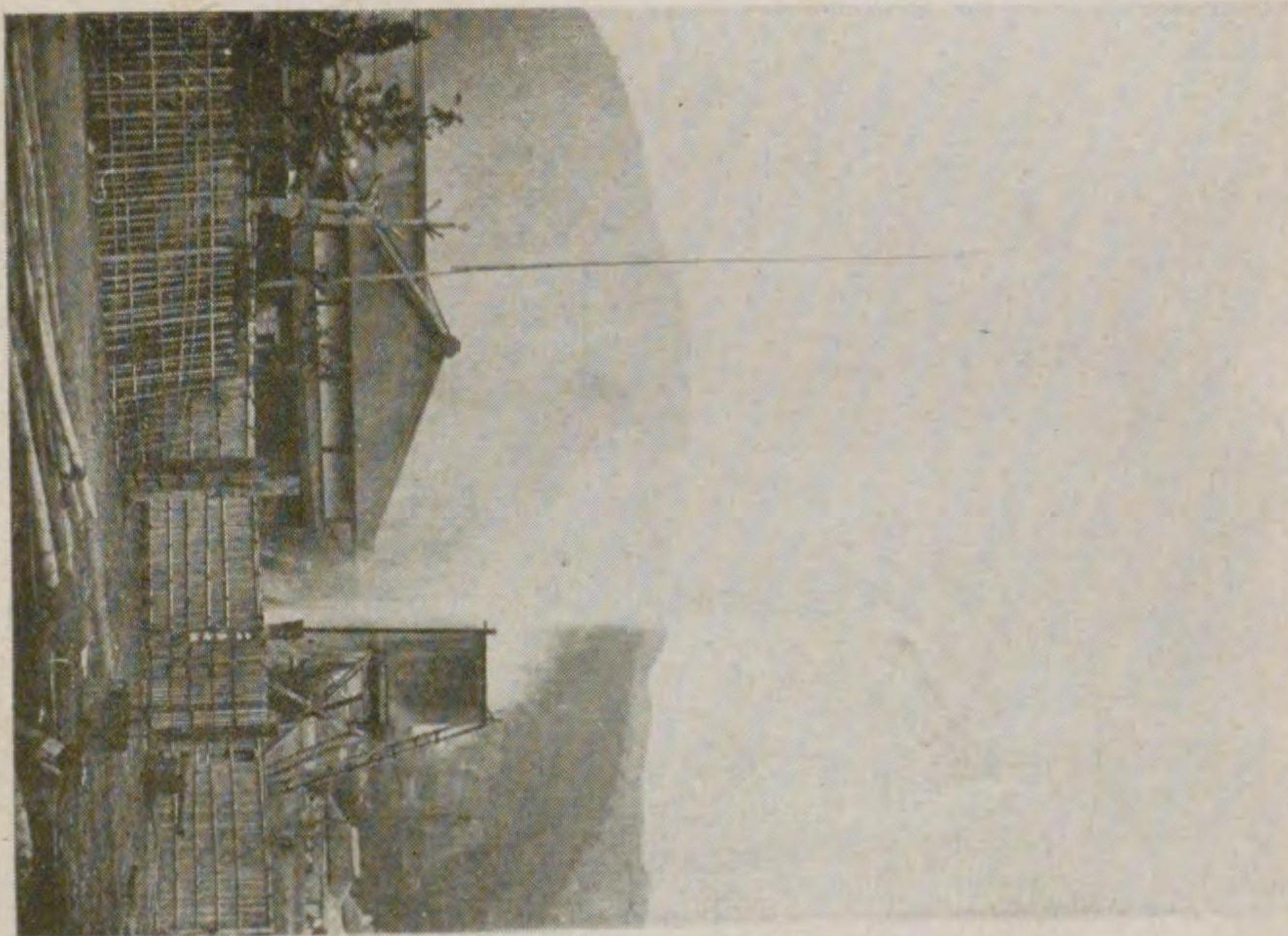
下田港

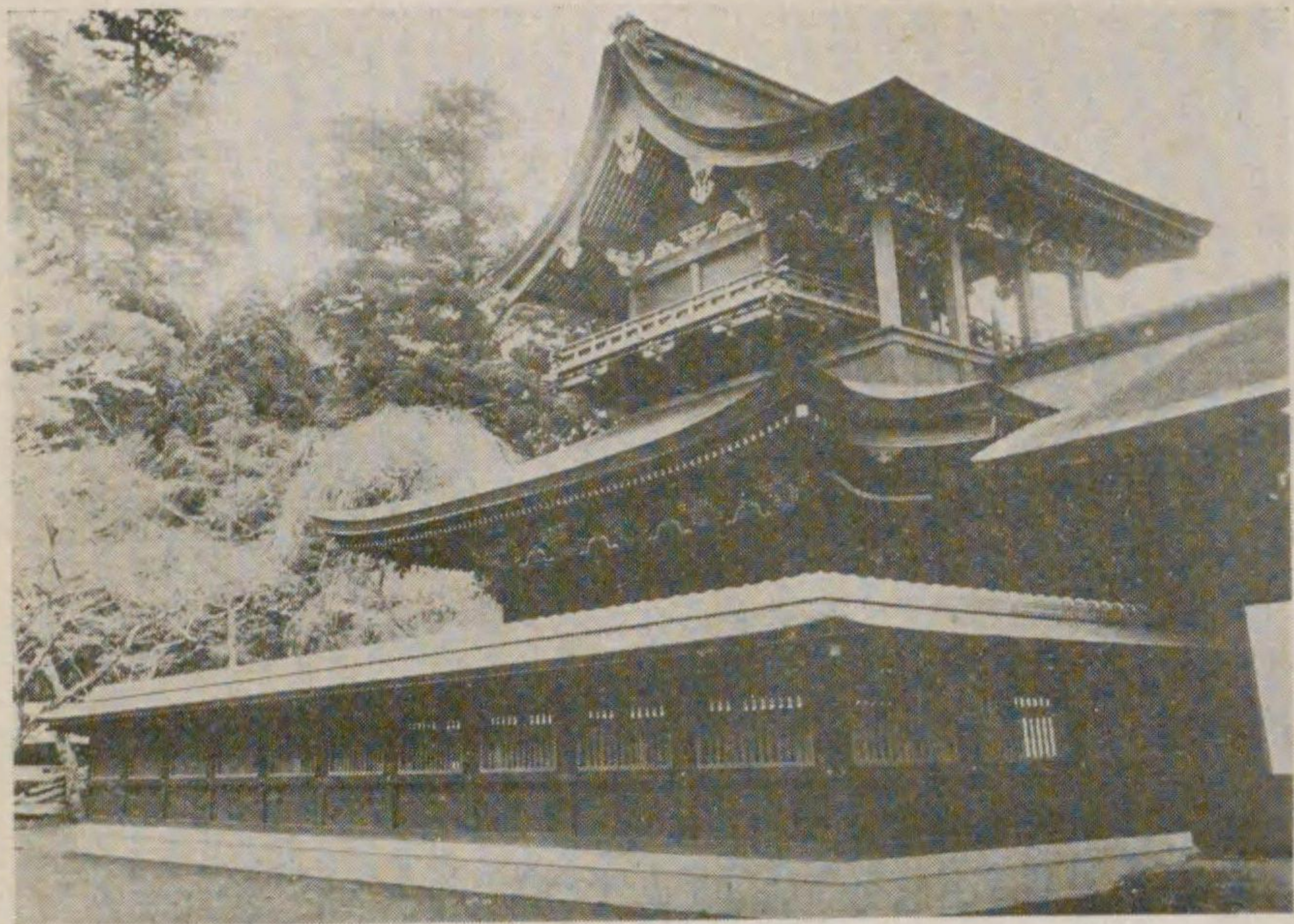


湯 噴 の 泉 温 茂 賀

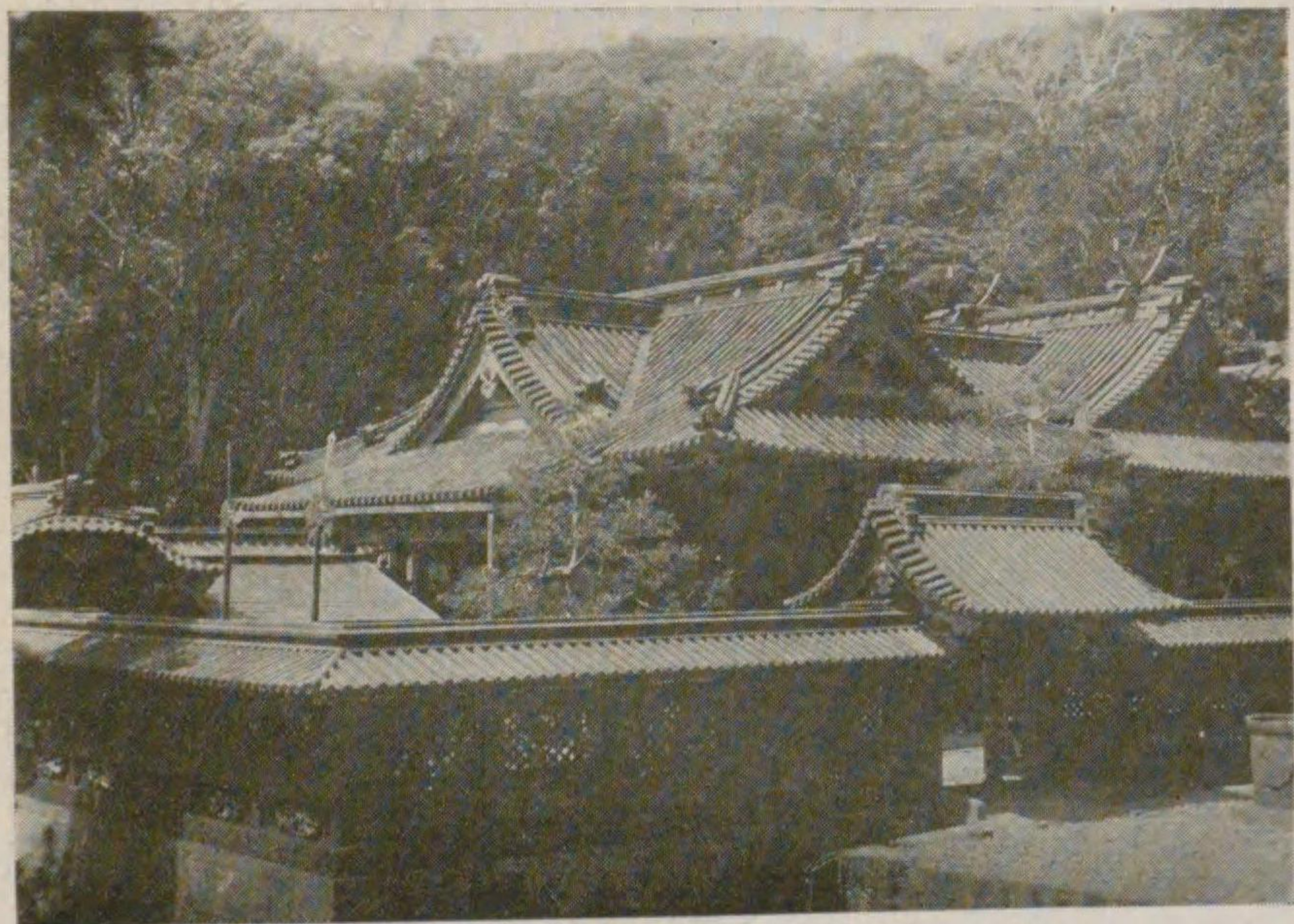


湯 噴 の 泉 温 峯



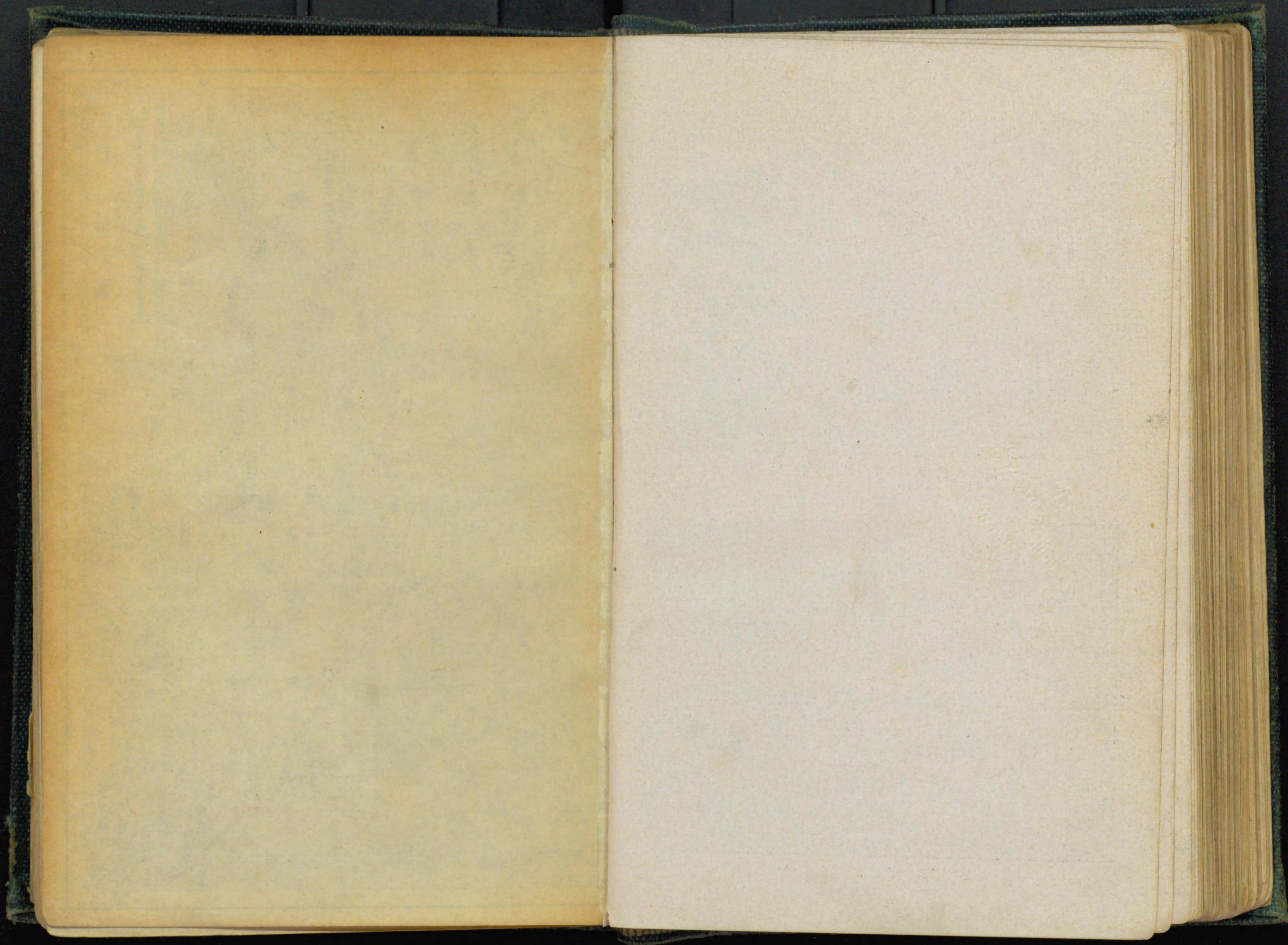


官幣大社淺間神社本殿



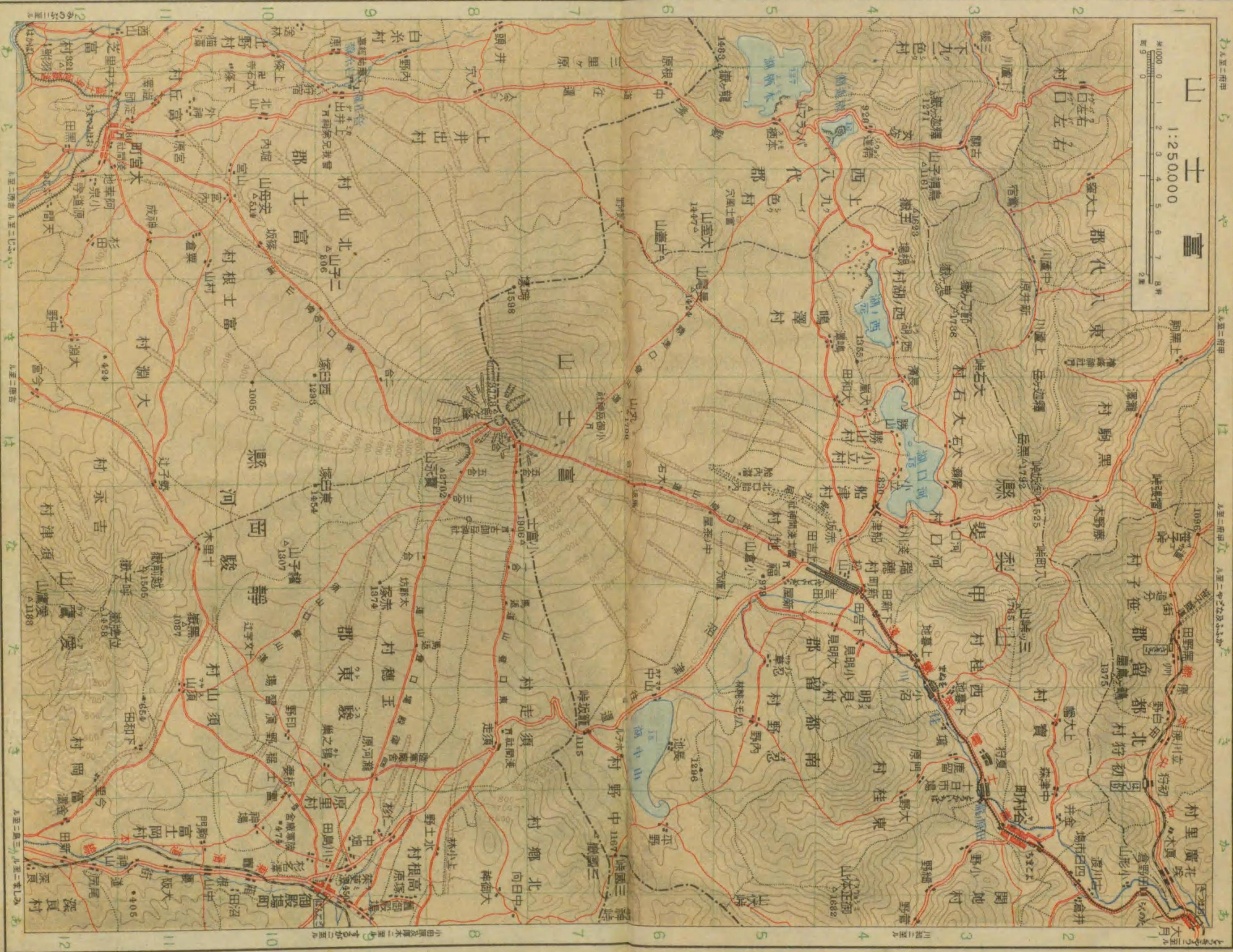
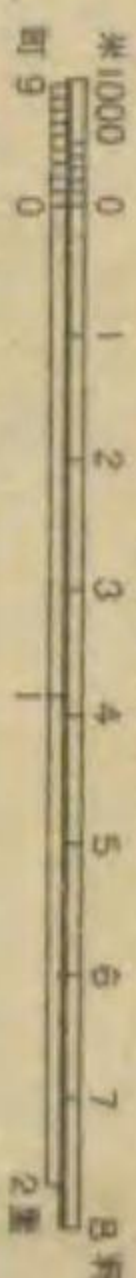
久能山東照宮





# 富士山

1:250,000



上野原 3250  
大月 3500  
川口 3200  
川口三 3100  
川口二 3000  
川口一 2900  
川口 2800  
川口 2700  
川口 2600  
川口 2500  
川口 2400  
川口 2300  
川口 2200  
川口 2100  
川口 2000  
川口 1900  
川口 1800  
川口 1700  
川口 1600  
川口 1500  
川口 1400  
川口 1300  
川口 1200  
川口 1100  
川口 1000  
川口 900  
川口 800  
川口 700  
川口 600  
川口 500  
川口 400  
川口 300  
川口 200  
川口 100  
川口 0

## 國府津 静岡間

國府津から西北に向へば、酒匂川の廣き谷が左窓外に展開し稻田が連る。下曾我<sup>しもそが</sup>三軒<sup>三軒七</sup>のあたり梅林が處々に見え、三月頃には白き花が見える。箱根火山は左方に聳え、山上にはその中央火山の二子山、駒ヶ岳、神山、外輪山の明神ヶ岳は順次左より右に竝ぶ。その右方に傾斜する最も低き處は足柄峠<sup>あしがらたうげ</sup>の道にあたる。松田<sup>まつだ</sup>六軒<sup>六軒四</sup>に至れば谷は狭くなり、酒匂川は左方に近づく。これより西に向ひ山北<sup>やまきた</sup>三哩<sup>三哩六</sup>を過ぎ、狹谷の間に酒匂川を縫ひ六箇のトンネルを過ぎ、静岡縣駿河國に入り駿河<sup>すまが</sup>八哩<sup>八哩五</sup>に著けば、左窓外に富士瓦斯紡績會社の工場が見える、これより西南に進み富士山の東裾野に出て御殿場<sup>ごてんば</sup>一〇軒<sup>一〇軒八</sup>に著く。こゝは海拔<sup>かいばつ</sup>四〇米、相模灣に入る酒匂川と駿河灣に注ぐ黄瀬川<sup>きせがは</sup>の分水界に位置し、東海道本線中の最高驛である。

御殿場驛 (一二圖ら6) 静岡縣駿東郡御殿場町

△乗合自動車 宮ノ下行 吉田行 板妻行 漣ヶ原行 印野行

國府津静岡間

須山行 杉原行 下町行 一色行 七曲臺行

【富士山】(二三圖) 静岡、山梨の二縣に跨り、わが國第一の名山で富士火山脈に屬し、コニーテ式火山の特徴を發揮して居る。火山圓錐の頂角平均三〇度、山頂に

近きあたりは三〇度乃至三五度の傾斜をして居るが、山麓に下るに従ひ漸く緩く五度乃至一〇度に過ぎざる處長く曳き、美しき對數曲線を描いて居る。その座積東西三八軒、南北四〇軒、周圍二六〇軒、體々一、〇三〇立方軒、最高點は海拔三、七八米に及ぶ。山頂には舊火口あり内院と稱し、その側壁にある熔岩及火山砂礫の互層はこの山の成層火山たることを示して居る。

噴出の發端は地質時代の洪積世<sup>こうせきせい</sup>にあり、有史時代に入りても度々噴火し、桓武天皇即位の年即ち天應元年に於ける活動は歴史に記録せられた最初のもので、その後延暦、貞觀の頃大噴火があり、最近の大活動は寶永四年將軍徳川綱吉の晩年に起り、東南側約二、五〇米の中腹に於て爆裂火口を造り、山體の一部を破壊飛散した。その火口を新内院と稱し、その東側に熔岩の破

片その他を堆積して造つた山峰を寶永山と名づけ、海拔二、七〇三米に達する。

富士山に於ける側噴出は屢々行はれ、側面に或は小火山圓錐を造つて寄生火山をなし、或は單に火口を存するに止まるものが少くない。寄生火山はその數四十六個、火口は二十四個合計側噴出口七十個を算する。中にも西北側の大室山は最も大なるもので、完全な截頂圓錐體を示して居る。

富士山體を組成する岩石中最初の噴出物たる橄欖灰長石玄武岩は裾野の基盤をなして居る。この基盤の熔岩は桂川、芝川の峽谷にその斷崖を見せ河口湖の南岸にも露出して居る。桂川の田原瀧、芝川の白絲瀧及音止瀧、久保川の佐野瀧は何れもこの熔岩の斷崖に懸るものである。また人穴、萬野、駒門の風穴はこの熔岩の中に生じたトンネルである。その後に至り噴出せる熔岩と砂礫及火山岩屑は、交互に堆積して大圓錐を形成するに至つたものであるが、その熔岩には丸尾熔岩、中腹熔岩、砂礫には中央火口砂礫、側火口砂礫の別が

呈し、火山彈を混じて居る。側火口砂礫では寶永山の新内院及小富士の噴出にかゝるものが著しく、前者には黑色コークス状のもの、灰色緻密斑岩様のもの、若しくは漆黒緻密、玻璃状のものが多く、後者は赭褐色を呈する。火山岩屑は細かき土砂と大小の岩塊を混じり、熔岩の崩壊分解により運搬されたもので、その掩ふ處多くは耕地に開墾されて居る。その廣く且つ厚く堆積するは箱根火山との裾合谷をなす地方で、須走から南瀧ヶ原印野に至る間である。

富士山の氣象は氣温に於てはその最も低きは山中で一月平均一五、六度、八月平均二二、一度、年平均九、一度、筑波山頂の九、二度、青森の九、三度よりや、低い。山中のかく氣温低きはその土地海拔一、〇〇〇米に位し、西寄の卓越風が寒冷なる富士山頂を越えて吹き下りるためである。これに次いで低温なるは吉田で一月平均一三、九度、八月平均三、八度、年平均二、五度である。大宮は著しく温和で一月平均二、六度、八月平均三、九度年平均二、六度に及ぶ。降水量は一般に西南に多く東北

ある。丸尾熔岩は何れも熔岩流をなしたもので碌々たる大小の鑛滓狀石塊として堆積して居る。これらは側噴出により多量の磁鐵鑛を包有するものである。丸尾中最も廣大な面積を占めて居るのは青木ヶ原丸尾で、貞觀六年中道御庭の東側から噴出して流下し、西北麓に湛へて居た刻ノ海を中斷して西湖と精進湖に分けた。この熔岩は約五〇平方杆の面積をしめ、其中に富士風穴、神座風穴など數多の熔岩トンネルを有し、その上には潤葉樹や針葉樹の混生せる自然林が繁茂して樹海を形成して居る。この他北側には劍丸尾があり、延長一五杆幅最大一杆に及び、東南側には印野丸尾があり、胎内と稱する熔岩トンネルを有して居る。中腹熔岩は裾野へは流下せず多くは中腹で止まつて居て、大宮口及吉田口の登山道ではその露出に接する。西南側には中道廻りの道はこの熔岩の岩盤上に通ずる。この熔岩は一般に緻密質のものが多く、また多孔質のものを混する。中央火口の砂礫は御殿場口及須走口の砂走り及中道巡りの道の東北部で見られ、黒褐色または褐色を

に少く、白絲では全計三、五五耗、吉田では一、五二耗である。暴風日數は山中では夏冬とも皆無、御殿場口では夏期最も多く二十八日、冬期十二日に及ぶ。山頂にては八月の平均氣温五、九度で沼津の二月のそれと殆んど等しく、八月の最低は氷點内外である。氣壓は八月平均四、一耗、沼津より三、五五耗低く、遞減率は高さ一〇〇米毎に氣壓一、七七耗、五〇〇米毎に三、五五耗である。山頂の沸騰點は三、四度、その遞減率は高さ五〇〇米毎に三、八度である。山頂八月の風向は西南風最も卓越し、風速は平均一、一米、時には風速六、一米に達したことがある。降水量は八月の平均量六、〇耗、時には二、二耗に及んだ年がある。

【富士登山道】(一三圖) 御殿場口、須走口、大宮口、(四〇頁参照)、吉田口(二二頁参照)、精進口(三五頁参照)の五つがある。

【御殿場口】(一三圖) 御殿場驛より富士山頂まで約二〇杆、驛を出て西北に向ひ御殿場の街村を過ぎ、淺間神社を経て裾野の平原を進めば四杆で瀧河原に至る。こゝに陸軍の廠舎がある。これより鏡原の草野を行

く、一里塚(海拔七〇米)を過ぎ馬返(二〇〇米)に至れば、密林の中に入りみやまさくら、ほていかへでなどの潤葉樹の間にこめつが、たうひの如き針葉樹を混じ、潤葉喬木帯上部の景を呈す。林中の太郎坊(二〇〇米)を過ぎ焼野に入り二合目(二〇〇米)よりは左に近く二ツ塚(二〇〇米及二五米)を望む。やまやなぎの團叢や、いたどりが多くなり、いはたで、ふじあざみを混する中を進み、三合目(二五米)に至れば下山道の砂走に出會ふ。これより焼砂は大きくなり四合目(四〇米)よりは熔岩流の上を行く、左方には寶永山(二七〇米)が美しく見え、六合目(二八〇米)で中道巡り道を横ぎる。七合目(三〇〇米)からは夏時も谷間に残る積雪が見える。八合目(三二〇米)から大たるみを経、胸突八丁の嶮を過ぎ頂上銀明水に達する。

【須走口】(二三圖) 登山道の起點は海拔八〇米、これより頂上まで一三軒六。先づ須走淺間神社を経て西に向ひ、山梨縣に通ずる縣道を横ぎり、左折して精進川を渡る。それより小坂を登ると裾野の草原が見渡され

る。中ノ茶屋を過ぎ馬返(海拔二〇〇米)に至れば坂道になり、潤葉喬木の森林帯に入り、やまはんのき、はうちかはかへで、こはうちかはかへで、うりはだかへで、な、かまど、みやまさくら、こばのとれりこ、あづきなし、ひめしやふ、みづなら、ぶななどが見られる。一ノ宮雲切不動を経て太郎坊(二〇〇米)に達すれば灌木帯に移り、さうしかんば、みやまはんのきが密生し、むしろ、みれざくら、うらじろのきを混する。これより右に上牛針葉樹の密林をなす小富士(二五米)の寄生火山を望む。これに最も近づいた處で御室淺間神社を経由する。

その附近にはしらびその巨樹が多い。二合目(二八〇米)を過ぎ、古御嶽神社に至れば下山道が分れる。更に進めば廣い砂礫地に出る。こ、はこの登山道で最も特殊の植物景を呈する處で、乾生御花畑とも稱すべく、いたどり、ほたるふくろと共にふじあざみ、いはにんじんの如き温帯下部の植物とふじはたさは、いはたで、こたぬきらん、むらさきもめんづるの如き高山性植物

が混じて美しい。三合目(三二〇米)のあたりにはみやまはんのきが多く、また落葉松が匍つて居る。そしてみやまはんのきの根に寄生するおにくと云ふ顯花植物が見られる。これは藥用植物として名の聞えて居るもので切傷に效く。五合目(三三〇米)を経て中道巡りの道を横ぎる。その交叉點の北約二〇〇米に胎内溜りがある。これより上は樹木が全く盡き六合目(三三〇米)、七合目(三三〇米)を過ぎ八合目(三三〇米)で吉田口に合する。下山道は六合目から太郎坊まで砂の中を滑り下る。

【富士山の頂上】(二三圖) 頂上には播鉢形の舊火口あり、内院と稱し、直徑東西五三〇米、南北四〇〇米、火山底は海拔三、五五米、西南から東北に長き橢圓形をなし、劍ヶ峰から三三米深く、その北陰の火山側に堆積する萬年雪と、火口壁の崩壊に成る崖錐が人目を惹く。この火口には今より凡そ一千年前までは熱湯を湛へ、常に蒸氣を發散して遠方からは噴煙と見られたのであるが、今は全く乾涸し、側壁から落下した岩屑が一面に散布して居る。また火口の南側中腹に虎石と稱する巨岩が

ある。側壁には熔岩の岩盤と礫層が交互に相重なり、最上部には熔岩の表皮がある。その上には更に礫層熔岩層があつたが脱落剝されたものである。

頂上の西南隅には劍ヶ峰が峙ちて富士山の最高峰をなし、西北隅には白山岳、東北隅には久須志岳、大日岳、伊豆岳、東南隅には成就岳、駒ヶ岳、三島岳がある。西隅には西安の河原と名づける平地があり、その北に一段低い阿彌陀ヶ窪がある。共に火口棚と稱すべきものである。阿彌陀ヶ窪の西北隅には小内院と名づける窪地がある。伊豆岳と成就岳の間には外側に砂礫の間から蒸氣を發する處がある。

頂上を一周するには外輪廻りと内輪廻りの二種があり、外輪廻りは最も高き峯續きを通り延長二軒六、内輪廻りは内側の火口棚の上を通じ延長二軒三。

山頂の展望は北には甲武信山、金峯山のかたに淺間山の煙が見え、西北に近く八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、白峯北岳が見え、それらを越えて飛驒山脈の白馬岳、槍ヶ岳、穂高岳及乗鞍岳、御嶽の二火山、木曾山脈の駒

ヶ岳を見、西には赤石山、七面山、大無間山、西南には久能山、三保松原、御前崎、東南には伊豆半島の天城山、伊豆七島、箱根山、東には三浦、房總二半島、東京灣、東北には筑波山、那須岳、日光白根山、赤城山などが望まれる。

【影富士】 山頂で見られるもので、雲海の上に投影するものと空中に出現するものがある。前者は山の半腹若しくは裾野が白雲に掩はれた時、日出の後または日没前に山の圓錐形をそのまま、に雲面が投げるもので薄墨色をなす。後者は天氣晴朗の日に太陽が没せんとするにあたり、東方の空に漂ふ塵埃及水の微粒に山影を投げるもので、日の沈むに従ひ影は高まつて行く。

【印野の熔岩トンネル】 御殿場驛の西九軒半、印野村本村にあり、御胎内と稱し、二個の窟口あり、左を入口とし、右を出口とする。内部には肋骨状の岩の壁あり、また熔岩鍾乳石が垂下する。通過に十分を要する。

御殿場から南に向ひ黄瀬川の谷を下る、この谷は西

には富士、愛鷹、東には箱根の火山が裾を曳き、地形學上裾合谷と稱するものに屬し、火山灰が堆積して畑地または森林をなして居る。富士山は近く右窓外に雄姿を現はし、飽かぬ眺めが得られる。汽車は黄瀬川の支流大澤川を右に見てこれに沿ひ、その黄瀬川に合する所にて黄瀬川の本流を渡り、箱根裏街道を横ざり、左方箱根山の蘆ノ湖より灌漑用水として引いた深良川を渡る。それより右に愛鷹山の諸峰を望み裾野一五軒一を経て三島三哩〇に著く。

【佐野の瀑】 裾野驛の西北一軒半、富士山基底、熔岩橄欖灰長石、玄武岩の東南に流下する處に懸り高さ一七米、七條に分る。佐野瀑園と稱し、遊園地がこゝに經營されて居る。

三島驛 (一四圖さ2) 靜岡縣駿東郡長泉村

△駿豆鐵道 三島修善寺間 二〇軒六一二哩八

△乗合自動車 三島町行 箱根行

【光長寺】 (本門法華宗) 驛の西約三軒、金岡村岡宮にあり、自動車の便がある。日蓮宗の一名刹である。



關東南西部  
1:500,000  
0 5 10 15 公里  
0 3 6 英里

【三島神社】〔官幣大社〕 駿豆鐵道三島町驛の東北約一  
軒、三島町にあり、自動車の便がある。延喜式所載の  
名神大社で、事代主命を祀る。古來伊豆の一ノ宮と  
して名高く、鎌倉時代以後武家の信仰厚くして源頼朝  
も屢々當社に參拜したことがある。今の社殿は明治二  
年に再建された權現造の大建築で、拜殿の前に神樂  
殿があり、隨所に素地のまゝの精巧なる彫刻が施され  
て居る。毎年八月十六日の例祭、一月七日の御田植祭  
及節分祭には參詣人多く大に賑ふと云ふ。

寶物

一 蔀繪柳筥〔國寶〕一口

鎌倉時代 東京帝室博物館出陳

柳筥は理髮の具を収める筥であつて中に鏡、小篋、鉋、耳搔、  
毛拔、笄、眉筆、紅皿、紙製繪元結、木櫛の類が十數點收めてある。  
柳筥全面に鎌倉時代特有の豪壯華麗の風致が横溢し技巧にも意  
匠にも雅趣があり、製作優秀な上に時代風俗を徴すべき化粧道  
具を具備する點は特に珍重すべきである。

一 短刀 友行作〔國寶〕一口

一 太刀 宗忠作〔國寶〕一口

國府津靜岡間

一 脇差 秋義作〔國寶〕一口  
境内に新築された寶物館があり、寶物は遠からずこ  
こに陳列される筈になつて居る。

【伊豆國分寺址】 三島神社の西約一軒、蓮行寺境内に  
あり、大なる礎石が八個残つて居る。

【熔岩中の湧泉】 駿豆鐵道三島町驛の西北二軒、舊李  
王別邸内にあり、富士山の基底熔岩中より湧き、泉量  
極めて多く泉池に湛へ、流出して三島町附近の田園を  
灌漑するものである。

【妙法華寺】〔日蓮宗〕 同三島町驛の東約六軒、田方郡  
錦田村玉澤、丘陵景勝の地にあり、自動車の便がある。  
獨立本山と稱し、日蓮宗の一名刹である。

寶物

一 日蓮聖人畫像〔國寶〕一幅

絹本着色、拂子を手にし椅子によれる像で、その豪健なる相  
貌は、よく日蓮その人の風彩を現はせるものと思はれる。後方に  
描かれたる釋迦四菩薩及壇具は、日蓮の像及其の前面に描かれ  
た武家の男女に對してや、調和を缺ける恨みあるも、頗る優秀  
なる作で鎌倉末期の特徴を存して居る。



國府津靜岡間

一 繪曼茶羅 (國寶) 一幅

絹本着色、日蓮聖人の創意と傳へられて居る文字曼茶羅を畫像によつて現はした珍奇なる曼茶羅である。この圖もまた鎌倉時代の作である。

【畑毛、新畑毛温泉】 (一四圖か?) 同大場驛の東南三軒

半、自動車の便があり、北方に富士の麗姿を仰ぐ。温泉は弱鹽類泉でや、微温く、別に上り湯を沸して居る。皮膚病、リウマチス、ヒステリー、婦人病などに効くと云ふ。二泉相連り、新温泉は別莊地として經營せられて居る。附近には柏谷の横穴、國清寺などの名所がある。旅館は新畑毛に榮屋、畑毛は療養向で富士見館、中華亭、松屋、野田屋、琴景舎、鈴木館。

【柏谷横穴群】 同大場驛の東二軒、函南村柏谷部落の東南部にある丘陵にあり、上代の墳墓址で五六十箇所開口し、百穴の如き狀を呈して居る。

【葦山城址】 同葦山驛の東約一軒、葦山中學校背後の丘陵がそれである。丘上には本丸、二の丸、三の丸址と稱する所があり、丘陵には濠の一部が残つて居る。城は

を鑄造したものである。爾後荒廢して居たが、その遺址は陸軍省の所轄に移り、高さ一六米の煙突及長さ五米六、幅五米の爐址が存して居る。これに使用されて居る耐火煉瓦は一、七〇〇度の高熱に堪へるもので、英龍が天城山麓梨木その他の土を取り、辛苦の後製造したるものである。今東京靖國神社境内大村益二郎銅像の下にある砲身は、こゝで鑄造されたものである。

【願成就院】 (眞言宗) 同伊豆長岡驛の北約一軒、葦山村寺家にある。當寺は文治五年北條時政が奥州征伐の戦勝を祈るために建立した寺で、當時阿彌陀三尊及不動、多聞天の兩像を安置したことは吾妻鏡に見えて居る。この佛像のうち阿彌陀像だけは今に存し國寶に指定されて居る。他の諸像は悉く失はれたのであるが、不動、多聞天の兩像が寶曆二年北條美濃守氏貞に依つて修理せられた時、兩像の胎内から塔婆形の銘札が発見された。この銘札のみ尙存して、國寶に指定されて居る。銘札は高さ約七二糎 (二尺三寸七分) 幅約九糎 (三寸) 厚約一二糎 (四分) 二枚とも同形にして上部は五輪塔

國府津靜岡間

堀越御所の時築く所と傳へ、長享年間には北條長氏ここに居りしが後小田原に移り、その後は北條氏の屬城となつた。天正十八年に豊臣秀吉の有に歸し、慶長五年關原役後廢城となる。堀越御所は長祿元年足利義政の弟政知が京都より下りて居りし所、その遺址と傳ふる地が葦山村の守山にあるが、數個の礎石を存するのみである。

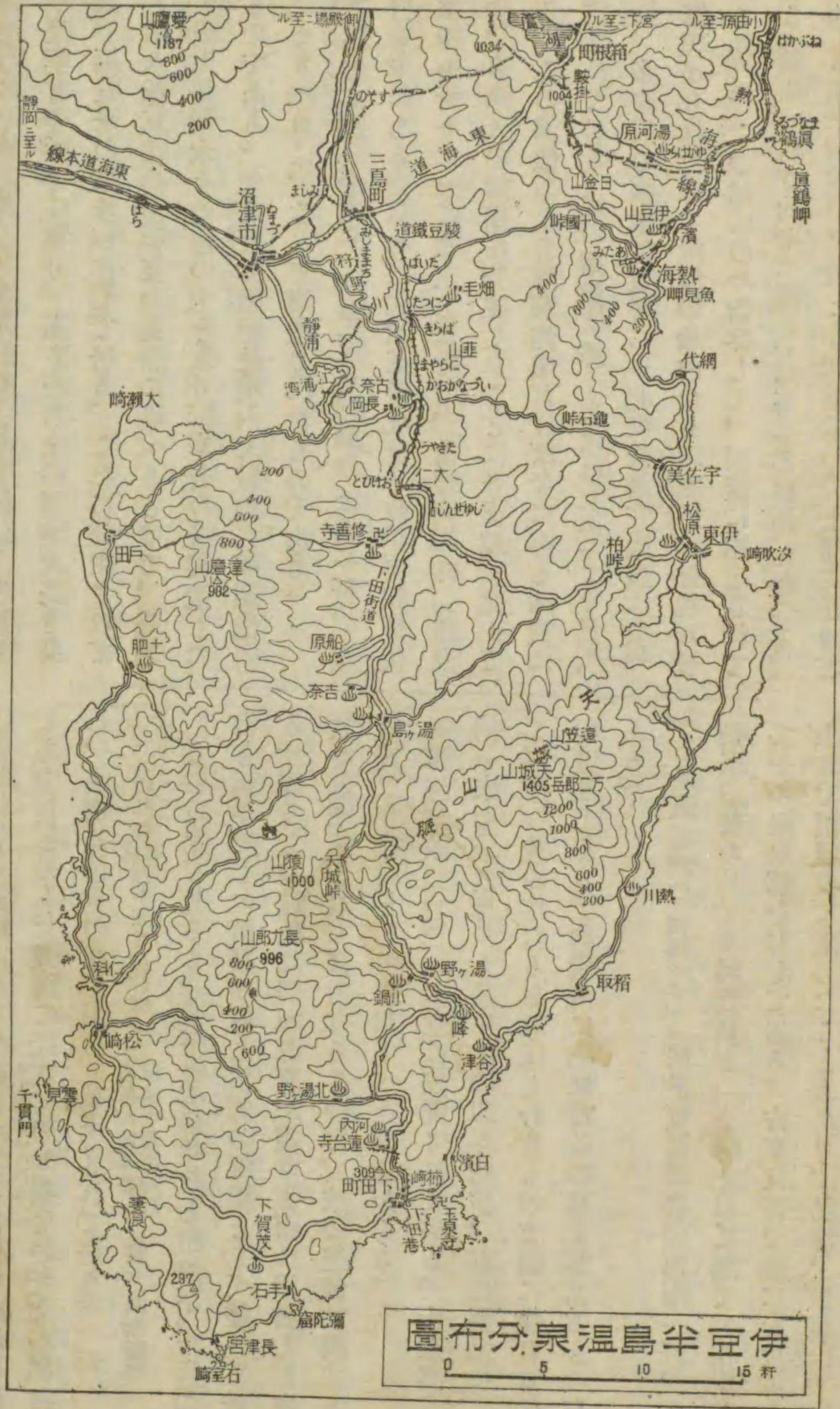
【江川邸】 葦山城址の東方一軒半にあり、單層入母屋造茅葺、鎌倉時代の建築にかゝり、當時の住宅建築を徵すべき貴重なる遺構である。江川氏はその祖先親信の時大和より移りてこの地を領し、源賴朝に應じて戦功あり、江川庄一圓を與へられた。第二十八世英長は徳川家康に用ゐられ代官となり、爾後子孫これを世襲し、幕末の偉才坦庵江川太郎左衛門英龍は實にその第三十六世であつた。

【反射爐址】 同伊豆長岡驛の東一軒二、葦山村中鳴瀧にあり、反射爐は江川太郎左衛門英龍が幕府に建議して安政二年に造營、爾後明治維新までに大小砲數百門の形をなし、水輪にある小孔にはもと舍利が納められてあつたと云ふ。表面には寶篋印陀羅尼の梵文を墨書し、裏面には次の文が同じく墨書されて居る。

文治二年次歲丙午五月三日奉始之巧師勾當運慶 檀越平朝臣時政 執筆 南無觀音

この背記で見ると、運慶は北條時政と相並び、巧師勾當と云ふ珍しい肩書を冠し佛師の棟梁として控へて居る。即ちこの銘札は佛師運慶が關東方面に活動した史實を證明する最も有力なるもので、彼の造像に關する確實なる資料として尊重すべき價值がある。

阿彌陀坐像 (國寶) 本堂に安置されて居る。木造高さ約一米七(五尺五寸) 上品中生の印を結び、彫法遒勁にして運慶一流の作たるを思はしむるもので、隨に鎌倉時代の遺品である。尙境内に北條時政の墓と傳ふるものがある。



善寺など、共に古くから知られて居たが、その發展は近年新に新温泉を穿掘した以來のことである。温泉は凝灰岩中より湧出し、無色透明の單純泉でや、鹹味を有し、創傷、濕疹、神經諸病、婦人病、腺病などに効くと云ひ、舊本陣にある古來の湯は特に皮膚病に効くと云はれて居る。附近には反射爐址、葦山城址、蛭ヶ小島、江川邸、願成就院などの名所がある。旅館 白石館、井川館、舊本陣、みろく館、倉屋、米山館、外七軒。

【長岡温泉】(一四圖さる) 同伊豆長岡驛の西南一軒半自動車の便あり。明治四十三年新に穿掘した温泉で、沖積層中より湧出する無色清澄の弱鹽類泉、リウマチス、濕疹、ヒステリー、腺病、婦人病などに効くと云ふ。一小巒を隔て、古奈温泉あり、近年この二温泉附近一帯は温泉別荘地として開發せられんとする情勢である。名所としては最明寺時頼の墓、天野遠景の墓、古代の石棺、稚子ヶ淵などがある。旅館 大和館、山田屋、さかなや、小松屋、橋本屋、葛城館外六軒。

【三津海水浴場】(一四圖さる) 同伊豆長岡驛の西南五里、沼津からは東南約一一軒共に自動車の便あり、古奈、長岡温泉客の遊賞地である。駿河灣の一支灣たる内浦灣に臨める景勝地で左方は大瀬の岬、右方は江の浦灣の長汀曲浦から沼津の千本松原の翠黛も眺められ、灣頭には海拔二二〇米の高さを有し圓錐形をなせる淡島の青螺美しく波に浮んで畫景をなし、更に島と鷺頭山との間に富士の麗姿が仰がれる。海水特に清澄、風波靜穩、好海水浴場である。旅館 安田屋、松濤館、山田屋支店、長岡俱樂部。

【修善寺温泉】(一四圖さる) 同修善寺驛の西南二軒、自動車の便がある。達磨山から流れ出た桂川の清流町の中央を西から東に貫流し、流を挾んで浴樓軒を列ねて櫛比し、南と北は木立茂れる丘陵を控へて山水双美の温泉境をなして居る。温泉の發見は可なりに古く、修禪寺縁起によれば同寺は大同年間、弘法大師の草創と傳へ、その時桂川の河中に靈泉の湧くを發見して里人に入浴治病の法を教へたのが今の獨鈷の湯の起りだと

云ふ傳説が信ぜられて居る。鎌倉時代にはその名世に著はれ、一種の療養所の觀あり、源範賴、二代將軍源賴家は共にこゝに幽閉せられて悲劇の舞臺となつた。温泉は獨鈷の湯、石湯、稚兒の湯、白絲の湯、箱湯などは泉源河中にあり、安山岩の地裂線から自噴して居るが、主なる旅館には皆内湯をもつて居る。泉質はいづれも無色無臭の弱鹽類泉でラヂウムエマナチオン含有量八、五マツへ、溫度百二十度乃至百八十度、リウマチス、神經諸病、呼吸器病、胃腸病、婦人病、皮膚病などに効くと云ふ。

附近の名勝には修禪寺、母政子が源賴家の冥福を祈る爲に、宋板一切經を藏めて建立した經堂指月殿。その經堂の左側にある源賴家の墓、戸田街道の小山にある源範賴の墓と傳ふるもの、塔ノ峰にある賴家の侍臣の墓と傳ふる十三人塚。日枝神社、修善寺公園、嵐山の櫻花、富士の見える梅園、長壽園不老の瀧などがある。旅館 菊屋、新井、淺羽、野田屋、仲田屋、橋本屋、四方樓、柏屋、水月屋、福壽館、月の家外數軒。

土肥温泉へは峠越に一四軒であるが、これは今道路改修中である。

【吉奈温泉】(一四圖さ4) 同修善寺驛の西南一〇軒、自動車の便あり、天城山の山麓、狩野川の支流吉奈川の沿岸に湧出し、聖武天皇の御代に僧行基、この地に醫王山善名寺を建立して藥師如來を安置したが、その尊像の傍から靈泉の湧出したのが起りだと傳へて居る。温泉は鹽類泉でや、微温く、古來子寶の湯と呼ばれ、あたゝまる湯と稱せられて、子供を欲しがらる婦人の浴客が多い。徳川家康の妾お萬の方はこゝに浴して後賴宣を産んだと云ひ、お萬の方腰掛石、子持柿などの傳へがある。旅館 東府屋、さかや、外に芳泉莊の貸別荘がある。

【嵯峨澤温泉】 同修善寺驛の南一〇軒、自動車の便あり、狩野川の流に臨んで天城の連峰を南に仰ぐ。鹽類泉で胃腸病、リウマチス、婦人病などに効くと云ふ。

旅館 嵯峨澤館、附近に月ヶ瀬瀧泉がある。

【修禪寺】(曹洞宗) 修善寺町の中央にあり、弘法大師或はその上足泉隣の創建する所と云ふも詳かでない。建長年中には宋の僧蘭溪來住して臨濟宗に改め、後正安年中には元の僧一寧も來住したことがあり、禪宗の一名刹である。

寶物

- 一 宋板法華經 七卷
  - 一 正法念處經 卷卅一 一卷
  - 奥書 承久三年九月十九日依法隆寺聖人勸進奉書寫畢佛弟子僧信耀
  - 一 繡佛釋迦三尊 三幅 明時代
  - 一 蘭溪肖像 一幅 絹本着色 鎌倉時代
  - 一 北條早雲寄進狀 一通
- 以上の外多數の寶物あり、毎年四月二十、二十一日、八月二十、二十一日に陳列して一般の縦覽を許して居る。

【船原温泉】(一四圖さ4) 同修善寺驛の西南一〇軒、自動車の便あり、弱鹽類泉で、リウマチス、神經痛、胃腸病などに効くと云ふ。旅館船原ホテル、對山莊、船原館。こゝから小山越に吉奈温泉へは二軒、西海岸の

自動車の便あり、アルカリ性鹽類泉で胃腸病、リウマチスなどに効くと云ふ。温泉は西平、世古の瀧、木立の湯は特に創傷に効くと傳へて居る。地は天城山の西麓、狩野川、猫兒川の流に臨み、頗る嵐氣に富んだ幽邃境である。旅館は世古の瀧に落合樓、小森館、湯川屋、西平に湯本館、木立には無い。

【天城山】(一四圖から) 伊豆半島中部の東半に蟠る火山で、萬三郎岳はその最高峰をなし海拔一、四〇六米に聳ゆ。萬三郎岳は萬二郎岳、白田峠など、共に火口壁を作り、その南側は急斜して直徑約六軒半のカルデラを形成して居る。カルデラの中央には白田山の中央火山丘が聳え、中腹から泥流を流し、カルデラの水は白田川の火口瀨によつて流出して居る。外輪山の上にはカワゴ平及八町池の火口がある、前者は萬三郎岳の西に位し直徑二〇〇米、多量の泥流と玻璃質熔岩流を出した。その熔岩は多孔質であるため流末に風穴を形成して居る。後者は火口湖で周圍八〇〇米、東南及西北に二條の熔岩

流を出し、附近一帯は角閃石を含む玻璃質の岩片を混する火山灰で蔽はる。この池の附近には樹上に卵囊を吊すことを以て名高い森青蛙が棲む。また東南には硫黄が堆積する。これは火山壁の間隙から出た硫黄からの昇華である。外輪山の外側は緩傾斜をして裾野に及んで居るが、寄生火山は白田山の中央火山口丘を中心として直徑一六籽の圓周上に峙つて居る。これらの寄生火山は多くは美しい圓錐形をなし、多量の火山岩層で蔽はれ、よくその原形を保つて居る。その中南方の淺間山は傾斜や、急で中腹に火山口と見ゆるものがあり、南方の大池小池は今は水なき火山口で附近に砕片を飛ばし、西南の鉢山は頂上に直徑三〇米の火山口を有し、西方の登尾山には火山口がなく、西北の鉢窪山は名の如く火山口を存する。北方の菅引山及東方の伊尾山は形や、不完全で、東北の矢筈山は山頂二峰に分れ極めて急斜しベロニーテ型を示して居る。これはその北に隣る岩野山と共に兩輝石安山岩より成る岩澤丘である。これらの外東北側には遠笠山、大室山、小室山などの寄生

火山がある。遠笠山は名詮自稱の緩傾斜をなし山側には火山弾が撒布する。大室山は頂上に直徑約三〇米の火山口があり、その附近は廣き熔岩臺地をなして居る。小室山はそれより東北に離れ、玄武岩質の岩石より成る。

天城山の裾には温泉が湧出し、西北の湯ヶ島、西南の湯ヶ野、南方の峯、谷津、東南の熱川が名高い。

山中には黒松、杉、檜、樺、などの森林があり、山頂に近い處にはぶな、あせび、しやがなどの潤葉灌木がある。またその溪流のある處には山葵が栽培されて居る。林中には鹿、猪が棲み冬季その狩獵が行はれる。

【湯ヶ野温泉】(一四圖から)同修善寺驛の南三六籽、自動車の便がある、天城山を越えた南伊豆の山間にある温泉場で河津川の上流に臨んだ閑寂境である。無色透明の鹽類泉で、皮膚病、神経諸病、眼疾などに効くと云ふ。旅館江戸屋、福田屋、湯本樓。温泉場から西半籽小鍋川に臨んで小鍋温泉もある、旅館二階屋。附近の名所には大瀧、しよげ瀧、釜瀧などの瀧があり、柱状

節理の著しい玄武岩の斷崖に懸り奇景を示して居る。

【峯温泉】(一四圖から) 下田からは東北一三籽、湯ヶ野からは東南五籽、共に自動車の便がある。温泉は近年穿鑿したもので噴騰の高さ約三〇米(百尺)に及び、一分間の湧出量約二五立(十石)、攝氏百度の熱泉で湯烟り高く轟々たる音を響かせて居る。鹽類泉でクローラトリウムを多量に含有し、神経痛に特效ありと云ひ、リウマチス、創傷、濕疹、婦人病などにも効くと云ふ。附近に徳川家康の妾お萬の方の生家と傳ふる家の大蘇鐵がある。旅館 玉峯館、菊水館。

【谷津温泉】(一四圖から) 下田から東北一二籽、湯ヶ野からは東南六籽、共に自動車の便がある。東京からの下田行汽船はこゝへも寄航するから熱海か伊東から汽船に頼つてもよい。

地は天嶺山を負ひ、河津川の清流に臨み、天城の連山が仰がれる。その海濱は近年伊豆舞子と稱し青松ながく連り、海水浴場として知られて來た。温泉は湧出口多く、字鷺頭には近く九米(三十尺)の噴騰泉が穿鑿さ

れた。鹽類泉で保温性のものと放温性のものあり、保温性のものはリウマチス、痔疾、婦人病、胃腸病などに、放温性のものは眼病、創傷、皮膚病などに効くと云ふ。附近には大樟樹の神木を有する來宮神社、面白き傳説を有する河童の壺のある栖足寺、河津三郎祐泰の館址と云ふ八幡神社、近年發掘した古佛を有する南禪寺などがある。旅館 まげや、石田屋、中津屋、増田屋外三軒。

【見高石器時代住居址】 下田町の東北約一二籽、下河津村見高小學校構内にあり、自動車の便がある。住居址は學校運動場内三ヶ所に散在し、東北に存するは、發掘の當時不用意に大部分を動かし、後記憶をたどつてもとの位置に復したものと云ふ。縦横各一米五内に十一個の平石を置き、中央の爐と見るべき處に二個の石があり、東北に五個の飛石がある。東南に存する住居址は原状のまゝで、南北二米東西一米五の地域内に平石を中凹に敷き、平石の間隙は丸石を以て填充し、中央に石をやゝ高く置いた爐を設けて居る。最初發見

された時この爐の上に完全なる甕が置かれて居たと云ふ。この住居址の附近に無頭の石棒をたててその上に凹石を覆ひ、周圍に種々の石を置いた場所も発見されて居る。更にその附近に爐及石敷の半分を遺した住居址がある。これらの住居址からは多くの石器及土器の破片などが発見され、その大部分は見高小學校内に保管されて居る。石器は石鏃が非常に多く、次いで石棒、石皿、石斧なども少からず発見されて居る。土器は破片ばかりであるが多數發掘され、何れもアイヌ式土器である。この住居址は相模灘に突出せる臺地で、東南に小港を控へ、展望廣く景勝の地を占め、石器時代にアイヌ民族の據つた城塞と察せられる。

【熱川温泉】伊東からは下田行の汽船で穴切に上陸、夫より海岸路を傳うて南へ徒歩約半軒、下田からは谷津温泉、稻取町を経て白田まで自動車便あり、それより海岸路を傳うて北へ徒歩約一軒半、天城山の東南麓、大島の噴烟を間近に見る伊豆東海岸の波打際があり、世離れた温泉場である。鹽類性硫黄泉で皮膚病、創傷、

見せて居る。旅館 會津館、石橋旅館、掛塚屋、順治樓外七軒。

【河津鑛山】日本鑛業會社の經營にかかり主要鑛區は蓮臺寺、須崎の二つである。蓮臺寺鑛區は蓮臺寺温泉に接し、地質は變朽安山岩を以て構成せられ石英粗面岩がこれに貫入して居る。その何れにも正規鑛脈が胚胚せられ、主要鑛脈五條幅一米乃至八米延長三〇米乃至八〇米、一般走向三〇度乃至三三〇度、各鑛脈は相平行し、概ね七〇度乃至八〇度の傾斜を有し、鑛石は含金銀石英で黄銅鑛、閃亜鉛鑛、方鉛鑛、滿俺鑛などを隨伴する。採鑛は手掘上向階段法を用ゐ、凡て土砂充填を行ふ。鑛石は茨城縣の日立鑛山その他の製鍊場へ送る。

須崎鑛區は下田町の東方約四軒、外浦灣に面し、變朽安山岩より成り、鑛床はこれを母岩にし、塊狀鑛體として存し、鑛石は堅硬なる硫化鐵鑛である。採掘は鑿岩機を使用し上向階段法による。鑛石は東京方面へ輸送する。

胃腸病などに効くと云ふ、旅館つちや、福島屋外一軒。【河内温泉】下田町の北三軒半、修善寺驛から下田へ行く自動車はこの温泉場に停留所を置いて居る。温泉は弱アルカリ性鹽類泉でリウマチス、ヒステリー、神經衰弱症、貧血諸症、婦人病などに効くと云ふ。旅館 松本、金谷。

【蓮臺寺温泉】(一四圖三六) 下田町の西北三軒半、修善寺驛から下田行の自動車によると、河内温泉場を過ぎ、下田富士を間近に見る立野橋際に下車、それより西へ約半軒。翠巒周圍を繞る閑靜境である。温泉は硫黄泉で硫化水素臭を放ち、弱酸性の反應あり、リウマチス、神經諸病、皮膚病、花柳病、婦人病などに効くと云ふ。共同湯の藥師湯は吉田松陰が米艦に投ぜんとして下田に至りし時、疥癬を治すべく入浴したところ、その近くに松陰の宿泊した村山庄兵衛の宅あり、また丘上の天神社内には古の蓮臺寺本尊たる國寶大日如來がある。この邊一帶は即ち温泉山蓮臺寺址だと云ふ。天神社背後の山を中心に河津鑛山が幾多の坑口を

鑛産額は金銀銅鑛約二、五七萬軒(六百八十二萬貫)、硫化鐵鑛四七萬軒(百三十萬貫)、品位は金〇、〇〇三%、銀〇、〇一五%、硫黄四五、〇%。

【天神社大日如來像】(國寶) 蓮臺寺天神社にあり、木造、結跏趺坐の像で高さ一米餘(三尺八寸) 智拳印を結び、胸に瓔珞をかけ五智の寶冠を戴いて居る。顔面の漆箔殆んど完存し、眉間に水晶の白毫があり、唇には朱色が残つて居る。姿態中正を得て靜寂なる表情に富み、製作優秀にして鎌倉時代の特徴を示して居る。この像はもと蓮臺寺の本尊にして同寺衰滅の後天神社に有に歸したもので、今天神社のある所は蓮臺寺の舊址と傳へて居る。

【下田】(一四圖三七) 沼津の南八二軒、修善寺の南五六軒、沼津及駿豆鐵道修善寺驛から自動車の便がある。伊豆南岸の良港で、江戸時代には上方江戸間の海路の要衝として殷盛たりし處で、明治以降大型汽船の時代に入りや、衰へたが、今尙伊豆南部第一の都市である。港灣は景勝の地を占め、古の鵜島城の址は公園とな

り、その海岸に遊覽道路が開鑿せられ、海水浴は東部の武ヶ濱と西部の大浦とに行はれる。東京よりは定期汽船が熱海、伊東など東伊豆の諸港を経て通ひ、また西方には西海岸の松崎、土肥を経て、沼津または清水へ通ふ汽船もある。この地は嘉永、安政年間には歐米諸國に對する外交折衝の地となり、我が外交史上に特筆すべき歴史を遺した。その史蹟には、日米條約(下田條約)議定の時に使用された了仙寺及日露條約締結の地として知られて居る長樂寺がある。また郊外柿崎には米國最初の領事館の址がある。旅館 平野屋。

下田節

伊豆の下田に長居はおよし編の財布が空になる

(囃) ヤレ、下田の沖に瀬が四つ、思ひ切る瀬に、切らぬ瀬に、取る瀬に遣る瀬がないわいなアエ。

伊豆の下田を朝 山まけば、晩にや志州の鳥羽の浦へ

(囃) ヤレ、傳馬を漕いで八帆まいて、帆足そろへて行くときは、下田戀しと思ひ出して泣きやがれ泣きやがれ、

相模や東北風で石廊崎や西風よ、間の下田がだしの風

(囃) ヤレ、千日千夜さ逢はずとも、先さへ心がかはらなきや、

岸の石灰砂岩は海波の浸蝕作用を受け浸蝕面は凸凹を呈し、その面に化石類が現はれて居る。その重なるものは海膽類、珊瑚類、フエネステラ、テレブラチュラ、ペクテン、オストリア、リリサムニウムなどである。  
【白濱神社】(縣社) 白濱の海岸にあり、三島大神の妃神、伊古奈比咩命を祀る。延喜式内の名神社である。寶物には石器時代の石棒、平安時代の水草飛雀鏡、鎌倉時代の和鏡、大久保長安の獻納した大金鼓などがある。

【修福寺大般若經】(國寶) 下田町の西南五軒、竹麻村修福寺の寶物で、紙本墨書五百三十九卷ある。經卷の校合者の署名には源盛頼が最も多數で、次は國司通國次は清祐、靜尋、禪有などで中に大治五年の紀年もある。通國は伊豆の國司大江通國であつて盛頼は伊豆守盛雅の子であるから、これらの人々の國司年代が推定せられ、且つこの經卷が往昔國司の祈願によつてその所領の爲に造られた事など、歴史上に注意すべきものである。かゝる關係の經卷がその儘その國に保存せら

なんで私がかはらうぞ、日々に思ひが増すわいなアエ。  
下田出るときや涙で出たが間の山をは唄で越す  
(囃) ヤレ、山 中通れは鶯が、梅の小枝に晝寝して、花の散るのを夢に見て、花さけ咲くと啼くわいなアエ。  
行かうか柿崎戻らうか下田、こゝが思案の間戸ヶ濱  
(囃) ヤレ、お前をすて、仇 枕、交はす心はなけれども、勤めの身ならば是非もない、少しや察して、お呉んなんじようエ。

【玉泉寺米國領事館址】 下田町の東約一軒、下田港の沿岸濱崎村柿崎玉泉寺にあり、自動車の便がある。安政三年七月米國が總領事タウンセンド・ハリスを遣はし、我が國に於て始めて領事館を開設した時、玉泉寺の本堂を領事の居室及事務所として使用したのである。寺寶中にその當時使用されたコップ、皿及當時の住職眉毛和尚の銀版寫真などがある。本堂の前にはハリスの記念碑があり、また境内の墓地には安政年間この地に歿した米國及露國の海員の墓がある。

【白濱】(一四圖か?) 下田の東方約五軒にあり、自動車の便がある。石花菜の大産地で一村經濟を共にす。海

れて居ることは最も珍重すべく、かく傳來の顯著なもの稀有である。  
【長谷寺阿彌陀像】 下田町の西約五軒、朝日村田牛長谷寺の本尊である。木造、高さ約九〇厘(三尺)の坐像で、形相極めて圓滿、褶襞を現せる線も流麗である。豆南外洋に臨む一漁村にかゝる藤原末期の彫像のあるのは實に不思議なことであつて、寺傳に治承年間に海上から漂著したと云ふのも面白い。元祿年中の粗略な修理で原形を損した部分もあるが、尙形態衣文に藤原時代特有の風格を存して居る。

【賀茂温泉】(一四圖さ?) 下田町の西南一〇軒、自動車の便あり、青野川の沿岸至るところ湯煙霞み、現在鑿泉四十餘ヶ所に及び、寶の湯、高島の湯などは噴泉九米(三十尺)の高さに及んで居る。泉質は各泉多少の差違はあれど、強食鹽泉に屬し、溫度攝氏百度以上に及ぶものあり、鹹味劇しく弱アルカリ性反應を呈し、リウマチス、皮膚病、痔疾、婦人病などに効くと云ふ。附近には手石の彌陀窟、石室權現、袋掛島などの名所が

ある。旅館福田屋、八幡屋、鈴木屋、北海樓外四軒。妻良、子浦は温泉の西一二軒、共に風景に富み海水浴に適し賀茂から自動車の便がある。子浦には文久年間徳川將軍家茂の假泊した西林寺がある。

【石室岬】(一四圖三〇) 伊豆半島の南端にあり、下田より下流まで一六軒、自動車の便あり、それより徒歩八軒、長津呂を経て行く。岬角は集塊岩より成り、風波の浸蝕により奇景を呈して居る。長津呂の港より南に向ひ山稜に沿うて進めば、左右の海上に奇岩の蟠るを見、測候所、燈臺を過ぐれば尖端の絶壁に至る。これよりや、下れば石室神社が半ば石壁に掩はれて建てられて居る。こゝに立てば東に近く巖掛岩の三尖峰を望み、遠く神子元島の燈臺から大島、利島、新島、式根島、三宅島、神津島など伊豆七島を眺め、風景極めて雄大である。西方は夜間御前崎の燈臺が見えると云ふ。【堂ヶ島】 下田の西北約二八軒、伊豆西岸仁科村字濱にあり、自動車の便がある。凝灰岩より成る小半島に海波の浸蝕により生じたる十字形の洞窟で、上部の天

井陥落して洞内に光線が入る。海波は常にこれに入りて美音を生ず。舟によりて洞中を通り抜けることが出来る。この附近は海水浴に適する。

沼津驛 (一四圖三二) 沼津市上土

東京から一三七軒七八五哩六 急行約三時間 普通約四時間

△駿豆鐵道 沼津—三島町間 六軒六一四哩一

△乗合自動車 箱根行 牛臥行 江ノ浦行 三津行 古字行

三島行 修善寺行 千本濱行 下河原行 大平行 沼津市内行

日守行 吉原行 一本松行 石川行 大宮行 熊堂行 岡一色

行 三島驛前行 下田行 熱海行

△汽 船 靜浦行 三津行 大瀬岬行 下田行

一日平均 乗車人員 二、四八八 降車人員 三、五二八

發送貨物噸數 三〇噸 到着貨物噸數 三三噸

主要發送貨物 鮮魚 木炭 麥 石炭 甘藷 木材 野菜 繭

乾魚 柑橘 主要到着貨物 米 麥 木材 石炭 石油 鐵類 セメント 繭

【沼津市】(一四圖三二) 駿河灣の東北岸に位し、古來東

海道の要衝にあたり、物資の集散が盛である。市及附近の地は氣候特に溫和、最も避暑避寒に適する。

△官公廳その他 市役所(城内) 測候所(富士見町) 商業會議所(城内) 帝室林野管理局(千本濱)

△銀行 駿河銀行(通横町) 沼津銀行(上土) 伊豆銀行(下本町)

△會社工場 沼津魚會社(官町) 東京麻糸會社(石田) 片倉製絲會社(七反田)

△病院 駿東病院(城内) 廣瀬病院(上香貫) 澤病院(同上)

△旅館 大和館(追手町) 東京亭(千本濱) 杉本旅館(本町) 仙松閣ホテル(千本濱) 植松(同上) 三島館(牛臥) 池之端旅館(片端)

△娛樂場 電氣館(本町) 永代キネマ(向町) 中村演藝館(下本町) 國技館(千本濱通)

△土産物 わさび漬 甘鯛干物

【日枝神社】(縣社) 市内三枚橋驛の東方約一軒半、電車の便がある。平安時代の創建と傳へ、大山祇命を祀る。社寶には山王靈驗記繪卷がある。紙本著色、金截箔散し、長約七米(二三尺)幅約三六厘(一尺二寸)弘安十

一年の奥書を有し今國寶に指定されて居る。この繪卷物は堀河天皇の嘉保二年、美濃守源義綱と延曆寺衆徒との間に葛藤を起した時、日吉神社の神威大に現はれたので、關白藤原師通の北政所いたく恐をなし、駿河國大岡庄を寄進して陳謝せしことの顛末を描寫したものである。世に山王靈驗記繪卷と稱するものは往々残つて居るが、當社の繪卷は最も古く、また社地は古の大岡庄に屬して居る。繪は土佐派に屬し鎌倉時代の古態を存し、古神道及日本繪畫史の參考として貴重なる資料である。

【千本濱海水浴場】 驛の西南約二軒、自動車の便がある。沼津公園一帶の海濱で名に負ふ千本松原の翠色が濃い。

【靜浦海水浴場】 驛の東南三軒、自動車の便がある。青松白砂の境、御用邸も設けられてある。旅館保養館。

【戸田海水浴場】(一四圖三三) 伊豆西海岸にある景勝地、沼津から汽船の便がある。港口には御濱崎突出して松樹林立し、東京帝國大學の水泳場が設けられて居

る。安政元年露國の提督プーチヤチンが幕府の許可を受けて、こゝで軍艦を建造したのは名高い事實で、牛ヶ洞には造艦碑と刻んだ記念碑が建つて居る。旅館常磐館外數軒。

【土肥温泉】(一四圖た4) 伊豆西海岸唯一の温泉、沼津から汽船便あり、船原温泉からは西一六軒、山越の難路であるが、目下道路改修中でやがては自動車を通ずること、ならう。

温泉は硫酸カルチウムを多量に含める弱鹽類泉で、リウマチス、濕疹、ヒステリー、婦人病、腺病などに効くと云ふ。外にまぶの湯と稱する穴の湯や古湯、野の湯がある。穴の湯は往時金鑛採掘の坑道から熱泉の迸出したのをその儘浴槽としたもので、土肥の一名物となつて居る。海濱は白砂青松相連り、遠淺で海水浴に適する。旅館 土肥館、明治館、高砂屋、肥の出館、吉村屋、木口館外七軒。

【土肥金山】 土肥温泉の南に接する。土肥金山會社の經營にかゝり、地質は主として變質安山岩より成り、

その中に石英鑛脈を夾有す。これに三種あり、第一種は最古のもので安山岩の破片を石英のため膠着して角礫狀の構造を呈し、第二種は石英と含滿俺方解石が交互に沈澱して生じ、縞狀構造を呈し、第三種は最新のもので石英と銀鑛が交互に沈澱して同じく縞狀を示し、何れも金銀鑛を含有して居る。採掘は鑛脈に添ひ高二米幅一米六の加背を以て掘進するものが多く、鑛石搬出のため三堅坑を設く。その深さ各四〇米内外、鑛石は愛媛縣四坂島の住友製鍊場へ送る。年産鑛石約二、五〇萬斤(七百五萬貫)、品位十萬分中金二、四、銀一〇、四二價格約六十萬圓。

沼津を出て西に向ひ本街道に沿ひ駿河灣の北岸の平野を走る。右には愛鷹山が群峰を示し、左には海を隔て、伊豆の達磨山が見える。街道には延長一〇軒に亘り街村が續く。街道を横ぎつて原(六軒六)を過ぐれば右に浮島沼を見、左に海岸の松林を望んで鈴川(五哩三)に至り、これより富士の秀峰を裾野より見上げ、沼川、

岩淵行 田子浦行 吉原町行

【實相寺】(日蓮宗) 驛の西北約四軒、富士郡岩松村岩本にある。日蓮宗の一本山で日蓮聖人が立正安國論を草した寺と傳へて居る。

【淺間神社】(官幣大社)(一三圖ら11) 富士身延鐵道大宮町驛の西北約一軒、大宮町櫻ヶ丘にあり、境内廣く風致に富む。延喜式所載の名神大社で、木花咲耶姫命を祀り、古來駿河國一宮として名高く、はじめは富岳を神體として仰ぎ、社殿はなかつたと云ふ。現存の社殿の様式は淺間社造で慶長年間の再建、樓門を入りて正面に拜殿あり、拜殿の左右に同じ長さの袖を出し、拜殿につゞいて幣殿があり、幣殿の後に本殿が高くそびえて居る。本殿は上下二層より成り、下層は五間四面四注造、上層は三間二面流造、屋根は上下とも柿葺で、神社建築中最特殊なる様式に屬し、國寶に指定されて居る。

毎年五月五日の流鏝馬祭、七月七日の御田植祭及十一月四日の例祭には參詣者多く大に賑ふと云ふ。

愛鷹山 位牌岳 大岳 越前岳



愛鷹山 山鈴川 望りむ

潤川を渡り梨畑を見て富士三哩に著く。【松蔭寺】(臨濟宗) 原驛の東一軒原町にある。弘安年間の創建と傳へ、白隱禪師を中興の開祖となす。本堂の傍にある小堂に白隱禪師の木像を安置して居る。境内の寶物館には同禪師筆の達磨、その他の寺寶を陳列し、尙寺内には白隱禪師の墓がある。白隱は明和五年八十四歳を以て遷化した。富士驛 靜岡縣富士郡加島村 △富士身延鐵道 富士甲府間 八八軒一五四哩七 △乗合自動車 大宮町行



【富士登山大宮口】 大宮の淺間神社から富士山頂まで約二〇軒、先づ神社(海拔二五米)から東北に向ひ、桑及びつまたの畑を見ながら行くこと四軒で萬野の部落を過ぎ山宮に達す、こゝは淺間神社の舊社地で杉の木立がある。これよりすゝき、ありのたふぐさ、たちふうろ、うつばぐさ、おほばぎばうしゆ、ぎばうしゆなどの多い草原の中に往々てりはのいばらの光澤ある葉と白い大きな花が目立つ處を通り、猪土手を経て懸巢畑(雲合米)に至れば傾斜は急になり、一合目(二〇〇米)に達する。こゝからは裾野の原野及駿河灣が一眸の中に集まる。これより先は森林帯でけやき、せんのみ、ひめしやら、うしころし、やしやぶし、さはしば、うりはだかへで、めいげつかへで、あづきなしなどがあり、更に登ればぶな、みづなら、いたやかへで、やまはんのみ、きはだなどを見る。二合目(三〇〇米)で若荷岳の麓から湧く泉に渴を醫し、急坂を登れば潤葉喬木林は徐々に針葉喬木林に移り、こめつが、からまつ、いらもみ、たうひなどが多くなる。三合目(三〇〇米)を過ぎ四合目(四〇〇

米)に進めば焼石原となり、草も木も地上に臥し眼に觸れるものは、みやまやなぎ、たけかんば、からまつの矮小なるものなど、いはたで、いたどり、みやまをとこよもぎ、いはわうぎ、たひつりわうぎ、ならさきもめんづる、ふじはたざほ、いはつめくさなどの草木である。五合目(三〇〇米)では中道巡り道を横ぎる。寶永の噴火口はその東三〇〇米にある。これより八合目(三〇〇米)までは熔岩流の上を辿る。胸突の嶮はその上にあり殆ど草木を見ず、たゞいはたでのみが岩間に生へて居る。胸突を踏破すれば頂上淺間神社奥宮の前に出る。【大石寺】(日蓮正宗)(一三圖ら10) 同大宮町驛の北約一〇軒、富士郡上野村上條にあり自動車の便がある。富士五山の一で、日蓮正宗の總本山である。【狩宿の下馬櫻】 同大宮町驛の北方一二軒、白絲村狩宿部落の南方にある。上井出行自動車により中井出で下車すれば西方徒歩一軒で達する。下馬櫻は頼朝下馬櫻、駒止櫻、駒繫櫻とも云ひ、樹種は赤芽の白山櫻で、地上一米の處の幹圍八米五、枝張東西二二米、南

北一六米、白山櫻の代表的巨樹である。その花は咲初は淡紅色を帯び、後白色となり、花期は四月十日頃である。花の大なることと、幹の太い、ことに著はれて居る。指定の天然記念物である。

【白絲瀧】(一三圖ら9) 同大宮町驛の北一二軒、白絲村にあり、驛から自動車の便がある。岩壁は上部一〇米は熔岩で、下部一二米は火山岩層である。熔岩は三層の熔岩流から成り、中部の熔岩は柱狀構造を呈し、下端は集塊岩状をなす。瀧水は上部中部の二熔岩流を刻んで最下の熔岩流から落下し、これに火山岩層から湧く水が加はり、瀧の東方からも盛に水が湧き、恰も白絲が無數に懸つたやうで甚だ美觀を呈する。火山岩層は水蝕を受けて後方に凹み、上部の熔岩が浸蝕せられるに従つて、瀧は次第に退却したものである。

【音止瀧】(一三圖ら9) 白絲瀧の東南に隣る。その岩壁は上部八米は熔岩流で、その下端から三米は集塊岩状を呈し、その下一五米は火山岩塊を含む火山灰砂である。瀧は熔岩流の端に懸つて居て、熔岩を刻むと共に

次第に退却したものである。瀧の東に隣る熔岩の下部の裂隙及熔岩の下の集塊岩の部分からも水が湧き、それが瀧に加つて落ち、白絲瀧に似たる美觀を呈して居る。

【三里ヶ原】(一三圖ら7) 富士山の西麓にある裾野で、東西南北各々約八軒、南は人穴より北は根原に至る、その間熔岩の大岩盤より成り、砂礫なく樹木少く、茅の一面に掩ふ原野である。野生の植物には茅の外に尾花、をみなへし、にんどう、みそはぎ、つりふねさう、へびのれごさ、やぶかんざうなどがある。地形の起伏が少いので裾野が廣々と見渡され、富士の美容が仰がれる。水のなきため人家が出来ず自然のままに委ねられて居る。

(身延山及下部、西山温泉記事六九頁参照)

富士を出て北方遙に入山瀬の製紙工場を望み、富士川の鐵橋にかゝる、橋は延長五七米、河床に巨大の岩塊を見、下流に川口の三角洲を望む。川を渡れば南に

轉じて岩淵いばら二三五二に著く、こゝはもと富士川を下る河船の集る處として榮え、今は木材の集散地である。これより西南に向ひ、右に山を負ふ海岸に出て蒲原かんばら三五二三由比ゆひ三二四一を過ぎ、薩埵峠さつたうげのトンネルをぬけ興津川おきつがはを渡り、興津おきつ六六袖師そでし二二四一を経て左方に三保松原を望み江尻えじり二二六七に著く。

【由比海水浴場】(一四圖は2) 由比驛の西南海濱一帯、富士の秀容を背景として伊豆半島を望んだ景色が佳い。附近には吹上の濱、淨瑠璃姫の墓、由比正雪の生家と傳ふる正雪紺屋、薩埵峠などがある。旅館 なぎさ屋、由比館、興津屋外敷軒。

興津驛 (一四圖は3) 靜岡縣庵原郡興津町

△乗合自動車 江尻行 葛澤行 平山行 木山野行

【清見寺】(臨濟宗妙心寺派) (一四圖は3) 驛の西約一軒、興津町清見寺にあり、自動車の便がある。海を擁し山に倚り、近く三保一帯の青松と相對し景趣に富んで居る。古來海道の名刹として知られ、方丈、書院の各室に寺寶の古畫、古文書、古器物などを陳列して縦覽に供して居

る。その中には江戸時代の大形置時計、治承四年の奥書を有する大般若經などがある。

【興津海水浴場】(一四圖は3) 驛の西南約一軒、三保の松原と對し、背後には清見寺山一帯の翠微を貪ひ、左手には薩埵峠を前景とした富士の秀容が眺められる。清見寺、三保の松原は遊賞すべき名所である。旅館 水口屋、東海ホテル、十文字屋外敷軒。

【袖師海水浴場】(一四圖は3) 夏期海水浴の時期に興津江尻間に袖師假驛が設けられる。遠淺の海で浪靜に、松林の縁がながく續いて居る。三保、富士の眺の佳いことは云ふ迄も無い。

江尻驛 (一四圖は3) 清水市辻町

△乗合自動車 久能行 三保行 清水市内行 靜岡行

【清水市】(一四圖は3) 江尻、入江、清水を連ぬる市街で、東方には三保の砂嘴長く突出し、風波を遮り、港内水深く、安全の錨地として開港場となり、製茶の輸出盛に行はれ市況活潑である。人口約三萬に及ぶ。市の内外には龍華寺、鐵舟寺、三保松原、清水次郎長の宅

僧形の坐像で右手に錫杖を持つ。鎌倉時代の作であらう。

觀音堂 鐵舟寺の境内、丘上にあり、本尊千手觀音像は木造の立像にして平安時代の作である。

【龍華寺】(日蓮宗) 鐵舟寺の南隣景勝の地にあり、境内に高山樗牛の墓がある。

大蘇鐵 龍華寺の境内には蘇鐵の大なるものが多いが、その中最大なるものは庭前にありて大蘇鐵と呼ばれる。この蘇鐵は雄株で根元から數本の太き枝に分れ、それより次第に分枝して數十本となり四方に擴り、一大樹叢のやうに見える。根廻り五米三、樹高三米七、枝張り東西九米、南北一〇米、根廻りの太きと枝數の多きと樹勢の盛なることは、培養蘇鐵中比類の稀なもので指定の天然記念物である。尙大蘇鐵の南隣に一群の長蘇鐵があり、幹の長いので名高い。

【御穂神社】(縣社) 驛の東南約一〇軒、自動車の便がある。古來東海の勝地として名高い三保松原にあり、延喜式に記載された古社で、大己貴命及三穗津比咩命を祀る。傳説の名高い羽衣松は神社の南方約半軒の海

址及びその墓などがある。旅館 常盤ホテル、朝陽館。【鐵舟寺】(臨濟宗妙心寺派) 驛の南約五軒、自動車の便がある。清水市外村松の丘腹にあり、前面に清水港、三保松原を見渡し、東北の天に富士山の雄姿を望み、四時風光美に富んで居る。寺はもと久能寺と稱し、永録年間武田信玄によつて久能山からこゝへ移された。現存の寺院は近年の再建であるが、寶物には平安時代の佛像佛畫などが残つて居る。

寶物

一 法華經 (國寶) 觀普賢經共 十九卷

紙本墨書

一 兩界曼荼羅 二幅

絹本着色 長約一米八(六尺) 幅約一米二(四尺) 佛像の姿態婉麗にして微笑を含み、描線の纖麗設色の優美なる、藤原時代佛畫の特徴を有する優秀なる作である。

一 涅槃像 一幅

絹本着色 長約一米八(六尺) 幅約一米二(四尺) 彩色もよく残り室町時代の特徴を有する優秀なる佛畫である。

一 八幡菩薩畫像 一幅

絹本着色 長約一米半(五尺) 幅約一米二(四尺)

濱にある。

【三保海水浴場】(一四圖は3) 三保の松原にあり、富士  
觀望の勝地である。旅館 羽衣亭、桃園園外數軒。

江尻を出て西南に向ひ平野の中を進み草薙(四杆八)を  
過ぎ、左方に久能山を望み静岡(六杆三哩七)に著く。

【草薙神社】(縣社) 草薙驛の南約一杆半、有度村草薙  
にあり、日本武尊を祀る。この地は日本武尊が賊の火  
攻に遭ひ給ひし時、佩び給へる叢雲(むらくものつるぎ)劍で草を薙ぎは  
らひて危難をのがれ給うた所と傳へて居る。

【日本平】(一四圖まる) 草薙驛の南四杆、草薙神社を經  
て登る。登路の左右は凡て茶畑である。有度山の頂上  
で、海拔三(八)米に過ぎないが、その展望は廣く、東に  
は近く清水市から三保の松原を見越して洋々たる駿河  
灣を俯瞰し、遙に富士、愛鷹(あしたか)、箱根(はこね)の山々を望み、西  
には静岡市の瓦葺(がぼう)から宇都谷峠(うつつやのせき)、大崩(おほくづれ)の山々を望み、  
西南遙に遠江の御前崎(おまへさき)が見渡され、北には甲州の連山  
波の如く起伏し、その間に雪を戴ける南アルプスの頂

が仰がれる。歸路は龍華寺または久能山東照宮裏へ下  
られる。

静岡驛 (一四圖や3) 静岡市榮町

東 京より一九一杆八—一九哩二 急行約四時間

普通五時間四十分

名古屋より一八五杆四—一一五哩四 急行約三時間

普通五時間

△静岡電氣鐵道 安西清水間一三杆七—八哩五

△乗合自動車 妙見下行 久能山行 市内循環 市内安西行

市内新通行 麻機村北行 八幡行

一日平均

乗車人員 五、六二人 降車人員 五、六三人

發送貨物噸數 三噸 到著貨物噸數 五七噸

主要發送貨物 木材 茶 柑橘 綿絲布 漆器 活鮮魚 生野菜

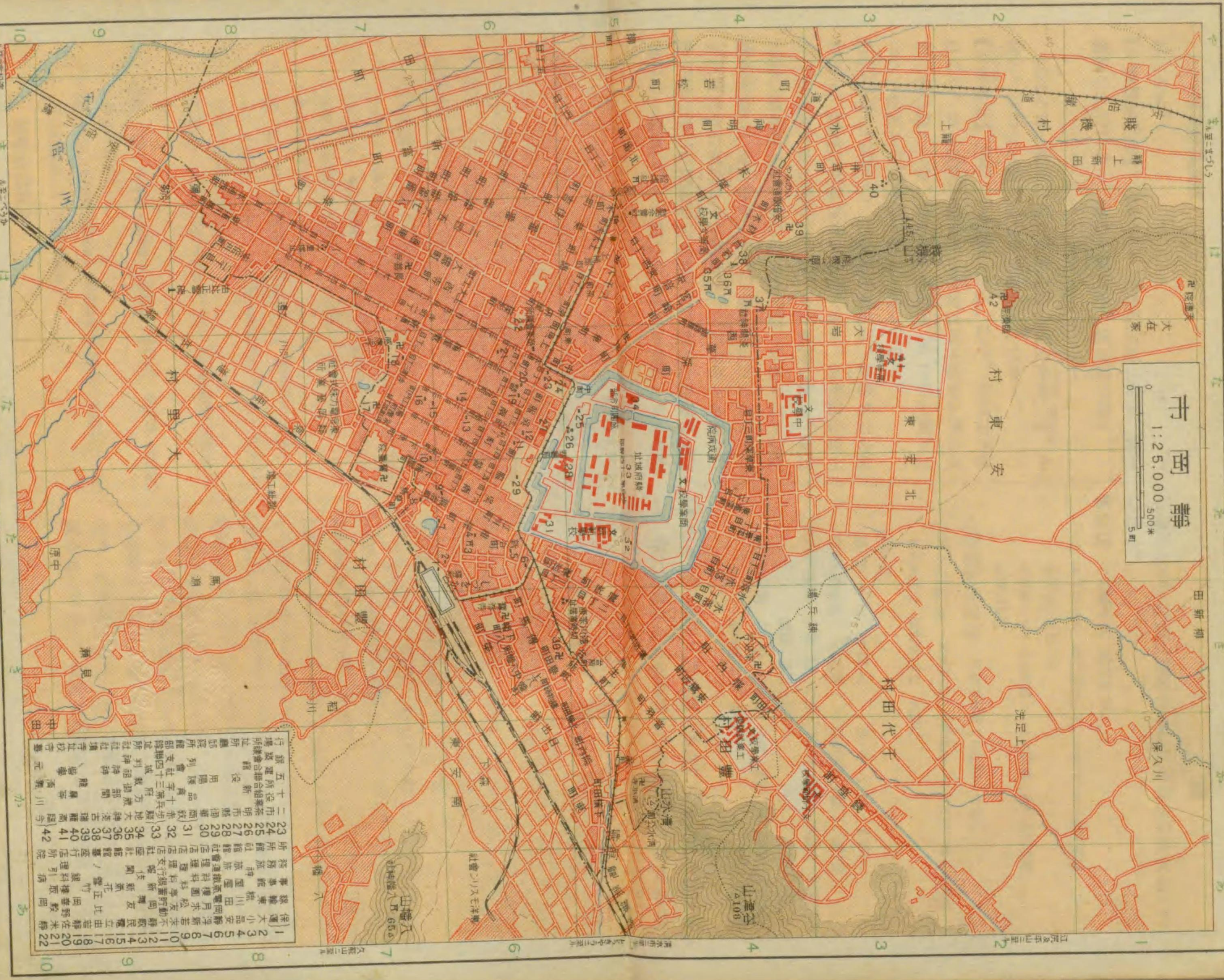
鏡臺 和紙 肥料

主要到著貨物 米 麥 活鮮魚 石炭 綿類 茶 肥料 セメント

鐵及鋼製品 砂糖

【静岡市】(一五圖) 静岡縣の中央、安倍川(あべがは)の東岸に位

し、北に賤機山(しづはたやま)の丘陵を負ひ、東西南の三面は平野



静岡市  
1:25,000  
500米  
5町

- |    |    |      |    |    |    |    |    |     |     |
|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|-----|
| 1  | 保運 | 大小品安 | 静海 | 志不 | 静民 | 立由 | 志静 | 佐木  | 22  |
| 2  | 3  | 4    | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10  | 11  |
| 12 | 13 | 14   | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20  | 21  |
| 22 | 23 | 24   | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30  | 31  |
| 32 | 33 | 34   | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40  | 41  |
| 42 | 43 | 44   | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50  | 51  |
| 52 | 53 | 54   | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60  | 61  |
| 62 | 63 | 64   | 65 | 66 | 67 | 68 | 69 | 70  | 71  |
| 72 | 73 | 74   | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80  | 81  |
| 82 | 83 | 84   | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90  | 91  |
| 92 | 93 | 94   | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | 101 |
- 保運 大小品安 静海 志不 静民 立由 志静 佐木 22  
 線輸 東橋 川田 電月 求松 友助 岡友 比 岡善 教 21  
 事務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 20  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 19  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 18  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 17  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 16  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 15  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 14  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 13  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 12  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 11  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 10  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 9  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 8  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 7  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 6  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 5  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 4  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 3  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 2  
 務務 庶務 神屋 運承 種面 科季 善善 1

を廻らす。古來東海道の要衝にあたり、もと駿府と稱したが、明治二年静岡と改稱し、縣治の中心となり、今や茶の再製及漆器製造などの工業行はれ、商業殷盛である。人口八萬二千。市内で吳服町通及本通は目貫の場處で、七間町には娛樂の機關が多い。

△官公廳その他 縣廳(舊城内) 市役所(追手町) 地方裁判所(舊城内) 高等學校(市外安東村) 藝文庫(追手町) 工業試驗所(東鷹匠町) 農業試驗所(市外豊田村) 商業會議所(上魚町) 歩兵第十九旅團司令部(舊城内) 歩兵第三十四聯隊(追手町) 商品陳列所(舊城内)

△銀行 第三十五銀行(吳服町一丁目) 静岡銀行(吳服町二丁目) 安倍銀行(上魚町) 日本勸業銀行支店(追手町) 不動貯蓄銀行支店(吳服町四丁目)

△新聞社 民友新聞社(七間町二丁目) 静岡新報社(吳服町三丁目)

△旅館 大東館(紺屋町) 安田屋(傳馬町) 品川屋(紺屋町) 榮松館(榮町)

△料理店 浮月樓(紺屋町) 佐野春樓(吳服町) 求友亭(江尻町) 新求園(紺屋町) 若松(兩替町)

國府津静岡間

△娛樂場 若竹座(寺町) 電氣館(七間町) 三花館(同上) 歌舞伎座(下石町)

△土産物 竹細工 漆器 山葵漬 安倍川餅

【廻覽順路】 静岡驛—寶臺院—商品陳列所—縣廳—駿府城址—淺間神社—賤機公園—臨濟寺—久能山—三保松原—龍華寺—鐵舟寺—江尻驛

【駿府城址】 (一五圖た5) 驛の西北約一杆、自動車の便がある。駿府城は浮島城とも云ひ徳川家康の築く所、東西六、米南北七〇米、本丸及二の丸址には歩兵第三十四聯隊があり、三の丸址には縣廳及諸官衙がある。内外の濠は尙殆んど舊態を存して居る。

【淺間神社】 (國幣小社) (一五圖は4) 驛の西北約二杆、自動車の便があり、市内賤機山の麓景勝の地にある。古來駿河國の總社として名高く、富士新宮または淺間新宮とも稱し木花咲耶姫命を祀る。社殿は江戸時代末期の再建にかゝり、樓門、廻廊、舞殿、拜殿及本殿より成り、規模頗る雄大にして賤機山の老樹を控へ一大偉觀を呈して居る。拜殿は七間四面切妻造銅瓦葺、前

面に千鳥破風を附し、中央に高樓を有する所謂淺間神社造で内外朱塗の大建築である。左右妻虹梁の上下には、天人、雲、牡丹などの彫刻を填充し極彩色のあ

靜岡淺間神社舞樂童子



とが残つて居る。

毎年四月五日には二十日會祭を執行し、舞樂殿に於て稚兒が還城樂、太平樂、納蘇利などの舞樂を演じ大

る。尙淺間神社の後方賤機山上には麓山神社がある。同じく江戸末期の建築である。

【賤機山公園】(一五圖はる) 驛の北二軒、百段坂の上にある。一に青葉ヶ岡と稱し、靜岡全市及附近の平野を俯瞰する勝地である。

【臨濟寺】(臨濟宗妙心寺派)(一五圖はる) 驛の北約三軒、自動車の便あり、安東村賤機山麓景勝の地にある。徳川家康の再建、臨濟宗の一名刹にして、寺内各室に寺寶を陳列して觀覽に供して居る。山腹には茶室があり、景趣に富んで居る。尙境内に今川義元の廟がある。

【清水山公園】(一五圖から) 驛の東方二軒、靜岡電車音羽町停留場の東方にあり、清水寺附近の丘陵にして展望に富む。園内に本邦茶業界の功勞者大谷嘉兵衛の銅像がある。

【寶臺院】(淨土宗)(一五圖た) 驛の西約半軒、金米山龍泉寺と云ひ、彌陀三尊を本尊とせる市内第一の巨刹である。現今の堂塔は徳川家光の再興で、本堂東側の靈屋は二代將軍徳川秀忠の生母西郷の局、即ち寶臺院を

に賑ふと云ふ。

寶物

廻廊内に陳列されて居るが、その主なるものを次に列擧する。

- 一 鈴鏡殘缺 一個
- 一 寶永年間賤機山上の古墳より發掘
- 一 絲卷太刀 (國寶) 一口
- 一 初代長光作 東京遊就館出陳
- 一 寶永三年山田長政奉納戰艦圖額模寫圖 一枚
- 一 象の圖 一幅
- 一 清人江芝閣筆 オランダ文の贊あり
- 一 神輿 一臺
- 一 歌仙圖 十六枚
- 一 狩野守信筆 寶永十一年徳川家光奉納

八千弋神社 淺間神社の攝社で、その南隣にあり、もと徳川家康の信仰した摩利支天を安置した所で、江戸時代末期の再建にして三間三面入母屋造、銅瓦葺である。

【大歳御祖神社】(國幣小社) 淺間神社の境内にあり、社殿は樓門、拜殿及本殿を具備し、江戸時代の再建であ

葬つた處である。寺の裏手に狂歌に名あるかしくの墓がある。

【久能山東照宮】(別格官幣社)(一四圖ま) 驛の東南約一〇軒、江尻驛の西南約一〇軒、久能山の中腹にあり、兩驛より山麓まで自動車の便がある。山麓より海に面して迂回曲折せる石段を登ること千數百階にして達する。境内は老樹繁茂して神さび、諸鳥喜々としてさへづり、眼下に駿河灣の展望廣く開け風光極めて明媚である。社殿は國寶に指定された江戸時代初期の權現造で、樓門、鼓樓、神樂殿、神庫、唐門、瑞垣、拜殿、本殿などを具備し、樓門より段々に高く山腹の平地に建てられ、何れも石段によつて達せられる。本殿には徳川家康を祀り、その左右に豊臣秀吉及織田信長を合祀して居る。拜殿は五間二面入母屋造、銅瓦葺、三間の向拜を附け朱塗の柱を建てて居る。桝組には縹網彩色を施し、墓股は綠青色にして内部には極彩色牡丹の彫刻があり、欄間には天人が描かれて居る。長押下は内外とも黒仕立臘色塗で柱間の藪戸の地板は金箔押、

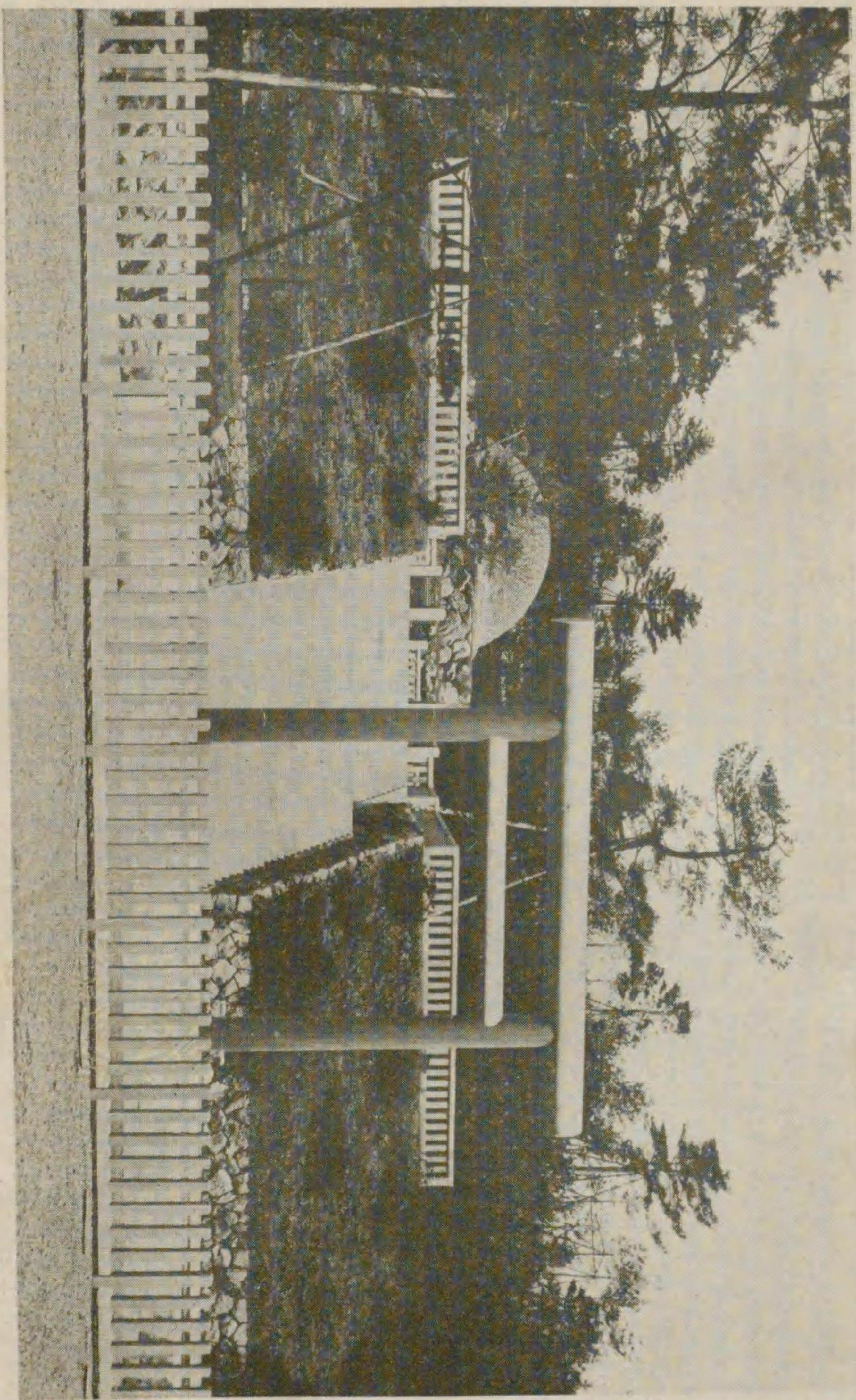
外部長押上の羽目には雲龍が描かれ内外の裝飾頗る華麗である。石ノ間及本殿も黒仕立臘色塗で隨所に鍍金めつき金具を附し、桝組は三手先を用ゐ、縹緗彩色を施し、藁股、通肱木などは金泥極彩色を加へて居る。

久能山はもと久能寺のあつた所、永祿年間武田信玄久能寺を今の鐵舟寺に移してこゝに築城したが、後家康の有に歸し、元和二年四月家康薨するに及び、遺言によつてこゝに遺骸を葬り、城を廢して社殿の造營をはじめ、同三年に竣成したのが現存の社殿である。日光東照宮は元和三年こゝから改葬され、後寛永十二年に建築されたのである。

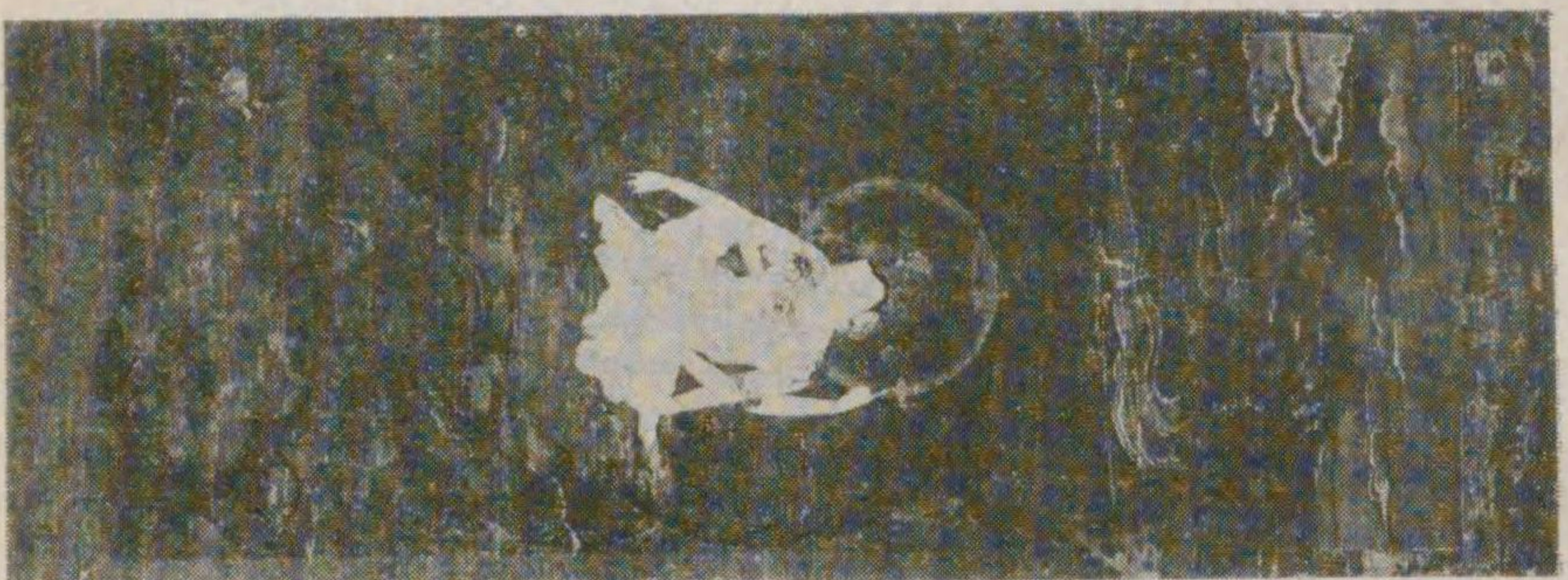
寶物館は境内にあり、家康以下歴代將軍の遺品甲冑太刀その他約三百點の寶物が陳列されて居る。そのうちには家康の遺品マドリッド製の置時計があり、太刀には國寶に指定されたものが十三口ある。

【久能の苺畑】久能村附近は嚴寒五十度を下らず、酷暑八十五度を昇らず、爲に茄子、瓜などの蔬菜の走り物を産するを以て昔から知られた處である。近年十

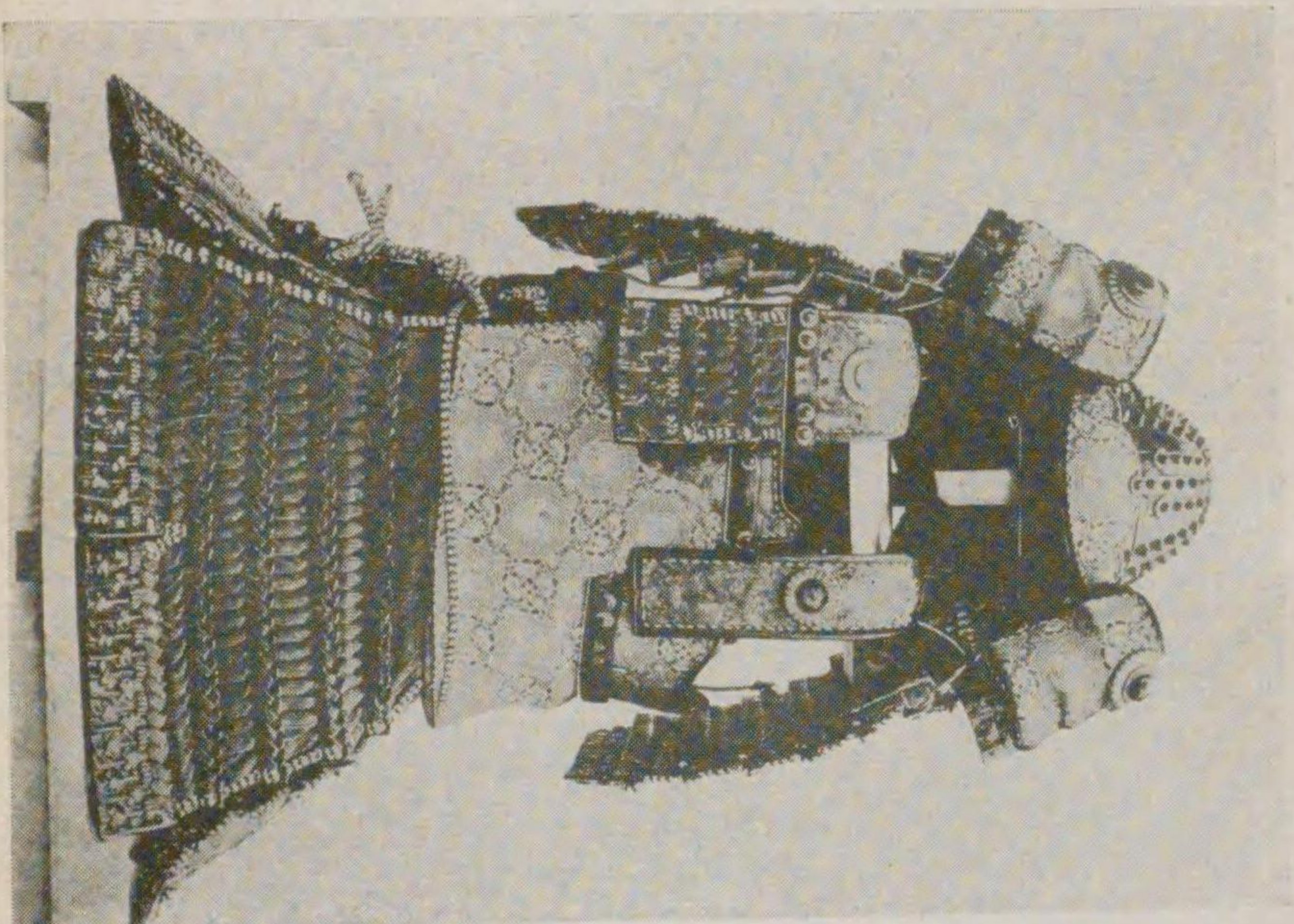
二月末頃から東京の人を喜ばす苺の早物はこの附近から出るので、畑を幾くつもの段々に仕切つて側面を石ころで積みあげ、その石と石の間に苺を植ゑ、莖を被せて栽培して居るが、石ころの代りにコンクリート製の石塊を用ゐて居るものもある。



陵 御 摩 多



如意輪觀音像  
普梅金剛寺

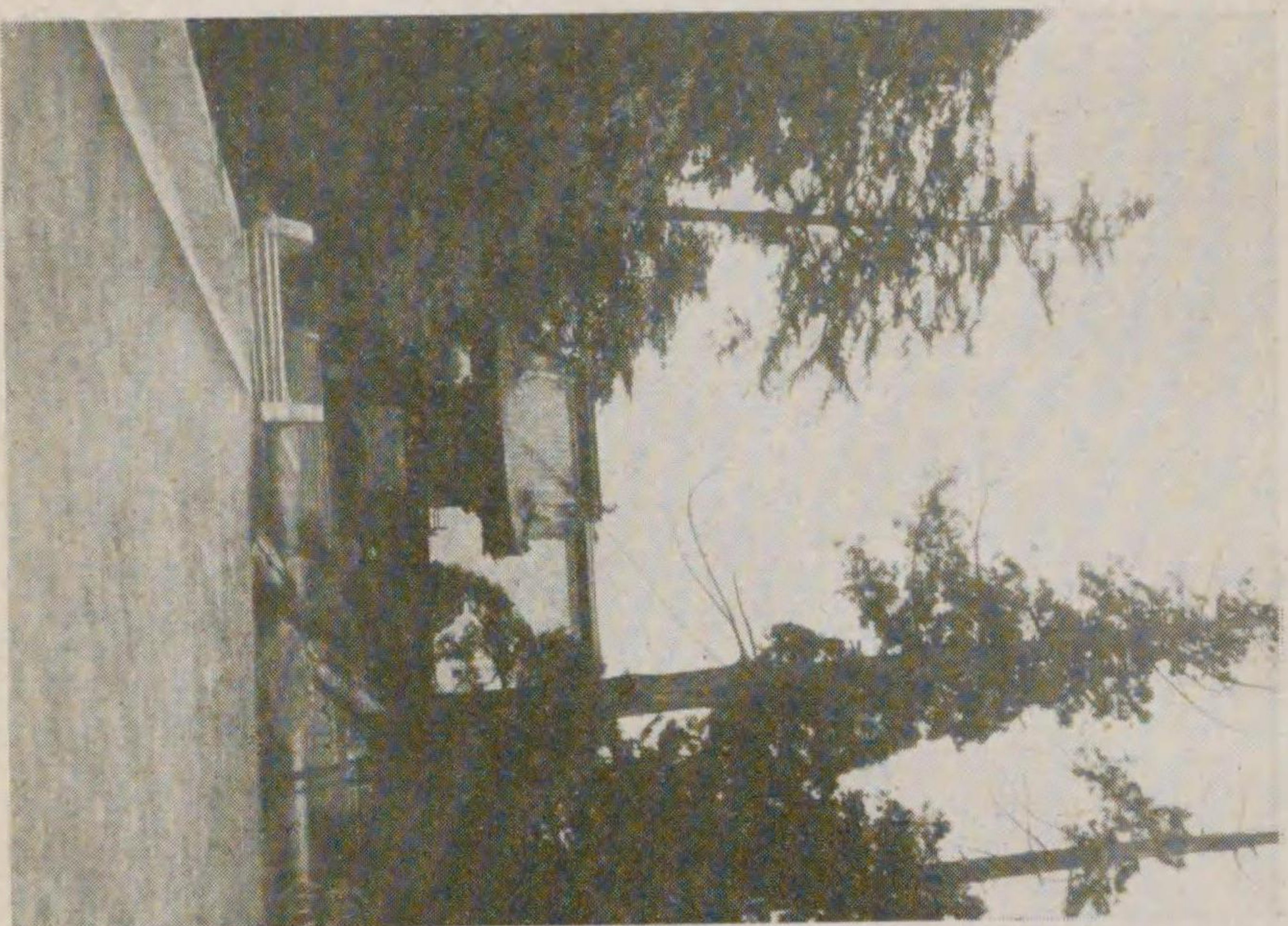


赤絲成大體  
武州御嶽神社





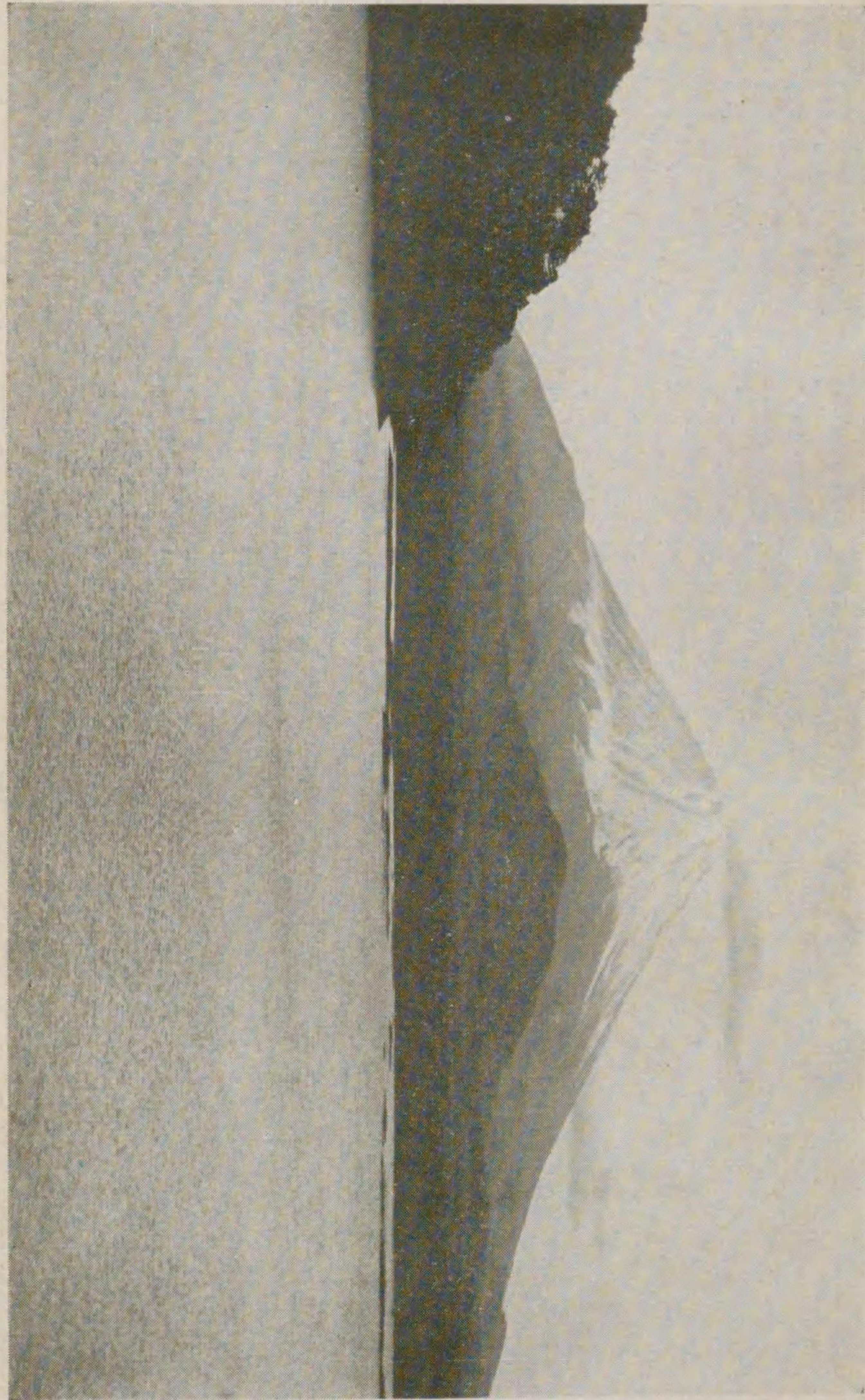
寺 林 惠 斐 甲



(寺 惠 斐 甲) 像 摩 達



湖 進 精

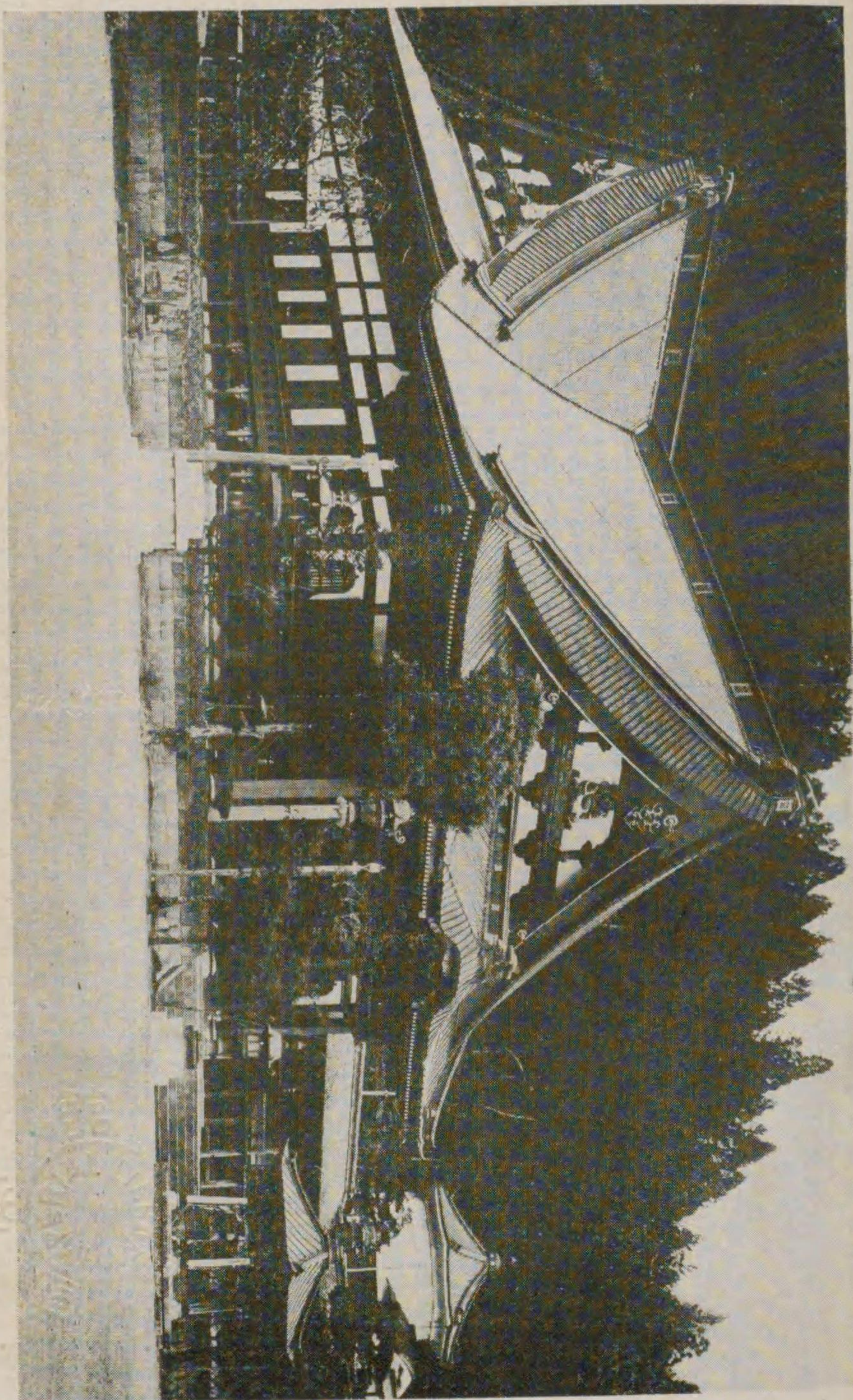


甲 斐 御 嶽 昇 仙 峽



THE UNIVERSITY OF CHICAGO  
LIBRARY

堂 師 祖 山 延 身 斐 甲



THE UNIVERSITY OF CHICAGO  
ASIAN LIBRARY  
1957